令和８年度
（2026年度）

履 修 要 綱

《18期生》

那覇市医師会那覇看護専門学校

看護学科

〒901-0222　沖縄県豊見城市字渡橋名289番地23
電　話　事　　務　　部（098）850-8050
　　看 護 学 科（098）840-5574
ＦＡＸ　事　　務　　部（098）850-6073

目　　次

Ⅰ．教育理念・教育目的・教育目標 …… 1

１．教育理念・教育目的・教育目標
２．ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）
３．カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
４．アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

Ⅱ．教育課程 …… 5

Ⅲ．カリキュラムの主要概念 …… 7

Ⅳ．学科目体系 …… 11

Ⅴ．学科目進度 …… 14

Ⅵ．学科目の目標 …… 17

Ⅶ．教育内容 …… 27

１．基礎分野

１）科学的思考の基盤
（１）情報科学 …… 27
（２）論理学 …… 29
（３）心の仕組みの科学 …… 31
（４）環境科学 …… 33
（５）文章表現法 …… 35

２）人間と生活・社会の理解
（１）教育学 …… 37
（２）社会学 …… 38
（３）人間関係論 …… 40
（４）倫理学 …… 42
（５）人間と文化 …… 44
（６）英語Ⅰ …… 46
英語Ⅱ …… 47
（８）看護情報論 …… 48

２．専門基礎分野

１）人体の構造と機能
（１）人体の構造と機能Ⅰ …… 51
（２）人体の構造と機能Ⅱ …… 53
（３）看護形態機能論 …… 55
（４）看護形態機能論演習 …… 57
（５）生化学 …… 59
（６）栄養学 …… 61

２） 疾病の成り立ちと回復の促進
（１）微生物 …… 63
（２）薬理学 …… 65
（３）病態学概論 …… 66
（４）臨床病態学Ⅰ …… 68
（５）臨床病態学Ⅱ …… 70
（６）臨床病態学Ⅲ …… 72
（７）臨床病態学Ⅳ …… 74
（８）臨床病態学Ⅴ …… 76
（９）臨床病態学Ⅵ …… 78

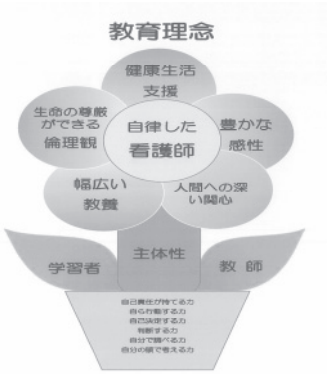
３） 健康支援と社会保障制度
（１）総合医療論 …… 80
（２）保健学 …… 81
（３）健康科学 …… 83
（４）社会福祉 …… 85
（５）看護と法 …… 87

３．専門分野

１）基礎看護学 …… 89
２）地域・在宅看護論 …… 113
３）成人看護学 …… 125
４）老年看護学 …… 140
５）小児看護学 …… 147
６）母性看護学 …… 155
７）精神看護学 …… 165
８）看護の統合と実践 …… 173
９）臨地実習
（１）基礎看護学 …… 191
（２）地域・在宅看護論 …… 214
（３）成人看護学 …… 228
（４）老年看護学 …… 275
（５）小児看護学 …… 299
（６）母性看護学 …… 315
（７）精神看護学 …… 333
（８）看護の統合と実践 …… 344

Ⅰ．教育理念・目的・目標

１．教育理念・目的・目標



教育理念

本校は、人間への深い関心を示す豊かな感性と幅広い教養で、生命の尊厳と人権の尊重ができる倫理観を育み、人々の健康生活を支援し、社会に貢献できる自律した看護師を育成する。その教育は、学習者の主体性を大切に学習者と教師が共に学問を探究し築かれる。

教育目的

本校は、看護師に必要な知識、技術、態度を養い、人間力、判断力、基礎的な看護実践能力を育み、地域医療に貢献できる人材を育成する。

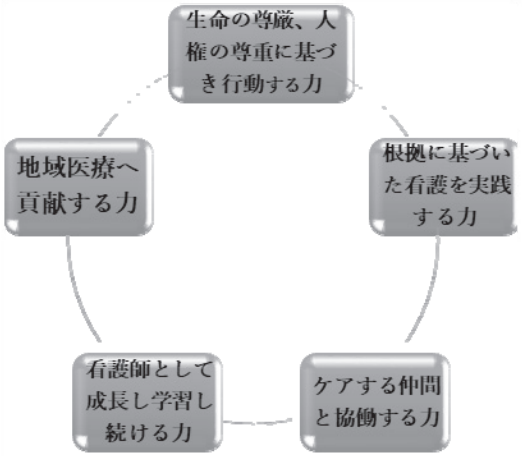
教育目標

1. 人間の生命を尊び、一人ひとりの権利を守る倫理的な行動をとることができる。
2. 他者とのより良い人間関係を築くことができる。
3. あらゆる発達段階、あらゆる人々の健康状態に応じた状況や現象に気づくことができる。
4. 科学的根拠に基づいた安全・安楽・自立に向けた看護が実践できる基礎的能力を身につける。
5. 看護の役割を理解し.保健・医療・福祉における多職種と連携・協働する基礎的能力を身につける。
6. 看護師としての自覚と責任を持ち、自己を振り返り生涯にわたり自己研鑽し続ける姿勢を身につける。
7. 看護師としての役割を認識し、地域における保健・医療・福祉の発展について考える基礎的能力を身につける。

２．ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

本校は、「自律した看護師」を育成することを教育理念に掲げた。その教育理念に基づき、ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）として「期待する卒業生像」５つの力（人権の尊重に基づき行動する力、根拠に基づき看護を実践する力、仲間と協働する力、学習し続ける力、地域医療へ貢献する力）を設定した。これを基に、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）およびアドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）の関連性を明確化した。

期待する卒業生像（ディプロマ・ポリシー）５つの力



Ⅰ．生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
- 生命の尊厳と人権の意味を説明することができる
- 多様な価値観をもつ対象の思いに寄り添い倫理に基づいた行動をとることができる
- 身体的・精神的・社会的側面から統合された存在、生活者として捉えることができる
- 対象との信頼関係形成に必要なコミュニケーションを展開できる
- その人らしい生活（暮らし）が営めるような関わり方ができる

Ⅱ．根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
- 健康状態に応じた状況や現象に気づくことができる
- 実践する看護の根拠について説明することができる
- 対象の持つ力を活かして実践することができる
- 自らの看護実践を振り返り評価することができる

Ⅲ．ケアする仲間と協働する力
- 対象を中心とした多職種との連携と協働のあり方について説明できる
- 多職種連携の場に参加することができる
- 看護職や多職種とコミュニケーションを通して関係性を築くことができる
- 多職種との情報交換やカンファレンスを通して多職種の役割を説明できる

Ⅳ．看護師として成長し学習し続ける力
- 自己の看護を振り返り、自己の課題に取り組むことができる
- 自己の看護観について説明できる
- 看護師として成長し学習し続けていく重要性について説明できる

Ⅴ．地域医療へ貢献する力
- 多様な場における看護師としての役割について説明できる
- 沖縄県および地域医療の現状を知り地域で暮らす人々の健康生活について考えることができる
- 地域の多文化共生社会におけるグルーバルヘルスの視点で健康課題について考えることができる
- 国内外の動向に関心を持つことの重要性について説明できる

３．カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

本校のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育目標を達成するため、教育課程の編成に当たっては、学年進行とともに、段階的に知識や技術の習得を積み上げていけるよう漸進型のカリキュラムデザインとし、以下の方針にしたがって、体系的に編成した。

１．看護師としての基礎的知識・技術・態度を修得するために、３つの分野「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」とし体系的に編成し、講義、演習、校内実習、臨地実習へと段階的に学習を深められるような授業を展開する。
２．主体的に学ぶことができるように、授業ではプロジェクト学習、協同学習、グループワーク等を中心とするアクティブ・ラーニングを取り入れ、協調性、リーダーシップ、倫理的態度、自己研鑽する態度を身に付けることができるよう編成している。
３．看護技術教育においては、実習施設の臨床看護師と連携しティーチングアシスタント（TA）として教育に参画してもらい、学生の看護技術実践能力の強化に努めている。
４．学修成果の評価は、授業科目の目標にあわせ筆記試験・レポート課題等で適正な評価を行っていく。臨地実習においては、社会人基礎力の能力枠組みを活用した「看護師として必要な基礎力」step　up スケール（評価表）によるルーブリック評価を用いることで到達度を可視化し、自己教育力を育むとともに総合的な評価を行ってく。

４．アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

本校は教育理念のもと、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに示す看護教育を行っている。その教育に理解、共感し看護師を志す入学者を受け入れる。
その入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を以下に示す。

・入学後の学修に必要な基礎学力が身に付いている人
・人に関心をもち人との関係性を大切にコミュニケ―ションの素地をもっている人
・人間の生命と健康に関心がある人
・感性豊かで誠実な人
・何事にも興味・関心をもち主体的に考え努力ができる人
・他者と協働し柔軟に行動できる人
・看護学を学びたいという強い意欲を持った人

看護師として必要な基礎力の評価スケール

評価は、1：あてはまらない　2：あまりあてはまらない　3：かなりあてはまる　4：非常にあてはまるの4段階で評価

能力	能力要素・定義		行 動 指 標	入学時	1年	2年	3年
考え抜く力（シンキング）	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	1. 自己の考えや行動を振り返り課題を見い出すことができる				
			2. 課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に聞くことができる				
			3. 目標達成に向けて自己の課題を説明できる				
	計画力	課題解決に向けたプロセスを明らかにして準備する力	4. 課題に応じた目標を立てることができる				
			5. 目標達成のために優先順位をつけ、計画を立てることができる				
			6. 進捗状況や不測の事態に合わせて柔軟に計画を修正できる				
	創造力	新しい価値を生み出す力（既存の発想にとらわれない）	7. 教科外活動を通して視野を広げ、従来の常識や発想を転換し、新たな介入方法を提案することができる				
			8. 複数のもの（物、考え方、技術など）を組み合わせて新しいものを作り出すことができる				
前に踏み出す力（アクション）	主体性	物事に進んで取り組む力（指示待ちでは無く自らやるべきことを見つける力）	9. 学習シラバス（道しるべ）に示されている目標に向かって自ら積極的に学習できる				
			10. 自分のやるべきことは何かを見極め計画的に取り組むことができる				
			11. 技術経験録を活用し自ら技術習得に取り組むことができる				
			12. 専門書の活用や研修会への参加など、自分の能力を高める行動をとることができる				
	働きかけ力	他人に働きかけて巻き込む力（やろうと呼びかけ目的に向かう力）	13. 相手の協力を得るために、その必要性（意義、理由、内容など）を伝えることができる				
			14. 協力を得るためのアサーションスキルを活用することができる アサーションスキルとは：相手の意見や考えを尊重しつつ、自己主張し結論を押し付けないスキル				
			15. 目標を達成するために周囲の人に働きかけができる				
	実行力	目的を設定し、確実に行動する力（失敗を恐れず行動に移し粘りづよい）	16. 目標達成に向けて積極的に取り組むことができる				
			17. 小さな成果に喜びを感じ、ポジティブに取り組む続けることができる				
			18. 自らの行動に責任を持つことができる				
チームで働く力（チームワーク）	発信力	自分の意思を解りやすく伝える力	19. 自分の考えや意見を筋道を立てて伝えることができる				
			20. 自分の言葉に責任をもち、発言することができる				
			21. 相手がどのような情報を求めているのかを理解して伝えることができる				
	傾聴力	相手の意見をていねいに聴く力	22. 自らの表情や聴く姿勢に配慮して、相手が話しやすい状況をつくることができる				
			23. 内容の確認や質問などを行いながら、相手の意見を正確に理解することができる				
			24. 自分の意見を持ちながら、相手の考えや意見を肯定的に受け止めることができる				
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力（自分のやり方に固執しない）	25. 自分の考えを持ちながら、他人の考えを共感を持って受け入れることができる				
			26. 相手がなぜそのような気持ちになるかを相手の立場に立って理解することができる				
			27. 指導を謙虚に受け止め自己の成長に活かすことができる				
	情況把握力	自分の周囲の人々や物事との関係性を理解する力	28. 周囲から期待されている自分の役割を把握して行動できる				
			29. 常に自分にできること、他人にできることを判断して行動することができる				
			30. 周囲の人の状況（人間関係、忙しさなど）に配慮して良い方向へ向かうよう行動することができる				
			31. 組織の一員として適切な時期、相手に報告・連絡・相談をすることができる				
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	32. 相手に迷惑をかけないよう、ルール、約束、マナーを理解し行動できる				
			33. 相手に迷惑をかけたとき、自己責任のもとに適切な行動を取ることができる				
			34. 規律や礼儀が特に求められている場面では粗相のないように正しく振舞う事ができる				
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力（ポジティブシンキング）	35. 自分なりのストレス対処法を持ちストレスを緩和できる				
			36. ストレスの原因を見つけて、自分で又、他人の力を借りて取り除くことができる				
			37. わたしの健康ノートを活用し自己の健康管理ができる				
倫理	倫理性	看護職者としての倫理に則って行動する力	38. 守秘義務を遵守し、個人情報の保護することができる				
			39. 相手の考えを尊重した行動（思いやり、謙虚で礼儀正しい、適切な言葉使い）をとることができる				
			40. 自分に非がある場合は報告し、その状況を説明することができる （ヒヤリハット・アクシデント報告など）				
学習	自ら学び考える力	主体的に学習に取り組むとともに、自分自身を価値ある存在として認める力	41. 自ら学習に対して常に目標を設定することができる				
			42. 自分で自分の成果を褒め、表現することができる				
			43. スケールや評価表などを用いて自分を客観的に評価し課題を見つけるこできる				

Ⅱ．教育課程

教　育　課　程(別表１)

教育内容		科　目　名	単位(数)	時間(数)
基礎分野	科学的思考の基盤	情報科学	2	45
		論理学	1	30
		心の仕組みの科学	1	30
		環境科学	1	30
		文章表現法	1	30
	人間と生活・社会の理解	教育学	1	30
		社会学	1	30
		人間関係論	1	30
		倫理学	1	30
		人間と文化	1	30
		英語Ⅰ	1	30
		英語Ⅱ	1	30
		看護情報論	1	30
	小　計		**14**	**405**
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造と機能Ⅰ	1	30
		人体の構造と機能Ⅱ	1	30
		看護形態機能論	1	30
		看護形態機能論演習	1	30
		生化学	1	30
		栄養学	2	45
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30
		薬理学	1	30
		病態学概論	1	15
		臨床病態学Ⅰ	1	30
		臨床病態学Ⅱ	1	30
		臨床病態学Ⅲ	1	15
		臨床病態学Ⅳ	1	15
		臨床病態学Ⅴ	1	15
		臨床病態学Ⅵ	1	15
	健康支援と社会保障制度	総合医療論	1	15
		保健学	1	15
		健康科学	2	45
		社会福祉	1	30
		看護と法	1	15
	小　計		**22**	**510**
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30
		看護理論	1	15
		基礎看護学方法論Ⅰ	1	**30**
		基礎看護学方法論Ⅱ	1	30
		基礎看護学方法論Ⅲ	2	45
		基礎看護学方法論Ⅳ	1	**30**
		基礎看護学方法論Ⅴ	1	30
		基礎看護学方法論Ⅵ	1	30
		基礎看護学方法論Ⅶ	2	45
		基礎看護学方法論Ⅷ	1	15

教育内容		科　目　名	単位(数)	時間(数)
専門分野	地域・在宅看護論	地域の暮らしと看護	1	30
		地域・在宅看護論概論	1	30
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	30
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	30
		地域・在宅看護方法論Ⅲ	1	30
		地域・在宅看護方法論Ⅳ	1	15
	成人看護学	成人看護学概論	1	30
		成人看護学方法論Ⅰ	1	15
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30
		成人看護学方法論Ⅳ	1	30
		成人看護学方法論Ⅴ	1	30
	老年看護学	老年看護学概論	1	30
		老年看護学方法論Ⅰ	2	45
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30
	小児看護学	小児看護学概論	1	30
		小児看護学方法論Ⅰ	2	45
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30
	母性看護学	母性看護学概論	1	30
		母性看護学方法論Ⅰ	2	45
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30
	精神看護学	精神看護学概論	1	30
		精神看護学方法論Ⅰ	2	45
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30
	看護の統合と実践	看護マネジメント	1	30
		医療安全と看護	1	15
		災害看護学・国際看護学	1	15
		臨床看護の実践演習Ⅰ	1	30
		臨床看護の実践演習Ⅱ	1	15
		看護研究	1	30
	臨地実習 基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90
	臨地実習 地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習	2	90
	臨地実習 成人看護学	成人看護学実習Ⅰ	2	90
		成人看護学実習Ⅱ	2	90
	臨地実習 老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	2	90
		老年看護学実習Ⅱ	2	90
	臨地実習 小児看護学	小児看護学実習	2	90
	臨地実習 母性看護学	母性看護学実習	2	90
	臨地実習 精神看護学	精神看護学実習	2	90
	臨地実習 看護の統合と実践	看護の統合と実践実習Ⅰ	1	30
	臨地実習 看護の統合と実践	看護の統合と実践実習Ⅱ	3	90
	小　計		**69**	**2160**
総　計			**105**	**3075**

Ⅲ．カリキュラムの主要概念

カリキュラムの主要概念

《人間》

・人間は受胎から死までのいずれかの成長発達段階にあり、成長発達し続ける存在である。
・人間は自然及び社会環境の中で相互に影響を受けながら生活し、絶えず変化している存在である。
・人間は身体的・精神的・社会的側面をもつ統合された生活者である。
・人間は社会的・文化的背景の中で、個々の感性や価値観・役割を持ち生活者として存在している。
・人間は個人として尊重され、自分の生き方を自己選択・自己決定する権利を持っている。
・人間は基本的ニーズを持ち、自己実現に向け生きていく可能性を持った存在である。

《健康》

・健康は人間の可能性が最大に実現されている状態であり、その人の置かれた立場、生き方、価値観と密接に関連している。
・健康とは生活の質の向上にむかう進行過程である。
・健康状態は環境との相互作用により絶えず変化している。
・健康には最良の健康状態から死までの連続的な段階があり、その中には病気、リハビリテーションなどが含まれる。
・望ましい健康状態とは、環境に適応し、その人の身体的、精神的、社会的機能が十分に発揮されている状態をいう。
・健康は人間の基本的な権利である。

《環境》

・環境は人間を取り巻くすべてをさし、内的環境（個体内の生理的状態）と外的環境（自然・社会・文化）の総体である。
・内的環境とは生体内部環境であり、人間の生命現象に深く関与する。
・外的環境は内的環境の恒常性の維持に関与する。
・社会環境は個人・家族・地域から構成された生活の場であり、それぞれ特有の文化を持ち、人間との相互作用によって変化している。
・社会環境は人間がより良く生きるために、法律・政治・経済・文化・教育・医療・福祉などの組織化された機能を有している。
・生活環境はグローバル化により拡大し、常に変化している。

《生活》

・生活とは生存してゆくための活動であり、社会生活の基本的欲求（健康・教育・経済・職業・家庭・社会参加の機会・文化娯楽の機会）の充足をめざす営みである。
・生活はその人が生きていく選択と決定を繰り返す学習の過程であり、その決定はその人の価値観に影響される。
・生活とは個々の人間がその人らしく生きるための活動である。
（生活を満足させ、意味あるものとして過ごす様々な行動である。）
・生活者とはその人の生きてきた歴史の中で培われた生活習慣や生活信条を持ちながら生きている人である。
・健康で文化的な生活を営む権利は憲法で保障されている。

《看護》

・看護は対象の反応に焦点をあて支援する活動である。
・看護は対象の健康生活に対して人間の環境に働きかけ、より良い健康状態を支援することである。
・看護の対象とは個人・家族・集団・地域社会および諸外国などで暮らす人間をさす。
・看護はその人らしく生活できるように専門的知識・技術を活用し対象を支援することである。
・看護支援とは対象の健康課題を明らかにし、その課題を解決するために系統的に働きかけることである。
・看護は対象と看護者との人間関係を基盤として行うものである。
・看護は対象に応じた教育指導機能・相談支持的機能・調整的機能を果たすものである。
・看護は対象の生きる権利を尊重し、擁護・支援していく役割を担う。
・看護は実践の中で、その価値が明らかにされる。
・看護は独自の機能を有し保健医療福祉チームの中で多職種と連携・協働しながら役割を担う。

《学習・教育》

・学習は生きる力を持つために必要な知識・技術・態度を習得していく生涯活動である。
・学習は人間が人間らしく生きるための基本的権利である。
・学習とはよりよい自分になる（自己実現）ために学習者が主体となって意図的に取り組む活動である。
・学習者は自らの成長を自らの力で獲得していく教育の主体である。
・教育とは学習者の行動に価値ある変化をもたらすプロセスである。
・教育とは学習者と教育者がともに学び、影響し合い成長する過程である。
・教師とは看護を学ぶ過程において出会う全ての人を指す。

《看護教育》

・看護教育とは看護という営みの学習を要望する人々に提供される看護の内容に焦点を当てた教育である。
・看護教育は看護実践を科学していくプロセスであり、ヒューマンケアリング（人権の擁護、行動・意思決定を支える、対象の尊厳を守る、倫理的行動決定をする）を目指す教育である。
・看護教育は看護者のアイデンティティの育成と看護専門職として必要な知識・技術・態度を教授する過程である。
・看護教育は看護の対象である人間を生活者として捉え、対象のセルフケアを基本に健康生活に向けて環境を調整する能力、実践能力と感情ワーク（相手を思いやり・患者との深いかかわり情動的ふれあい）能力を重視する教育である。
・看護教育は看護実践能力を有する看護職者を育成するプロセスである。
・実践の科学である看護を学ぶ看護教育は、学習者の体験を通した学びを重視する教育である。

《地域》

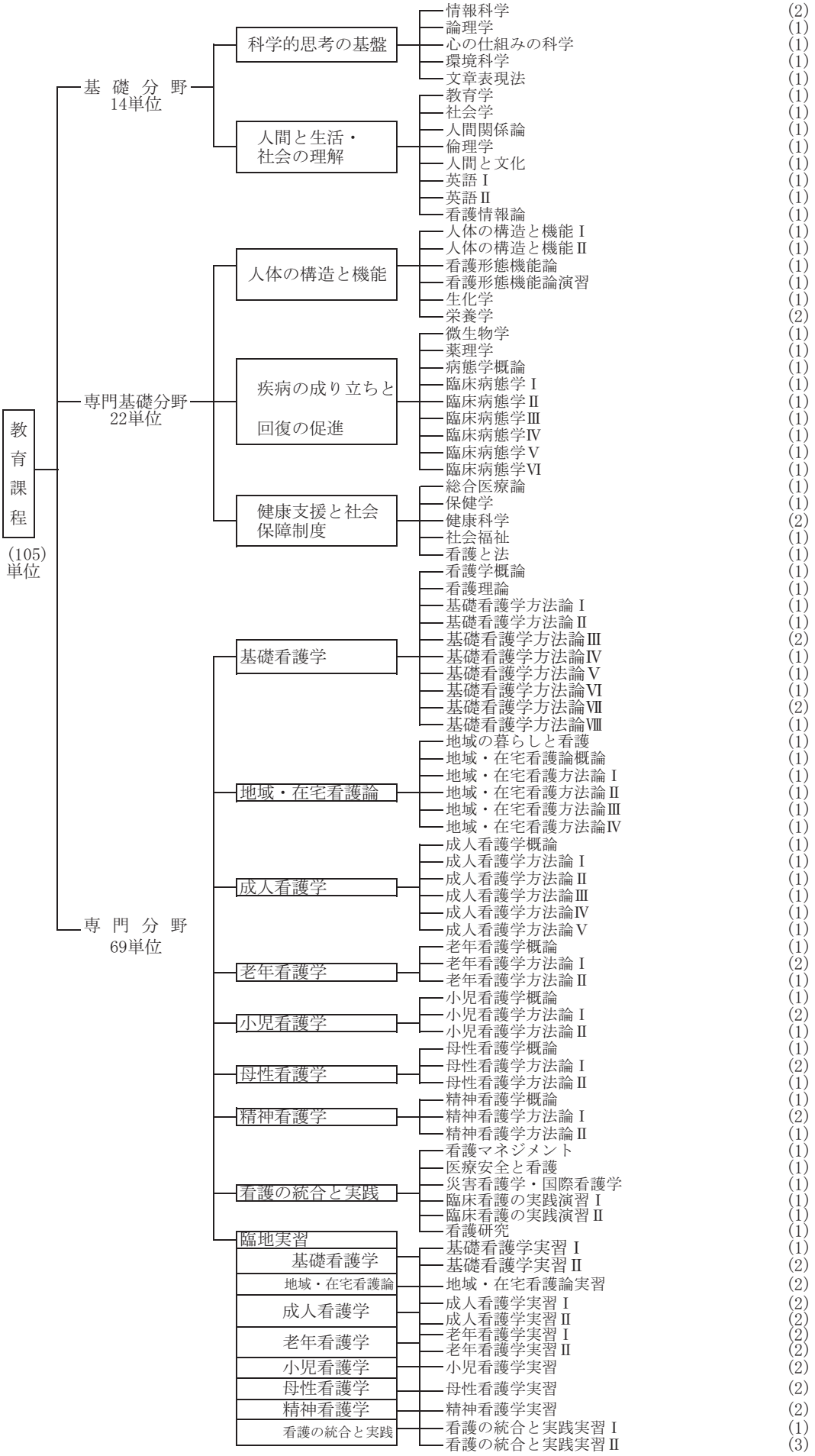
・地域は生活する個人と家族、集団を対象とする。
・地域とは対象特性を超えた場であり様々な発達段階の人々がいる。
・地域とは近隣、地区、市町村といった空間的広がりとしての場であり、一定の地理的範囲において成り立っている共同生活のシステム（地域性）をいう。
・地域とは人と人、人と資源が世代や分野を超えつながることで住民一人ひとりの暮らしと生きがいにつながる場である。
・人々が生活の楽しみや生きがいを見出し、様々な困難を抱えた場合でも社会から孤立せず、安心してその人らしい生活を送る場である。
・健康づくりに取り組むために住民相互が交流できる居場所であり共助の輪を広げる場である。

《暮らし》

・暮らしとは基本的な衣食住を支えるために必要な経済的側面が反映される。
・暮らしとはその人がその人らしく生きる基盤となる生活様式（生活の仕方）をいう。
・暮らしにはその人が住み慣れた環境で自分らしく生きる生き方（価値観）が反映される。
・暮らしとは人間社会（地域社会）の中で相互に支え合い生きていくことである（互助・共助）。
・暮らしの場で地域・在宅看護（在宅医療）が提供される。
・多文化共生社会における暮らしの場でグローバルヘルスな視点で看護が提供される。

Ⅳ．科目体系

科 目 体 系


教育課程
(105)単位
基礎分野 14単位
専門基礎分野 22単位
専門分野 69単位
科学的思考の基盤
情報科学 (2)
論理学 (1)
心の仕組みの科学 (1)
環境科学 (1)
文章表現法 (1)
人間と生活・社会の理解
教育学 (1)
社会学 (1)
人間関係論 (1)
倫理学 (1)
人間と文化 (1)
英語Ⅰ (1)
英語Ⅱ (1)
看護情報論 (1)
人体の構造と機能
人体の構造と機能Ⅰ (1)
人体の構造と機能Ⅱ (1)
看護形態機能論 (1)
看護形態機能論演習 (1)
生化学 (1)
栄養学 (2)
疾病の成り立ちと回復の促進
微生物学 (1)
薬理学 (1)
病態学概論 (1)
臨床病態学Ⅰ (1)
臨床病態学Ⅱ (1)
臨床病態学Ⅲ (1)
臨床病態学Ⅳ (1)
臨床病態学Ⅴ (1)
臨床病態学Ⅵ (1)
健康支援と社会保障制度
総合医療論 (1)
保健学 (1)
健康科学 (2)
社会福祉 (1)
看護と法 (1)
基礎看護学
看護学概論 (1)
看護理論 (1)
基礎看護学方法論Ⅰ (1)
基礎看護学方法論Ⅱ (1)
基礎看護学方法論Ⅲ (2)
基礎看護学方法論Ⅳ (1)
基礎看護学方法論Ⅴ (1)
基礎看護学方法論Ⅵ (1)
基礎看護学方法論Ⅶ (2)
基礎看護学方法論Ⅷ (1)
地域・在宅看護論
地域の暮らしと看護 (1)
地域・在宅看護論概論 (1)
地域・在宅看護方法論Ⅰ (1)
地域・在宅看護方法論Ⅱ (1)
地域・在宅看護方法論Ⅲ (1)
地域・在宅看護方法論Ⅳ (1)
成人看護学
成人看護学概論 (1)
成人看護学方法論Ⅰ (1)
成人看護学方法論Ⅱ (1)
成人看護学方法論Ⅲ (1)
成人看護学方法論Ⅳ (1)
成人看護学方法論Ⅴ (1)
老年看護学
老年看護学概論 (1)
老年看護学方法論Ⅰ (2)
老年看護学方法論Ⅱ (1)
小児看護学
小児看護学概論 (1)
小児看護学方法論Ⅰ (2)
小児看護学方法論Ⅱ (1)
母性看護学
母性看護学概論 (1)
母性看護学方法論Ⅰ (2)
母性看護学方法論Ⅱ (1)
精神看護学
精神看護学概論 (1)
精神看護学方法論Ⅰ (2)
精神看護学方法論Ⅱ (1)
看護の統合と実践
看護マネジメント (1)
医療安全と看護 (1)
災害看護学・国際看護学 (1)
臨床看護の実践演習Ⅰ (1)
臨床看護の実践演習Ⅱ (1)
看護研究 (1)
臨地実習
基礎看護学
基礎看護学実習Ⅰ (1)
基礎看護学実習Ⅱ (2)
地域・在宅看護論
地域・在宅看護論実習 (2)
成人看護学
成人看護学実習Ⅰ (2)
成人看護学実習Ⅱ (2)
老年看護学
老年看護学実習Ⅰ (2)
老年看護学実習Ⅱ (2)
小児看護学
小児看護学実習 (2)
母性看護学
母性看護学実習 (2)
精神看護学
精神看護学実習 (2)
看護の統合と実践
看護の統合と実践実習Ⅰ (1)
看護の統合と実践実習Ⅱ (3)

Ⅴ．科目進度計画

科目進度計画

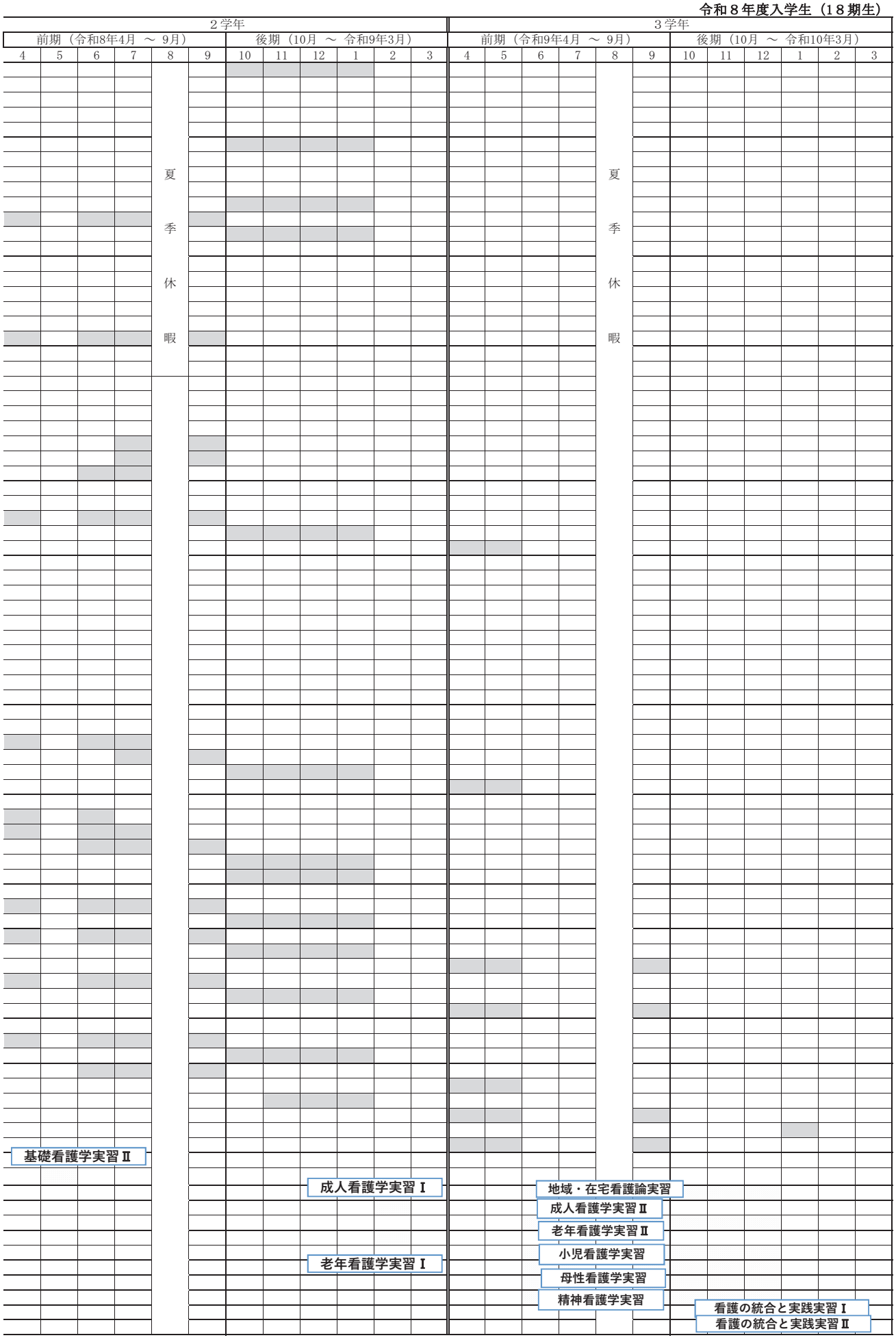
進度表1　　科目進度計画

授業科目			単位	学年	1学年											
				学期	前期（令和7年4月 ～ 9月）						後期（10月 ～ 令和8年3月）					
				時間 ＼ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
基礎分野	科学的思考の基盤	情報科学	2	45												
		論理学	1	30												
		心の仕組みの科学	1	30												
		環境科学	1	30												
		文章表現法	1	30												
	人間と生活・社会の理解	教育学	1	30												
		社会学	1	30												
		人間関係論	1	30												
		倫理学	1	30												
		人間と文化	1	30												
		英語Ⅰ	1	30												
		英語Ⅱ	1	30												
		看護情報論	1	30												
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造と機能Ⅰ	1	30												
		人体の構造と機能Ⅱ	1	30												
		看護形態機能論	1	30												
		看護形態機能論演習	1	30												
		生化学	1	30												
		栄養学	2	45												
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30												
		薬理学	1	30												
		病態学概論	1	15												
		臨床病態学Ⅰ	1	30												
		臨床病態学Ⅱ	1	30												
		臨床病態学Ⅲ	1	15												
		臨床病態学Ⅳ	1	15												
		臨床病態学Ⅴ	1	15												
		臨床病態学Ⅵ	1	15												
	健康支援と社会保障制度	総合医療論	1	15												
		保健学	1	15												
		健康科学	2	45												
		社会福祉	1	30												
		看護と法	1	15												
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30												
		看護理論	1	15												
		基礎看護学方法論Ⅰ	1	30												
		基礎看護学方法論Ⅱ	1	30												
		基礎看護学方法論Ⅲ	2	45												
		基礎看護学方法論Ⅳ	1	30												
		基礎看護学方法論Ⅴ	1	30												
		基礎看護学方法論Ⅵ	1	30												
		基礎看護学方法論Ⅶ	2	45												
		基礎看護学方法論Ⅷ	1	15												
	地域・在宅看護論	地域の暮らしと看護	1	30												
		地域・在宅看護論概論	1	30												
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	30												
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	30												
		地域・在宅看護方法論Ⅲ	1	30												
		地域・在宅看護方法論Ⅳ	1	15												
	成人看護学	成人看護学概論	1	30												
		成人看護学方法論Ⅰ	1	15												
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30												
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30												
		成人看護学方法論Ⅳ	1	30												
		成人看護学方法論Ⅴ	1	30												
	老年看護学	老年看護学概論	1	30												
		老年看護学方法論Ⅰ	2	45												
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30												
	小児看護学	小児看護学概論	1	30												
		小児看護学方法論Ⅰ	2	45												
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30												
	母性看護学	母性看護学概論	1	30												
		母性看護学方法論Ⅰ	2	45												
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30												
	精神看護学	精神看護学概論	1	30												
		精神看護学方法論Ⅰ	2	45												
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30												
	看護の統合と実践	看護マネジメント	1	30												
		医療安全と看護	1	15												
		災害看護学・国際看護学	1	15												
		臨床看護の実践演習Ⅰ	1	30												
		臨床看護の実践演習Ⅱ	1	15												
		看護研究	1	30												
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45												
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90												
	臨地実習	地域・在宅看護論実習	2	90												
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90												
		成人看護学実習Ⅱ	2	90												
	臨地実習	老年看護学実習Ⅰ	2	90												
		老年看護学実習Ⅱ	2	90												
	臨地実習	小児看護学実習	2	90												
	臨地実習	母性看護学実習	2	90												
	臨地実習	精神看護学実習	2	90												
	臨地実習	看護の統合と実践実習Ⅰ	1	30												
	臨地実習	看護の統合と実践実習Ⅱ	3	90												

夏季休暇

基礎看護学実習Ⅰ

令和８年度入学生（１８期生）



VI. 各分野の目的・目標

分野の目的・目標

１．基礎分野

目的　１　科学的・論理的思考を基盤に看護が提供できるための基礎的知識を学ぶ。
　　２　豊かな感性を育み主体的な判断力や行動力を育むための基礎的知識を学ぶ。
　　３　生命の尊厳や人権を基盤とした人間と社会、生活者としての対象理解を深めるための基礎的知識を学ぶ
　　４　看護活動の場の拡大に伴い国際化への対応や情報通信技術(ICT)を活用するための基礎的知識を学ぶ。

【　科学的思考の基盤　】

科目名	単位	時間	科目の目標
情報科学	2	45	1.情報処理の基本的な考え方や情報化社会において国際的な視野で物事をとらえる必要性について説明できる。 2.パソコンの基本操作ができ、インターネットによる文献検索ができる。 3.データの見方、統計処理、表・グラフの作成ができる。 4.基本的な医療・看護のデータ処理ができる。
論理学	1	30	1.論理的に考えることができる。 2.論理的なつながりを見つけるのに役立つ技術が実践できる。
心の仕組みの科学	1	30	1.ひとの心の仕組み及び行動がどのように形成されるかについて理解を深め　ることができる。 2.ひとの心理や行動の多面的理解を通じて医療場面における看護対象の理解や人間関係作りに資することができる。
環境科学	1	30	1.前半部分では、「地球環境問題」「環境とエネルギー・食糧問題」「環境と生活」について考える。 2.環境への負荷」と環境基本法、私たちの生活について考える。 3.少子高齢化・人口減少社会の到来の課題と、SOCEITY5.0などの新しい社会システムと生活への影響、SDGsの課題について考察する。 4.私達の健康や日々の生活活動（生産・運輸・消費・廃棄）の解決法策を探る 5.CO VID19（SARS-COV-2)新型コロナウイルスなどの感染症や医療廃棄物の処理や、廃棄物処理法について理解する。
文章表現法	1	30	1.観察したこと、感じたこと、体験したこと、考えたことを文章として表現できる。 2.文章表現の基礎的能力を身につけレポートや論文を書く記述力を身につける

【　人間と生活・社会の理解　】

科目名	単位	時間	科目の目標
教育学	1	30	1.自己教育力を高めることができる。 2.教育方法の学習においては教える者と教わる者の双方の立場から教育を理解することで、看護実践における教育・指導活動に活かせるようにする。
社会学	1	30	1.人間生活の基盤である社会について理解を深めることができる。 2.家族･地域･社会･職場といった日常生活に関る領域をとりあげ、現代社会の直面する問題を社会学的視点から考えることができる。
人間関係論	1	30	1.ソーシャルサポートの担い手である看護職者として、人間関係形成の基盤となる思いやりや、豊かな人間性を培い自分も他者も生き生きと生かされる人間関係を築く能力を身につける。 2.看護介入場面の事例をサイコドラマを通して感情体験し、対人援助の対処方略を探究する。 3.対人関係形成に必要な基礎的知識を習得する。
倫理学	1	30	1.生命の尊厳、生命の質についての理解を深めることができる。 2.先端医療、患者の権利、自己決定権、医療者の説明責任等、医療現場で起きている倫理的諸問題を考えることができる。 3.看護師として、倫理的自覚を高め、人権を尊重し擁護するとはどの様なアプローチなのかについて具体的に考えることができる。
人間と文化	1	30	1.人間の営みに影響を与える「文化」について理解を深める。 2.生活の拠り所である地域に着目して地域固有の文化の生成とそこで生活する人々の価値観や生き方について思考することができる。
英語Ⅰ	1	30	1.基礎的な日常英会話ができる。 2.主体的、積極的に英会話コミュニケーションをとることができる。 3.ディベートを行うことにより中立な立場にたち人々の気持ちが理解できる
英語Ⅱ	1	30	1.英語で問診・病歴聴取がとれる。 2.バイタルサイン測定、体位変換や検査・処置について英語で会話・説明できる 3.英文を読むことで専門用語を習得あるいは看護/医療の中の多様性・異文化について知る
看護情報論	1	30	1.医療、看護の情報化、情報倫理の必要性を説明できる。 2.インターネットなどを活用し、信頼できる情報の収集・選択ができる。 3.看護実践における医療・看護情報（電子カルテ）の基本的な操作ができる。

分野の目的・目標

２．専門基礎分野

目的　１　看護実践の基盤となる疾病を持つ対象の身体的アセスメントに必要な基礎的知識を学ぶ。
　　２　健康や障がいの状態に応じて、社会資源を活用できるように必要な基礎的知識を学ぶ。
　　３　保健医療福祉に関する概念、社会保障制度、関係する職種の役割について学ぶ。

【　人体の構造と機能　】

科目名	単位	時間	科目の目標
人体の構造と機能Ⅰ	1	30	1. 人体の形態や正常な機能・仕組みを系統的に説明できる。 2. 人間に対する観察力、洞察力培いフィジカルアセスメントに活かすことができる。
人体の構造と機能Ⅱ	1	30	1. 人体全体の位置関係がわかり、機能と関連性を結びつけることができる。 2. 人間の生命現象がどのようなメカニズムについて説明できる。
看護形態機能論	1	30	1. 生きることを支える日常生活行動の意味を述べることができる 2. 日常生活行動の身体の仕組みを述べることができる
看護形態機能論演習	1	30	1. 看護形態機能（人体の構造と機能）を系統立てて理解し、日常生活行動を営んでいるからだの仕組みと機能を説明できる。 2. 人間の日常生活行動について生活の視点で捉え、作成した成果物発表を行い学びの共有ができる。
生化学	1	30	1. 人間が生物として生きていく生命現象について説明できる。 2. 現代のバイオテクノロジーとの関連でより実践的な看護学や治療の技術と結びつけて、生理学、薬理学、栄養学の学習の基礎的知識として役立てることができる。
栄養学	2	45	1. 栄養的要因の疾病や食事療法についての基本的な知識を学び、生活指導や食事指導に活かす。 2. 治療食として、献立の作成、食材選択、調理までの一連の実践を体験する。 3. 栄養と食行動を関連付けて考えることができる。

【　疾病の成り立ちと回復の促進　】

科目名	単位	時間	科目の目標
微生物学	1	30	1. 病原微生物が人体に進入した後、生体内でどのような感染防御機構（免疫の仕組み）が発揮されるのか理解できる。 2. 細菌、真菌、原虫、ウイルスが引き起こす感染症について理解を深めることができる。
薬理学	1	30	1. 薬務法に基づく薬物管理のあり方がわかる。 2. 薬物の性質、作用機序、人体への影響及び薬品の管理がわかる。
病態学概論	1	15	1. 看護にとって病態学を学ぶ意義とは何か述べることができる。 2. 疾患に生じる臓器や組織、細胞の基礎的な形態的変化について説明できる 3. 病態学で使用する専門用語を看護実践を行う上で正確に使うことができる
臨床病態学Ⅰ	1	30	臨床病態学Ⅰは、循環器・呼吸器・消化器についての内容を学ぶ。 1. 主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる 2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。
臨床病態学Ⅱ	1	30	臨床病態学Ⅱは脳神経系・運動器・腎泌尿器・女性生殖器・内分泌についての内容を学ぶ。 1. 主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。 2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。
臨床病態学Ⅲ	1	15	臨床病態学Ⅲは膠原病・アレルギー・耳鼻咽喉科・皮膚科・眼科・血液疾患についての内容を学ぶ。 1. 主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。 2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。

臨床病態学Ⅳ	1	15	臨床病態学Ⅳは小児期にある対象の疾患についての内容を学ぶ。 1. 小児期にある対象の主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。 2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。
臨床病態学Ⅴ	1	15	臨床病態学Ⅴは母性疾患についての内容を学ぶ。 1. 周産期及にある対象の主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。 2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。
臨床病態学Ⅵ	1	15	臨床病態学Ⅵは精神疾患についての内容を学ぶ。 1. すべての発達段階にある人々の健康を守り心の病から回復を見守ることをめざす。 2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。

【　健康支援と社会保障制度　】

科目名	単位	時間	科目の目標
総合医療論	1	15	1.　看護が効果的に実施できるために必要な総合医療論の基礎的知識について学ぶ。
保健学	1	15	1. 病気の予防」、「健康にとって有害な環境や、行動、社会的要因を取り除く」ことにより、人々の健康状態と生活の質（ＱＯＬ）を維持向上させることについて理解を深める。 2. 疫学的指標を用いて、人々の健康課題や保健対策について理解できる。 3. 健康を守るための組織、機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。
健康科学	2	45	1. 他者への健康教育･健康管理、健康について科学的な視点から考えることができる。 2. 健康へのアプローチのできる力を身につける。 3. 実技を通して現在持っている自分の身体能力や精神・社会的能力を確認することができる 4. スポーツを通して人間関係の基礎作りに必要なルールや協調性の必要性を体験する。
社会福祉	1	30	1.　人々のよりよい健康生活・地域における自立支援のあり方や社会福祉サービス・社会福祉システムなど地球規模で考えるノーマライゼーションや人権について理解を深める。 2. 社会福祉と医療、保健との関連、医療サービス支援のなかで他職種の役割、看護の果たす役割について理解できる。 3. 健康障がい状態に応じて社会資源を活用できる知識を習得する。
看護と法	1	15	1. 他職種との関係性・職業アイデンティティとは何かを説明できる。 2. 倫理的行動決定を行うための基礎的知識とは何か説明できる。 3. 憲法、看護師の資格や看護業務に関係の深い保健衛生法規について説明できる。

分野の目的・目標

３．専門分野

目的　１　人間理解、人間尊重を基盤とし各看護学における基礎的知識を学ぶ。
　　２　事例等を活用し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。
　　３　看護師として倫理的に判断をするための基礎的知識を学ぶ。
　　４　看護実践を看護研究としてまとめ発表するための基礎的知識を学ぶ。

教育内容	科目名	単位	時間	科目の目標
基礎看護学	看護学概論	1	30	1.看護学を構成する主要概念について説明できる。 2.看護の目的、看護の本質について説明できる。 3.看護専門職としての役割・看護独自の機能について説明できる。 4.保健医療福祉等、多職種における調整、連携・協働の必要性を説明できる 5.今後の看護のあり方について考えることができる。
	看護理論	1	15	1.理論とは何かを知ることができる。 2.看護理論の発展過程がわかる。 3.看護理論の構造がわかる。 4.看護理論と看護実践の関連性について知ることができる。
	基礎看護学方法論Ⅰ	1	30	1.看護技術の基本概念を説明できる。 2.看護技術を支える要素が説明できる。 3.人間関係を構築するためのコミュニケーションの基本が説明できる。 4.効果的なコミュニケーションを実施できる。 5.感染防止策の意義や基礎的な知識を説明し、感染防止の適切な方法が実施できる。 6.医療安全の基本的な考え方を説明でき安全対策を適切な方法で実施できる 7.看護における学習支援に基礎的知識が理解できる。
	基礎看護学方法論Ⅱ	1	30	1.生活環境について理解し、療養環境を整えることができる。 2.活動の基礎的知識を理解し、活動と休息を整えることができる。 3.対象に応じた安全・安楽な姿勢・活動を整えることができる。 4.衣生活支援の基礎的知識を理解し衣生活を整えることができる。 5.メンバーと協力しながら、主体的に課題・校内実習を行うことができる 6.実践後の看護技術を振り返り、自己の課題を記述することができる
	基礎看護学方法論Ⅲ	2	45	1.清潔支援の基礎的知識を理解し、清潔の支援方法が実施できる。 2.苦痛の緩和・安楽の確保技術の基礎的知識を理解し、安楽への支援方法が実施できる。 3.食事支援の基礎的知識を理解し実施することができる。 4.排泄支援の基礎的知識を理解し、実施することができる。 5.日常生活支援技術を安全・安楽・倫理的配慮を考慮した方法で実施できる 6.メンバーと協力しながら、主体的に課題・校内実習を行うことができる 7.実践後の看護技術を振り返り、自己の課題を記述することができる。
	基礎看護学方法論Ⅳ	1	30	1.看護におけるフィジカルアセスメントを学習する意義を述べることができる 2.フィジカルアセスメントの概念と目的、必要性が説明できる 3.身体計測の意義と目的を理解し、身体計測が実施できる 4.バイタルサインの正確な測定方法を理解し、実施できる 5.系統別フィジカルイグザミネーションが実施できる
	基礎看護学方法論Ⅴ	1	30	1.看護過程の意義、構成要素について説明できる 2.対象理解のための主観的・客観的情報について説明できる 3.得た情報を科学的根拠に基づいてアセスメントできる 4.看護上の課題を明確にし、優先順位を決定できる 5.看護目標を設定し、個別性のある看護計画を立案できる 6.実践した看護の評価方法を説明できる 7.看護実践向上に必要なリフレクションについて説明できる
	基礎看護学方法論Ⅵ	1	30	1.臨床看護における看護師の役割が説明できる 2.健康段階における看護の方法が説明できる 3.主要症状を示す対象の看護の方法を説明できる 4.治療・処置を受ける対象者の看護の実際・支援技術の方法を説明できる
	基礎看護学方法論Ⅶ	2	45	1与薬における看護師の役割を説明できる。 2.薬物の特徴、正しい与薬、薬剤の管理方法を説明できる。 3.適切な方法で与薬を実践する基礎的技術が実施できる。 4.適切な方法で検体検査や身体侵襲を伴う検査が実施できる。 5.呼吸を整えるために必要な看護の実際・支援技術の方法を実施できる
	基礎看護学方法論Ⅷ	1	15	1.医療機器の利用目的、医療器具の原理と実際を説明できる。 2.臨終の場に臨む看護師の姿勢と終末を迎えた対象者への支援方法を説明できる 3.創傷管理に必要な基礎的知識を説明できる。
地域・在宅看護論	地域の暮らしと看護	1	30	1.地域で暮らす人々の生活環境・地域特性について説明できる。 2.地域特性が地域で暮らす人々の健康と暮らしに影響を与えていることを説明できる。
	地域・在宅看護論概論	1	30	1.地域・在宅看護論の特徴について説明できる 2.地域で暮らす看護の対象となる生活者を支える社会資源について説明できる 3.地域における健康生活支援方法をグループで考え発表できる 4.訪問看護の制度について説明できる

地域・在宅看護論	地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	30	1.療養生活を支える継続看護の特徴と役割について説明できる 2.療養上のリスクマネジメントも考えた暮らしの場の環境づくりを説明できる 3.平時の防災力に備える支援と災害時の支援方法について理解できる 4.療養生活において医療的管理を必要とする人と家族への看護実践方法が説明できる 5.臨床判断とICFを活用した支援方法の実践ができる
	地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	30	1.行政（地域包括支援センター等）の認知症理解に向けた取り組みが説明できる 2.認知症への理解を促すための取り組みを発表し地域で暮らす人々へも発信することができる
	地域・在宅看護方法論Ⅲ	1	30	1.地域における多職種連携の考え方と必要性について説明できる 2.保健医療福祉の連携に関わる主な職種と各職種の役割が説明できる 3.事例を通して課題解決のために必要な職種と模擬カンファレンスを体験できる
	地域・在宅看護方法論Ⅳ	1	15	1.人間の尊厳とは何かを考え、人生の最終段階にある人を支えるケアの意義を説明できる 2.看取りをする家族および遺族ケア（グリーフケア）のあり方について説明できる 3.死を巡る倫理的課題を理解し、看護の役割、包括的指示に基づく看護の責任、職業倫理に基づく行動決定の方法がわかる。
成人看護学	成人看護学概論	1	30	1.成人各期の成長発達および発達課題について述べることができる。 2.成人をとりまく環境から成人の生活を説明することができる。 3.成人期にみられる健康障害について成人期の特徴と関連させ述べることができる。 4.成人期にある対象を看護するための目的と役割を述べることができる。
	成人看護学方法論Ⅰ	1	15	1.ヘルスプロモーションの定義がわかり、活動のプロセスと方法を述べることができる。 2.成人看護の活動の場と看護活動について述べることができる。 3.産業看護の定義と役割について述べることができる。 4.職場で働く成人にみられる健康障害と健康管理の実際について述べることができる。
	成人看護学方法論Ⅱ	1	30	1.内部環境調節機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べることができる。 2.疾患の症状､検査､治療及び看護の方法を理解し基本的支援技術の方法を述べることができる。 3.糖代謝機能障害に応じた改善、調整､悪化防止のための支援方法を述べることができる。 4.個別性を考慮した学習支援の方法を実施することができる。
	成人看護学方法論Ⅲ	1	30	1.不可逆性の腎機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べることができる。 2.がんを患っている対象の看護の特徴と課題について述べることができる 3.化学療法に伴う看護の方法を述べることができる。 4.乳がんを患っている対象の看護の方法を述べることができる。 5.がん対象者と家族の社会資源の活用について述べることができる。 6.生と死について考え､疾病を持ちながら生きる対象者の看護の役割を述べることができる。
	成人看護学方法論Ⅳ	1	30	1成人期にある対象の急性期から回復期の看護の特徴と看護の役割について述べることができる。 2.循環機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べることができる 3.循環機能障害時の主要症状、検査、治療に対する看護の方法を述べることができる。 4.循環機能障害を来している対象の看護の方法を述べることができる。 5.一次救命処置の正しい方法を実践することができる。
	成人看護学方法論Ⅴ	1	30	1成人期にある対象の急性期から回復期の看護の特徴と看護の役割について述べることができる。 2.消化機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べることができる 3.消化機能障害の主要症状、検査､治療に対する看護の方法を述べることができる。 4.胃がんの対象に応じた看護の展開方法を述べることができる。 5.術後合併症予防と術後清潔ケアの支援を実践することができる。 6.ドレーン類の原理を知り、ドレーン挿入中の看護について述べることができる。

老年看護学	老年看護学概論	1	30	1.ライフサイクルにおける老年期の位置づけと老年期の発達課題を述べることができる。 2.高齢者の身体的、精神的、社会的変化や特徴について述べることができる。 3.保健医療福祉制度の変革を知り、老年看護に与える影響と今後の課題を述べることができる。 4.老年期にある対象を看護するための基本的な考え方を述べることができる。
	老年看護学方法論Ⅰ	2	45	1．高齢者をアセスメントするための視点と方法について説明できる 2．高齢者の生活を整える看護について説明できる。 3．高齢者に特有な症状に応じた看護について説明できる。 4．高齢者の健康増進を支える方法について説明できる。 5．リハビリテーションを受ける高齢者への看護について説明できる 6．老年看護の特性と医療事故予防について説明できる。
	老年看護学方法論Ⅱ	1	30	1.健康障害を持つ高齢者とその家族に対する看護について理解する。 2.事例を用いて看護過程を展開し、対象の特性を考え看護計画を立案できる
小児看護学	小児看護学概論	1	30	1．小児看護の変遷や社会的現状から小児看護の役割を述べることができる。 2．子ども各期の成長・発達の特徴を生活の側面から述べることができる。 3．子どもの基本的な権利と擁護に関わる法律を理解し子どもの最善の利益について考えることができる。 4．自己の子どもに対する思いや考えをまとめることができる。
	小児看護学方法論Ⅰ	2	45	1．疾患や入院・治療が小児およびその家族に及ぼす影響について述べることができる。 2．子どもや家族との関わりに必要なコミュニケーションスキルを習得できる。 3．処置を受ける子どもと家族に向けたプレパレーションやディストラクションについて考えることができる。 4．小児期にみられる主な症状と経過の特徴に応じた看護を述べることができる。
	小児看護学方法論Ⅱ	1	30	1．小児の疾患や発達段階に応じた看護を表現できる。 2．健康上に課題をもつ子どもとその家族に合わせた看護を述べることができる。 3．治療、検査・処置を受ける子どもに必要な看護を表現できる。
母性看護学	母性看護学概論	1	30	1．生命誕生について感じたことを表現することができる。 2．女性の心と身体の仕組みを理解し、女性の健康課題を説明することができる 3．母性看護における倫理的課題について調べ、女性の意思決定への支援を説明することができる 4．女性・子ども・家族が暮らす多様な場を理解し、リプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）に与える影響を表現することができる。 5．リプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）に関する動向を理解し、母子の健康課題を述べることができる 6．母子保健の変遷を理解し、日本における母子保健行政と母性看護の現状を述べることができる
	母性看護学方法論Ⅰ	2	45	1.妊娠期を健やかに過ごすためのケアの必要性を述べることができる。 2.分娩期にある対象者のニーズを理解しケアの必要性を述べることができる 3.産褥期にある対象者のニーズを理解しケアの必要性を述べることができる 4.新生児期にある対象のアセスメントの方法を理解しケアの必要性を述べることができる。
	母性看護学方法論Ⅱ	1	30	1.ウェルネスの視点を用いた看護の展開方法を学び、看護計画を立案することができる。 2.周産期にある母子を支える支援方法について学び、理解できる。 3.周産各期における異常及び特殊なニーズを理解し、必要な看護を考えることができる。

精神看護学	精神看護学概論	1	30	1．精神看護の意義と目的・対象・役割について理解できる。 2．精神医療の歴史的変遷を知り、精神障害者の権利擁護と倫理的配慮について理解できる。 3．心の健康とはどのような状態かを理解し、すべての人々を対象とした精神保健について述べることができる。 4．心の仕組みとはたらき、また心の発達について理解できる。 5．心の安全とはなにか、また心の安全をおびやかすものとそれらが人々の心に及ぼす影響について理解できる。
	精神看護学方法論Ⅰ	2	45	1．精神科医療にかかわる法と看護の役割について説明できる。 2．精神科におけるさまざまな疾患とその看護について説明できる。.. 3．精神科におけるさまざまな治療およびかかわる多職種の役割について説明できる。 4．回復〈リカバリー〉の意味を理解し、多角的な対象理解ができる。 5．精神に障害をもつ人との対人関係構築の必要性とその方法を理解し、患者－看護師　関係の発展過程に活用することができる。
	精神看護学方法論Ⅱ	1	30	1．対象をとらえる視点を理解し、実践につなげることができる。 2．回復〈リカバリー〉を支えるための、共同創造〈コプロダクション〉について理解できる。 3精神障害者とその家族の地域生活を支える制度と多職種連携について理解できる。 4．医療の場におけるメンタルヘルスと看護について理解できる。
看護の統合と実践	看護マネジメント	1	30	1．看護管理学を取り巻く要素を説明できる。 2．看護職のキャリアマネジメントについて説明できる 3．看護マネジメントと看護サービス提供のしくみを説明できる 4．組織の構造と組織のマネジメントについて説明できる 5．医療サービスの質の評価の視点を説明できる 6．地域での連携システムとマネジメントシステムについて説明できる 7．チーム医療の要素と協働の実際を理解し看護師の役割を説明できる。 8．多職種と連携・協働し、その人らしく生活していくのに必要な支援を立案できる。
	医療安全と看護	1	15	1．医療安全における報告・連絡・相談・確認と安全文化醸成について説明できる。 2．医療事故の定義を述べ、医療事故と医療過誤の違いを説明できる。 3．看護職の法的責任の種類と法的責任の範囲を説明できる。 4．事故を分析する意義と安全に看護を提供する防止策を説明できる。 5．患者・家族を一員として参画した医療安全の方法を説明できる。
看護の統合と実践	災害看護学・国際看護学	1	15	1．災害が与える被災者への影響を理解し、災害看護の役割と倫理的な関わりが説明できる。 2．災害時の医療や対応の整備を理解し、多職種連携を含めた災害医療活動が説明できる。 3．各災害サイクルにおける対象者の健康問題を理解し、看護活動内容が説明できる。 4．被災者および救援者の心理的変化を理解し、こころのケアに必要な知識が説明できる。 5．国際看護についての基本的な考え方や世界における健康問題の現状について表現できる。 6．国際的な視野で文化的・社会的背景を考慮した看護の在り方について述べることができる。
	臨床看護の実践演習Ⅰ	1	30	1．業務遂行のための看護マネジメントの在り方を説明できる 2．看護実践に必要な臨床判断の方法を実施することができる 3．看護業務に多く関わる医療機器のトラブル対応を説明することができる 4．複数患者の安全・安楽・自立・個別性を考えた、１日のケア計画立案ができる。
	臨床看護の実践演習Ⅱ	1	15	1．自己のキャリアイメージを記述することができる 2．看護師の臨床判断能力について説明できる 3．卒業到達度にむけて、計画的に学習を進め準備する 4．３年間で身に付けた技術の到達度評価を受けて、自己の課題を明確にすることができる
	看護研究	1	30	1．看護研究の意義や目的を述べることができる。 2．臨地実習で体験した看護実践を事例研究・ケーススタディの構成でまとめることがきる 3．ケーススタディをまとめる中で自己の看護観に気づき考えを深めることができる。 4．実践した看護をケーススタディとして発表することができる。

【臨地実習】

教育内容	科目名	単位	時間	科目の目標
臨地実習基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1.看護師が活動する場を知り、看護の特徴や役割・機能を述べることができる 2.看護の対象を身体的・精神的・社会的側面から生活を営む者として捉えることができる。 3.対象者の日常生活上のニーズを捉えることができる。 4.対象者の日常生活上の課題を解決するための看護支援を原理・原則に基づいて安全・安楽に実践することができる 5.対象者への支援を通して看護専門職者としての基本的な態度を学ぶ 6.看護の魅力を発見し、看護について考えるこができる 7.自己の看護実践を評価し、課題を明確にし、取り組むことができる
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90	1.対象者の療養環境について生活者の視点から述べることができる 2.対象者の日常生活上のニーズを把握し必要な支援を考えることができる 3.対象へ科学的根拠に基づいた看護技術を安全・安楽に実施することができる 4.看護チームの一員として自覚を持ち、連絡・報告・相談しながら看護を実践できる 5.自己の振り返りができ、課題を明確にして主体的に学習に取り組むことができる。
地域・在宅看護論臨地実習	地域・在宅看護論実習	2	90	1.訪問看護制度や訪問看護ステーションの役割、活動の実際について説明できる 2.訪問看護に同行し、臨床判断に基づいた看護ケアを実践し、その内容と根拠について説明できる 3. 退院調整や退院前カンファレンスを通し、継続看護の意義とその必要性について説明できる 4.地域で暮らす生活者を支える地域包括ケアシステムを理解し、多職種連携における看護の役割について説明できる 5. 地域で安心して生活や療養できるための保健・医療・福祉システムを理解し、生活を維持するための社会資源活用方法について理解できる 6. 疾病や障がいをもちながらも地域で自分らしく暮らす人々の自立生活について考え、それを支援する施設役割について理解できる
臨地実習成人看護学	成人看護学実習Ⅰ	2	90	1.発達段階と発達課題をふまえ、ヘルスプロモーションを視座に生活者としてとらえることができる。 2.慢性疾患（健康障害）（機能障害）を有した対象の基礎的な看護の展開方法を習得する。 3.対象の健康課題がわかり、セルフケア行動をとれる基礎的な看護支援を理解できる。 4.家庭・地域社会における対象の健康行動を支援する活動の場と看護の役割を理解できる。 5.対象の健康観を尊重し意思決定を支援する方法が理解できる。 6.家庭・地域社会における対象の健康行動を支援する保健医療チームの役割が理解できる。 7.看護実践を振り返り、自己の課題がわかり、主体的に学習する姿勢が持てる。
	成人看護学実習Ⅱ	2	90	1.対象の発達段階・発達課題をふまえ、急性期から回復期にある対象を生活者としてとらえることができる。 2.生命の危機に不安を持つ対象との関係を構築するためのコミュニケーションを図ることができる。 3.急性期から回復期にある対象の看護上の課題を明らかにし、課題解決に向けた看護の展開ができる。 4.急性期から回復期にある対象がセルフケアの再獲得ができるように支援技術を安全安楽に指導者のもとで実施できる。 5.急性期から回復期の治療によって異なる療養の場と看護の役割を理解できる 6.保健医療チームの一員として継続看護の必要性が理解できる。 7.急性期から回復期にある対象の意思決定を支援する方法が理解できる。 8.看護実践を振り返り、自己の課題がわかり、主体的に学習する姿勢が持てる。
臨地実習老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	2	90	1.老年期にある対象の身体的、精神的、社会的側面を理解し、生活者として捉えることができる。 2.高齢者の特徴をふまえてコミュニケーションを図り、尊重した態度がとれる。 3.老人福祉センターと介護老人保健施設の機能と役割について理解できる。 4.施設利用者の日常生活に視点をあて看護師の指導のもと看護の展開ができる。 5.施設で生活している高齢者に対して対象に応じ、看護師の指導のもと日常生活の支援が実施できる。 6.利用者を支える多職種の役割を理解し、連携・協働について学ぶ。 7.高齢者の人権、価値観を尊重した態度がとれる。 8.自己の高齢者観を再考すると共に、実習を振り返り課題を明確にできる。
	老年看護学実習Ⅱ	2	90	1.健康障害のある高齢者の身体的、精神的、社会的側面を理解し、統合された高齢者像を捉えることができる。 2.高齢者の特徴をふまえてコミュニケーションを図り、家族を含め人間関係を築くことができる。 3.対象の健康上の課題達成に向けて、科学的根拠に基づいた看護の展開方法を理解できる。 4.対象の健康段階、機能障害に応じた支援技術を、指導者のもと安全・安楽に実施できる。 5.療養生活（治療）の場における看護の役割や継続看護について理解できる。 6.保健医療福祉チームにおける看護の役割を認識し、自覚をもって行動できる 7.倫理に基づき、高齢者の人権、価値観を尊重した態度がとれる。 8.自己の看護実践を評価し、課題を明確にし取り組むことができる。

臨地実習小児看護学	小児看護学実習	2	90	1.小児を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。 2.小児及び家族をとりまく環境と健康生活に向けたアセスメントができる 3.小児の発達段階、健康段階に応じて家族を含めた個別的な看護過程の展開ができる。 4.小児の臨床看護について知識を深め、看護技術を安全に実践できる。 5.小児看護の役割について考え子ども観を育むことができる。 6.小児の継続看護の必要性を理解できる。
臨地実習母性看護学	母性看護学実習	2	90	1.妊婦・産婦・褥婦および新生児の変化を総合的に捉え、基本的支援の実践ができる。 2.妊娠・分娩・産褥期における母子関係及び、家族の役割獲得の支援について理解を深める。 3.生命誕生への畏敬の念、自己の母性・父性意識を発展させ、看護職としての自己の成長につなげる。 4.妊産褥婦および新生児の安全・事故予防に配慮した技術の実践ができる 5.保健医療福祉チームの支援体制を理解し、チームの一員としての役割を理解することができる。
臨地実習精神看護学	精神看護学実習	2	90	1.精神科医療の治療的環境の意味や精神看護の特徴についての理解し説明できる 2.精神看護の対象者と治療的関わりのプロセスを振り返り自己洞察を深めるとともに治療的援助関係の構築ができる。 3.精神看護が必要な対象者の健康状態をアセスメントし、対象者に必要なセルフケア支援が展開できる。 4.精神保健医療福祉チームの中で看護の役割と対象者の地域生活を支える地域包括ケアシステムについて説明できる。
臨地実習看護の統合と実践	看護の統合と実践実習Ⅰ	1	30	１．病院組織の理念や概要をマネジメントの視点で理解することができる。 ２．看護部組織を理解し、看護マネジメントに必要な要素を説明することができる。 ３．病棟組織を理解し、病棟管理者及び病棟リーダーの働きから安全な看護実践に 必要な連携・協働の在り方を述べる事ができる。
	看護の統合と実践実習Ⅱ	3	90	1.複数受け持ちの対象の一勤務帯の日常生活の援助を実施することができる。 2.専門チームと退院支援の働きを理解しチーム医療の役割を述べることができる 3.保健・医療・介護を視野に入れて地域でその人らしく生活していくための支援を述べることができる。

Ⅶ. 教育内容

1　基　礎　分　野

1）科学的思考の基盤

（1）情報科学

（2）論理学

（3）心の仕組みの科学

（4）環境科学

（5）文章表現法

2）人間と生活の理解・社会の理解

（1）教育学

（2）社会学

（3）人間関係論

（4）倫理学

（5）人間と文化

（6）英語Ⅰ

（7）英語Ⅱ

（8）看護情報論

科目名：情報科学　　2単位　　45時間　　教員の実務経験有

受講年次：　2学年　　**後期**　　担当：姜　東植

目的

情報処理の基本的な考え方や方法、情報化社会において国際的な視野で物事を捉える必要性について学ぶ。また、パソコンの基本操作を習得して、インターネットによる文献検索、データの見方、統計処理や表・グラフの作成等、研究を進めるための基礎的能力を身につけ、さらに、医療・看護のデータ処理の実際について学ぶ。

目標

1.情報処理の基本的な考え方を説明できる。

2.情報化社会において国際的な視野で物事をとらえる必要性について説明できる。

3.パソコンの基本操作ができる。

4.インターネットによる文献検索ができる。

5.データの見方、統計処理、表・グラフの作成ができる。

6.基本的な医療・看護のデータ処理ができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力） **DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力**

授業計画

回	単　元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 2	情報社会	1.コンピューターの概要 2.インターネットと情報活用	講義 演習	4
3 ～ 7	コンピューターの活用（1）	1.文書の作成と編集 2.表の作成 3.表現力アップ 4.長文作成 5.課題作成とまとめ（1）	講義 演習	10
8 ～ 13	統計学の基礎	1.表計算の基礎 2.関数の利活用 3.高度な関数と計算式 4.グラフと図形の作成 5.データベースの利活用 6.課題作成とまとめ（2）	講義 演習	12

回	単　元	学習内容	授業形態	時間
14 ～ 18	統計学の活用	1.看護統計学の基礎 2.相関、クロス集計及び χ 2 乗検定 3.t 検定、U 検定 4.元配置分散分析、平均値の多重比較、符号順位検定 5.課題作成とまとめ（3）	講義 演習	10
19 ～ 21	マルチメディアの基礎	1.マルチメディアとは？2.音声データの基礎 3.画像データの基礎	講義 演習	6
22	コンピューターの活用（2）	1.プレゼンテーションの資料作成 2.プレゼンテーションの実践活用	講義 演習	2
23	総括・まとめ 試験	筆記試験・解答解説		1

テキスト：1) office２０２１（30 時間アカデミック）　実教出版
参考書：授業中に適宜紹介する。
評価方法：筆記試験、課題作成、出席状況を総合して行う。

科目名：　論理学　　**1**　単位　　30　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　1　学年　　**後　期**　　担当：赤井　清

目的

論理学の基本的用語、「前提」「結論」「議論」「妥当」など物事を筋道立て思考する方法を学ぶ。

目標

1．論理的に考えることができる。

2．論理的なつながりを見つけるのに役立つ技術が実践できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP．Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP．Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力

授業計画

回	単　元	学習内容	授業形態	時間
1	論理学とは	1.オリエンテーション 2.論理学の概要	講義	2
2	議論を識別する	1.議論とは何か 2.日常の議論の特徴	講義	2
3	議論を分析する	1.議論の構造 2.分析の指針	講義	2
4	演繹的な議論を評価する	1.演繹的な議論 2.妥当性をチェックする	講義	2
5～9	妥当な議論の形式	1.議論の形式 2.妥当な議論の形式 3.非妥当な議論の形式 4.複雑な議論の妥当性を示す 5.条件文 6.同値形式 7.同値規則を利用する	講義	10
10	実際の議論を分析してみよう	1.標準形への整理と図式化 2.分析にチャレンジ	講義	2
11	非演繹的な議論	1.非演繹的な議論の特徴 2.代表的な非演繹的な議論 3.非演繹的な議論の評価	講義	2

回	単　元	学習内容	授業形態	時間
12	議論の進行パターンに合わせた評価	1.議論の進行パターン 2.議論全体の評価	講義	2
13	特殊な話題	1.因果的な議論 2.論理的な虚偽 3.優しさと公平さを求めて	講義	2
14	発表	1.グループ発表・プレゼンテーション	演習	2
15	総括・まとめ 試験	筆記試験・解答解説		2

テキスト：1)「正しく」考える方法、晃洋書房
参考書： 適宜紹介する
評価方法：論述形式による筆記試験

科目名：心の仕組みの科学　　1単位　　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　1学年　　**後期**　　担当：金城　　亮

目的

知覚、学習・記憶、感情、社会的行動といった心理学の基礎的な知識を学ぶ。

目標

1.ひとの心の仕組み、および行動がどのように形成されるかについて理解を深めることができる。
2.ひとの心理や行動の多面的理解を通じて、医療場面における看護対象の理解や人間関係作りに資することができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	心理学とは	オリエンテーション 行動科学としての心理学	講義	2
2	”人間性”のモデル	精神力動的・行動主義的・認知的・人間学的	講義 演習	2
3	心理学の研究法Ⅰ	観察法・実験法・調査法	講義 演習	2
4	心理学の研究法Ⅱ	面接法・事例研究法・検査法	講義 演習	2
5	”わたし”の成り立ちⅠ	自己認知	講義 演習	2
6 ～7	”わたし”の成り立ちⅡ	・性格の捉え方（類型論・特性論） ・性格の測定法と自己分析	講義 演習	4
8	”わたし”の成り立ちⅢ	発達（認知的発達・発達課題）	講義 演習	2
9	こころのシステムⅠ	感覚・知覚	講義 演習	2
10 ～11	こころのシステムⅡ	・記憶のメカニズム ・記憶の変容と忘却、効果的な記憶法	講義 演習	4
12	こころのシステムⅢ	学習（古典的条件づけと道具的条件づけ） 学習（社会的学習）	講義 演習	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
13	適応のメカニズムⅠ	欲求・動因と動機づけ	講義 演習	2
14	適応のメカニズムⅡ	葛藤・欲求不満・ストレス	講義 演習	2
15	終了試験	終了試験・まとめ・解答解説		2

テキスト【電子教科書】： 1）看護学生のための心理学　長田久雄 編　医学書院

参考書： 適宜紹介する

評価方法：①授業への参加：10%、②課題：10%、　③期末試験：80%　計 100%

科目名：環境科学　　1単位　　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　1学年　　**後期**　　担当：稲福　純夫

目的

地球上で起こっている様々な環境の変化の原因やその仕組みについて、科学的に考察するための基礎的知識を学ぶ。また、科学の発展と大量生産、大量消費、大量廃棄を生み出した経済システムの影の部分、地球環境のメカニズム,解決の方策について環境科学的な視点から考察するための基礎的知識を学ぶ。

目標

1.前半部分では､「地球環境問題」「環境とエネルギー・食糧問題」「環境と生活」について考える。
2.環境への負荷」と環境基本法、私たちの生活について考える。
3.少子高齢化・人口減少社会の到来の課題と、SOCEITY5.0 などの新しい社会システムと生活への影響、SDGs の課題について考察する。
4.私たちの健康や日々の生活活動（生産・運輸・消費・廃棄）の解決法策を探る。
5.CO VID19（SARS-COV-2)新型コロナウイルスなどの感染症や医療廃棄物の処理や、廃棄物処理法について理解する。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	環境科学の概要	1．環境とは　　society5.0 と私たちの生活 コロナ禍の生活	講義	2
2	人間を取り巻く環境	1．人間活動の変化 エネルギー消費と食糧問題・環境問題	講義	2
3 ～5	地球環境	1．地球環境問題の派生のメカニズムと その影響 2．地球環境問題温暖化 環境トピックス　　重金属の毒性 3．酸性雨 有害廃棄物の越境移動　　有害化学物質	講義	6
6 ～8	環境と人間	1．環境と人間 2．私たちの衣・食・住の環境 3．環境負荷と SDGs の課題	講義	6
9 ～10	環境と健康	1．新型コロナウイルス（SARS-COVID19） と私たちの生活 2．幸福感、健康、生きがい、きずな	講義	4

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
11 ～13	環境負荷の軽減	1．医療廃棄物・一般廃棄物と産業廃棄物 特別管理廃棄物 2．リサイクル４R 持続可能な発展と私たちの生活 3．水循環　　上水道　　下水道	講義	6
14	環境負荷の軽減	1．環境科学まとめ	講義	2
15	終了試験	まとめ終了試験・解答・解説		2

テキスト：1）生活と環境　東京教学社

参考書：　1）環境基本法の解説　環境企画調整局 行政

2）　環境ホルモンの問題とその対策　化学物質安全情報研究会編　オーム社

評価方法：演習（課題提出・発表）30% ＋ 筆記試験 70%

科目名：文章表現法　**1** 単位　30 時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1 学年　**前期**　　担当：大城　貞俊

目的

言語による表現活動は思考や感情･意思などを他者に伝えるのに有効な手段であることを理解し、文章表現法の基礎的知識を学ぶ。

目標

1. 観察したこと、感じたこと、体験したこと、考えたことを文章として表現できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）** **DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	文章表現法概要	オリエンテーション　はじめに。 国語力を確かめよう。自己紹介文を書こう。	講義	2
2 ～3	実用文の書き方	1．実用文の書き方 1 （手紙・往復はがき・メールの書き方） 2．実用文の書き方 2 （自己推薦文・履歴書の書き方）	講義	4
4	表現の基本	1．表現の基本と原稿用紙の使い方	講義	2
5	様々な表現法	1．様々な表現法と表記の留意点	講義	2
6 ～8	日本語の知識	1．日本語の知識 1 （漢字の知識・四字熟語など） 2．日本語の知識 2 （ことわざ・故事成語・慣用句など） 3．日本語の知識 3 （敬語・十二支・月の異名など）	講義	6
9	修辞法	1．文章を豊かにする修辞法 医療用語の読み・外来語など	講義	2
10	様々な文章	1．相手に応じた様々な文章 2．目的に応じた様々な文章 （記書きの連絡文など）	講義	2
11	レポート・小論文の基本	1．論理的な文章とは 2．レポートの書き方・文章構成 3．小論文の書き方	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
12	エッセイの文体	1．エッセイの書き方 2．意見分の書き方	講義	2
13	公用文の書き方	1．公用文の書き方 2．言葉の力（励ますことばなど）	講義	2
14	詩・短歌・俳句を作ろう	1．詩・短歌・俳句を作ろう	講義	2
15	認定評価	筆記試験・解答・解説		2

テキスト：授業ごとにレジュメを配布する。

参考書： 特になし

評価方法：第１５回講義で筆記試験を実施する。その他、授業への取り組み姿勢、
授業時の小課題の提出、出席状況などを勘案して総合的に評価する。

科目名：教育学　　**1** 単位　　30 時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　2 学年　　**後期**　　担当：西本　裕輝

目的

教育と学習の概念を理解し、人間の可能性を引き出す教育の意義とその方法について学ぶ。

目標

1.自己教育力を高めることができる。

2.教育方法の学習においては教える者と教わる者の双方の立場から教育を理解することで、看護実践における教育・指導活動に活かせるようにする。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）** **DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	教育学概説	1．イントロダクション～なぜ看護で教育学が必要なのか？	講義	2
2 ～3	人間の成長と教育の意義	1．人間の成長と教育の意義 遺伝と環境 2．人間の成長と教育の意義 看護と教育	講義 演習	4
4 ～11	教育実践･教育方法	1．家庭教育 2．生涯教育 3．社会教育 4．学校教育の制度 5．教育の目的 6．学習指導（1）形式陶冶と実質陶冶 7．学習指導（2）新しい学力観と生きる力 8．生活指導	講義 演習	16
12 ～14	教育評価	1．教育評価（1）～学力の測定 2．教育評価（2）～絶対評価と相対評価 3．心身障害者の評価	講義 演習	6
15	終了試験	終了試験・解答・解説		2

テキスト【電子教科書】：1）系統看護学講座　基礎分野 7　教育学　医学書院

参考書：　講義資料集

評価方法：毎回、出欠確認、遅刻確認を行う。また小レポートを何度か書いてもらい、講義への参加度を加味し、それらをもって平常点をつける。また、講義最終日に試験（100 点満点）を実施し、それらの合計得点を算出して成績をつける。

科目名：社会学　　1単位　　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　1学年　　**前期**　　担当：金澤　美和

目的

人間と社会を幅広く理解するために、社会学の基本概念や社会学的な見方、考え方を学ぶ。

目標

1.人間生活の基盤である社会について理解を深めることができる。

2.家族･地域･社会･職場といった日常生活に関る領域をとりあげ、現代社会の直面する問題を社会学的視点から考えることができる。

3.地域で問題になっていることを取り上げて調査し、プレゼンテーションを行う。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP．Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力** **DP．Ⅴ.地域医療へ貢献する力**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	社会学概説	社会学の誕生 社会学的な視点とは何か	講義	2
2	社会調査	研究対象としての「社会」 社会課題の発見と社会調査	講義	2
3	地域	地域共生社会について 地域福祉計画	講義	2
4	アイデンティティ	「自分らしさ」とは何か 「自己」と「社会」との関係性	講義	2
5	ジェンダー	ジェンダー・アイデンティティ セクシュアルマイノリティ	講義	2
6	家族①	家族のかたち	講義	2
7	家族②	家族の役割	講義	2
8	障害者	障害者のイメージ 合理的配慮	講義	2
9	高齢者	高齢者のイメージ 高齢者が直面している社会課題	講義	2
10	貧困	沖縄の貧困	講義	2
11	労働	「働く」を取り巻く社会課題	講義	2
12	居住支援	住宅確保要配慮者について	講義	2
13	・文化相対主義 ・発表	異文化を見つめる視点について プレゼンテーション(グループ１)	講義 演習	2

14	・文化研究 ・発表	異文化コミュニケーションと空手 プレゼンテーション(グループ 2)	講義 演習	2
15	・終了試験 ・発表	筆記試験 プレゼンテーション(グループ 3)	試験 演習	2

テキスト： 特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考書： 講義時に適宜紹介する。

評価方法：出席状況、課題、グループワーク、プレゼンテーション、試験から総合的に評価する。

科目名：人間関係論　　1単位　　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年　　**後期**　　担当：宮森　孝子

目的

良好な人間関係を発達させる為に必要な基礎知識や、自己理解・他者理解に役立つ行動科学の理論を学び、人間関係が要となる職場のメンタルヘルス維持に役立つストレス概論やストレスコーピングの実装を学ぶ。

目標

1.ソーシャルサポートの担い手である看護職者として、人間関係形成の基盤的知識を習得し、思いやりや、豊かな人間性を培い、自分も他者も生き生きと生かされる人間関係を築く能力を身につける。

2.実際の症例をサイコドラマ/ロールプレイとして再現し、療養者に寄り添う対人援助のあり方（声かけや行動）を模索する。

3.対人関係におけるストレス場面での自分のストレッサー、認知や反応の仕方に気づき、自らに最も実践的な対処行動を実装できるようにする。ストレスの発症機序と嗅覚の作用機序がほぼ同じことから、講義ではストレスコーピングの最も効率的な方法としてアロマテラピーの化学的理論と作用/有害作用、ならびに使用法を紹介する。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	人間関係論概説	科目目標、内容、評価の仕方	講義	2
2 ～6	人間関係論の基礎知識	1．人間関係論の基本視点 2．自分と他者の関係 3．自分と他者のコミュニケーション 4．人間関係の生涯発達 5．人間関係の諸相：家族、夫婦 6．人間関係の諸相：親子、職場の人間関係	講義 演習	10

7 ～10	対人援助における人間関係	1．病者と援助専門職者の人間関係 患者領域を中心に 演習：対人拒否・治療拒否対象者への支援 2．高齢者と支援専門職者の人間関係： ソーシャルサポートと QOL 演習：高齢のパーキンソン病者の幻覚と家族の精神衛生 3．障がい者と支援専門職者の人間関係 演習：抑鬱的な脊髄損傷の対象者への支援 4．対人援助における人間関係サイコドラマ/ロールプレイング	講義 演習	8
11 ～14	ストレス概論とストレスコーピング	1．職場のメンタルヘルスとストレス概論 2．ストレスコーピングの方法 ストレス緩和に役立つアロマテラピー総論 1）精油の化学と薬理(分子の構造と作用、禁忌) 2）精油の化学と薬理(分子の構造と作用、禁忌) 3. アロマテラピー各論 1）ストレス緩和の為の精油使用法 2）感染症予防・緩和 3）循環動態の改善 4）認知症への対応 5）疼痛緩和 4.ストレスコーピングの方法 1）シュルツの自律訓練法 2）精油を使用した抗感染アロマのデモンストレーション(嗽、吸入、塗布)	講義	8
15	終了試験	筆記試験・まとめ・解答・解説		2

テキスト：1)人を育む人間関係論　援助専門職者として個人として，著者　服部祥子，医学書院

参考書：1)看護学生のための心理学，編集 永田久雄 医学書院　〈心の仕組みの科学 テキスト〉

2)生涯人間発達論，著者　服部祥子　医学書院

評価方法：筆記試験、演習レポート、ロールプレイ、出席状況を総合して行う。

科目名：倫理学　　1単位　　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　1学年　　**前期**　　担当：大城　信哉

目的

医療者に望まれる倫理的態度の概略と同時に医療倫理や生命倫理の知識の基礎も学ぶ。

目標

1. 倫理とは何かを自覚的に考えることができる。
2. なぜ医療で特に倫理が問題となるかを当事者として具体的な場面に即して語ることができる。
3. 生命倫理の基礎的知識を身につけると同時にその問題点も把握することができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1 ～3	医療と倫理の基礎的知識	1．イントロダクション ①なぜ倫理学を学ぶのか ②試験や講義形式について 2．医療と倫理について 医療倫理学と生命倫理学 3．背景的知識（近現代の倫理思想）	講義	6
4 ～5	医療倫理	1．医療倫理Ⅰ ヒポクラテスの誓いから現代の看護倫理まで 2．医療倫理Ⅱ 現代の看護倫理（看護職の倫理綱領など）と患者の権利	講義	4
6 ～7	医療倫理と意思決定	1．医療倫理と意思決定Ⅰ インフォームド・コンセントとパターナリズム（概略） 2．医療倫理と意思決定Ⅱ インフォームド・コンセントとパターナリズム補説	講義	4

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
8 ～12	生命倫理と技術・社会	1．生命倫理と社会Ⅰ 生殖補助医療と人工妊娠中絶 2．生命倫理と社会Ⅱ QOL と安楽死（および尊厳死） 3．生命倫理と社会Ⅲ 尊厳ある生と看取り 4．生命倫理と社会Ⅳ 脳死と臓器移植　概略 5．生命倫理と社会Ⅳ 脳死と臓器移植　問題点の指摘など	講義	10
13		試験及び中間のまとめ ・筆記試験		2
14 ～15	ケアについて	1．ケアについてⅠ ケアの倫理と正義の倫理 （看護職の倫理を軸に） 2．ケアについてⅡ あらためて看護と医療（看護と診療）	講義	4

テキスト： 特になし。授業内でプリントを配布する。

参考書：1)大庭健他「現代倫理学事典」：弘文堂

2)酒井明夫他編「生命倫理事典　新版増補」：太陽出版

他は教室にて本学図書室に所蔵されている範囲で授業内に紹介する。

評価方法：筆記試験（70 点)、講義内にて提出の小レポート（30 点）

科目名：人間と文化　　1単位　　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　2学年　　**後期**　　担当：稲福　政斉

目的

多様な文化とその背景にある価値や生活について学ぶ。

目標

1.人間の営みに影響を与える「文化」について理解を深める。

2.生活の拠り所である地域に着目して地域固有の文化の生成とそこで生活する人々の価値観や生き方について思考することができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP．Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）** **DP．Ⅴ.地域医療へ貢献する力**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	人間と文化を学ぶにあたって	1．人のくらしと文化 （1）文化とは （2）くらしを知り、文化を知る ―民俗学について―	講義	2
2 ～5	沖縄の生活文化をめぐる基礎知識	1．信仰と文化① （1）ヒヌカン （2）トートーメー 2．信仰と文化② （1）ノロ （2）ユタ 3．死者の世界・生者の世界① 村落とくらし 4．死者の世界・生者の世界② （1）他界観 （2）葬墓制	講義	8
6 ～7	食をめぐる文化	1．食文化の諸相① 伝統的な沖縄の食 2．食文化の諸相② 食文化の変容と現在	講義	4

8 ～10	一年のくらしをめぐる文化	1．暦と生活文化① 12 月から 1 月 2．暦と生活文化② 2 月から 6 月 3．暦と生活文化③ 7 月から 11 月	講義	6
11 ～12	人の一生をめぐる文化	1．人の一生① 妊娠・出産・産育・年祝い 2．人の一生② 婚姻・葬祭	講義	4
13	これまでの学びのまとめ（試験）	期末試験の実施	試験	2
14 ～15	影響しあう文化	1．周辺地域との関係性① 沖縄の文化にみる中国、東アジアの影響 2．周辺地域との関係性② 沖縄の文化にみる日本の影響	講義	4

テキスト： 特に指定しない。毎回の授業時にレジュメおよび資料等を配布する。

参考書：

1)沖縄県教育庁文化財課史料編集班編『沖縄県史 各論編 第 9 巻 民俗』沖縄県教育委員会、2020 年
2)ボーダーインク編集部編『おきなわの一年』ボーダーインク、2018 年
3)稲福政斉『御願の道具と供えもの事典』ボーダーインク、2018 年
4)稲福政斉『ヒヌカン・仏壇・お墓と年中行事』ボーダーインク、2020 年
5)稲福政斉『「御願じょうず」なひとが知っていること』ボーダーインク、2024 年

評価方法：筆記試験、レポート、授業への参加度により総合的に評価をおこなう。

科目名　英語Ⅰ　1単位　　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　2学年　　**前期**　　担当：宮城　真由美

目的

国際社会に対応できるよう、英語力を高め日常英会話ができるための基礎的英会話を学ぶ。

目標

1.基礎的な日常英会話ができる。

2.主体的、積極的に英会話コミュニケーションをとることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	英語Ⅰ概説	オリエンテーション ・基礎英語力を知る ・自己紹介をする	講義 演習	2
2 ～6	異文化理解 基礎英会話 文法 基礎英会話	1．海外の行事にふれる① 2．周囲の人を紹介する 3．会話を引き出す疑問詞の確認 4．インタビューをする 5．日本文化を紹介する	演習 演習 講義 演習 演習	10
7 8	テスト	1．スピーキングテスト①	演習	4
9 ～12	異文化理解 読解 基礎英会話	1．海外の行事にふれる② 2．多様性を認める 3．生活様式の違いを知る 4．家に招く、訪問する	演習 講義 演習 演習	8
13 14	テスト	1．スピーキングテスト②	演習	4
15	認定評価	筆記試験・解答・解説		2

テキスト　指定なし（随時配布）

参考書：　授業中に適宜紹介する

評価方法：演習時の観察評価（10%）スピーキングテスト2回（25%×2）

自己評価およびレポートの提出物（10%）筆記試験（30%）で評価する

科目名：英語Ⅱ　　1単位　　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　2学年　　**後期**　　担当：　宇座　玲子

目的

英語でコミュニケーションが取れるように、ベッドサイドで使える臨床英会話を中心に様々な看護場面の英会話を身につける。また、国内外で話題のトピックを英文で読むことで、専門用語を学び又看護・医療の「問題点」や「多様性」「異文化」について学ぶ。

目標

1．英語で問診・病歴聴取がとれる。

2．バイタルサイン測定、体位変換や検査・処置について英語で会話・説明できる。

3．英文を読むことで専門用語を習得あるいは看護/医療の中の多様性・異文化について知る

DP．Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP．Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP．Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1 2	英語Ⅱ概説	オリエンテーション 1．外来初診時の会話と診療科名 2．個人情報収集と症状の訴え方	講義	4
3 ～ 6	臨床場面での英語	1．入院時の説明と院内の部署名 2．生活習慣の聞き取り 3．痛みの訴え方と人体名称 4．問診・病歴聴取と疾患名	講義	8
7	看護・医療関連長文読解	1．看護・医療関連長文1 グループワーク	講義	2
8 ～12	臨床英語用語	1．バイタルサイン測定 2．体位変換・ベッド周辺の会話 3．検査・手術の説明 4．術後処置 5．救急時・救急室の会話/略語/専門用語	講義 演習	10
13 ～14	看護･医療関連長文読解	1．看護・医療関連長文　Ⅱ 2．看護・医療関連長文　Ⅲ	講義	4
15	終了試験	まとめ終了試験・解答・解説		2

テキスト：1)「臨床看護英語」 仁木久恵ほか　医学書院

参考書： 随時必要な講義資料を配布します。

評価方法：　提出物・活動状況（３０点)、　小テスト（１０点)、　終了筆記試験（６０点）

科目名：看護情報論　　1単位　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年　　**後期**　　担当：仲里　康雄・大田　敬太

目的

医療や看護における「情報」とは何か、情報通信技術（ICT）を活用するための基礎知識を学ぶ。

目標

1.医療、看護の情報化、情報倫理の必要性を説明できる。

2.インターネットなどを活用し、信頼できる情報の収集・選択ができる。

3.看護実践における医療・看護情報（電子カルテ）の基本的な操作ができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP．Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP．Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	看護情報論概説	オリエンテーション（①シラバスの説明②看護情報論の内容③授業のねらい等） 1．情報と情報社会 2．情報の定義と特徴	講義	2
2 ～3	情報と情報社会	1．情報とは 1）情報の特性 2）情報の認知と意思決定 3）情報伝達とコミュニケーション 2．社会と情報 1）情報社会と成立と発展 2）情報社会で求められること	講義	4
4 ～6	第2部：保健医療における情報	1．保健医療と情報 1）医療における情報 2）エビデンス情報に基づいた保健医療 3）ヘルスプロモーションと情報 2．看護と情報 1）看護における情報 2）情報社会と看護 3．医療における情報システム 1）医療における情報の記録 2）病院情報システムと記録の仕方 3）地域医療福祉のネットワークと情報システム	講義 演習	6

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
7 ～9	情報と倫理	1．情報倫理と医療 2．患者の権利と情報 1）患者の権利と自己決定への支援 2）医療情報の開示 3．個人情報の保護 1）医療・看護における個人情報 2）情報の利用の仕方 4．コンピュータリテラシーとセキュリティ 1）コンピュータに関する基礎知識 2）インターネットに関する基礎知識と注意点	講義 演習	6
10 ～13	情報処理	1．既存の情報の収集方法 1）文献検索 2）インターネット上で役立つ情報へのアクセス 3）データ検索と利用 2．質問紙調査によるデータ収集 1）調査とそのプロセス 2）調査の計画・準備 3）調査の実施とデータの収集 4）データ分析の準備 3．Excel による統計解析 1）Excel の基本操作～⑫多変量解析まで 4．文字情報の整理 1）対象と目的に応じた文字情報の整理のポイント 2）ポートの書き方の基礎 3）ワープロソフト（Microsoft　Word）の使い方　①ページ設定　②文章の入力　③挿入　④参考資料⑤校閲	講義 演習	8
14	情報の発表	1．情報の発表とコミュニケーション 1）口頭発表とポスター発表 2）インターネットにおける発表とコミュニケーション	講義 演習	2
15	終了試験	試験・後期授業のまとめと　振り返り		2

テキスト：【電子教科書】：1)系統看護学講座別巻 看護情報学』著者代表 中山和弘 医学書院
参考書　：1)エッセンシャル看護情報学　太田勝正、前田樹海　編著
　　2)医療情報システム入門　社会保健研究所
評価方法：筆記試験（60 点）、レポート（40 点）

２　専　門　基　礎　分　野

１）　人体の構造と機能

（１）人体の構造と機能Ⅰ

（２）人体の構造と機能Ⅱ

（３）看護形態機能論

（４）看護形態機能論演習

（５）生化学

（６）栄養学

２）　疾病の成り立ちと回復の促進

（１）微生物学

（２）薬理学

（３）病態学概論

（４）臨床病態学Ⅰ

（５）臨床病態学Ⅱ

（６）臨床病態学Ⅲ

（７）臨床病態学Ⅳ

（８）臨床病態学Ⅴ

（９）臨床病態学Ⅵ

３）　健康支援と社会保障制度

（１）総合医療論

（２）保健学

（３）健康科学

（４）社会福祉

（５）看護と法

科目名：人体の構造と機能Ⅰ　　1単位　　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　1学年　　**前期**　　担当：大倉　信彦

目的

人体の形態や正常な機能・仕組みを系統的に学習し、生物体としての人間を系統的に観察するフィジカルアセスメント能力を身につけるための基礎的知識を学ぶ。

（概論、細胞、筋、骨格系、体液と血液、免疫、生殖と発生）

目標

1. 人体の形態や正常な機能・仕組みを系統的に説明できる。

2.人間に対する観察力、洞察力培いフィジカルアセスメントに活かすことができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	人体の構造と機能概説	1．講義ガイダンス 2．解剖学、生理学とは	講義	2
2	細胞	1．細胞 1）細胞の構造 2）細胞の機能"	講義	2
3 ～5	遺伝とゲノム	1．細胞分裂と遺伝情報 1）遺伝子とゲノム 2．細胞分裂と遺伝情報 2）クロマチン 3）染色体 4）ＤＮＡの構造	講義	6
6 ～7	人体を構成する4種の組織	1．人体を構成する4種の組織 1）上皮組織　2）支持組織 3）筋組織　4）神経組織	講義	4
8 ～10	体液と血液	1．体液 1）体液の区分と組織 2）体液の恒常性維持 2．血液の構成と役割 1）血液の構成 2）血漿、赤血球、白血球、血小板 3）血液型	講義	6

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
11 ～12	免疫系	1．免疫機能に関る器官 1）胸腺 2）骨髄、脾臓、リンパ節 3）免疫担当細胞 2．防護反応 1）能動免疫、受動免疫 2）アレルギー 3）自己免疫	講義	4
13 ～14	生命の継承	1．生殖と発生 1）生殖器官の分化と発達 2）男性生殖機能 3）女性生殖機能 4）妊娠と発生	講義	4
15	終了試験	まとめ終了試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】:
1)系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[1]　解剖生理学医学書院

参考書：1)ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版
2)体の仕組み生理学・分子生物学Ⅰ・Ⅱ，日本看護協会出版部,
3)シリーズ看護の基礎化学Ⅰ・Ⅱ，エレインN．マリーブ著
4)人体の構造と機能　　医学書院

評価方法：筆記試験、授業態度、出席状況を総合して行う。

科目名；人体の構造と機能Ⅱ　　1単位　　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　1学年　　**前期**　　担当：安谷屋　均

目的

人体を構成する細胞・組織・器官などの形態と構造を把握するための基礎的知識を学ぶ。
人間の生命現象がどのようなメカニズムで行われているかについて知るための基礎的知識を学ぶ。

目標

1.人体全体の位置関係がわかり、機能と関連性を結びつけることができる。
2.人間の生命現象がどのようなメカニズムについて説明できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	骨格系	1．全身の主な骨格と関節 1）人体の骨格、関節 2）骨格筋の種類と収縮機序 3）主な骨格筋の運動	講義	2
2 ～3	循環器系	1．循環器系Ⅰ 1）心臓の構造と機能 2）全身の血管系、 3）リンパ循環 全身の血液循環と胎児循環などについて 1．循環器系Ⅱ 1）心臓の機能 2）血圧　　3）脈拍	講義	4
4	呼吸器系	1．呼吸器系 1）気管、肺の構造 2）呼吸調整・運動	講義	2
5 ～6	消化器系Ⅰ	1．消化器系Ⅰ 1）消化器系の構造と機能 2．消化器系Ⅱ 1）各消化腺と肝臓の機能	講義	4
7	中間試験	筆記試験・解答・解説	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
8 ～9	内分泌系	1．内分泌系Ⅰ 1）全身の内分泌腺の構造 2．内分泌系Ⅱ 1）各内分泌腺の機能	講義	4
10	泌尿器系	1．泌尿器系 1）腎臓の構造と機能、 2）排尿の仕組み	講義	2
11	体温	1．体温 1）体温調節と発汗	講義	2
12 ～13	神経系	1．神経系Ⅰ 1）神経の分類と神経細胞の機能 2．神経系Ⅱ 1）中枢神経と末梢神経の種類と機能	講義	4
14	感覚器系	1．感覚器系Ⅰ 1）体性感覚と深部感覚 2）特殊感覚（臭覚・味覚・視覚・聴覚）	講義	2
15	終了試験	筆記試験・解答・解説		2

テキスト【電子教科書】:

1)系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院

テキスト：2)書いて覚える解剖生理学ワークブック 照林社

参考書： 1)ぜんぶわかる人体解剖学図 成美堂出版

評価方法：筆記試験、授業態度、出席状況を総合して行う。

科目名　看護形態機能論　　1　単位　　30　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年　**前期**　　担当：専任教員

目的

日常生活行動を支える身体のしくみを看護の視点から学び、看護技術へ繋げる

目標

1．生きることを支える日常生活行動の意味を述べることができる

2．日常生活行動の身体の仕組みを述べることができる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ．生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力・判断力）
DP．Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲ．ケアする仲間と協働する力
DP．Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1 ～2	生活行動の理解	生きるとは、何のための生活行動か 1．内部環境と恒常性 2．生命維持と生活行動	講義 演習	4
3	話す・聴く	1．話す・聞く 1）声を出す 2）聞く 3）言葉	講義	2
4 ～5	動く （姿勢・移動）	1．姿勢・ボディメカニズムの原理 2．生活行動と骨格、筋との関係 1）神経から筋への指令と収縮 2）意図的でない運動・意図的な運動 3. 日常生活での基本的な動きとさまざまな原理 1）立つ、座る、起きる、歩く 2）ベクトルの法則・トルクの法則 てこの原理	講義 演習	4

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
6 ～7	生きる （循環）	1．恒常性維持のための調節機構 1）神経性調節 2）環境が人体に及ぼす影響 2．恒常性を維持するための物質の流通 1）流通の媒体：血液 2）流通路：血管・リンパ管 3）流通の原動力：心臓 3．恒常性を維持するための物質の流通 ―生きる― 1）血圧　2）血圧の調整	講義 演習	2 2
8	息をする （呼吸）	1．息をする―息を吸う・息を吐く― 1）息を吸う・吐くしくみ 2）ガス交換（内・外呼吸）	講義	2
9 ～10	食べる	1．食べる―美味しく食べる― 1）食欲 2）食行動 3）咀嚼し味わう 4）飲み込む 2．食べる―消化と吸収－ 1）食物の通り道　2）食物の消化と吸収	 講義 演習	 2 2
11	トイレに行く （排泄）	1．トイレに行く 1）排泄行動 2）尿の生成と排泄メカニズム：排尿 3）便の生成と排泄メカニズム：排便	講義	2
12 ～13	入浴 （清潔・衣生活）	1．お風呂に入る① 1）垢を落とす 2）皮膚・粘膜と付属物 3）発汗の仕組み 2．お風呂に入る② 1）入浴と血液循環（温まる） 2）清潔行動	 講義 演習	 2 2
14	眠る・休息	1．睡眠欲求 2．眠りのメカニズム 3．体内リズム	講義	2
15	終了試験	筆記試験・解答・解説		2

テキスト：1)菱沼典子：看護形態機能学，生活行動からみるからだ　日本看護協会出版会

参考書：1)人体の構造と機能，系統看護学講座，専門基礎分野，解剖生理学，医学書院

〈人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱテキスト〉

評価方法：終了筆記試験（100 点）

科目名：看護形態機能論演習　　1単位　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年　　**後期**　　担当：　専任教員

目的

臨床判断能力の基盤を強化できるよう看護の視点である日常生活行動から見るからだの仕組みと機能を理解し、日常生活援助として看護ケアに結び付けるための基礎知識を学ぶ。

目標

1．看護形態機能（人体の構造と機能）を系統立てて理解し、日常生活行動を営んでいるからだの仕組みと機能を説明できる。

2．人間の日常生活行動について生活の視点で捉え、作成した成果物発表を行い学びの共有ができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP．Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP．Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP．Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	看護形態機能論演習概説	1．オリエンテーション	演習	2
2 ～4	個人の知識の整理	1．テーマに沿って、個人で学習する 2.個人で学習した内容をグループ内で共有する。 3.新たな疑問、視点がなかったところについて学習を分担する。	演習	6
5 ～6	中間発表の準備	1.中間発表できるようにプレゼンテーション準備を行う	演習	4
7	中間（成果物）合同発表	1.3クラス合同でテーマごとに発表する	演習	2
8	中間合同発表の振り返り	1．学びのリフレクションと修正	演習	2

9 ～12	成果物への取り組み	1．　最終発表に向けたグループ学習	演習	8
13 ～14	成果物のプレゼンテーション	1．各グループ成果物のプレゼンテーションを行う 2．質疑応答・ディスカッション	演習	4
15	まとめ終了	1．　看護形態機能論演習のまとめ	演習	2

テキスト【電子テキスト】:
1)系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能Ⅰ　解剖生理学
2)看護形態機能学，生活行動からみるからだ，菱沼典子,日本看護協会出版会

参考書：1)看護形態機能学ワークブック　日本看護協会出版会
2)疾患とつながる解剖生理図鑑　ゴロー，永岡書店　改訂版第 2 刷発行　2024 年
3)看護につなぐ 人体の構造と機能　編著：池西静江，株式会社 照林社　第 1 版 2024 年
4)ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版

評価方法：成果物プレゼンテーション（40%） グループ学習参加状況（10%）
ポートフォリオ（50%）

科目名：生化学　　**1**単位　　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　1学年　　**後期**　　担当：屋　宏典、梅村　正幸

目的

人体の構成成分である科学的物質の性状と代謝について学ぶ。

目標

1.人間が生物として生きていく生命現象について説明できる。

2. 現代のバイオテクノロジーとの関連でより実践的な看護学や治療の技術と結びつけて、生理学、薬理学、栄養学の学習の基礎的知識として役立てることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1 ～5	生命維持に必要な栄養素の構造と性質	1．細胞 2．糖類 3．脂質 4．アミノ酸とタンパク質 5．核酸とヌクレオチド	講義	10
6	酵素	1．酵素	講義	2
7 ～8	糖質代謝	1．糖質代謝1 2．糖質代謝2	講義	4
9	脂質代謝	1．脂質代	講義	2
10	タンパク質とアミノ酸の代謝	1．タンパク質とアミノ酸の代謝	講義	2
11	核酸とヌクレオチド	1．核酸とヌクレオチド 2．ヌクレオチド代謝の役割 （合成と分解）	講義	2
12	遺伝情報	1．遺伝情報　（DNA複製、転写ならびに翻訳メカニズム）	講義	2
13	遺伝子疾患とその診断治療	1．遺伝子疾患とその診断治療 2．代謝と疾患 （先天性代謝異常を中心に）	講義	2
14	エネルギー代謝	1．エネルギー代謝の統合と制御	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
15	終了試験	終了試験・まとめ・解答・解説		2

テキスト： 1)ナーシンググラフィカ　人体の構造と機能　2　臨床生化学　MC メディカ出版

参考書：授業中に適宜資料（プリント）を配布する予定。

評価方法：出席状況、授業態度ならびに最終試験の結果をもとに総合的に評価する。

科目名：栄養学　　2単位　　45時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　2学年　　**前期**　　担当：山城　尚子、仲間　清美

目的

健康と栄養、食物栄養、日常生活と栄養、疾病と栄養について学習し、食事摂取基準、栄養状態評価など健康の保持、メタボリックシンドローム予防等、看護アセスメントの基礎知識を学ぶ。

目標

1.栄養的要因の疾病や食事療法についての基本的な知識を学び、生活指導や食事指導に活かす。
2.治療食として、献立の作成、食材選択、調理までの一連の実践を体験する。
3.栄養と食行動を関連付けて考えることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）** **DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1 ～2	人間栄養学と看護	1．栄養とは （1）健康の3原則 （2）栄養の定義 （3）栄養素の種類 （4）栄養学の歴史 （5）看護と栄養	講義	4
3 ～4	栄養素の種類と働き	1．炭水化物 2．脂質 3．蛋白質 4．ビタミン類　無機質 5．栄養素の体内代謝 6．栄養素の消化・吸収	講義	4
5 ～7	ライフステージと栄養	1．ライフステージと栄養・食物 1）成人期 2）妊娠期 3）授乳期 4）更年期 5）高齢期 6）乳幼児	講義 演習	6 2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
8	中間評価	筆記試験・まとめ・解答・解説		1
9 ～19	疾病と栄養 （臨床栄養・食事療法）	1．代謝性疾患患者の栄養食事療法 1）糖尿病食の献立作成 第１回：糖尿病の食事療法実習 （粥食の調理法・カロリー調理食品） 2．循環器系疾患患者の栄養食事療法 1）高血圧食の献立作成 第２回：高血圧症の食事療法実習 （減塩食品・糖尿病＋高血圧合併食） 3．消化器疾患患者の食事療法 第３回：消化器疾患患者の食事療法実習 4． 腎疾患患者の栄養食事療法 1）慢性腎不全の献立作成 5．血液疾患患者の栄養食事療法	講義 調理実習	8 12
20	沖縄の食生活	1．沖縄の食生活 1）沖縄の食文化 2）沖縄の長寿食と現在のメタボリックシンドローム	講義	2
21 ～22	病院における食事療法､栄養指導の実際	1．臨床栄養① 1）病院における管理栄養士の役割 2）病院食の意義・病院食の種類 ①一般食 ②治療食（濃厚流動食と検査食） 2．臨床栄養② 1）疾患別食事療法の実際 2）患者の満足度評価	講義	4
23	終了試験	筆記試験・まとめ・解答・解説		2

テキスト【電子教科書】:

1)系統看護学講座 栄養学 （医学書院）②系統看護学講座 別巻食事療法（医学書院）

テキスト:2)食品成分表（女子栄養大学出版部）80 カロリーガイドブック（女子栄養大学出版部）

参考書：適宜紹介する

評価方法：筆記試験の得点、授業態度、実習態度、提出物、出席を総合し評価する。

科目名：微生物学　　**1** 単位　　30 時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　1 学年　　**前期**　　担当：梅村　正幸

目的

人間と共存している微生物の特徴・性質について学び、看護師として、人間の健康、感染管理の視点からアセスメントし対処する方法を考えるための基礎知識を学ぶ。

目標

1.病原微生物が人体に進入した後、生体内でどのような感染防御機構（免疫の仕組み）が発揮されるのか理解できる。

2.細菌、真菌、原虫、ウイルスが引き起こす感染症について理解を深めることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	微生物学の基礎	1．細菌の性質 1）形態と特徴、培養環境と栄養、細菌の遺伝	講義	2
2 ～3	細菌・真菌の性質 原虫･ウィルスの性質	1．真菌の性質 1）形態と特徴、増殖形態、栄養と培養 2．原虫の性質 1）特徴と基本構造、種類、栄養と培養 3．ウィルスの性質 1）特徴、構造、増殖、分類	講義	4
4	微生物感染メカニズム	1．微生物の感染メカニズム（細菌、真菌、ウィルス） 2．感染源、感染経路からみた感染症	講義	2
5 ～6	感染に対する生体防御メカニズム	1．自然免疫レベル 2．獲得免疫レベル	講義	4
7	感染症の予防と治療	1．感染症の予防（ワクチン、血清治療） 2．感染症の治療（特に化学療法を中心に）	講義	2
8	感染症の現状と対策	1．感染症の現状とその対策 2．感染症予防（バイオハザード、バイオセーフティー）	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
9	細菌感染症 各論１"	1．グラム陽性球菌 2．グラム陰性球菌 ３．グラム陽性桿菌、他"	講義	2
10	細菌感染症 各論２"	１．抗酸菌 ２．嫌気性菌、他	講義	2
11	"細菌感染症 各論３"	１．スピロヘータ ２．マイコプラズマ ３．リケッチア、他	講義	2
12	真菌感染症	１．深在性、深部皮膚、表在性真菌症、他	講義	2
13	原虫感染症及び蠕虫感染症" ウィルス感染症 各論１	１．根足虫類、鞭毛虫類、胞子虫類、繊毛虫類他 ２．"DNA ウィルス、腫瘍ウィルス、プリオン	講義	2
14	ウィルス感染症 各論２"	１．RNA ウィルス、他に肝炎ウィルスについて	講義	2
15	終了試験	まとめ　筆記試験・解答・解説		2

テキスト【電子教科書】:

1)系統看護学講座　疾病の成り立ちと回復の促進[4]【微生物学】　医学書院

参考書：講義の時に適宜資料（プリント）を配布する予定

評価方法：筆記試験、授業態度、出席状況を総合して行う。

科目名：薬理学　　1単位　　３０時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　1学年　　**後期**　　担当：柴田　忠佳

目的

疾病からの回復を促進する看護ケアにつなげるために薬物の成分やメカニズムについて薬理学の基礎的知識を学ぶ。

目標

1.薬務法に基づく薬物管理のあり方がわかる。

2.薬物の性質、作用機序、人体への影響及び薬品の管理がわかる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP．Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	薬理学概説	イントロダクション （薬理学で何を勉強するのか） 薬物の作用機序と人体への影響 総論（その 1）	講義	2
2 ～4	薬物の作用機序と人体への影響	1．薬物治療、薬物と薬剤 2．薬物に対する生体の反応、薬物の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄） 3．投与方法と薬物作用 4．薬物の有害作用	講義	6
5 ～14	薬理学各論 各論	1．中枢神経系、末梢神経系薬 2．消化器疾患治療薬 3．呼吸器疾患治療薬 4．循環器系作用薬 5．内分泌・代謝疾患治療薬（1） 6．内分泌・代謝疾患治療薬（2） 7．物質代謝に作用する薬（ホルモン系） 8．抗アレルギー・抗炎症薬 9．抗感染症薬、抗がん薬 10. 救急の時に使用される薬物、消毒薬、輸液等	講義	20
15	終了試験	まとめ・筆記試験・解答・解説		2

テキスト【電子教科書】：

1)系統看護学講座　基礎分野【疾病の成り立ちと回復の促進[3]　薬理学　医学書院

2)系統看護学講座　別巻[11]　臨床薬理学　医学書院

参考書：1)今日の治療薬 解説と便覧 南江堂

評価方法：筆記試験等、出席状況等を総合的に評価する。

科目名：病態学概論　　1単位　15時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年　　**前期**　　担当：和田　直樹

目的

看護に必要な疾病の発生機序を知り、健康状態に応じた状況や現象に気づき、看護アセスメントを行い看護実践ができるための基礎知識を学ぶ。

目標

1.看護にとって病態学を学ぶ意義とは何か述べることができる。

2.疾患に生じる臓器や組織、細胞の基礎的な形態的変化について説明できる。

3.病態学で使用する専門用語を看護実践を行う上で正確に使うことができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	病態学概説	1．オリエンテーション・ 2．病態学Ⅰの進め方：病因論 3. 病理検査 4. 疾病の分類老化と死、 1）細胞の老化と固体の老化 2）個体の死	講義	2
2	先天異常と遺伝子異常	1．先天異常とは 2．遺伝子異常、遺伝性疾患、 3．染色体異常による疾患 4．胎児の異常、先天異常 5．遺伝性疾患の診断	講義	2
3	代謝異常	1．細胞の障害と適応 2．細胞障がいの結果としての物質沈着 3．蛋白代謝異常と疾患 4．糖代謝異常と疾患 5．その他の有機質代謝異常	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	回数
4	循環器障害	1．局所性循環器障害 2．全身性循環器障害 3．リンパ循環障害	講義	2
5	炎症と免疫	1．炎症 1）炎症の各型 2．免疫とアレルギー ）免疫不全 3．膠原病 4．移植と自己免疫	講義	2
6	感染症	1．病原体と感染症 1）宿主の防御機構 2）主な病原体と感染症 3）感染症の治療、予防	講義	2
7	腫瘍	1．定義と分類 2．腫瘍の発生病理 3．悪性腫瘍の転移と進行度 4．腫瘍の診断と治療	講義	2
8	終了試験	まとめ　筆記試験		1

テキスト【電子教科書】:

1)系統看護学講座【疾病の成り立ちと回復の促進（1)】病理学,医学書院

参考書：授業中に適宜紹介する

評価方法：筆記試験

科目名：臨床病態学Ⅰ　**1**単位　30時間　（循環器・呼吸器・消化器・歯科口腔）

教員の実務経験有

受講年次：　1学年　**前期**　担当：外来講師

目的

根拠に基づいた看護実践に必要なアセスメント力を身につけるため、健康状態に応じた疾病の成り立ちについて疾病の原因、症状、診断、治療、予後等について臨床病態学の基礎知識を学ぶ。

目標

1.主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。

2.看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP．Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲ.ケアする仲間と協働する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	臨床病態学Ⅰ概説	1．オリエンテーション･病理学で学ぶこと 1）看護にとっての臨床病態学とは 2）循環器系の主な疾患とは	講義	2
2 ～5	循環器系の主な症状と病態生理	1．循環器系の主な病態生理 1）血性心疾患：狭心症・心筋梗塞 2）心不全、血圧異常、不整脈 3）大動脈瘤、弁膜症、心筋症 4）静脈性疾患 リンパ系疾患 5）各々の疾患の症状、検査、治療	講義	8
6	呼吸器系の主な症状と病態生理	1．主な症状 1）呼吸困難　2）呼吸不全、 3）呼吸異常　4）胸痛	講義	2
7 ～9	呼吸器系の主な疾病と症状、検査、治療	1．気管支喘息、気管支拡張症 1）症状、検査、治療 2．肺腫瘍、 1）症状、検査、治療、 3．新型コロナウイルス 1）症状、検査、治療 4．インフルエンザウイルス 1）症状、検査、治療	講義	6

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
10	**中間試験**	筆記試験　解答・解説		1
11	消化器系の主な症状と病態生理	1．消化器系の主な症状と病態生理 1）嚥下困難 2）腹痛 3）嘔吐 4）吐血 5）腹膨満感 6）黄疸	講義	2
12 ～14	消化器系の主な疾病と検査、治療	2．消化器系の主な疾病と検査、治療 1）(食道・胃の異常) （1）食道癌、胃炎、食道アカラシア （2）食道・胃静脈瘤 （3）胃・十二指腸潰瘍、 （4）胃癌 2）(胆嚢・膵臓の異常) （1）胆嚢炎、胆石症、胆のうがん、 （2）膵炎（急性・慢性） （3）糖尿病 （4）膵癌	講義	6
15	歯・口腔系の主な疾患と検査、治療	1．歯・口腔系の主な症状と病態生理 1）口腔症状 2）顎口腔機能障害 2．主な疾患、症状、検査、治療 1）齲蝕 2）歯髄疾患 3）口腔領域の悪性疾患	講義	2
16	終了試験	まとめ　筆記試験　解答・解説		1

テキスト【電子教科書】:

1)系統看護学講座【成人看護学（2）呼吸器、（3）循環器、（5）消化器、(15) 歯・口腔】医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する

評価方法：筆記試験

科目名：臨床病態学Ⅱ **1** 単位　30 時間　（脳神経系・運動器・腎泌尿器・女性生殖器・内分泌）

教員の実務経験有

受講年次：　1 学年　　**後期**　　担当：外来講師

目的

根拠に基づいた看護実践に必要なアセスメント力を身につけるため、健康状態に応じた疾病の成り立ちについて疾病の原因、症状、診断、治療、予後等について臨床病態学の基礎知識を学ぶ。

目標

1.主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。

2.看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）** **DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	臨床病態学Ⅱ 脳神経系の主な症状と病態生理	1．主な症状と病態生理 1）意識障害 2）高次脳機能障害 3）運動機能障害 4）髄膜刺激症状	講義	2
2 ～5	主な疾病と検査､治療 （外科系） （神経内科系）	1．主な疾病と症状、検査、治療 （外科系） 1）脳腫瘍 2）脳血管障害 （神経内科系） 1）神経変性疾患（認知症） 2）パーキンソン病 3）脊髄小脳変性症	講義	8
6	運動器系の主な症状と病態生理	1．運動器系の主な症状と病態生理 1）疼痛　2）しびれ 3）変形　4）麻痺 5）筋力低下　6）筋萎縮	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
7 ～8	運動器系の主な疾病、症状、検査、治療	1．主な疾病と症状、検査、治療 1）骨折 2）椎間板ヘルニア 3）脊柱管狭窄症	講義	4
9	**中間試験**	筆記試験　解答・解説		1
10 ～11	腎泌尿器系の主な疾病、症状、検査、治療、	1．主な疾病と症状、検査、治療 1）腎不全 （1）透析療法 2）膀胱腫瘍 3）前立腺腫瘍 4）尿路結石	講義	4
12 ～13	女性生殖器系の主な症状と病態生理	1．主な症状と病態生理 1）帯下 2）性器出血 2．主な疾病と症状、検査、治療 1）子宮筋腫 2）子宮がん 3）卵巣がん 4）乳がん	講義	4
14 ～15	内分泌系の主な疾病、症状、検査、治療、	1．主な疾病、症状、検査、治療 1）糖尿病 2）脂質異常症 3）高尿酸血症 4）甲状腺疾患 5）副腎疾患 6）バセドー病	講義	4
16	終了試験	まとめ　筆記試験　解答・解説		1

テキスト【電子教科書】:

1)系統看護学講座【成人看護学（6）内分泌・代謝、（7）脳・神経、（8）腎・泌尿器、(9) 女性生殖器、(10) 運動器】,医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する

評価方法：筆記試験

科目名：臨床病態学Ⅲ 1 単位 15 時間（膠原病・アレルギー・耳鼻咽喉科・皮膚科・眼科・血液疾患）

教員の実務経験有

受講年次：　1 学年　　後期　　担当：外来講師

目的

根拠に基づいた看護実践に必要なアセスメント力を身につけるため、健康状態に応じた疾病の成り立ちについて疾病の原因、症状、診断、治療、予後等について臨床病態学の基礎知識を学ぶ。

目標

1.主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。

2.看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）** **DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1 ～2	臨床病態学Ⅲ 膠原病･アレルギー疾患	1．膠原病の主な症状と病態生理 1）自己免疫疾患 2．主な疾患と症状、検査、治療 1）膠原病 2）全身性エリテマトーデス 3）関節リウマチ 3．アレルギーの主な症状と病態生理 1）呼吸器症状、皮膚症状 4）主な検査、治療	講義	4
3	耳鼻咽喉科の主な疾病、症状、検査、治療	1．耳鼻科の主な症状と病態生理 1）めまい 2）耳鳴 3）鼻閉塞感 2．主な疾病、症状、検査、治療 1）中耳炎 2）副鼻腔炎 3）メニエール病	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
4	皮膚科の主な疾病症状、検査、治療、	1．皮膚科の主な症状と病態生理 1）湿疹 2）掻痒感 2．主な疾病、症状、検査、治療 1）アトピー性皮膚炎 2）脂漏性湿疹	講義	2
5	眼科の主な疾病､疾患、症状、検査、治療	1．眼科の主な症状と病態生理 1）視力異常 2）視野狭窄 3）複視 2．主な疾病、症状、検査、治療 1）緑内障 2）白内障 3）結膜炎	講義	2
6 ～7	血液疾患の主な疾病、症状、検査、治療	1．血液疾患の主な症状と病態生理 1）貧血 2）出血傾向 3）リンパ節腫脹 2．主な疾病、症状、検査、治療 1）白血病 2）再生不良性貧血 3）血小板機能異常症	講義	4
8	終了試験	まとめ　筆記試験		1

テキスト【電子教科書】:

1)系統看護学講座【成人看護学（４）血液・造血器、(11）アレルギー膠原病感染症、(12）皮膚（13）眼、(14）耳鼻咽喉】,医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する

評価方法：筆記試験

科目名：臨床病態学Ⅳ　　1単位　　15時間　　（小児病態）

教員の実務経験有

受講年次：　2学年　　**前期**　　担当：外来講師

目的

根拠に基づいた看護実践に必要なアセスメント力を身につけるため、健康状態に応じた疾病の成り立ちについて疾病の原因、症状、診断、治療、予後等について臨床病態学の基礎知識を学ぶ。

目標

1.小児期にある対象の主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。

2.看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP．Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）** **DP．Ⅲ.ケアする仲間と協働する力**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	臨床病態Ⅳ （小児病態）	1．小児期の特徴と主な疾病の診断・治療 1）小児期の主な疾患とは 2）遺伝子・染色体異常 3）新生児の異常	講義	2
2	代謝性疾患の主な疾病、症状、検査、治療	1．先天性代謝異常 2．内分泌系疾患	講義	2
3	免疫疾患の主な疾病、症状、検査、治療	1．原発性免疫不全症 2．食物アレルギー 3．リウマチ性疾患	講義	2
4	呼吸器系の主な疾病、症状、検査、治療	1．上気道疾患（急性咽頭炎） 2．気管支炎 3．気管支肺炎	講義	2
5	循環器系の主な疾病、症状、検査、治療	1．先天性心疾患 2）後天性心疾患	講義	2
6	消化器系の主な疾病、症状、検査、治療	1．口腔疾患（口唇・口蓋裂） 2．食道閉鎖疾患	講義	2
7	血液・造血器系疾患の主な疾病 症状、検査、治療	1．再生不良性貧血 2．白血病	講義	2
8	終了試験	まとめ　筆記試験		1

テキスト【電子教科書】： 1)系統看護学講座【小児臨床看護各論　小児看護学②】,医学書院
参考書： 授業中に適宜紹介する
評価方法：筆記試験

科目名：臨床病態学Ⅴ　　**1**単位　　15時間　　（母性病態）

教員の実務経験有

受講年次：　2学年　　**前期**　　担当：外来講師

目的

根拠に基づいた看護実践に必要なアセスメント力を身につけるため、健康状態に応じた疾病の成り立ちについて疾病の原因、症状、診断、治療、予後等について臨床病態学の基礎知識を学ぶ。

目標

1.周産期及にある対象の主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。

2.看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）** **DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	臨床病態学Ⅴ （母性病態） 周産期の特徴と主な疾病の診断･治療	1. 周産期の主な疾患とは 2．生殖器能異常	講義	2
2	リプロダクティブヘルスケアの必要性	1．遺伝相談 2．出生前診断 3．着床前診断 4．胎児治療と遺伝子治療	講義	2
3	不妊治療	1．不妊とその原因 2．不妊検査 3．不妊治療	講義	2
4	妊娠期の異常	1．ハイリスク妊娠 2．合併する全身疾患 3．妊娠期の合併症 4．多胎妊娠 5．異所性妊娠	講義	2
5	分娩期の異常	1．産道異常 2．娩出力の異常 3．胎児の異常、 4．分娩障害	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
6	分娩の異常	1．分娩時損傷 2．分娩第 3 期及び分娩直後の異常 3．分娩時異常出血 4．産科処置と産科手術	講義	2
7	産褥の異常	1．子宮復古不全 2．産褥期の発熱 3．産褥血栓症 4．精神障害	講義	2
8	終了試験	まとめ　筆記試験		1

テキスト【電子教科書】：1)系統看護学講座 母性看護学各論　医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する

評価方法：筆記試験

科目名：臨床病態学VI　　**1** 単位　　15 時間　　（精神病態）

教員の実務経験有

受講年次：　2 学年　　**前期**　　担当：外来講師

目的

生命の尊厳と人権を尊重した精神看護を実践できる人材を育成することを目的とする。

健康状態に応じた疾病の成り立ちについて疾病の原因、症状、診断、治療、予後の視点から臨床病態学の基礎知識を学ぶ。

目標

1.すべての発達段階にある人々の健康を守り心の病から回復を見守ることをめざす。

2.看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP．Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	臨床病態学VI （精神病態学） 精神症状の理解	1．様々な精神症状 1）総論 2）思考の障害、感情の障害、意欲障害局在症状等	講義	2
2	精神障害の診断と主な治療	1．精神障害の診断と分類 2．主な治療法	講義	2
3	主な精神疾患・障害の特徴	1．統合失調症 2．気分（感情）障害	講義	2
4	主な精神疾患・障害の特徴	1．神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	講義	2
5	主な精神疾患・障害の特徴	1．生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 2．パーソナリティ障害	講義	2
6	主な精神疾患・障害の特徴	1．器質性精神障害（神経認知障害群）・認知症	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
7	主な精神疾患・障害の特徴	1.精神作用物質使用による精神および行動の障害・アルコール依存、てんかん 2．神経発達障害群 知的発達障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠陥・多動性障害	講義	2
8	終了試験	まとめ　筆記試験		1

テキスト【電子教科書】：1)系統看護学講座【精神看護の基礎　精神看護学（1）、（2）】,医学書院
参考書：　授業中に適宜紹介する
評価方法：筆記試験・マークシート試験

科目名：総合医療論　　**1** 単位　　15 時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　1 学年　　**前期**　　担当：平良 孝美

目的

看護を実施にあたり医学の知識に加えて、それ以上に対象者の生命の尊厳及び人権尊重を常に考え行動することの大切さを学ぶ。更に、看護を実施にあたり常に考慮しなければならなに諸事情について学ぶ。

目標

1. 看護が効果的に実施できるために必要な総合医療論の基礎的知識について説明できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	総合医療論概説	オリエンテーション 1．医学と医療・健康	講義	2
2	医療の原点と看護	1．医療の原点と看護と患者	講義	2
3	医学と医療の発展の歴史	1．医学と医療の発展の歴史 2．医療と看護を取り巻く諸問題	講義	2
4	保健･医療の新しい展開	1．患者の人権の保護とインフォームドコンセント 2．QOL について	講義	2
5	医療を見つめなおす視点	1．患者との信頼関係及び医療事故	講義	2
6	現代医療の新しい課題	1．最近の延命治療 2．自己決定権および死について	講義	2
7	保健･医療･福祉の新しい展開	1．医療の経済と諸制度	講義	2
8	終了試験	まとめ　筆記試験		1

テキスト【電子教科書】：1)系統看護学講座　【総合医療論　別巻（14)】医学書院

参考書：　授業中に適宜紹介する。

評価方法：終了試験ならびに出席状況

科目名：保健学　　1単位　　15時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　1学年　　前期　　担当：　豊里　竹彦

目的

人びとの健康を社会集団として維持増進することを目的とした保健学の概念、方法論を学ぶ。

目標

1.病気の予防、「健康にとって有害な環境や、行動、社会的要因を取り除く」ことにより、人々の健康状態と生活の質（ＱＯＬ）を維持向上させることについて理解を深めることができる。

2.疫学的指標を用いて、人々の健康課題や保健対策について理解できる。

3.健康を守るための組織、機関および医療従事者の役割や機能への理解を深めることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）** **DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	保健学の意義と概要	1．公衆衛生・保健とは 2．保健学の概要	講義	2
2	公衆衛生の活動対象	1．看護職の公的責任 2．社会集団をとらえる視座	講義	2
3	公衆衛生のしくみ	1．国と地方自治体の役割 2．専門職のはたらき	講義	2
4	集団の健康をとらえる	1．集団としての人々の健康をまもる 2．公衆衛生の場での疫学 （疫学・健康指標・その他）	講義	2
5	感染症とその予防対策	1．わが国の感染予防対策 2．公衆衛生上の重要な感染症とその対策	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
6	地域における公衆衛生	1. 地域における公衆衛生の実践 （母子保健・成人保健・高齢者保健・精神保健） ２．歯科保健 ３．障害者保健・難病保健	講義	2
7	国際保健・災害保健	１．グローバル化する保健活動 ２．健康危機管理と災害保健	講義	2
8	終了試験	まとめ　終了試験・解答・解説		1

テキスト【電子教科書】：1)系統看護学講座 社会保障制度と生活者の健康（２）公衆衛生 医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する。

評価方法：筆記試験、出席状況を総合して評価する。

科目名：健康科学　　2単位　　45時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　2学年　　前期　　担当：宮城　政也

目的

自己の健康を保持増進するために必要な自らの身体に関心を持ち、健康へのアプローチ、他者への健康教育・健康管理、健康について科学的に考えるための基礎的知識およびスポーツを通して人間関係作りや協調性について学ぶ。

目標

1. 他者への健康教育･健康管理、健康について科学的な視点から考えることができる。
2. 健康へのアプローチのできる力を身につける。
3. 実技を通して現在持っている自分の身体能力や精神・社会的能力を確認することができる。
4.スポーツを通して人間関係の基礎作りに必要なルールや協調性の必要性を体験する。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）** **DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	講義ガイダンス	自らの健康について考える	講義	2
2	健康の概念	ヘルスプロモーション	講義	2
3 ～8	メンタルヘルスについて	1．ストレスとは 2．認知的評価 3．ストレス反応、ポジティブサイコロジー 4．ストレス関連疾患 5．ストレスコーピング 6．身体活動の心理･社会的恩恵、座位と健康	講義	12
9	リラクセーションと自律神経	リラクセーションと自律神経	演習	2
10	体力の概念	現代社会と体力、将来の健康	講義	2
11	スポーツの社会学的考察を通して健康を考える	スポーツの社会学的考察を通して健康を考える	講義	2

12	健康格差と公衆衛生政策	健康格差と公衆衛生政策	講義	2
13	健康教育と保健看護職者	健康教育と保健看護職者	講義	2
14	健康教育	健康行動理論	講義	2
15	運動をするにあたって	ウオーミングアップ、クーリングダウンについて	実技	2
16	ストレッチングと自律神経	運動後の心理的変化について	実技	2
17	有酸素運動､呼吸法と自律神経	ウオーキング	実技	2
18	有酸素運動､漸進的弛緩法と自律神経	ウオーキング	実技	2
19	自重負荷エクササイズ	行動体力の自己評価とその改善	実技	2
20 ～22	レジスタンス エクササイズ	１．筋肉量を増やすこと、筋刺激の意義 ２．ウエイトトレーニング	実技	6
23	終了試験	まとめ　筆記試験　・解答・解説		1

テキスト：なし

参考書： 授業中に適宜紹介する。

評価方法：筆記試験、実技、出席や授業態度を総合して行う

科目名：社会福祉　　1単位　　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　2学年　　後期　　担当：小林　学美

目的

社会福祉についての基本概念、生活者の視点から社会保障制度の全体像を把握し、生活保障・安定・向上のための制度・活動についての基礎的知識を学ぶ。

目標

1. 人々のよりよい健康生活・地域における自立支援のあり方や社会福祉サービス・社会福祉システムなど地球規模で考えるノーマライゼーションや人権について理解を深める。

2.社会福祉と医療、保健との関連、医療サービス支援のなかで他職種の役割、看護の果たす役割について理解できる。

3.健康障がい状態に応じて社会資源を活用できる知識を習得する。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） **DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）** **DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力**

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1	社会福祉概説	オリエンテーション 1．対人援助 2．主体性の尊重とストレスマネジメント	講義	2
2	社会保障	1．社会保障とは	講義	2
3	現代社会の変化	1．社会福祉の歴史と現在の動向	講義	2
4	医療保障制度と介護保障制度	1．医療保障と介護保障	講義	2
5	所得保障制度と公的扶助制度	1．所得保障と公的扶助	講義	2
6	社会福祉の分野とサービス	1．障害福祉サービス	講義	2
7 ～8	障害平等研修	1．障害平等研修とは 演習：障害平等研修　前半 演習：障害平等研修　後半	講義 演習	4
9	高麗者福祉と児童家庭福祉	1．高齢者福祉サービスと児童福祉サービス	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
10 ～14	社会福祉の実践	1．社会福祉援助の基本姿勢 2．社会福祉援助技術 3．他職種の連携 4．地域と医療の連携 5．社会福祉の援助 演習：社会福祉援助演習（グループワーク）	講義	10
15	終了試験	まとめ　筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】： 1)社会保障・社会福祉　健康支援と社会保障制度(3)　医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する

評価方法：筆記試験、演習レポート、出席状況を総合して行う。

科目名：看護と法　　1単位　　15時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　3学年　　前期　　担当：外来講師

目的

社会における法の意味を知り、変化する医療制度に伴う看護の役割や責任について学ぶ。

目標

1.他職種との関係性・職業アイデンティティとは何かを説明できる。

2.倫理的行動決定を行うための基礎的知識とは何か説明できる。

3.憲法、看護師の資格や看護業務に関係の深い保健衛生法規について説明できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1 ～2	社会と法	1．法規の概念 1）法規とは　2）法規の種類 3）不文法　4）公法と私法 5）実体法と手続法　6）法規の効力の優劣 2．日本国憲法	講義	4
3	看護に必要な法令	1．看護の基本法 1）保健師助産師看護師法 2）看護師等の人材確保補足に関する法律看護に必要な法令	講義	2
4 ～7	看護の関連法規	1．関係法規 1）医療法　2）医師法　3）地域保健法 4）健康増進法　5）分野別保健法 （1）母子保健法 6）感染症に関する法 7）感染症に関する法 8）その他労働安全衛生法など関係法規	講義	8
8	終了試験	まとめ　筆記試験		1

＊薬務法は薬理学、社会福祉関係法は社会福祉、地域保健法は保健学、母子保健法は母性看護学、精神保健法は精神看護学に含む。

テキスト【電子教科書】： 1)系統看護学講座　看護関係法令 医学書院

参考書：1)私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法　第 2 版日本看護協会出版会　田村やよひ

2）公衆衛生マニュアル　南山堂

3）国民衛生の動向、厚生労働白書他、授業中に適宜紹介する。

評価方法：筆記試験、演習レポート、出席状況を総合して行う。

3　専　門　分　野

1）　基礎看護学

2）　地域・在宅看護論

3）　成人看護学

4）　老年看護学

5）　小児看護学

6）　母性看護学

7）　精神看護学

8）　看護の統合と実践

9）　臨地実習

（1）基礎看護学

（2）地域・在宅看護論

（3）成人看護学

（4）老年看護学

（5）小児看護学

（6）母性看護学

（7）精神看護学

（8）看護の統合と実践

基礎看護学

目　的

基礎看護学においては、対象となる人間を理解し、人間のライフサイクルにおける健康と健康の意義、保健医療福祉における看護の役割･責任について理解する。またチーム医療及び多職種との協働を図りながら効果的な看護活動ができることについて理解し、看護行為の基礎となる知識、技術、態度を習得し、包括的な看護の基本について学ぶ。

目　標

1　看護の基本概念と看護理論を学び、看護の対象である「人間」と看護の目的である「健康」について基礎的知識を深め、社会の変化と看護の歴史的変遷から「看護の役割と機能」について理解する。

2　看護の対象を人権意識に基づいて総合的に理解し、看護師として倫理に基づく判断と行動決定が責務であることを理解する。

3　看護実践の基盤となる基本技術を科学的根拠に基づく安全・安楽な技術として習得し、事故防止のための行動がとれる。

4　人間関係を成長発展させるための技術としてコミュニケーション技法や健康状態を把握するための技術としてフィジカルアセスメントの基本を習得する。

5　人間の日常生活行動を理解し、科学的根拠に基づいた基礎的な支援技術を習得する。

6　健康障害をもつ対象者とその家族に対する基本的な支援を学び、健康状態・症状別の根拠に基づいた支援の選択、安全・安楽な支援の方法を習得する。

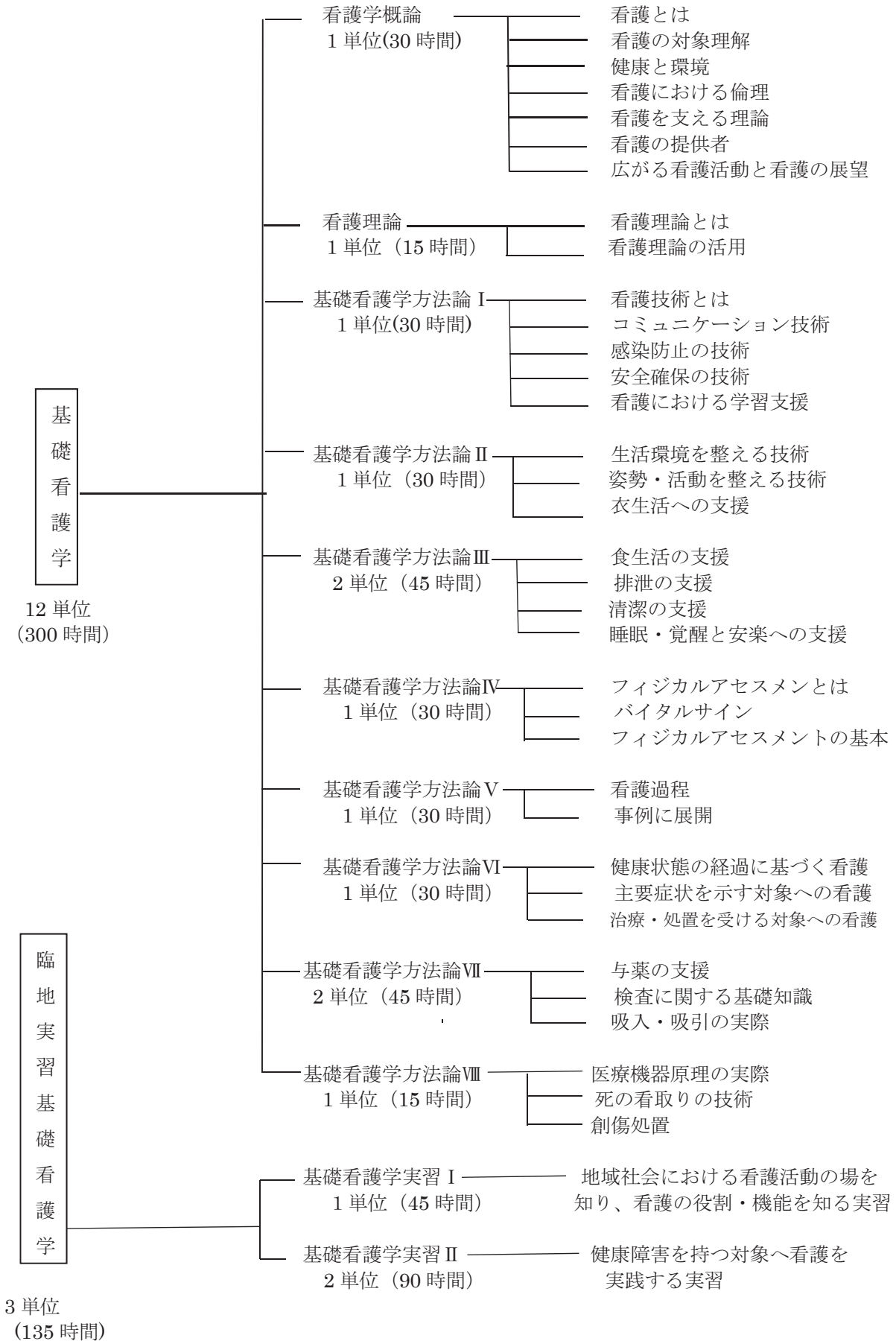
7　治療処置に伴う看護支援を安全・安楽に実施する方法を習得する。

8　看護過程を学び、対象のもつ看護ニーズの明確化、看護の目標達成への支援計画立案、評価について習得する。

9　多職種との連携、協働に必要な基本を理解する。

10　対象者の療養生活環境を理解し、対象者のニーズに応じた基本技術の根拠に基づき実施し、看護過程の展開方法まで理解できる。

科目構成


基礎看護学
12 単位
（300 時間）
看護学概論
1 単位(30 時間)
看護とは
看護の対象理解
健康と環境
看護における倫理
看護を支える理論
看護の提供者
広がる看護活動と看護の展望
看護理論
1 単位（15 時間）
看護理論とは
看護理論の活用
基礎看護学方法論 I
1 単位(30 時間)
看護技術とは
コミュニケーション技術
感染防止の技術
安全確保の技術
看護における学習支援
基礎看護学方法論Ⅱ
1 単位（30 時間）
生活環境を整える技術
姿勢・活動を整える技術
衣生活への支援
基礎看護学方法論Ⅲ
2 単位（45 時間）
食生活の支援
排泄の支援
清潔の支援
睡眠・覚醒と安楽への支援
基礎看護学方法論Ⅳ
1 単位（30 時間）
フィジカルアセスメントとは
バイタルサイン
フィジカルアセスメントの基本
基礎看護学方法論Ⅴ
1 単位（30 時間）
看護過程
事例に展開
基礎看護学方法論Ⅵ
1 単位（30 時間）
健康状態の経過に基づく看護
主要症状を示す対象への看護
治療・処置を受ける対象への看護
基礎看護学方法論Ⅶ
2 単位（45 時間）
与薬の支援
検査に関する基礎知識
吸入・吸引の実際
基礎看護学方法論Ⅷ
1 単位（15 時間）
医療機器原理の実際
死の看取りの技術
創傷処置
臨地実習基礎看護学
3 単位
（135 時間）
基礎看護学実習 I
1 単位（45 時間）
地域社会における看護活動の場を
知り、看護の役割・機能を知る実習
基礎看護学実習Ⅱ
2 単位（90 時間）
健康障害を持つ対象へ看護を
実践する実習

科目名：看護学概論　　1単位　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年　　前　期　　担当：専任教員

目的

看護学を構成する主要概念の「人間」「健康」「環境」「看護」について学習し、看護の対象、目的、看護の本質や看護師としての役割、看護独自の機能、看護倫理など看護学の基礎的知識を学ぶ。

目標

1.看護学を構成する主要概念について説明できる。
2.看護の目的、看護の本質について説明できる。
3.看護師としての役割・看護独自の機能について説明できる。
4.保健・医療・福祉等、多職種における調整、連携・協働の必要性を説明できる。
5.今後の看護のあり方について考えることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 3	看護とは	1.看護の定義 2.看護の本質 3.歴史的変遷 4.看護の目的 4.看護の役割と機能 5.沖縄の看護の歴史	講義	6
4 ～ 6	看護の対象理解	1.看護の対象とは 2.人間の基本的欲求 3.環境に適応する存在としての人間 4.人間の成長・発達 5.人間のこころと体 6.統合体としての人間 7.地域における生活者としての人間	講義	6

回	単元	学習内容	授業形態	時間
7 ～ 8	健康と環境	1. 健康の定義 2. 健康障害とその影響 3. 健康観 4. 国際生活機能分類（ICF） 5. データから見る国民の健康 6. 健康の保持増進と疾病の予防 7. ヘルスプロモーション 8. ホメオスターシス 9. 環境の変化に対応して存在する対象 10. 環境と適応 11. 地域特性と健康	講義	4
9 ～ 11	看護における倫理	1. 看護倫理とは 2. 看護倫理に関する基礎知識 3. 倫理的意思決定 4. 看護の倫理原則 5. 看護者の倫理綱領 6. 看護上の倫理的問題 7. 倫理的ジレンマ	講義 演習	2 4
12	看護を支える理論	1. 看護理論とは 2. 看護理論を学ぶ意義 3. 看護理論の分類 4. 主な理論家とその理論	講義	2
13	看護の提供者	1. 看護専門職とは 2. 看護基礎教育 3. 継続教育と卒後教育 4. 多職種との連携・協働の必要性	講義	2
14	広がる看護活動と看護の展望	1. 現代の医療・看護に求められるもの 2. 看護業務の特性と医療事故 3. 地域包括ケアシステム 4. 国際看護 5. 災害看護 6. 今後の課題と展望	講義	2
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】: 1) 基礎看護学（看護学概論）医学書院

参考書： 1)看護覚え書き, フローレンスナイチンゲール, 現代社

2)キラリ看護, 川島みどり, 医学書院

3)国民衛生の動向, 厚生労働省,　　沖縄の看護教育　75 年のあゆみ

評価方法：終了試験 70 点、課題レポート 30 点

看　護　学　概　論　レ　ポ　ー　ト　課　題	
時　期	タ　イ　ト　ル
①事前学習課題 （第１回の講義時使用）	「キラリ看護」を読んで（８００字程度）
②事後学習課題 （第 11 回の講義後）	「看護職の倫理綱領」について（詳細は授業で案内する）
③夏季休業中の課題	「看護覚え書き」を読んで（１０００字程度）

科目名　看護理論　　1　単位　　１５　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　１学年　前期　　担当：専任教員

目的

１．看護の知の生成過程 及び看護理論の構造を学び実践の科学としての看護学の構造と特徴について理解を深める。また、看護における主要な理論と概念を検討し、看護実践と理論の関連性について理解を深める。

目標

１．理論とは何かを知ることができる。

２．看護理論の発展過程がわかる。

３．看護理論の構造がわかる。

４．看護理論と看護実践の関連性について知ることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP．Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP．Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP．Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1	看護理論とは	オリエンテーション 看護理論とは 1）理論を学習することの意義・目的 2）看護理論の発展 3）看護理論の特徴と分類	講義	2
2	看護理論の枠組みと看護実践	看護理論の枠組みと看護実践 1）理論の評価・評価の意義 2）看護理論をわかりやすく読むための枠組み 3）看護理論と看護実践の関係性	講義	2
3～5	演習課題Ⅰ ヘンダーソンの看護理論の理解に向けて	ヴァージニア・ヘンダーソンの看護理論 演習課題Ⅰ ヘンダーソンの「基本的ニーズの構成要素（14項目）に基づき対象のニードをとらえる」に基づき実践との関連をグループ学習する。	講義 演習	6
6	演習課題Ⅰのグループ発表	課題の成果をグループで発表する 質疑、応答で学びを深める	講義 演習	2

7	看護理論の活用	演習課題Ⅱ（各理論家）の実践との関連 まとめ	講義 演習	2
8	終了試験	筆記試験		1

テキスト【電子教科書】:

1)「看護学概論」医学書院

テキスト：2)「看護の基本となるもの」ヴァージニア　ヘンダーソン

参考書：1)「ケースを通してやさしく学ぶ看護理論」黒田裕子,日総研出版

2)重要なところだけ短時間でわかりやすく読む看護理論

3)やさしい看護理論　城ヶ端初子　MC メディカ出版

4)実践に生かす看護理論 19　城ヶ端初子　サイオ出版

5)各理論家の著書

評価方法：終了筆記試験（50%）　課題提出（30%）　グループ学習参加状況（20%）

看護理論　レ　ポ　ー　ト　課　題	
時　期	タ　イ　ト　ル
第３回授業前課題	レポート課題　「看護の基本となるもの」
演習課題Ⅱ（最終課題）	レポート課題　「各理論家と実践との関連」

科目名　基礎看護学方法論Ⅰ　　1　単位　　30　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年　**前期**　　担当：専任教員

基礎看護学方法論Ⅰは看護の共通基本技術について学ぶ内容である。

目的

看護を実践するための基盤となる基本技術の知識・技術・態度を学ぶ。

目標

1．看護技術を支える構成要素が説明できる

2．人間関係を構築するためのコミュニケーションの原理および基本的態度に沿って実施できる。

3．対人関係における効果的なコミュニケーションを実施できる

4．感染予防の意義を説明でき、さまざまな感染防止の技術が原理・原則に沿って実施できる

5．医療安全の基本的な考え方を説明でき、安全対策を適切な方法で実施できる

6．看護における学習支援に基礎的知識が理解できる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ．生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力・判断力）
DP．Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲ．ケアする仲間と協働する力
DP．Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1	看護技術とは	1．看護技術とは　2．看護技術の構成要素 3．看護技術の特徴　4．看護技術の原則・構成	講義	2
2 ～3	安全を守る技術	1．医療安全の概念（歴史的背景・言葉の定義） 2．ヒューマンエラーとヒューマンファクター 3．インシデントレポート意義と活用 4．医療安全への組織的取り組み 5．医療現場における業務上の危険 1）対象者誤認防止　2）転倒・転落防止の実際 3）誤薬防止の実際	講義・演習	4
4 ～7	人間関係を形成するための「コミュニケーション」技術	1．　コミュニケーションの目的と構成要素 1）コミュニケーションの意義と目的 2）看護・医療におけるコミュニケーション 2．コミュニケーションの構成要素と成立過程と向上 1）プロセスレコードの目的・意義 3．関係構築のための基本的なコミュニケーション技法 1）接近的コミュニケーションの原理・基本的態度	講義・演習	2 2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
		2）傾聴・共感的理解・受容的態度 3）アサーティブコミュニケーションの目的と特徴 5. 看護場面でのコミュニケーションの実際 6. コミュニケーション障害のある人への対応 1）構音障害ある対象者 2）失語症のある対象者		2 2
8	学習支援	1．看護における学習支援 1）看護における学習支援の意義 2）様々な場での学習支援 2. 健康に生きることを支える学習支援 3. 健康状態の変化に伴う学習支援 4. 学習支援の実際	講義	2
9 ～14	感染防止の技術	1. 感染防止の意義と目的 2. 感染防止の基礎知識 1）感染とは　2）感染成立の条件　3）標準予防策 3. 感染予防策の基礎知識 1）感染経路別予防策　2）感染性廃棄物の取り扱い 3）医療施設における感染管理 4. 標準予防策の実際 1）手指衛生の演習 5. 事例を用いた標準予防策の実際 1）手指衛生　2）個人防護用具 3）ガウンテクニック 5. 個人防護用具の着脱の技術の実際 6. 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 1）洗浄の基礎知識　2）消毒と滅菌の基礎知識 7. 無菌操作の基礎知識 1）滅菌物を取り扱いの基本　2）無菌操作の実際 8. 無菌操作の実際 1）滅菌包装の開き方　2）滅菌攝子の取り出し方 3）滅菌ガーゼの取り出し方 4）鉗子・攝子の取り扱い 5）滅菌手袋の着用 9. 感染性廃棄物の取り扱いの実際	講義・演習	4 4 4
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】
1)茂野香おるほか:系統看護学講座　基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版 医学書院

テキスト
2)任和子ほか:根拠と事故防止からみた基礎・臨床 看護技術 第 3 版 医学書院

評価方法:筆記試験（95 点)、ポートフォリオ（5 点）※レポート課題の配点は単元配点に含む

基礎看護学方法論Ⅰの事前課題・レポート課題	
時　期	課題内容
第 4 回事前課題	課題１．私が看護師に望む①身だしなみ②言葉使い③態度
第 10 回事前課題	課題１．感染を成立させる条件について 課題２．日常的手洗いと衛生的手洗いの違い

科目名　基礎看護学方法論Ⅱ　1　単位　　30　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年　前期　　担当：専任教員

基礎看護学方法論Ⅱは日常生活支援技術について学ぶ内容である。

目的

対象者の日常生活を支援するために必要な日常生活支援技術を科学的根拠に基づき安全・安楽に実践するための基礎的な知識・技術を学ぶ

目標

1．生活環境について理解し、療養環境を整えることができる
2．活動の基礎的知識を理解し、活動と休息を整えることができる
3．対象者に応じた安全・安楽な姿勢・活動を整えることができる
4．衣生活支援の基礎的知識を理解し、衣生活を整えることができる
5．メンバーと協力しながら、主体的に課題・校内実習を行うことができる
6．校内実習後の看護技術を振り返り、自己の課題を記述することができる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ．生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力・判断力）
DP．Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP．Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～6	生活環境を整える技術	1．環境調整のアセスメントに必要な知識 2．安全で快適な病床環境とは 3．病室の環境のアセスメント 1）病室・病床の選択　2）温度、湿度 3）光と音　4）色彩 5）空気の清浄性と臭い　6）人的環境 4．療養環境を整える看護の実際 1）ベッド周囲の環境整備 5．ベッドメーキングの基本 1）クローズドベッド　2）オープンベッド 6．臥床対象者のリネン交換の実際	講義・演習	4 8
7 ～8	衣生活を整える技術	1．衣生活の支援の基礎知識 1）衣服を用いることの意義　2）熱産生と放出 3）被服気候 4）衣生活に関するニーズのアセスメント 2．衣生活の支援の実際 1）病衣の選び方　2）病衣・寝衣の交換	講義・演習	2 2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
9 ～14	姿勢・活動を整える技術	1. 基本的活動の基礎知識 1）体位変換　2）安楽な体位　3）体位保持 2. 安全・安楽な姿勢の整え方の実際 1）体位変換 2）安楽な体位 3. 移乗・移送の実際 1）車椅子での移乗・移送 2）ストレッチャーでの移乗・移送 4. 活動・休息支援の実際 5. 体位変換・移乗移送・安楽な姿勢の実際	講義・演習	4 2 6
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】

1)任和子ほか:系統別看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版 医学書院

テキスト 2):任和子ほか:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第 3 版 医学書院

評価方法： 試験（95 点)、ポートフォリオ（5 点）

基礎看護学方法論Ⅱの事前課題・レポート課題	
時　期	課題内容
第 2 回授業前課題	課題 1.動画を視聴しリネン類のたたみ方について学習して臨む
第 4 回授業前課題	課題 1.動画を視聴しクローズドベッドの作成方法について学習して臨む
第 5.6 回授業前課題	課題 1.動画を視聴し臥床対象者のリネン交換の手順と根拠について学習して臨む

科目名　基礎看護学方法論Ⅲ　2　単位　　45　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年　　後期　　担当：専任教員

基礎看護学方法論Ⅲは日常生活支援技術について学ぶ内容である。

目的

対象者の日常生活を支援するために必要な日常生活支援技術を科学的根拠に基づき安全･安楽に実践するための基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。

目標

1．食事支援の基礎的知識を理解し、実施することができる
2．排泄支援の基礎的知識を理解し、実施することができる
3．清潔支援の基礎的知識を理解し、清潔の支援方法が実施できる
4．苦痛の緩和・安楽の確保技術の基礎的知識を理解し、安楽の支援方法が実施できる
5．日常生活支援技術を安全・安楽・倫理的配慮を考慮した方法で実施できる
6．メンバーと協力しながら、主体的に課題・校内実習を行うことができる
7．校内実習後の看護技術を振り返り、自己の課題を記述することができる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP．Ⅱ根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲケアする仲間と協働する力
DP．Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～4	食生活の 支援技術	1．食事支援の基礎知識・食生活への支援技術① 1）栄養状態及び摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 2）医療施設で提供される食事の種類と形態 2．食生活への支援技術 1）非経口的栄養摂取の支援方法 （経鼻経管栄養法の実際） 3. 事例を用いての食事支援の実際 1）麻痺のある対象者への食事支援 2）視覚障害のある対象者への食事支援	講義 演習 	2 2 4
5 ～10	排泄の 支援技術	1. 排泄支援の意義と自然排尿・排便の基礎知識 1）正常な排尿・排便の基準と観察 2）排尿・排便のアセスメント 2. 自然排尿および自然排便の実際 1）腹部マッサージ　2）腰背部の温罨法 3）排泄用具の使用（便器・尿器）	講義・演習 	2 2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
		3. 排泄障害の基礎知識 1）排便障害（便秘・下痢） 2）排尿障害（尿閉・失禁） 4. 排泄障害（排便）のある対象者への支援 1）床上排泄（おむつ） 2）摘便・浣腸の実際 5. 排泄障害（排尿）のある対象者への支援 1）導尿の実際（一時的・持続的）	演習	2 4 2
11	中間試験	筆記試験　　解答・解説		1
12 ～20	清潔の 支援技術	1. 清潔の支援の意義・目的 2. 清潔の支援の実際①（清拭・シャワー浴） 3. 清潔の支援の実際②（手浴・足浴） 4. 清潔の支援の実際③（洗髪・整容） 5. 清潔の支援の実際④（口腔ケア）の実際 6. 清潔の支援の実際⑤（陰部洗浄） 7. 清潔支援への実際⑥　―清拭と寝衣交換－ 8. 清潔支援への実際⑦－陰部洗浄おむつ交換－	講義・演習	2 8 4 4
21 ～22	睡眠・覚醒と 安楽の支援技術	1. 苦痛の緩和・安楽への支援技術 2. 苦痛緩和・安楽への支援の実際（冷・温罨法）	講義・演習	2 2
23	終了試験	筆記試験　　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】

1）任和子ほか:系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第19版 医学書院

テキスト:

2)任和子ほか:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院

評価方法：筆記試験2回、演習・実習課題、総合して評価する。

試験（95点)、ポートフォリオ（5点）

基礎看護学方法論Ⅲの事前課題・レポート課題	
時　期	課題内容
第3・4回校内実習前課題	事前課題　「経鼻経管栄養法の方法手順と根拠」
第5回授業前課題	事前課題　テーマ「自分が排泄の支援を受けるときの気持ち」について ①看護師に「おむつにそのまましてください。」と言われたときの感情 ②してほしい支援とその理由 ③してほしくない支援とその理由

科目名　基礎看護学方法論Ⅳ　1　単位　　30　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年　前期　　担当：専任教員

基礎看護学方法論Ⅳはフィジカルアセスメントについて学ぶ内容である。

目的

適切な看護を行うために、対象者の健康状態を包括的に把握・アセスメントし、看護実践に活用できる基本的技術を学ぶ

目標

1．看護におけるフィジカルアセスメントを学習する意義について述べることができる
2．フィジカルアセスメントの概念と目的、必要性が説明できる
3．身体計測の意義と目的を理解し、身体計測が実施できる
4．バイタルサインの正確な測定方法を理解し、実施できる
5．系統別フィジカルイグザミネーションが実施できる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力・判断力）
DP．Ⅱ根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲケアする仲間と協働する力
DP．Ⅳ看護師として成長し学習し続ける力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～7	看護におけるヘルスアセスメントの技術	1．看護におけるフィジカルアセスメントの意義 2．フィジカルアセスメントの目的 3．アセスメントに臨む姿勢 4．フィジカルアセスメントに必要な基本技術の実際 問診・視診・触診・打診・聴診の技術 5．身体の計測の方法と実際 6．バイタルサイン測定の意義について 7．バイタルサイン測定―体温測定― 1）体温測定の意義 2）体温調節のメカニズムと影響因子 3）体温測定の方法 8．バイタルサイン測定―脈拍測定― 1）脈拍調節のメカニズムと影響因子 2）脈拍測定部位と測定方法 9．バイタルサイン測定―呼吸測定― 1）呼吸調節のメカニズムと影響 2）呼吸の性状と種類 3）呼吸測定の方法	講義・演習	4 6

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
		10．バイタルサイン測定―血圧測定― 1）血圧測定の意義 2）血圧調節のメカニズムと影響因子 3）血圧測定の方法 ①血圧測定の実際（触診法・聴診法） 4）事例を通したバイタルサイン測定の実際	演習	4
8 ～14	系統別フィジカルアセスメント	1．呼吸器系のフィジカルアセスメント 1）目的　2）基礎知識 3）呼吸器系の問診・視診・触診・打診・聴診 4）呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 2．循環器系のフィジカルアセスメント 1）目的　2）基礎知識 3）心臓・血管系の問診・視診・触診・打診・聴診 4）循環器系のフィジカルアセスメントの実際 3．消化器系のフィジカルアセスメント 1）目的　2）基礎知識 3）消化器系の問診・視診・触診・打診・聴診 4）消化器系のフィジカルアセスメントの実際 4．運動・神経系のフィジカルアセスメント 1）目的　2）基礎知識 3）運動・神経系の問診・視診・触診・打診・聴診 4）運動・神経系のフィジカルアセスメントの実際 5．事例を通したフィジカルアセスメントの実際	講義・演習	4 2 2 2 4
15	終了試験	筆記試験　　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】

1)任和子ほか:系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第19版 医学書院

テキスト

2)山内豊明:フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 第2版 医学書院

参考書：岡庭豊ほか：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア

評価方法：筆記試験1回、演習・実習課題、総合して評価する。
試験・レポート（95点)、ポートフォリオ（5点）

科目名　**基礎看護学方法論Ⅴ**　1　単位　　30　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年　**後期**　　担当：専任教員

基礎看護学方法論Ⅴは看護過程について学ぶ内容である。

目的

看護実践を科学的に実践するため必要な看護過程のプロセスを理解し、看護実践に活用する方法を学ぶ。また、看護実践した後に、「看護実践力向上」のためのリフレクションについて学ぶ

目標

1．看護過程の意義、構成要素について説明できる
2．対象理解のための主観的・客観的情報について説明できる
3．得た情報を科学的根拠に基づいてアセスメントできる
4．看護上の課題を明確にし、優先順位を決定できる
5．看護目標を設定し、個別性のある看護計画を立案できる
6．実践した看護の評価方法を説明できる
7．看護実践向上に必要なリフレクションについて説明できる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ　生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力・判断力）
DP．Ⅱ　根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲ　ケアする仲間と協働する力
DP．Ⅳ　看護師として成長し学習し続ける力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～2	看護過程とは	1．看護過程とは 2．看護過程の構成要素について 3．問題解決過程、クリティカルシンキングについて 4．Ⅴ．ヘンダーソンの看護論に基づく 看護過程の考え方 5．看護における気づき	講義	4
3 ～12	構成要素	1．Ⅴ．ヘンダーソンの枠組みを活用した情報の整理 2．14 基本的欲求の充足・未充足のアセスメント 3．看護上の課題（看護問題）につい 1）関連図 2）看護上の課題（看護問題）の優先順位について 4．看護計画について 1）期待される効果の明確化 2）目標設定について 3）観察項目・直接ケア計画・指導計画について 5．看護実践と評価	講義・演習	20

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
		1）看護計画の評価について 2）看護実践向上のためのリフレクションについて 6．看護記録について 1）主観・客観的情報　2）看護記録の種類 3）看護記録の書き方		
13 ～14	事例の展開	1．看護過程の実際 事例を用いた情報収集からアセスメントまで	演習	4
15	終了試験	筆記試験　　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】
1)茂野香おるほか:系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版　医学書院
テキスト
2)秋葉公子ほか:看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第 5 版 ヌ-ヴェルヒロカワ
3)江﨑フサ子ほか：ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト:第 5 版 ヌ-ヴェルヒロカワ

評価方法：終了筆記試験（50 点）課題（情報収集、アセスメント、関連図、看護計画）（45 点）
ポートフォリオ（5 点）

科目名　基礎看護学方法論VI　　1　単位　　30　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年　後期　　担当：専任教員・外来講師

基礎看護学方法論VIは看護が提供される場における看護実践について学ぶ内容である。

目的

健康障害をもつ対象者とその家族に対する基本的な看護支援の方法について学ぶ。

目標

1．臨床看護における看護師の役割が説明できる
2．健康状態における看護の方法が説明できる
3．主要症状を示す対象の看護の方法を説明できる
4．治療・処置を受ける対象者の看護の実際・支援技術の方法を説明できる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ．生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力・判断力）
DP．Ⅱ．根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲ．ケアする仲間と協働する力
DP．Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP．Ⅴ．地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～4	健康状態の経過に基づく看護	1．健康状態の経過とは（ライフサイクルも含む） 2．経過別看護 1）急性期の看護 2）回復期・慢性期の看護 3）終末期の看護	講義	8
5 ～9	主要な症状を示す対象の看護	1．呼吸に関する症状を示す対象への看護 1）メカニズムとアセスメントの視点 2）看護の実際 2．循環に関する症状を示す対象への看護 1）メカニズムとアセスメントの視点 2）看護の実際 3．栄養や代謝に関連する症状を示す対象への看護 1）メカニズムとアセスメントの視点 2）看護の実際 4．活動や休息に関連する対象への看護 1）メカニズムとアセスメントの視点 2）看護の実際	講義・演習	10

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
10 ～14	処置・治療を受ける対象の看護	1. 手術療法を受ける対象への看護 2. 集中治療を受ける対象への看護 3. 創傷処置/創傷ケアを受ける対象者への看護 4. 輸液療法を受ける対象への看護 5. 放射線療法を受ける対象者への看護	講義	10
15	終了試験	筆記試験　　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】

1)香春知永ほか:系統看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論 第 7 版　医学書院

評価方法：筆記試験 1 回、演習・実習課題、総合して評価する。

試験（95 点)、ポートフォリオ（ 5 点）

科目名　**基礎看護学方法論Ⅶ**　2単位　　45　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年　**後期**　　担当：専任教員

基礎看護学方法論Ⅶは診療の補助技術について学ぶ内容である。

目的

診察、検査・治療・処置を受ける対象に必要な支援技術を科学的根拠に基づいた方法で学ぶ。

目標

1. 与薬における看護師の役割を説明できる。
2. 薬物の特徴、正しい与薬、薬剤の管理方法を説明できる。
3. 与薬についての基礎的な知識が説明でき、与薬を原理・原則に基づいて実施できる。
4. 検査についての基礎的な知識が説明でき、検査の介助を原理・原則に基づいて実施できる。
5. 呼吸を整えるために必要な看護の実際・支援技術の方法を実施できる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力・判断力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～9	与薬の支援技術	1. 与薬の技術の基礎知識 2. 与薬における看護師の役割 3. 与薬のアセスメント　薬剤の種類と取り扱い 4. 与薬方法と効果の観察 5. 与薬の技術①　経口薬・経皮・坐薬・外用薬 6. 与薬の技術②　注射法 1）筋肉注射・皮下注射 2）静脈注射・点滴静脈注射 7. 与薬の技術の実際 1）経口薬の投与 8. 輸血管理 1）種類　2）製剤の保管　3）投与中の管理	講義・演習	4 2 2 4 4 2
10	中間試験	筆記試験　　解答・解説		2
11 ～16	検査介助に関する基礎知識	1. 生体機能の観察とは 2. 診察・検査時の看護師の役割 3. 検体検査の基礎知識と取り扱い 1）血液検査の基礎知識　2）静脈血採血 3）尿・便検査　4）喀痰 4．生体検査の基礎知識と看護の実際 1）身体侵襲を伴わない検査の特徴と看護 2）身体侵襲を伴う検査の特徴と看護 5．静脈血採血・検体の取り扱いの実際	講義・演習	8 4

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
17 ～22	吸入・吸引の実際	1. 酸素療法の基礎知識 2. 酸素療法の実際 1）排痰ケアの基礎知識 2）排痰ケアの実際 ①一時的吸引②体位ドレナージ 3. 排痰ケアの実際 4. 口腔内・鼻腔内吸引	講義・演習	8 4
23	終了試験	筆記試験　　解答・解説		1

テキスト【電子教科書】

1)任和子ほか:系統別看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版 医学書院

2)香春知永ほか:系統看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論 第 7 版 医学書院

テキスト

3)任和子ほか：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第 3 版 医学書院

評価方法：筆記試験 2 回、演習・実習課題、総合して評価する。ポートフォリオ（5 点）

科目名　**基礎看護学方法論Ⅷ**　1単位　　15　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年　**後期**　　担当：専任教員・外来講師

基礎看護学方法Ⅷは医療機器の基礎的知識、看取りの看護や創傷管理について学ぶ内容である。

目的

医療機器・処置を受ける対象者に必要な支援技術を科学的根拠に基づいた方法で学ぶ。

目標

1. 医療機器の利用目的、医療器具の原理と実際を説明できる。
2. 臨終の場に臨む看護師の姿勢と終末を迎えた対象者への支援方法を説明できる。
3. 創傷管理に必要な基礎的知識を説明できる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力・判断力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～2	医療機器の原理と実際	1. 医療機器を安全に使うために 2. 医療機器の原理と実際 3. 診断・観察に用いる医療機器 4. 医療機器を必要とする対象の看護 5. 医療機器を安全に使用するために	講義	4
3 ～4	死の看取りへの支援技術	1. 人生最後の時を支える看護師の役割と機能 2. 死にゆく心理プロセス 3. 臨終後の身体的変化 4. 死亡後の処置	講義	4
5 ～7	創傷管理技術	1. 創傷管理 1）創傷管理の意義と目的 2）創傷管理の基礎知識 3）テープによる皮膚障害 2. 創傷管理 1）創洗浄と創保護 2）包帯法	講義・演習	6
8	終了試験	筆記試験　　解答・解説		1

テキスト【電子教科書】

1)任和子ほか:系統別看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第19版 医学書院

2)香春知永ほか:系統看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論 第7版 医学書院

テキスト

3)任和子ほか:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院

評価方法：筆記試験1回、演習・実習課題、総合して評価する。

地域・在宅看護論

目　的

地域のあらゆる場で生活している人々を理解し、多職種と連携しながら在宅看護活動に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する

目　標

1　地域で暮らす人々の生活環境、文化、医療体制、社会経済、地域防災など地域特性と健康生活との関連について理解できる

2　地域・在宅看護論の目的やその対象、看護の基礎となる概念について理解できる

3　地域で生活しながら、医療的管理を必要とする人の看護の実際について学ぶ

4　臨床判断を用いた在宅療養者に必要な看護について演習を通して学ぶ

5　地域交流や行政との連携の中から地域で生活する人々の健康課題に気づき、その支援方法を学ぶ

6　国内外の地域づくりのための動向に関心をもち、地域の発展について考えることができる

7　生活者中心の支援を実現するため、多職種との連携・協働の必要性について演習を通して学ぶ

8　地域における終末期看護について理解できる

科目構成

- 地域・在宅看護論（6単位（165時間））
  - 地域の暮らしと看護（1単位（30時間））
    - 地域理解のための基礎知識
    - 豊見城市で生活する人々の健康と暮らしの理解
    - フィールドワーク・インタビューの実際
    - 地域特性から見えてきた健康と暮らしのまとめ
  - 地域・在宅看護論概論（1単位（30時間））
    - 地域・在宅看護の特徴
    - 地域で暮らす看護の対象となる生活者とその家族
    - 地域で暮らす看護の対象となる生活者を支える社会資源
    - 訪問看護の制度
    - 健康生活支援方法
  - 地域・在宅看護方法論Ⅰ（1単位（30時間））
    - 施設から在宅への移行期の看護
    - 療養上のリスクマネジメント
    - 医療処置を伴う生活支援方法と家族への管理支援
    - 在宅療養における訪問看護実践
  - 地域・在宅看護方法論Ⅱ（1単位（30時間））
    - 認知症ケアの概要
    - 認知症ケア計画
    - 認知症高齢者への対応の実際
    - 課題と展望
  - 地域・在宅看護方法論Ⅲ（1単位（30時間））
    - 地域・在宅看護実践の場と連携
    - 保健・医療・福祉システムの構造と多職種連携
    - 地域における多職種の役割と責務
    - 担当者会議に向けた準備と実践
    - 地域共生社会の今後の課題
    - 国内外の地域づくり活動
  - 地域・在宅看護方法論Ⅳ（1単位（15時間））
    - エンドオブライフケアとは
    - さまざまな生活の場での看取り
    - 意思決定支援（ACP）とは
    - 人生の最終段階を過ごす療養者の看取りの支援
- 臨地実習地域・在宅看護論
  - 地域・在宅看護論実習（2単位（90時間））
    - 地域で暮らす生活者を支える看護の意義と継続看護の必要性、多職種連携の在り方、保健・医療・福祉システムとして地域包括ケアシステムを理解するために看護活動の場と地域にある支援施設を通して地域共生社会を学ぶ実習

科目名：　地域の暮らしと看護　1　単位　30　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　1学年前期　　担当：専任教員

目的：

1．地域で暮らす人々の生活環境・地域特性が健康に与える影響を理解するためにフィールドワークを通して学ぶ

目標：

1．地域で暮らす人々の生活環境・地域特性について説明できる。
2．地域特性が地域で暮らす人々の健康と暮らしに影響を与えていることを説明できる。

卒業の認定に関する方針（DP:ディプロマポリシー）との関連
DP:Ⅰ．生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） DP:Ⅱ．根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力） DP:Ⅳ．看護師として成長し学習し続ける力 DP:Ⅴ．地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 3	地域理解のための基礎知識	オリエンテーション ・フィールドワークのための倫理的配慮 1．地域を知る 1）地域を知る意義・目的 2）地域特性・多様性（4つの「助」） 3）暮らしについて ・フィールドワークとは・インタビューの作法	講義	6
4 ～ 6	豊見城市で生活する人々の健康と暮らしの理解	2．「豊見城市の特性を調べて、人びとの生活環境や健康状態を理解する。」 1）豊見城市の歴史・文化 2）地域で暮らす人々の生活環境 3）地域特性が健康に与える影響 ・グループでの予備調査（インターネット等） 4）インタビュー先の決定	講義 演習	2 4
7 ・ 8	フィールドワーク･インタビューの準備	3．フィールドワーク・インタビューの準備 1）フィールドワークの目的・目標 2）インタビュー内容の決定 3）インタビューの練習	講義 演習	2 2
9 ～ 12	フィールドワーク･インタビューの実際	4．地域へGO！ 1）グループでインタビューの実施 2）データを整理する 3）データを分析する 4）インタビューの振り返り 5）報告会の資料作成	講義 演習	2 6

13 14	地域特性から見えてきた健康と暮らしのまとめ	５．各クラスの報告会 「地域特性が地域で暮らす人々の健康と暮らしに影響を与えていること」のテーマでプレゼンテーション	演習	4
15	健康と暮らしのあり方	レポートによる筆記試験 学年の報告会（各クラス代表）		2

テキスト：【電子教科書】河原加代子ほか：系統看護学講座　専門分野『地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論１』地域・在宅看護の基盤、医学書院

参考書：1)フィールドワークの技法　佐藤郁哉　新曜社
2)調査されるという迷惑―フィールドに出る前に読んでおく本
3)宮本常一・安渓遊地　　みずのわ出版
4)環境のモデルノロジー　中村　完　北大路書房
5)社会調査の基礎　　社会福祉士養成講座編集委員会（編）　中央法規
6)現場で育むフィールドワーク教育　増田　研・椎名　若菜（編）古今書院

評価方法：レポート（50 点）課題及び個人調査、グループワークのルーブリック評価（40 点）
ポートフォリオ（10 点）

課題

時　期	課題内容	
2～12	事前課題　ワークシートで提示 「フィールドワークとは」「私の 24 時間」「フィールドワークの準備」など	所定の用紙を配布予定

科目名：地域・在宅看護論概論　１　単位　　３０　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　１学年　後期　　担当：専任教員、外来講師

目的

１．地域・在宅看護論の特徴を理解し、地域で暮らす生活者を支えるための看護の基本を学ぶ

目標

１．地域・在宅看護論の特徴について説明できる

２．地域で暮らす看護の対象となる生活者を支える社会資源について説明できる

３．地域における健康生活支援方法をグループで考え発表できる

４．訪問看護の制度について説明できる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 2 3 4	地域・在宅看護論の特徴	オリエンテーション ビジョン・ゴール設定 １．地域・在宅看護論の特徴 １）地域・在宅看護の背景 ２）地域・在宅看護論の基本となる考え方 ３）国際生活機能分類を活用した在宅療養支援の考え方	講義 演習	4 4
5 6	地域で暮らす看護の対象となる生活者とその家族	２．地域で暮らす看護の対象となる生活者とその家族 １）地域で暮らす看護の対象となる生活者の特徴（子ども、成人、高齢者、疾患や障がいをもつ療養者） ２）地域で暮らす看護の対象となる生活者としての家族 ３）家族を支える看護とアセスメント	講義 演習	2 2
7 8 9	地域で暮らす看護の対象となる生活者を支える社会資源	３．地域で暮らす看護の対象となる生活者を支える社会資源 １）介護保険制度 ２）居宅介護支援事業所の役割 ３）社会資源の活用 ４）地域包括ケアシステムの概要 ５）後期高齢者保険制度、障がい者、子どもに関する制度	講義	4

		6）医療保険制度 7）自助、互助、共助、公助の意義と役割	演習	2
10 11 12	健康生活支援方法	4健康生活支援方法 1）地域特性を踏まえた健康生活支援とは 2）「地域の相談室」をつくり発表 3）地域で暮らす人々を支える支援を考える	演習	6
13 14	訪問看護制度	5．訪問看護の制度 1）訪問看護の変遷 2）訪問看護サービスの仕組みと提供 3）訪問看護の実際	講義 演習	2 2
15	終了試験	筆記試験・解答・解説		2

テキスト：【電子教科書】
1)河原加代子ほか：系統看護学講座　専門分野『地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論１』
2)『地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論２』　医学書院,

参考書：　1)上田敏：ICF（国際生活機能分類）の理解と活用、きょうされん、2009

評価方法：終了筆記試験（50 点)。課題レポート（40 点)。ポートフォリオ（10 点）

課題

時　期	事前課題内容	
第 5 回講義前	・小児期の対象者、成人期の対象者、老年期の対象者の特徴についてまとめる	第１回の講義時に詳細を説明する

時　期	事後課題内容	
第 11、12 回の演習後	課題レポート 「地域で暮らす人々を支える支援について地域の相談室から考えたこと」	詳細については、演習後に説明する

科目名　地域・在宅看護方法論Ⅰ　1単位　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　2学年　前期　　担当：専任教員、外来講師

目的：

地域で療養する人とその家族の生活を支える知識・技術・態度を学ぶ

目標：

1．療養生活を支える継続看護の特徴と役割について説明できる
2．発達段階における暮らしの場のリスクマネジメントも考え、環境づくりの必要性を説明できる
3．平時の防災力に備える支援と災害時の支援方法について理解できる
4．療養生活において医療的管理を必要とする人と家族への看護実践方法が説明できる
5．事例を通して、ICFを活用した支援方法を考え、演習で実践ができる
6．初回訪問看護の場面から臨床判断能力について考え、実践し、リフレクションできる

卒業の認定に関する方針（DP:ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ．生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ．根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ．ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ．看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ．地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	地域のおける訪問看護師の活動と生活支援	1．オリエンテーション 2．地域における訪問看護師の活動と生活支援を理解できる	講義	2
2	施設から在宅へ移行期の看護	1．在宅療養者の生活を支えることについて考える 1）在宅における継続看護の特徴を理解する 2）療養生活において医療的管理を必要とする人と家族の看護支援方法を考える	講義	2
3		2．在宅療養者の生活環境について考える 1）ICFを活用し、事例の生活背景・全体像を整理できる。 2）継続して療養することを支える看護について考える	講義	2
4	療養上のリスクマネジメント	1．安全に暮らすための視点と工夫① リスクマネジメント	講義	2
5		2．安全に暮らすための視点と工夫② 平時の防災力に備える生活支援	講義	2

6	医療処置を伴う生活支援方法と家族への支援	1．栄養摂取方法と家族への管理支援 1）経鼻経管栄養法・胃瘻からの栄養方法 2）家族への管理支援	講義	2
7		2．呼吸器疾患療養者の呼吸器管理と生活支援 1）在宅酸素・非侵襲的陽圧換気療法 2）在宅人工呼吸器管理・排痰補助装置	講義	2
8		3．呼吸器疾患療養者の呼吸器管理と生活支援 1）排痰のケアと家族指導 （吸引・ガーゼ交換・気管切開チューブ交換と管理）	演習	2
9		4．排泄管理支援方法と家族への管理支援 ・自己導尿支援方法と管理 ・膀胱留置カテーテルの管理	講義	2
10		5．排泄管理支援方法と家族への管理支援 ・膀胱留置カテーテルの管理 ・褥瘡管理	演習	2
11	在宅療養における訪問看護実践	1. 事例を通して訪問看護師の臨床判断能力を学ぶ	講義	2
12		2. 事例を通して生活を継続するための療養環境から看護支援方法を考える　初回訪問準備	講義 演習	2
13 14		3. 訪問看護の実践と発表　　まとめ	演習 演習	4
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト：【電子教科書】1)河原加代子ほか：系統看護学講座　専門分野『地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論２　』第６版. 医学書院.

参考書：1)押川眞喜子他　写真でわかる訪問看護アドバンス　インターメディカ（新訂版）
2)地域療養を支えるケア：ナーシンググラフィカ　（第５版第３刷）
3)篠崎恵美子ほか『事例から学ぶ地域・在宅看護論』医学書院.
4)高橋恵子　まんが『家でのこと』医学書院，2021.

評価方法：筆記試験（50 点）事前事後の課題提出（50 点）

課題

地域･在宅看護方法論Ⅰ　事　前　課　題		
時　期	**課　題　内　容**	**評価･配点**
第１回 講義時	地域･在宅看護論概論の授業で学んだ「社会資源･訪問看護制度」など、これから訪問看護師が関わる制度について想起し、単元理解につなげる	一問一答　10 問 **配点：10 点**
第 12 回 終了後	初回訪問時に使用するグループで作成した資料	**資料：10 点**
第 13･14 回 講義時	初回訪問時の演習を通し、授業の学びを活かすことができる	**演習発表：　30 点**

科目名　地域・在宅看護方法論Ⅱ　　1単位　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　　2学年　　前期　　担当：専任教員、外来講師

目的
地域で暮らす人々の健康生活支援方法について学ぶ。
目標
1．行政（地域包括支援センター等）の認知症理解に向けた取り組みが説明できる
2．認知症への理解を促すための取り組みを発表し地域で暮らす人々へも発信することができる

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ．生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ．根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ．ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ．看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ．地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1〜6	認知症ケアの概要	1. オリエンテーション、ビジョン・ゴールの設定 2. 認知症ケアの概念および考え方 3. 認知症施策（オレンジプラン、新オレンジプラン、認知症施策推進大綱等） 4. 認知症・高齢者の居場所づくり 5. 認知症高齢者への対応のポイント 6. 認知症のある人を見守る地域づくり	講義 演習	12
7〜8	認知症ケアの実際	1. 地域包括支援センターにおける認知症支援 2. 地域における認知症カフェの取り組みの実際 3. 認知症者も暮らしやすい地域づくり	講義 演習	4
9〜11	認知症への理解の促進を促す取り組み	1. 『認知症の方も暮らしやすい地域づくり』の発表 2. 『認知症への理解の促進を促す取り組み』の企画	演習	6
12〜14	地域における認知症者支援	1.『認知症への理解の促進を促す取り組み』の発表 2.認知症当事者の思い 3.認知症になっても安心して過ごせる地域づくりに必要なこと	演習	6
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

参考書：【電子教科書】
1)老年看護学　医学書院　　認知症ケアガイドブック　照林社：　認知症 plus　地域共生社会　日本看護協会出版会

評価方法：1．筆記試験（50点）　課題レポート評価（40点）ポートフォリオ（10点）

時期	事後課題
14回	レポート　「認知症者を支える地域づくりのために私ができること」 講義時間内に課題に取り組む（詳細は講義時に説明する）

科目名　地域・在宅看護方法論Ⅲ　　1単位　30時間　　教員の実務経験有

受講年次：　2学年　　後期　　担当：専任教員、外来講師

目的：
多職種の役割、責務、専門性を理解し、地域における多職種連携の基本的な考え方、協働を図る必要性、連携・協働方法について事例を通して学ぶ。

目標：
1. 地域における多職種連携の考え方と必要性について説明できる
2. 保健医療福祉の連携に関わる主な職種と各職種の役割が説明できる
3. 事例を通して課題解決のために必要な職種と模擬カンファレンスを体験できる

卒業の認定に関する方針（DP:ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ. ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ. 看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ. 地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	地域・在宅看護実践の場と連携	1. オリエンテーション 2. 他職種と支える地域の暮らし	講義 演習	2
2	保健医療福祉システムの構造と多職種連携の推進	1. 多職種連携の変遷・背景 2. 多職種連携における専門職連携教育	講義 演習	2
3～10	地域における多職種の役割と責務	1．理学療法士の役割、責務、専門性、活動の特性 2．作業療法士の役割、責務、専門性、活動の特性 3．社会福祉士の役割、責務、専門性、活動の特性 4．精神保健福祉士の役割、責務、専門性、活動の特性 5．管理栄養士の役割、責務、専門性、活動の特性 6．薬剤師の役割、責務、専門性、活動の特性 7．難病を抱えながらも暮らす　～チーム連携～ 8．訪問診療医師の役割、責務、専門性、活動特性	講義 演習	2
11	担当者会議に向けた情報整理と準備	1. 担当者会議に向けた準備 （課題解決に向けた会議の運営方法）	講義 演習	2
12	担当者会議の実際	1. 担当者会議の実際（模擬カンファレンス体験）	演習	2
13	地域共生社会の今後の課題	1．保健医療福祉専門職との連携の課題	講義 演習	2
14	国内外の地域づくり　活動	1．国内外で活躍する看護師の地域づくり活動について	講義 演習	2
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト：【電子教科書】1)河原加代子ほか：系統看護学講座　専門分野　『地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論Ⅰ』『 地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論Ⅱ』第6版　医学書院.
参考書：1)篠崎恵美子ほか 事例から学ぶ地域・在宅看護論　医学書院.
2)渡辺裕子監修ほか　家族看護を基盤とした地域・在宅看護論　第５版，日本看護協会出版会，2021

評価方法：　**１．課題レポート　（20 点）**
２．グループ活動評価　①成果物評価（15 点）　グループ学習参加状況（15 点）
３．筆記試験（50 点）

1.課題レポート

地域・在宅看護論Ⅲ	
時　期	タ　イ　ト　ル
１．事前学習課題 （第 1 回講義前）	「地域の暮らしを支える医療福祉専門職とは」 （A4 用紙　word 作成　文字数 800 文字）
地域・在宅看護論Ⅲ	
時　期	タ　イ　ト　ル
２．グループ成果物 **（第１3 回授業終了後）**	「　寅蔵さんを支援するための具体案　」 **担当者会議終了後修正し提出**

科目名：　地域・在宅看護方法論Ⅳ　1　単位　15　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　3学年前期　　担当：専任教員　外来講師

目的

1．施設や在宅で人生の最終段階を過ごす人間のその人らしく生きる生き方とその家族へのケアについて事例を通して学ぶ。

目標

1．人間の尊厳とは何かを考え、人生の最終段階にある人を支えるケアの意義を説明できる

2．看取りをする家族および遺族ケア（グリーフケア）のあり方について説明できる

3．死を巡る倫理的課題を理解し、看護の役割、包括的指示に基づく看護の責任、職業倫理に基づく行動決定の方法がわかる。

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）との関連
DP.Ⅰ．生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP.Ⅱ．根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP.Ⅲ．ケアする仲間と協働する力
DP.Ⅳ．看護師として成長し学習し続ける力
DP.Ⅴ．地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	エンドオブライフケア	1.オリエンテーション 2．在宅におけるエンドオブライフケア 1）在宅におけるエンドオブライフケアの時期 (1)医療機関から在宅等への移行支援 (2)終末期前期・中期・後期の看護 (3)家族に対する看護	講義	2
2	「さまざまな生活の場での看取り」	1．さまざまな生活の場での看取り 1）自宅での看取り 2)施設（看多機、グループホーム）での看取り	講義	2
3	意思決定支援	1．意思決定支援（ACP）とは 1）アドバンス・ケア・プランニング 2）尊厳死とリビングウェル（事前指示書） 3）グリーフケア	講義	2
4 ・ 5	人生の最終段階を過ごす人とその家族の支援	1.地域で人生の最終段階を過ごす人とその家族の支援方法　（あらゆる世代の対象） 1）在宅等で疼痛コントロールを行う時の基本的な考え方 2）全人的苦痛と疼痛アセスメント 3）症状緩和 4）家族の心理状態 5）介護負担の軽減	講義	2

6 ・ 7	人生の最終段階を過ごす療養者の看取りの支援	1．在宅等で人生の最終段階を過ごす人の事例を通した「看取り」の支援 1）事例　終末期の療養者に対する看護 2）事例の支援について発表	講義 演習	2 2
8	試験	筆記試験		1

テキスト：【電子教科書】

1)河原加代子ほか：系統看護学講座　専門分野　『地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論Ⅰ』

2)『 地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論Ⅱ』第6版　医学書院

参考書：1)地域療養を支えるケア：ナーシンググラフィカ

2)地域・在宅看護論　　メヂカルフレンド社

3)生活を支える看護　日本看護協会出版

4)在宅・自宅での看取りのケア　　日本看護協会出版

5)よくわかる在宅看護　　Gakken

6)家族看護を基盤とした地域・在宅看護論　日本看護協会出版

評価方法：1、筆記試験（50点）、2、課題・レポート・個人ワーク・グループワークのルーブリック評価（50点）

課題

時　期	課題内容	
1	事例を読んで質問に答え、(事例の疾患学習・サービスの利用)、施設の特徴について調べる	事前課題あり
1～6	事例に合わせて、看護師の臨床判断を考える 事例についてICFに情報を整理する。情報をアセスメントする。 支援マップを用いて事例についてまとめる	第1回目の講義の中で提示あり
7	課題レポート「地域で最後まで生きるために大切なこと」 レポートとして提出	レポートの条件は講義の中で提示

成人看護学

目　的

成人期にある対象の特徴を理解し、あらゆる健康段階にある対象に応じて健康上の課題を総合的に捉え、支援できる基礎的知識､技術､態度を習得する。

目　標

1　成人各期の対象の成長発達および発達課題を述べる。

2　成人保健の動向及び保健活動の実際を通して、健康生活の保持･増進活動を理解し述べる。

3　成人期にある対象を取り巻く環境によって健康に及ぼす要因がわかり、対象の健康課題について述べる。

4　保健医療福祉チームの一員としての自覚がもて、成人看護の役割を述べる。

5　あらゆる健康段階にある成人期の対象に応じた看護の展開を実践できる基礎的能力を身につける。

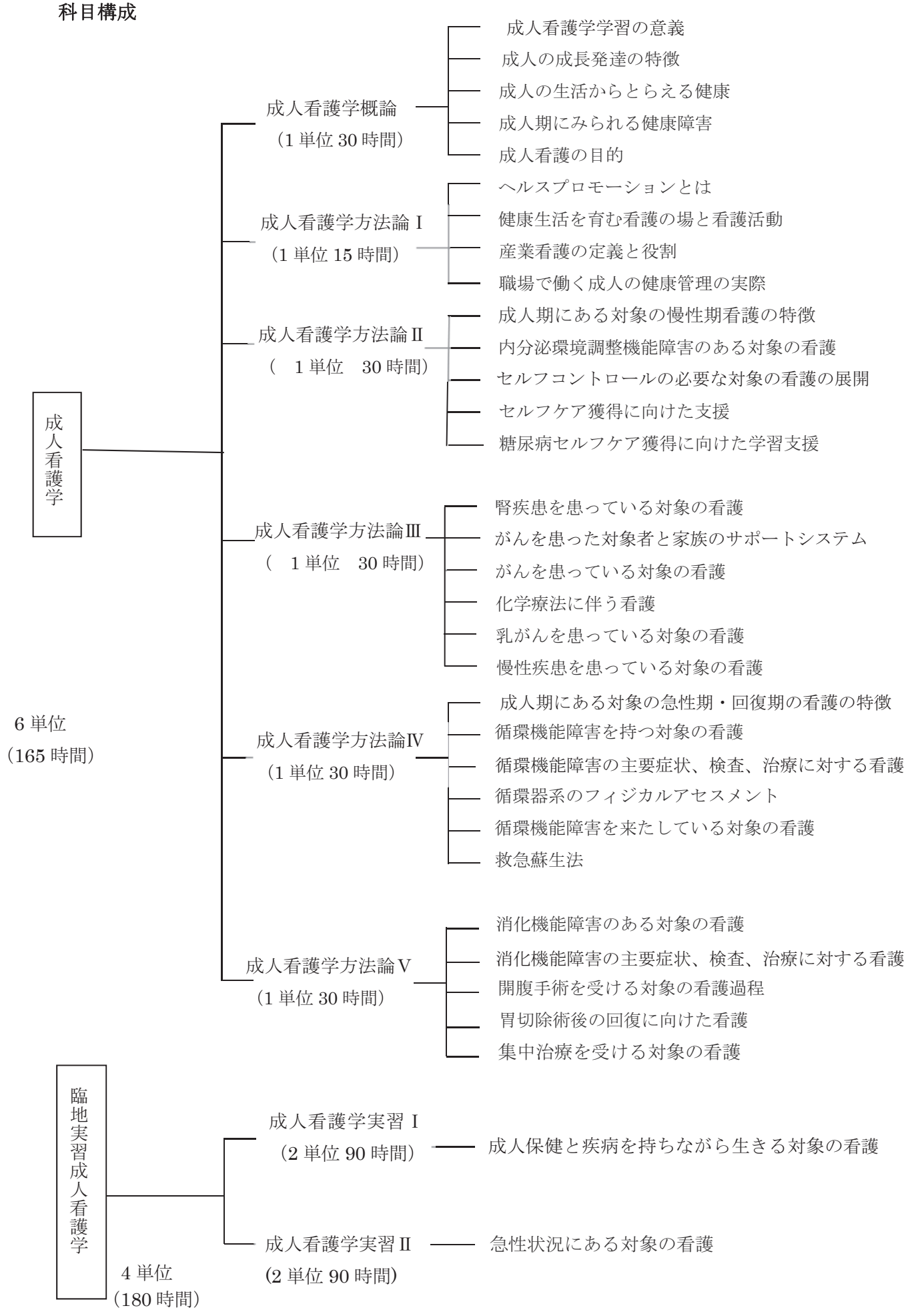
6　成人期に発症しやすい健康障害を予防し、健康の保持･増進等、健康課題達成に向けた学習支援が実践できる基礎的能力を身につける。

7　対象とのより良い人間関係を深め、個別に応じた看護を実践するとともに、対象の意思決定を尊重した倫理的行動がとれる。

8　対象者が受けている検査・治療･処置を理解し、インフォームドコンセントを重視した基礎的支援技術を行う。

9　自己の看護実践を振り返り評価し、看護実践の向上に向けた行動を行う。

科目構成


成人看護学
6 単位
（165 時間）
成人看護学概論
（1 単位 30 時間）
成人看護学学習の意義
成人の成長発達の特徴
成人の生活からとらえる健康
成人期にみられる健康障害
成人看護の目的
成人看護学方法論 I
（1 単位 15 時間）
ヘルスプロモーションとは
健康生活を育む看護の場と看護活動
産業看護の定義と役割
職場で働く成人の健康管理の実際
成人看護学方法論 II
（ 1 単位 30 時間）
成人期にある対象の慢性期看護の特徴
内分泌環境調整機能障害のある対象の看護
セルフコントロールの必要な対象の看護の展開
セルフケア獲得に向けた支援
糖尿病セルフケア獲得に向けた学習支援
成人看護学方法論Ⅲ
（ 1 単位 30 時間）
腎疾患を患っている対象の看護
がんを患った対象者と家族のサポートシステム
がんを患っている対象の看護
化学療法に伴う看護
乳がんを患っている対象の看護
慢性疾患を患っている対象の看護
成人看護学方法論Ⅳ
（1 単位 30 時間）
成人期にある対象の急性期・回復期の看護の特徴
循環機能障害を持つ対象の看護
循環機能障害の主要症状、検査、治療に対する看護
循環器系のフィジカルアセスメント
循環機能障害を来たしている対象の看護
救急蘇生法
成人看護学方法論Ⅴ
（1 単位 30 時間）
消化機能障害のある対象の看護
消化機能障害の主要症状、検査、治療に対する看護
開腹手術を受ける対象の看護過程
胃切除術後の回復に向けた看護
集中治療を受ける対象の看護
臨地実習成人看護学
4 単位
（180 時間）
成人看護学実習 I
（2 単位 90 時間）
成人保健と疾病を持ちながら生きる対象の看護
成人看護学実習 II
(2 単位 90 時間)
急性状況にある対象の看護

教員の実務経験有

科目名　成人看護学概論　　１　単位　　３０　時間

受講年次：　１学年　後期　　担当：専任教員・外来講師

目的

成人看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開するために、成人期の対象の発達段階、生活と健康の視点からの健康課題、看護の目的･役割を学ぶ。

目　標

1　成人各期の成長発達および発達課題について述べることができる。
2　成人をとりまく環境から成人の生活を説明することができる。
3　成人期にみられる健康障害について成人期の特徴と関連させ述べることができる。
4　成人期にある対象を看護するための目的と役割を述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力

回	単元	学習内容	授業方形態	時間
1	成人看護学学習の意義	1. ガイダンス 2. 専門分野Ⅰ(基礎看護学)と成人看護学の関連 3. 成人看護学の学習の方向性	講義	2
2～4	成人の成長発達特徴	1. 成人の理解の視座 2. 成人の心身の特徴と変化 3. ライフサイクルからみた成人期の特徴と発達課題	講義・演習	6
5～7	成人の生活からとらえる健康	1. 成人の生活 2. 成人期の健康観､生き方 3.“疾患”“病い”“病気”とは何か	講義・演習	6
8～9	成人期にみられる健康障害	1. 生活習慣と健康障害との関連 2. 職業に関連する健康障害 3. 生活ストレスに関する健康障害 4. 生活習慣と依存症	講義	4

10 ～ 14	成人看護のアプローチの基本	1. 成人の学習 セルフケア向上への支援①(コンプライアンス、アドヒアランス、コンコーダンス) 2. セルフケア向上への支援②(自己効力、エンパワメント) 3. 慢性疾患を抱える対象の看護(病みの軌跡) 4. 危機的状況にある成人への看護介入(フィンクの危機理論) 5. ケーススタディを通して学習の統合を図る(まとめ)	講義・演習	10
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】:
1)林直子ほか：成人看護学概論（改訂第 5 版), 南江堂, 2025.

参考書:
1)安酸史子他：ナーシング・グラフィカ　成人看護学概論　メディカ出版　2023 年版

評価方法：終了筆記試験（85%）課題レポート（15%）

【事前・事後課題】

時期	課題内容
第２回目　講義前	インタビューレポート有り。テーマ：「15～20 歳前半の頃の自分と比較して、実感している変化～身体的・精神的・社会的な側面から～」
第５回目　講義前	インタビューレポート有り。テーマ：「「私の周りにいる大人 成人期から社会でどのように健康 と向き合っているか」
第９回目　講義前	以下の内容についてテキスト、他の文献を読み授業に臨む。 依存症：喫煙問題、飲酒問題
第９回目　講義後	課題レポート：聴講後の所感を提出する

教員の実務経験有

科目名　成人看護学方法論Ⅰ　1　単位　　１５　時間

受講年次：　2学年　前期　　担当：専任教員・外来講師

成人看護学方法論Ⅰは健康生活と保健を学ぶ内容である。

目的

働く成人の健康障害と産業看護の役割を理解するために成人期にある人々の健康生活、保健・医療・福祉チームの連携･協働の必要性を学ぶ。

目　標

1　ヘルスプロモーションの定義がわかり、活動のプロセスと方法を述べることができる。
2　成人看護の活動の場と看護活動について述べることができる。
3　産業看護の定義と役割について述べることができる。
4　職場で働く成人にみられる健康障害と健康管理の実際について述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	ヘルスプロモーションとは	1. ガイダンス 2. ヘルスプロモーションの定義 3. ヘルスプロモーションの目標 4. ヘルスプロモーションの活動と方法 5. 成人期における健康管理と地域包括ケアシステム	講義・演習	2
2	健康生活を育む看護の場と看護活動	1. 地域における看護活動 2. 職場における看護活動 3. 社会福祉施設における看護活動 4. 医療機関における看護活動	講義・演習	2

3 ～ 4	産業看護の定義と役割	1．労働衛生 2．職業に関連する健康障害 1）職業性疾病と予防 2）作業関連疾患 3）メンタルヘス・ストレスチェック 3．　産業看護の実際	講義	4
5 ～ 7	職場で働く成人の健康管理の実際	1．社会で働く成人期の人々の健康問題と健康管理方法を考える 1)グループ発表に向けての準備 2)グループ発表を行ない学びの共有をおこなう ・テーマ「働く成人の健康問題と産業看護の役割」 2．法的根拠に基づいた健康管理方法を考える	演習	6
8	終了試験	筆記試験　解答・解説		1

テキスト【電子教科書】： 1)林直子他：成人看護学概論（改訂第 5 版），南江堂，2025.

参考書：1)【電子教科書】香春知永他：臨床看護総論（第 7 版）医学書院,2025.

2)【電子教科書】神馬征峰他：公衆衛生　健康支援と社会保障制度②　医学書院　2025 年版

3）国民衛生の動向　2025 年版

評価方法：終了筆記試験（80 点)。レポート（20 点)。

【事前課題】

時期	課題内容
第 1 回講義	個人で事業所見学を行い、テーマに沿ってレポートでまとめる。 テーマ「職場環境と職業に関連する健康問題と支援システム」

教員の実務経験有

科目名　　成人看護学方法論Ⅱ　1単位　　30時間

受講年次：　2学年　前期　　担当：専任教員・外来講師　　－

成人看護学方法論Ⅱは疾病を持ちながら生きる対象の看護を学ぶ内容である。

目的

疾病を持ちながら生きる対象者とその家族の思いや生活、治療過程を理解するために、セルフケアを伴う社会生活を支える看護支援方法を学ぶ。

目　標

1　内部環境調節機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べることができる。
2　疾患の症状､検査､治療及び看護の方法を理解し基本的支援技術の方法を述べることができる。
3　糖代謝機能障害に応じた改善、調整､悪化防止のための支援方法を述べることができる。
4　個別性を考慮した学習支援の方法を実施することができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	成人期にある対象の慢性期の看護の特徴	1. ガイダンス 2. 成人期にある対象の慢性期の看護	講義	2
2	内部環境調節機能障害のある対象の看護	1. 内部恒常性機能を保つ機能とは 2. 身体的課題 3. 精神的・社会的課題と特徴 4. 甲状腺機能亢進症患者の事例検討	講義・演習	2
3	糖尿病看護	1.　糖尿病を患う看護の特徴	講義・演習	2

4 ～ 8	セルフコントロールの必要な対象の看護の展開	1．2 型糖尿病を患っている対象の看護展開 1)アセスメント 2)看護上の課題 3)看護計画立案 4)実施 5)評価	講義・演習	10
9 ～ 12	セルフケア獲得に向けた支援	1.フットケア 1)足の診察 2)フットケアの実際 2.インスリン自己注射法 1)インスリンの取り扱い 2)注射器の取り扱い 3)注射部位・注射方法 3.自己血糖測定 1)自己血糖測定器の取り扱い 2)血糖測定の方法	演習	8
13 ～ 14	糖尿病セルフケア獲得に向けた学習支援	1．学習支援 1)教育支援計画立案 2) 教育支援計画書及び指導内容の発表 2．看護過程のまとめ	演習	4
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】:

1)吉岡成人ほか：系統看護学講座，成人看護学⑥　内分泌・代謝　医学書院，2025.

2)鈴木久美ほか：成人看護学、慢性期看護Ⅰ（改訂第 4 版），南江堂，2025.

3)林 直子ほか：成人看護学概論（改訂第 5 版），南江堂，2025.

参考書：1)宮川晴妃：メディカルフットケアの技術　看護協会出版

2)上田千恵子監修：クリニカルガイド患者指導　学研

評価方法：**筆記試験　55%、看護過程　40%、ピア評価　5%**

【事前課題】

時期	課題内容
第４−５回目　校内実習前	【事前課題】 1.内容：指定されたシート「2 糖尿病を患っている対象のアセスメント」について、自己学習を行い４-5 回に臨むこと。事前課題は４-5 回に持参すること。
第６−８回目　講義前	・看護過程の講義開始後に提示する。

第9-１０回目　講義前	・テキストのフットケアに関する内容を読んで臨む。 ・課題の追加があれば掲示する。
第１０-１１回目　講義前	・テキストのインスリン、自己血糖に関する内容を読んで臨む。 ・課題の追加があれば掲示する。
第１４回目　講義前	・各自で教育支援計画書とパンフレットを完成させてロールプレイに臨む　※詳細は看護過程の講義開始後に提示する。

教員の実務経験有

科目名　　成人看護学方法論Ⅲ　1単位　　30時間

受講年次：　2学年　前期　　担当：専任教員・外来講師

成人看護学方法論Ⅲは疾病を持ちながら生きる対象の看護を学ぶ内容である。

目的

疾病を持ちながら生きる対象者とその家族の思いや生活、治療過程を理解するために、セルフケアを伴う社会生活を支える看護支援方法を学ぶ。

目　標

1　不可逆性の腎機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べることができる。
2　慢性疾患（肝硬変、慢性膵炎）を有する身体的、精神的、社会的特徴について述べることができる
3　がんを患っている対象の看護の特徴と課題について述べることができる。
4　化学療法に伴う看護の方法を述べることができる。
5　乳がんを患っている対象の看護の方法を述べることができる。
6　がん対象者と家族の社会資源の活用について述べることができる。
7　生と死について考え､疾病を持ちながら生きる対象者の看護の役割を述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1～6	腎疾患を患っている対象の看護	1. ガイダンス 2. 慢性腎不全を来たした対象の看護 1）看護展開 3. 透析導入期の看護 1）治療選択期 4. 透析維持期の看護 1）実際の透析療法 (1) 血液・腹膜透析を受けている対象者の看護 5.外来通院をしている対象の看護 1）長期間透析を受けている対象の社会的特徴と支援方法 6. 透析ワークシート	講義	12
7	がんを患っている対象の看護	1. がん看護の特殊性 2. QOLを高める支援 3. 治療経過の中での終末期にある対象の看護	講義	2

8	がん治療に伴う看護	1. 化学療法を受ける対象への看護 1）抗がん薬暴露防止の実際	講義	2
9	乳がんを患っている対象の看護	1. 看護の実際	講義	2
10 ～ 11	がんを患った対象と家族 のサポートシステム	1. 乳がん検診の普及啓発にむけて 1）医療者チームのサポート活動 2. 当事者（乳がん）の体験談	講義	4
12 ～ 14	慢性疾患を患っている対象の看護	1. 肝硬変・肝がんを来した対象の看護 2. 慢性膵炎・膵がんを来した対象の看護	講義	6
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】:

1)末岡 浩ほか:系統看護学講座　成人看護学⑨　女性生殖器（改訂第16版）医学書院，2025.

2)鈴木久美ほか：成人看護学、慢性期看護（改訂第4版），南江堂，2025.

3)林 直子ほか：成人看護学概論（改訂第5版），南江堂，2025.

参考書：1)小松浩子ほか：系統看護学講座　がん看護学　医学書院,2022.

評価方法：終了試験　筆記試験（60点）　レポート・ワークシート（40点）

【事前課題】

時期	課題内容
第2回目講義	・フィジカルアセスメントワークブックを活用して腎臓の形態と機能について読み返す
第12‐14回目講義	・フィジカルアセスメントワークブックを活用して肝臓・膵臓の形態と機能について読み返す

教員の実務経験有

科目名　成人看護学方法論Ⅳ　　1単位　　30時間

受講年次：　2学年　後期　　担当：専任教員・外来講師

成人看護学方法論Ⅳは生命の危機的状況にある対象の看護を学ぶ内容である。

目的

急性期や周手術期にある人の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のために看護支援方法を学ぶ。

目　標

1　成人期にある対象の急性期から回復期の看護の特徴と看護の役割について述べることができる。
2　循環機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べることができる。
3　循環機能障害時の主要症状、検査、治療に対する看護の方法を述べることができる。
4　循環機能障害を来している対象の看護の方法を述べることができる。
5　一次救命処置の正しい方法を実践することができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 2	成人期にある対象の急性期、回復期の看護の特徴	1．ガイダンス 2．成人期にある対象の急性期から回復期にある看護の特徴	講義	4
3	急性期看護の特徴Ⅰ	1．救急看護	講義	2
4 ～ 5	急性期看護の特徴Ⅱ	1．術前看護 2．術中看護	講義 演習	4
6	循環器系のフィジカルアセスメント	1．フィジカルイグザミネーション 1)胸部（心臓・血管）のフィジカルイグザミネーション	講義 演習	2
7 ～ 8	循環機能障害を来している対象の看護	1．慢性心不全の急性増悪（内科的な治療） 2．心臓リハビリテーション	講義	4

9 ～ 12	循環機能障害の主要症状、検査、治療に対する看護	１．虚血性心疾患の看護 ・心臓外科バイパス術前後の看護 ２．検査に伴う看護 1)心電図の基礎的知識 2)致死的不整脈とその読み方 ３．心臓カテーテル法を受ける対象の看護 ４．治療・処置に伴う看護 1)ペースメーカーを装着した対象の看護 2)冠状動脈インタベーション（PCI）の看護 ５．薬物療法時の看護	講義 演習	8
13 ～ 14	救急蘇生法	1．一次救命処置の実際（BLS、止血法）	演習	4
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】:

1)吉田俊子ほか：系統看護学講座，成人看護学③　循環器　医学書院，2025.

2)林 直子ほか：成人看護学、急性期看護Ⅰ（改訂第4版），

3)林 直子ほか：成人看護学概論（改訂第5版），南江堂，2025.

評価方法：終了試験：筆記試験（100%）

教員の実務経験有

科目名　成人看護学方法論Ⅴ　　1単位　30時間

受講年次：　2学年　後期　　担当：専任教員・外来講師

成人看護学方法論Ⅴは生命の危機的状況にある対象の看護を学ぶ内容である。

目的

急性期や周手術期にある人の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のために看護支援方法を学ぶ。

目　標

1　成人期にある対象の急性期から回復期の看護の特徴と看護の役割について述べることができる。
2　消化機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べることができる。
3　消化機能障害の主要症状、検査､治療に対する看護の方法を述べることができる。
4　胃がんの対象に応じた看護の展開方法を述べることができる。
5　術後合併症予防と術後清潔ケアの支援を実践することができる。
6　集中治療を受ける対象者への看護の役割について述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力

回	単元	授業内容	授業形態	時間
1 ～ 3	消化機能障害のある対象の看護（1）	1．ガイダンス 2．消化機能障害が対象に与える影響 1）主要症状に対する看護 2）検査に伴う看護 3）治療処置に伴う看護 3．周手術期の看護	講義	6
4 ～ 5	消化機能障害の主要症状、検査、治療に対する看護（2）	1．人工肛門の管理 1）専門外来看護の役割	講義 演習	4
6 ～ 8	胃切除術後の回復にむけた看護（1）（術後の看護）	急性期にある対象者の看護過程（1） 1．アセスメント 2．看護上の課題 3．計画立案 4．実施 5．評価	講義 演習	6

9 ～ 10	消化機能障害の主要症状、検査、治療に対する看護（3）	1. 集中治療を受ける対象者への看護 2. 胃がん術後の看護	講義	4
11 ～ 12	胃切除術後の回復にむけた看護（2）（術後の看護）	1．離床の支援 1) 合併症予防と離床の支援における看護の役割 2) 術後の対象者（点滴がある）への寝衣交換の支援	演習	4
13 ～ 14	胃切除術後の回復にむけた看護（3）（術後の看護）	急性期にある対象者の看護過程（2） 1. アセスメント 2. 看護上の課題 3. 計画立案 4. 実施 5. 評価	講義 演習	4
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】:

1) 吉田俊子ほか：系統看護学講座，成人看護学③　循環器　医学書院，2025.

2) 南川雅子ほか：系統看護学講座，成人看護学⑤　消化器　医学書院，2025.

3) 林直子ほか：成人看護学、急性期看護Ⅰ（改訂第 4 版），概論・周手術期看護　南江堂，2025.

4) 林 直子ほか：成人看護学概論（改訂第 5 版），南江堂，2025.

評価方法：終了試験：筆記試験（60 点）、レポート・ワークシート（40 点）、

【事前課題】

時期	課題内容
第 4 回目講義	大腸がんの病態について調べる
第 6-8 回目講義	「術後合併症・術後の生体反応」について事前学習ワークシートを活用して調べる
第 12 回目講義 校内実習：「離床の支援」	「離床の支援」について事前学習ワークシートを活用して調べる

老年看護学

目　的

老年期にある対象を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた看護を実践できる基礎的な知識、技術、態度を習得する。

目　標

1　ライフサイクルのなかで老年期をとらえ、高齢者の特徴とその健康生活を理解する。

2　保健医療福祉制度の変革を知り、老年看護に与える影響や課題について理解する。

3　老年看護の機能と役割について理解する。

4　生活機能の観点からアセスメントし看護を展開できる方法を習得する。

5　高齢者の特徴をふまえた、日常生活支援方法の基礎的な知識､技術､態度を習得する。

6　高齢者の健康段階、健康障害に応じた看護の方法を理解する。

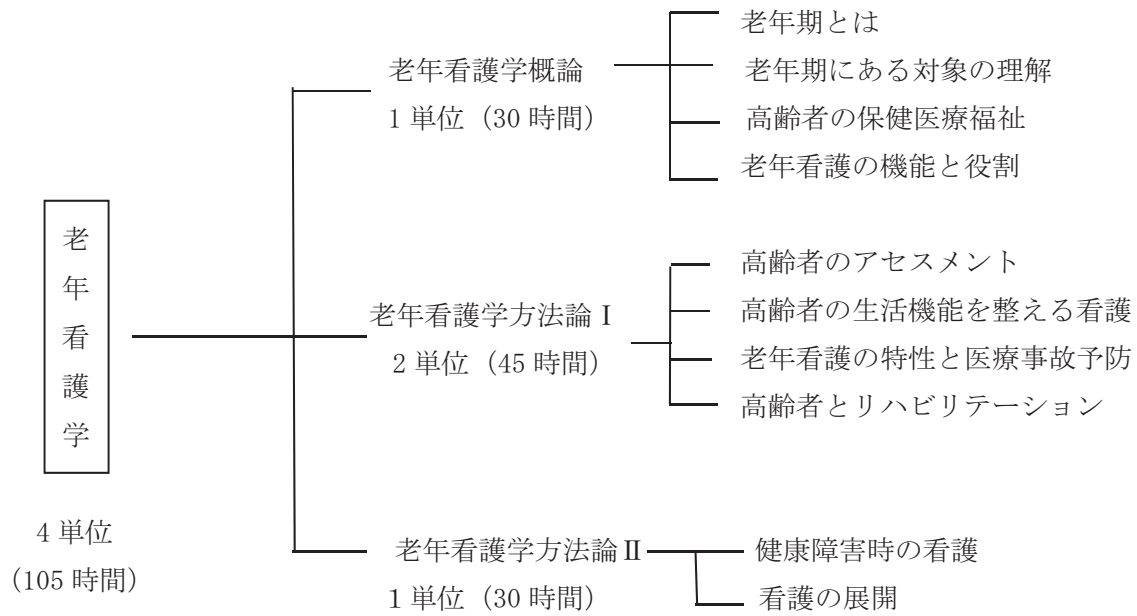
7　老年看護の特性と医療事故予防について理解し安全な技術を実践できる能力を養う。

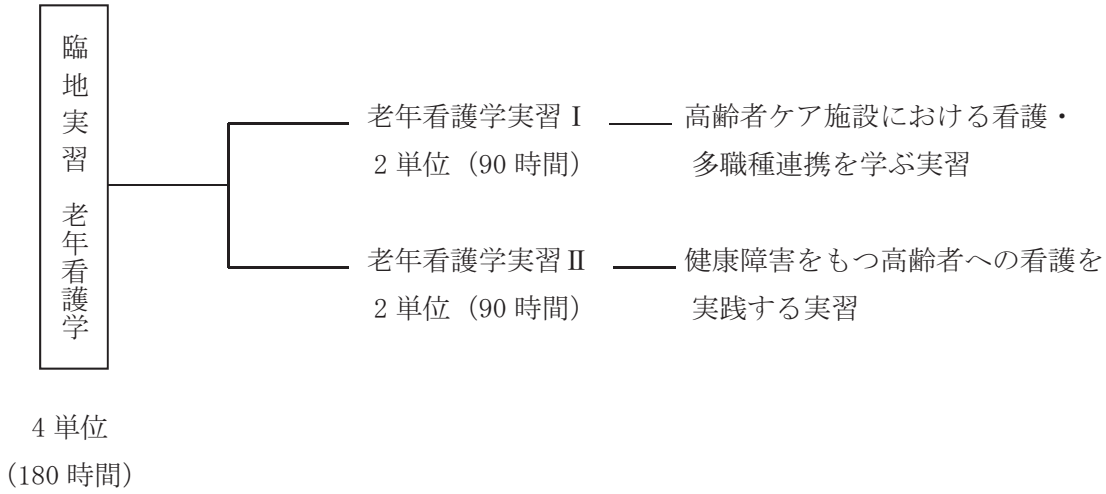
8　高齢者の生活を支える多職種との連携や協働について理解する。

9　対象の生活史を理解し、人格、信条、価値観を尊重した行動をとることができる。

10　自己の行動を振り返り、課題を明確にして取り組むことができる。

科目構成


老年看護学
4単位
（105時間）
老年看護学概論
1単位（30時間）
老年期とは
老年期にある対象の理解
高齢者の保健医療福祉
老年看護の機能と役割
老年看護学方法論Ⅰ
2単位（45時間）
高齢者のアセスメント
高齢者の生活機能を整える看護
老年看護の特性と医療事故予防
高齢者とリハビリテーション
老年看護学方法論Ⅱ
1単位（30時間）
健康障害時の看護
看護の展開


臨地実習 老年看護学
4単位
（180時間）
老年看護学実習Ⅰ
2単位（90時間）
高齢者ケア施設における看護・
多職種連携を学ぶ実習
老年看護学実習Ⅱ
2単位（90時間）
健康障害をもつ高齢者への看護を
実践する実習

科目名:老年看護学概論　　１単位　３０時間　　教員の実務経験有

受講年次：１学年　後期　　担当：専任教員

目的

老年看護の対象を理解するために、老年期の発達課題、高齢者の身体的、精神的、社会的特徴を学ぶ。

また、介護保険をはじめ保健医療福祉制度の変革を知り、老年看護に与える影響について考え、老年看護の役割と課題について学ぶ。

目標

1　ライフサイクルにおける老年期の位置づけと、老年期の発達課題を述べることができる。
2　高齢者の身体的、精神的、社会的変化や特徴について述べることができる。
3　保健医療福祉制度の変革を知り、老年看護に与える影響と今後の課題を述べることができる。
4　老年期にある対象を看護するための基本的な考え方を述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 3	老年期とは	1．老いるということ 1）老いをいきるということ （1） 老年期の発達と成熟 （2） 老年期の発達課題 エリクソン・ペック・ハビーガースト	講義	6
4 ～ 9	老年期にある 対象の理解	1．老年期を生きる人々の特徴 1）高齢者の多様性 2．加齢に伴う身体的側面の変化 1）加齢に伴う身体的変化の特徴 恒常性を維持する4つの力の変化 2）身体各機能の変化 3．加齢に伴う心理的側面の変化 4．加齢に伴う社会的側面の変化 5．老年期の生きがい	演習 講義	2 １０

回	単元	学習内容	授業形態	時間
10 ～ 12	高齢者の保健 医療福祉	1．超高齢社会の統計的輪郭 1）高齢者と家族 2）高齢者の健康状態 3）高齢者の暮らし 2．高齢社会における保健医療福祉の動向 1）保健医療福祉システムの構築 介護保険法制度について 介護保険サービス（施設サービス） 3．高齢者の権利擁護 1）高齢者に対するスティグマと差別 2）高齢者虐待 3）身体拘束 4）権利擁護のための制度	講義	6
13 ～ 14	老年看護の役割	1．老年看護の基本的考え方 1）老年看護の特徴 2）老年看護における理論・概念の活用 2．高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 3．生活・療養の場における看護 4．エンドオブライフケア	講義	4
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】：系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院

評価方法：筆記試験 80 点・ポートフォリオ 10 点・課題レポート 10 点

【事前課題】

時期	授業までの事前課題内容
第 1 回講義前	「身近な高齢者のライフヒストリーインタビュー」

科目名：老年看護学方法論Ⅰ　　２単位　４５時間　　教員の実務経験有

受講年次：２学年　前期　　担当：専任教員、外来講師

目的

高齢者へ健やかな生活への支援ができるよう、高齢者の特徴をふまえ、生活機能の観点からアセスメントし看護を展開できる基礎的知識を学ぶ。

目標

１．高齢者をアセスメントするための視点と方法について説明できる
２．高齢者の生活を支える看護について説明できる。
３．高齢者に特徴的な症状を支える看護技術が実施できる。
４．高齢者の健康増進を支える方法について説明できる。
４．リハビリテーションを受ける高齢者への看護について説明できる
５．老年看護の特性と医療事故予防について説明できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 2	高齢者の アセスメント	１．高齢者のアセスメント １）アセスメントの視点とは ２）高齢者をアセスメントするときの特性 ３）高齢者のアセスメント方法 ４）高齢者理解に活用できる指標とツール	講義	4
3 ～ 8	高齢者の生活機能を整える看護	１．コミュニケーション １）高齢者のコミュニケーションの特徴 ２）コミュニケーション障害のアセスメントと看護 ２．食事・食生活 １）高齢者にとっての食事の意義 ２）嚥下機能低下している対象への支援 ３）義歯・口腔ケア ３．活動・生活リズム	講義 演習	8 4
9	中間評価	筆記試験　解答・解説		2

回	単元	学習内容	授業形態	時間
10 ～ 14	高齢者の生活機能を整える看護	4．排泄 1)排尿障害のアセスメントとケア 5．高齢者のスキンケア・褥瘡予防ケア 6．高齢者とヘルスプロモーション 1)介護予防・認知症予防 7．高齢者に必要なアセスメントと看護の実際 1） ADL 評価	講義 演習	8 2
15 ～ 17	老年看護の特性と医療事故予防	1．高齢者と医療安全 1）高齢者特有のリスク要因 2．高齢者における集団感染予防 1）インフルエンザ・ノロウイルス・疥癬 3．高齢者の薬物動態	講義	6
18	終了試験	筆記試験　解答・解説		2
19 ～ 21	高齢者とリハビリテーション	1．多職種連携 1）介護福祉士の役割と看護師との連携 2．高齢者と生活リハビリテーション 3．身体可動性を高める支援技術 1） ROM・MMT 2）高齢者の特徴に合わせた歩行介助と移乗	講義 演習	4 2
22 23	知識と技術の統合	1．高齢者の生活を支える看護についての実際	演習	4

テキスト【電子教科書】: 1)系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院
2)生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図

評価方法：筆記試験 80 点・ポートフォリオ 10 点・課題レポート 10 点

【課題】

時期	授業までの事前課題内容
第４回事前課題	高齢者のアセスメントツール(CGA･BADL ･IADL･FIM･BI)を調べまとめる。
第７回事前課題	補聴器の種類と利点・欠点についてまとめる。
第８回事前課題	・アクティビティケアについて調べまとめる。 ・高齢者への集団レクに関する資料を探す。
第１７回事前課題	**一般的な薬物動態(吸収･分布･代謝･排泄)についてまとめる。**
第２１回事前課題	・伸展・屈曲・外転・内転・外旋・内旋など用語を調べる。 ・ＭＭＴ測定方法

科目名　老年看護学方法論Ⅱ　　１単位　３０時間　　教員の実務経験有

受講年次：２学年　後期　　担当：専任教員、外来講師

目的

健康障害を有する高齢者とその家族に対する看護が展開できるよう、看護の基礎的な知識、技術、態度を学ぶ。また、事例を用いて看護過程の展開方法を学ぶ。

目標

１．健康障害を持つ高齢者とその家族に対する看護について理解する。
２．事例を用いて看護過程を展開し、対象の特性を考え看護計画を立案できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 8	健康障害時の 看護	１．呼吸機能に障害をもつ高齢者の看護 １）慢性閉塞性肺疾患の看護 ２．認知に障害をもつ高齢者の看護 ３．運動器に障害をもつ高齢者の看護 １）大腿骨頸部骨折患者の看護 ４．感覚器に障害をもつ高齢者の看護 １）白内障患者の看護 ５．脳血管障害をもつ高齢者の看護 １）クモ膜下出血患者の看護	講義	16
9 ～ 15	看護の展開	１．老年看護学における看護過程の考え方 １）疾患・6 つの生活行動によるアセスメント ２）関連図 ３）看護計画立案 ２．高齢者へのコミュニケーション	講義 演習	4 8
13	試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】：1)系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院
2)生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図

評価方法：筆記試験 60 点・看護の展開 40 点

小児看護学

目　的

子どもを取り巻く環境や社会状況から、発達段階、健康段階に応じた子どもとその家族の健康生活をアセスメントし、個別的な看護を実践するために必要な知識、技術、態度を習得する。

目　標

1　小児看護の対象を理解し、小児を取り巻く環境や社会状況から小児看護の役割と課題を理解する。

2　子どもの成長発達の意義を理解し、発達段階、健康段階に応じた子どもと家族に関わるために必要な基礎的能力を養う。

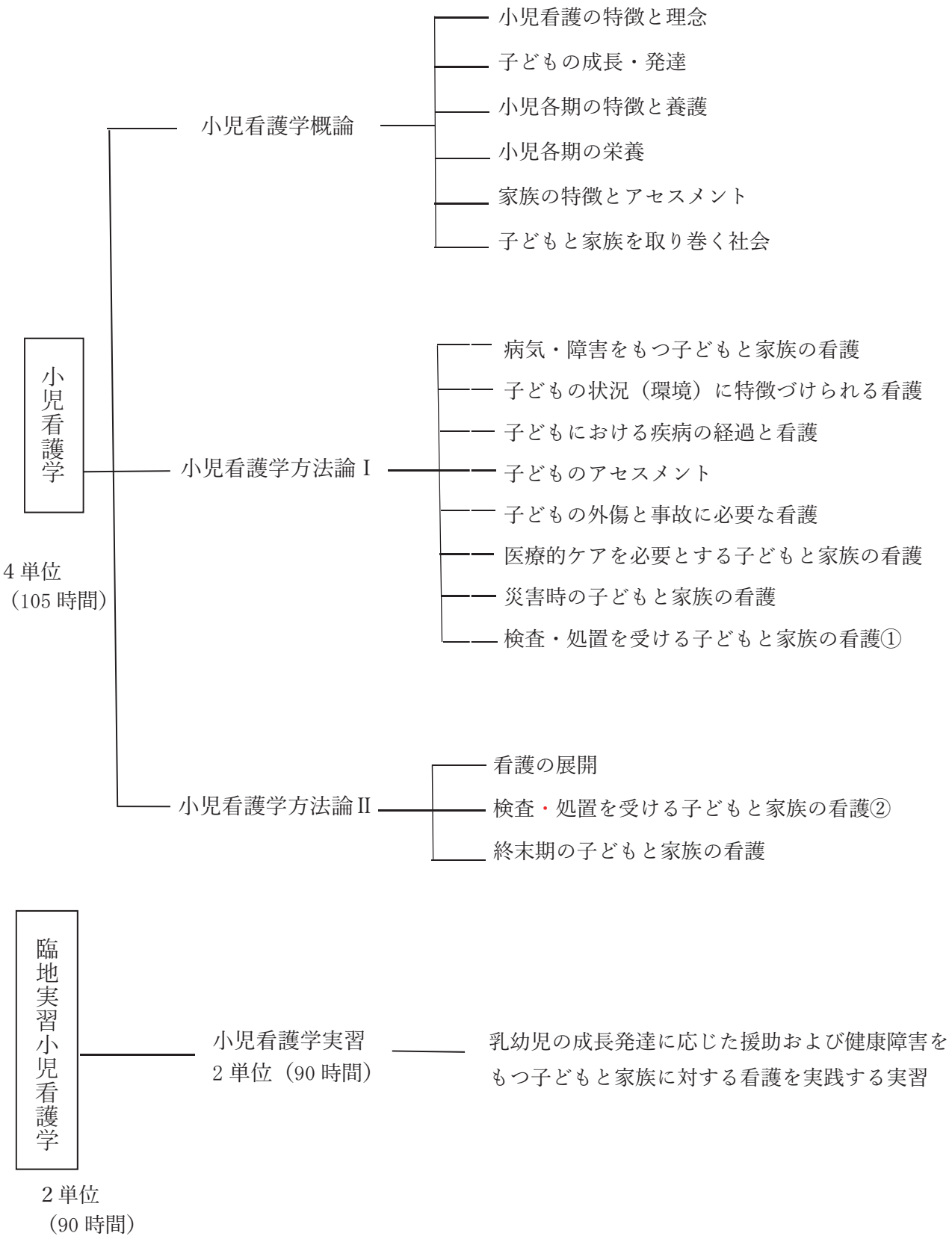
3　子どもと家族をめぐる諸制度と社会支援を学び、健康生活を支える保健活動について理解する。

4　健康上の課題をもつ子どもとその家族に必要な看護を科学的根拠に基づいて展開し、応用するために必要な判断力、課題解決能力を養う。

5　子ども及び家族と関係性を築くためのコミュニケーション能力を養う。

6　子どもの権利を尊重し、意思決定のための行動を促進する小児観を育み、看護実践から自己を振り返る能力を養う。

Ⅰ．科目構成


小児看護学
4単位
（105時間）
小児看護学概論
小児看護の特徴と理念
子どもの成長・発達
小児各期の特徴と養護
小児各期の栄養
家族の特徴とアセスメント
子どもと家族を取り巻く社会
小児看護学方法論Ⅰ
病気・障害をもつ子どもと家族の看護
子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護
子どもにおける疾病の経過と看護
子どものアセスメント
子どもの外傷と事故に必要な看護
医療的ケアを必要とする子どもと家族の看護
災害時の子どもと家族の看護
検査・処置を受ける子どもと家族の看護①
小児看護学方法論Ⅱ
看護の展開
検査・処置を受ける子どもと家族の看護②
終末期の子どもと家族の看護
臨地実習小児看護学
2単位
（90時間）
小児看護学実習
2単位（90時間）
乳幼児の成長発達に応じた援助および健康障害をもつ子どもと家族に対する看護を実践する実習

教員の実務経験有

科目名　小児看護学概論　　1単位　30時間

受講年次：　2学年　前期　　担当：専任教員，外来講師

目的

小児の保健医療の動向を学び、小児各期の特徴や小児看護の役割を理解する。

目標

1．小児看護の変遷や社会的現状から小児看護の役割を述べることができる。
2．子ども各期の成長・発達の特徴を生活の側面から述べることができる。
3．子どもの基本的な権利と擁護に関わる法律を理解し子どもの最善の利益について考えることができる。
4．自己の子どもに対する思いや考えをまとめることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	小児看護の対象	1.科目オリエンテーション 2.子どもとは 3.小児看護の対象、目的・考え方	講義	2
2	小児看護の役割と課題	1.子どもと家族の動向 2.小児看護の変遷 3.小児看護における倫理	講義	2
3	子どもの成長・発達	1. 成長の一般原則 2. 成長発達に影響する因子 3. 成長・発達の評価	講義	2
4〜7	小児の成長・発達の特徴	1. 乳児期の身体的・精神的・社会的特徴 2. 幼児期の身体的・精神的・社会的特徴 3. 学童期の身体的・精神的・社会的特徴 4. 思春期の身体的・精神的・社会的特徴	講義	8
8 9	小児の栄養	1.乳児期、幼児期の栄養の特徴 2.学童期、思春期の栄養の特徴	講義	4
10 11	小児の遊び	1.子どもにとっての遊びの意義 2.遊びの役割、遊びの種類と発達	講義 演習	4

回	単元	学習内容	授業形態	時間
12	子どもと家族をとりまく社会	1. 福祉と保健に関する制度の変遷 2. 妊娠・出産・子育て支援 3. 子どもの医療	講義	2
13	学校保健	1. 学校保健の歴史 2. 健康診断、健康相談 3. 特別支援教育	講義	2
14	予防接種	1. 予防接種制度の変遷 2. 現在の予防接種 3. 副反応と健康被害救済制度	講義	2
15	最終試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】: 奈良間ほか : 系統別看護学講座 専門分野 小児看護学［1］小児看護学概論 小児臨床看護総論

参考書

・「小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア」筒井真優美（監修）2016. 12. 01 総研出版
・「小児看護と看護倫理」松岡真里 2020. 4. 25 へるす出版

評価方法

筆記試験（80%）事後課題（20%）

小児看護学概論の課題	
時期	課題内容
第 7 回終了後	子どもの成長発達の要点問題集
第 15 回終了後	「私の小児観」を 1200 字程度にまとめる

教員の実務経験有

科目名　小児看護学方法論Ⅰ　２単位　　45 時間

受講年次：　２学年　後期

担当：専任教員・外来講師

目的

様々な健康段階にある子どもと家族を理解し、健康回復に向けた看護を実践できる基礎的能力を養う。

目標

１．疾患や入院・治療が小児およびその家族に及ぼす影響について述べることができる。
２．子どもや家族との関わりに必要なコミュニケーションスキルを習得できる。
３．処置を受ける子どもと家族に向けたプレパレーションやディストラクションについて考えることができる。
４．小児期にみられる主な症状と経過の特徴に応じた看護を述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	子どもの病気の捉え方	1.科目オリエンテーション 2.子どもの認知発達 3.発達段階に応じた関わり	講義	2
2	家族の特徴とアセスメント	1.子どもにとって家族とは 2.現代の家族の特徴	講義	2
3	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	1.入院中の子どもの理解 2.入院する子どもと家族の看護	講義	2
4	検査・処置を受ける子どもの看護①	1.プレパレーションとは 2.検査・処置を受ける子どもへの看護	講義	2
5 6	子どもアセスメント	1.コミュニケーション 2.観察に必要な看護技術 3.バイタルサイン測定	講義	4
7	周手術期看護	1.小児期の手術の特徴 2.手術を受ける子どもと家族の看護	講義	2
8	感染症と看護	1.小児感染症の基本的知識 2.感染症の子どもと家族の看護	講義	2
9	小児の症状の観察とアセスメント	1.子どもの示す症状 2.子どもの示す症状に応じた看護	講義	2

回	単元	学習内容	授業形態	時間
10	災害時の 子どもと家族への看護	1.被災時の子どもと家族の特徴 2.災害時の子どもと家族の看護	講義	2
11	検査・処置を 受ける子どもの看護②	1.事例提示 2.プレパレーション内容検討・作成	講義	2
12	中間テスト	筆記試験　解答・解説		2
13	NICU 看護	1.低出生児に多い疾患 2.低出生体重児の看護	講義	2
14	循環器疾患と看護	1.主な先天性心疾患 2.疾患をもつ子どもの看護	講義	2
15	代謝性疾患と看護	1.Ⅰ型糖尿病について 2.Ⅰ型糖尿病の子どもの看護	講義	2
16	アレルギー疾患と看護	1.アレルギーの要因と背景 2.食物アレルギーの子どもの看護	講義	2
17	精神疾患と看護	1.発達障害をもつ子どもの看護 2.子どもの虐待への看護	講義	2
18	神経疾患と看護	1.先天異常、痙攣性疾患、脳性麻痺 2.障害のある子どもと家族の看護	講義	2
19 20	検査・処置を受ける 子どもの看護③④	1.子どもの理解に応じた支援 2.演習の振り返り（自己・他者評価）	演習	4
21	子どもの 事故・外傷と看護	1.子どもの事故の特徴 2.主な事故・外傷	講義	2
22	小児の救命処置	1.心肺蘇生法（CPR） 2.気道内異物除去	演習	2
23	最終試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】：奈良間ほか：系統別看護学講座 専門分野 小児看護学［1］小児看護学概論 小児臨床看護総論

奈良間ほか：系統別看護学講座 専門分野 小児看護学［2］小児臨床看護各論

・写真でわかる小児看護技術 アドバンス．インターメディカ

参考書

・「小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア」筒井真優美（監修）2016.12.01 総研出版

・国民衛生と動向　厚生労働統計協会

評価

筆記試験（80%）事前・事後課題（20%）

小児看護学方法論Ⅰの課題	
時期	課題内容
第 12 回終了後	予防接種・子どもの感染症の要点問題。
第 19、20 回前後	プレパレーション計画書、演習評価

教員の実務経験有

科目名　小児看護学方法論Ⅱ　1単位　30時間

受講年次：　3学年　前期

担当：専任教員・外来講師

目的

様々な健康障害の状態にある子どもと家族の課題解決に向けた看護を学ぶ。

目標

1．小児の疾患や発達段階に応じた看護を表現できる。

2．健康上に課題をもつ子どもとその家族に合わせた看護を述べることができる。

3．治療、検査・処置を受ける子どもに必要な看護を表現できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 5	看護の展開	1.科目オリエンテーション 2.基本情報の整理、アセスメント 3.アセスメント共有 4.関連図発表、看護上の課題の明確化 5.看護計画立案、知識確認テスト	講義	10
6 7	健康上に課題をもつ児と家族の看護	1.川崎病をもつ子どもと家族の看護	演習	4
8	小児看護技術①	1.採血、静脈内注射 2.採血、骨髄穿刺、与薬	講義	2
9	小児看護技術②	1.シーネ固定 2.輸液管理	演習	2
10	消化器疾患と看護	1.消化器の主な疾患 2.疾患をもつ子どもと家族の看護	講義	2
11	腎・泌尿器疾患と看護	1.腎・泌尿器の主な疾患 2.疾患をもつ子どもと家族と看護	講義	2
12	終末期にある子どもと家族への看護	1.終末期にある子どもと家族の看護 2.終末期における多職種アプローチ	講義	2
13	悪性新生物と看護	1.悪性新生物の主な疾患 2.疾患をもつ子どもと家族の看護	講義	2

回	単元	学習内容	授業形態	時間
14	呼吸器疾患と看護	1.呼吸器の主な疾患 2.疾患をもつ子どもと家族の看護	講義	2
15	最終テスト	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】: 奈良間ほか : 系統別看護学講座 専門分野 小児看護学［1］小児看護学概論 小児臨床看護総論
奈良間ほか : 系統別看護学講座 専門分野 小児看護学［2］小児臨床看護各論

・写真でわかる小児看護技術 アドバンス. インターメディカ

参考書

・「小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア」筒井真優美（監修）2016.12.01 日総研出版
・「発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程」　2012　医歯薬出版株式会
・「発達段階からみた小児看護過程」浅野みどり　2021.10　医学書院

評価方法

看護の展開（50%）筆記試験（50%）

小児看護学方法論Ⅱの課題	
時期	課題内容
第1～5回事前・事後課題	事例展開に必要な疾患の病態、治療・検査、看護をまとめる。 事例の発達段階、健康段階に応じたアセスメント、関連図、看護計画
第7回終了後	演習自己評価

母性看護学

目的

母性看護学は、次世代を担う女性・母性の健全育成に向けて、あらゆる発達段階、あらゆる価値観・生活経験を持つ女性の生涯を通じた、健康生活支援に必要な知識を学ぶ。

目標

1．母性看護の対象を人間の性と生殖、セクシュアリティをもとに、身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解することができる。

2．女性の心と身体に現れる健康課題を理解し、意思決定を尊重した、健康生活支援を考えることができる。

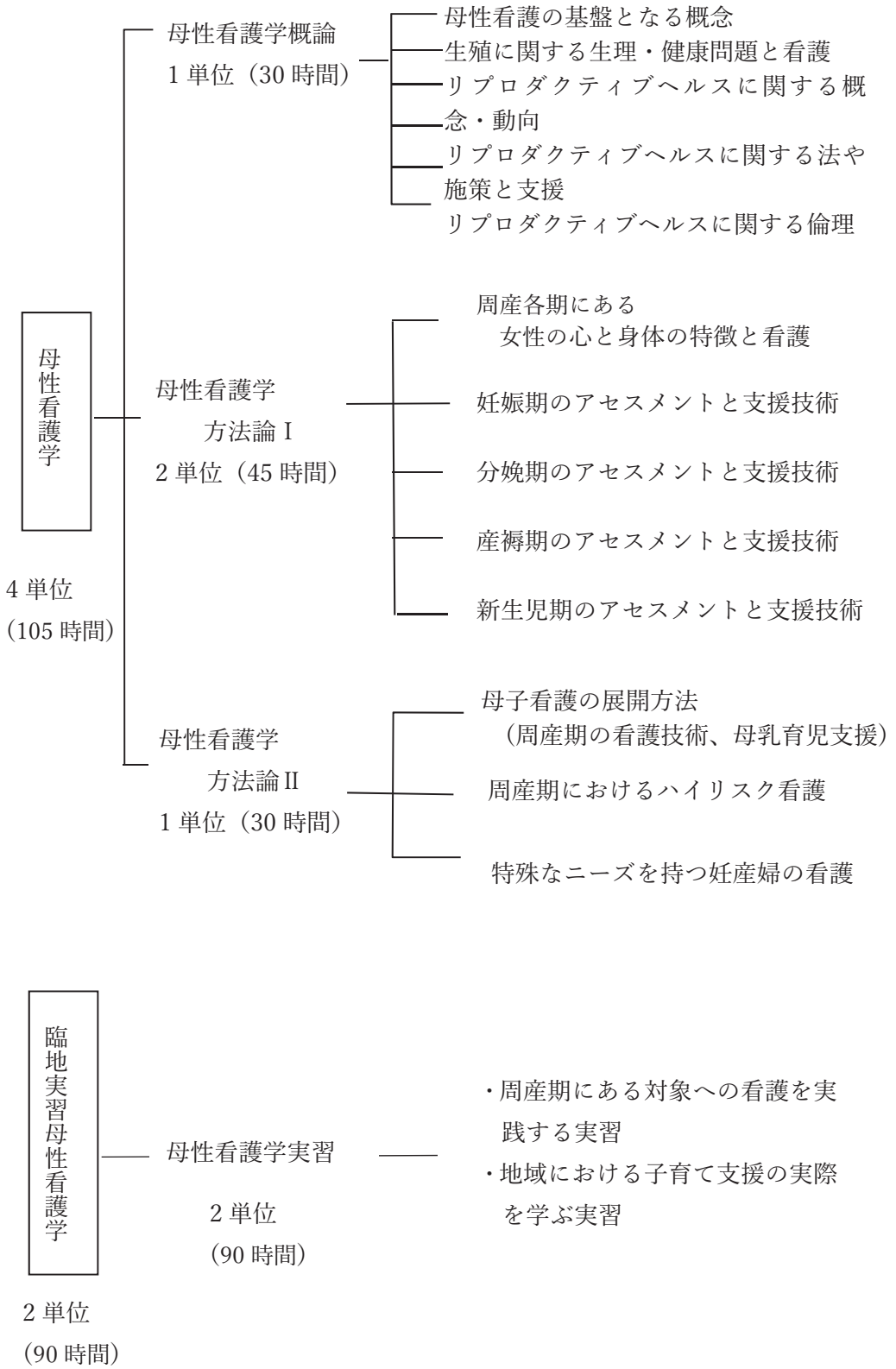
3．母性看護における保健医療福祉システムを理解し、女性・子ども・家族が暮らす多様な場における母性看護の役割・機能について理解できる。

4．妊産褥婦及び新生児の生理的・心理的・社会的特徴や変化を踏まえ、原理・原則・科学的根拠に基づいた安全・安楽な看護実践ができる。

5．看護倫理に基づき対象の意思決定を支え、受容・共感的態度で支援する方法を身につける。

6．命を育むことへの尊厳を通して自己の大切さを知り、親となる過程について思考することができる。

Ⅰ　科目構成


母性看護学
4 単位
(105 時間)
母性看護学概論
1 単位（30 時間）
母性看護の基盤となる概念
生殖に関する生理・健康問題と看護
リプロダクティブヘルスに関する概念・動向
リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援
リプロダクティブヘルスに関する倫理
母性看護学
方法論Ⅰ
2 単位（45 時間）
周産各期にある
女性の心と身体の特徴と看護
妊娠期のアセスメントと支援技術
分娩期のアセスメントと支援技術
産褥期のアセスメントと支援技術
新生児期のアセスメントと支援技術
母性看護学
方法論Ⅱ
1 単位（30 時間）
母子看護の展開方法
（周産期の看護技術、母乳育児支援）
周産期におけるハイリスク看護
特殊なニーズを持つ妊産婦の看護
臨地実習母性看護学
2 単位
(90 時間)
母性看護学実習
2 単位
(90 時間)
・周産期にある対象への看護を実践する実習
・地域における子育て支援の実際を学ぶ実習

科目名　母性看護学概論　　1単位　　30　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　2学年　前期　　担当：専任教員・外来講師

目的

1．女性の生涯を通じた健康の保持・増進について学び、母性看護の意義および母性看護の対象を理解する。

目標

1．生命誕生について感じたことを表現することができる
2．女性の心と身体の仕組みを理解し、女性の健康課題を説明することができる
3．母性看護における倫理的課題について調べ、女性の意思決定への支援を説明することができる
4．女性・子ども・家族が暮らす多様な場を理解し、リプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）に与える影響を表現することができる
5．リプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）に関する動向を理解し、母子の健康課題を述べることができる
6．母子保健の変遷を理解し、日本における母子保健行政と母性看護の現状を述べることができる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP．Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP．Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP．Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	母性看護の基盤となる概念	生命誕生 母性看護の基盤となる概念	講義	2
2 ～ 6	生殖に関する生理･健康問題と看護	1．生殖に関する生理 2．妊娠のメカニズム 3．生殖における健康問題と看護 1）思春期・性成熟期女性の健康問題と看護 2）更年期・老年期女性の健康問題と看護 3）不妊治療と看護	講義 演習	10

7 ～ 9	リプロダクティブヘルスに関する概念・動向	1. リプロダクティブヘルスに関する概念 リプロダクティブヘルス/ライツ セクシュアリティとジェンダー 性分化のメカニズムと性分化疾患 性意識の発達 2. リプロダクティブヘルスに関する動向 1)出生に関する統計（出生率・合計特殊出生率） 2）死亡に関する統計（妊産婦・死産・周産期死亡・乳児死亡） 3）家族形成に関する統計（婚姻・離婚・初婚・出産）	講義 演習	6
10 ～ 12	リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援	リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援 子ども・女性に関する法律 周産期医療システム	講義	6
13 ～ 14	リプロダクティブヘルスに関する倫理	母性看護実践における倫理的課題 代理懐胎 体外受精 人工妊娠中絶 出生前診断	講義 演習	4
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト：1)ナーシング・グラフィカ　母性看護学①　概論・リプロダクティブヘルスと看護、メディカ出版

参考書：1)病気がみえる　Vol.10 産科　第4版　MEDIC MEDIA

評価方法：筆記試験（60点)、課題・コメントシート含む（30点)、ポートフォリオ（10点）

時　期	課題内容
第1回講義	生命誕生について考えたことをまとめる。
第2回講義	生殖器の解剖生理・性周期についてまとめておく。
第2～6回講義	月経異常・性感染症についてまとめる。

第 2 ～ 6 回講義	更年期・老年期女性の健康課題をまとめる。
第 7 ～ 9 回講義	「性分化疾患を持つ人々の物語」動画を視聴し、性分化疾患について考えたことをまとめる。
第 9 回講義	母子保健に関わる統計指標をまとめておく。
第 10 回講義	母子保健に関わる法律および施策をまとめておく。

科目名　**母性看護学方法論Ⅰ**　2　単位　45　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　2学年　**後期**　　担当：専任教員・外来講師

目的

1．妊産褥婦及び新生児の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、健康生活をささえる知識・技術を身につける。

目標

1．妊産褥婦及び新生児の身体的、心理的、社会的変化を理解し、説明することができる

2.　健康生活を支援する方法について述べることができる

1）妊娠期を健やかに過ごすためのケアの必要性を述べることができる

2）分娩期にある対象者のニーズを理解し、ケアの必要性を述べることができる

3）産褥期にある対象者のニーズを理解し、ケアの必要性を述べることができる

4）新生児期にある対象のアセスメントの方法を理解し、ケアの必要性を述べることができる

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）との関連
DP.Ⅰ．生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP.Ⅱ．根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP.Ⅲ．ケアする仲間と協働する力
DP.Ⅳ．看護師として成長し学習し続ける力
DP.Ⅴ．地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1	周産各期にある女性の心と身体の特徴と看護	1．母性看護実践を支える概念 2．妊娠の成立 3．妊娠に関連する定義	講義	2
2 ～6	妊娠期のアセスメントと支援技術	1．妊婦の生理と胎児の成長 妊娠期の生理的変化に伴う不快症状 妊婦体験 2．妊婦と胎児のアセスメント 3．出産を控えた妊婦と家族の心理・社会的変化と看護 4．妊婦の看護に関わる技術 妊婦のヘルスアセスメント レオポルド触診法	講義 演習	10

7 ～11	分娩期のアセスメントと支援技術	1. 分娩の生理 分娩の定義 分娩期の生理的特徴 2. 産婦と胎児のアセスメント 3. 胎児の看護に関わる技術 4. 胎児のアセスメント ドプラ法 胎児心拍数モニタリング 胎盤の観察 5. 産婦の看護に関わる技術 出産が肯定的になるための看護 6. 産痛緩和のケア 呼吸法 補助動作 リラクゼーション	講義 演習	10
12 ～17	新生児期のアセスメントと支援技術	1. 新生児の生理 2. 新生児の定義、新生児の生理的特徴 3. 新生児期のアセスメントとケア 出生直後のケア 出生後 24 時間以内のケア 24 時間以降から退院にむけたケア 4. 新生児の看護にかかわる技術 5. 身体計測、バイタルサイン測定とフィジカルアセスメント	講義 演習	12

18 ～22	産褥期のアセスメントと支援技術	産褥の生理 　全身の変化 　生殖器の変化 　乳房の構造と機能・乳汁分泌のメカニズム 褥婦と家族の心理・社会的変化 　母親になることへの適応過程、マタニティーブルーズ、愛着形成、家族の心理的変化、褥婦のアセスメントの実際 進行性変化・退行性変化の観察と支援方法 褥婦の看護にかかわる技術 　褥婦のヘルスアセスメント 　子宮復古のアセスメント 　悪露のアセスメント 褥婦の日常生活とセルフケアを支える看護	講義 演習	10
23	終了試験	筆記試験　解答・解説		1

テキスト：

1)小林康江ほか：ナーシング・グラフィカ　母性看護学②　母性看護の実践　メディカ出版

2)荒木　奈緒ほか：ナーシング・グラフィカ　母性看護学③　母性看護技術　メディカ出版

参考書：

1)【電子テキスト】系統別看護学講座　専門分野　母性看護学各論

2)病気がみえる vol.10　産科、第 4 版、MEDIC MEDICA

3)根拠と事故防止からみた母性看護技術、第 3 版、医学書院

4)中村幸代ほか：根拠がわかる母性看護技術、2024、南江堂

評価方法：最終筆記試験(60 点)、レポート課題提出（40 点）

時　期	課題内容
夏季休暇中	妊婦経験者へのインタビューをレポートにまとめる。
第 1 回講義	生殖器の解剖生理・性周期についてまとめておく。 妊娠の成立について事前学習を行う。
第 2～22 回講義	課題：ワークブックをまとめる

科目名　母性看護学方法論Ⅱ　　1　単位　　30　時間　　教員の実務経験有

受講年次：　3学年　前期　　担当：専任教員・外来講師

目　的

妊産褥婦及び新生児期にある対象に必要な支援方法を理解し、看護を実践するために学ぶ。

目　標

1　ウェルネスの視点を用いた看護の展開方法を学び、看護計画を立案することができる
2　周産期にある母子を支える支援方法について学び、理解できる
3　周産各期における異常及び特殊なニーズを理解し、必要な看護を考えることができる

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）との関連

DP．Ⅰ．生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP．Ⅱ．根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲ．ケアする仲間と協働する力
DP．Ⅳ．看護師として成長し学習し続ける力
DP．Ⅴ．地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～7	母子看護の展開	1．母性看護実践を支える概念 2．看護展開方法① 情報収集、アセスメント、関連図 3．看護展開方法② 看護計画立案 4．看護の展開方法③ 保健指導計画書 5．看護の展開方法④ 産褥期･新生児期にある対象への看護	講義 演習	10
8 ～11	周産期の看護にかかわる技術	1．褥婦の情報収集に必要なアセスメント技術 2．新生児の情報収集に必要なアセスメント技術 3．母乳育児支援 4．技術確認（沐浴）	講義 演習	10

12 ～14	周産期における ハイリスク看護	1. 妊娠高血圧症候群 2. 妊娠糖尿病 3. 帝王切開 4. 分娩時の異常出血 5. 乳腺炎、産後うつ	講義	8
15		終了試験		2

テキスト：

1)小林康江ほか：母性看護学②ナーシンググラフィカ母性看護学の実践,メディカ出版.

2)小林康江ほか：母性看護学③ナーシンググラフィカ母性看護技術,メディカ出版

3)堀内成子ほか：パーフェクト臨床実習ガイド母性看護　第 2 版

参考書：

1) 【電子テキスト】系統別看護学講座　専門分野　母性看護学各論

2)日本助産診断・実践研究会：実践マタニティ診断　第 4 版、2018

3)中村幸代：根拠がわかる母性看護過程、２０２５年、南江堂

4)平澤美恵子：母性看護技術アドバンス、2017 年、インターメディカ

評価方法：筆記試験（40 点)、課題提出（60 点）

時　期	課題内容
第 1 回講義	産褥期・新生児期のワークブックの学習内容を振り返っておく。

精神看護学

目　的

精神看護のあらゆる対象を理解し、こころの健康の保持増進、こころを障がいされた人々と家族も含めた健康回復への支援ができる基礎能力を学び、あわせて対人援助における人間関係を高め、治療的人間関係について理解を深める。

目　標

1　精神看護の意義、こころの健康について理解し、健康の保持・増進に必要な知識を理解する。

2　精神障がい者の置かれてきた歴史的、社会的背景を理解し、精神障がい者をひとりの人間として、その人権を尊重することの大切さを理解する。

3　こころを病んでいる人の理解と支援は、あらゆる領域における看護の基盤となることを理解し、そのための支援に必要な知識・技術・態度を身につける。

4　精神保健医療福祉の法律や制度の動向に目を向け、資源の活用方法を理解する。

5　自己理解・他者理解に務め、看護者としての自分自身をみつめることができる。

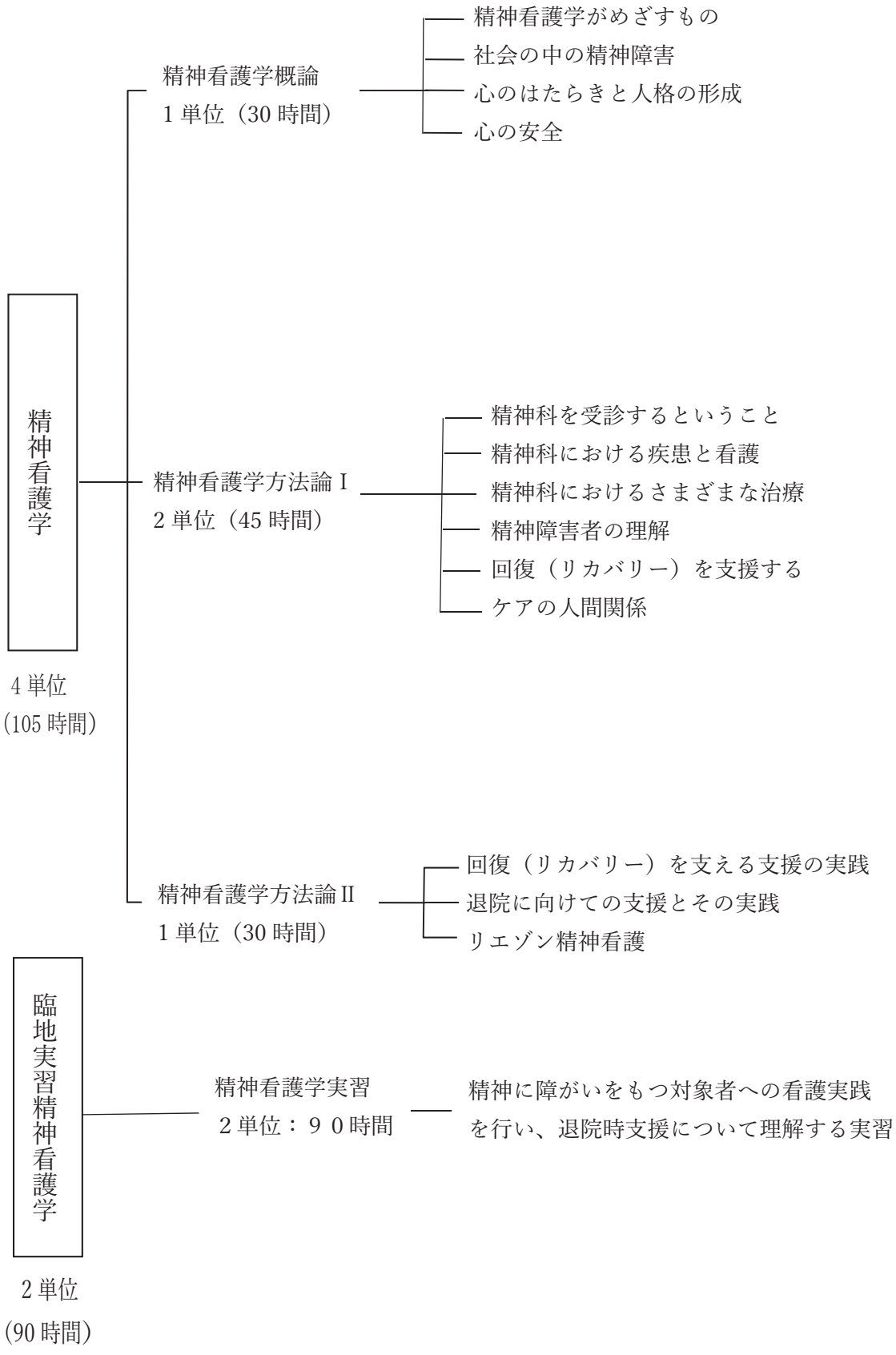
6　自己を支援の道具として活用し、対人関係を構築発展させる知識・技術・態度を理解する。

7　精神疾患や精神に障がいをもつ対象の症状や経過、治療・療法を踏まえた、対象のこころや生活に及ぼす影響を理解する。

8　精神に障がいを持つ対象の健康上の課題を明らかにし、看護実践できる方法を身につける。

9　家族を含め精神障がい者を取り巻く環境を理解し、保健医療福祉の視点から看護の役割と多職種連携の重要性を理解する。

科目構成


精神看護学
4単位
(105時間)
精神看護学概論
1単位（30時間）
精神科看護学がめざすもの
社会の中の精神障害
心のはたらきと人格の形成
心の安全
精神看護学方法論Ⅰ
2単位（45時間）
精神科を受診するということ
精神科における疾患と看護
精神科におけるさまざまな治療
精神障害者の理解
回復（リカバリー）を支援する
ケアの人間関係
精神看護学方法論Ⅱ
1単位（30時間）
回復（リカバリー）を支える支援の実践
退院に向けての支援とその実践
リエゾン精神看護
臨地実習精神看護学
2単位
(90時間)
精神看護学実習
2単位：９０時間
精神に障がいをもつ対象者への看護実践を行い、退院時支援について理解する実習

科目名　精神看護学概論　1単位　30 時間

教員実務経験有

受講年次：　1学年　後期

担当：　専任教員

目的

1. 看護学における精神看護の位置づけ、精神看護の意義、目的、対象、機能・役割を理解し心の健康の保持・増進の支援に必要な基礎的知識を学ぶ。
2. 精神障害を持つ人々の歴史的背景と変遷を知り、精神障害者の権利擁護と倫理的配慮について学ぶ。

目標

1．精神看護の意義と目的・対象・役割について理解できる。
2．精神医療の歴史的変遷を知り、精神障害者の権利擁護と倫理的配慮について理解できる。
3．心の健康とはどのような状態かを理解し、すべての人々を対象とした精神保健について述べることができる。
4．心の仕組みとはたらき、また心の発達について理解できる。
5．心の安全とはなにか、また心の安全をおびやかすものとそれらが人々の心に及ぼす影響について理解できる。

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）との関連
DP.Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） DP.Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力） DP.Ⅲ.ケアする仲間と協働する力 DP.Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力 DP.Ⅴ.地域へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	精神看護学がめざすもの	1．精神看護学の基本的な考え方 2．精神看護学で学ぶこと 3．精神看護学の目的と構造	講義	2
2～4	社会の中の精神障害	1．偏見とは何か 2．欧米・日本における精神医療・看護の変遷 3．日本における精神医療保健福祉の課題	講義	6
5～10	心のはたらきと人格の形成	1．意識と認知機能 2．感情 3．脳の仕組みと心の関係 4．心の仕組みと人格の発達 5．自我と防衛機制 6．エリクソンの発達理論 7．愛着と心の安全基地	講義	12

11 ～ 14	心の安全	1. 精神の健康を考える 2. 心の安全と精神の健康 3. 健康に及ぼすストレスの影響 4. ストレスへの対処（コーピング） 5. 精神保健における危機と危機介入 6. 心的外傷（トラウマ）と精神への影響 7. トラウマとトラウマインフォームドケア 8. 回復（リカバリー）する力 9. 精神保健における予防概念	講義 演習	8
15	終了試験	筆記試験　解答　解説		2

テキスト【 電子教科書 】:

1) 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　1 精神看護学

2)精神看護学の展開　2 精神看護学　武井麻子 医学書院

参考書：

1)精神看護学Ⅰ　精神保健学　「第 6 版」編集　吉松和哉　小泉典章　川野雅資　ヌーヴェルヒロカワ　2015 年

2)精神看護学　監修：一般社団法人　日本精神科看護協会　遠藤淑美　末安民生　中央法規出版株式会社　2020 年

3)これならわかる！精神科の看護ケア　木戸芳史　三井督子　ナツメ社　2024 年

評　価：筆記試験（70%）成長ノート（30%）

科目名　精神看護学方法論Ⅰ　　2　単位　　４５　時間

教員実務経験有

受講年次：　２学年　前期

担当：専任教員・外来講師

目的

1．精神に障害をもつ人々の人権と安全を守り、医療・福祉・地域での生活を支援するために必要な基礎的知識と倫理的態度について学ぶ。

2．精神看護が必要な対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、精神看護を実践するために必要な、治療的対人関係を育む基礎的知識・技術・態度を学ぶ。

目標

1．精神科医療にかかわる法と看護の役割について説明できる。
2．精神科におけるさまざまな疾患とその看護について説明できる。
3．精神科におけるさまざまな治療およびかかわる多職種の役割について説明できる。
4．回復〈リカバリー〉の意味を理解し、多角的な対象理解ができる。
5．精神に障害をもつ人との対人関係構築の必要性とその方法を理解し、患者－看護師関係の発展過程に活用することができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP．Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP．Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP．Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP．Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP．Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	授業内容・学習内容	授業形態	時間
1 ～ 3	精神科を受診するということ	1．入院という体験 2．対象のとらえ方と看護の役割 3．精神保健福祉法 4．障害者総合支援法	講義	6
4 ～ 9	精神科における疾患と看護	1.統合失調症患者の看護 気分（感情）障害患者の看護 2.アルコール・薬物依存症患者の看護 てんかんのある患者の看護 3．神経症性ストレス関連および身体表現性障害患者の看護 4.摂食障害患者と睡眠障害患者の看護 5.パーソナリティー障害患者の看護 6.神経発達障害患者の看護	講義	6
10 ～ 11	精神科におけるさまざまな治療	1．精神科における薬物療法 2．精神科における作業療法 3．精神科における多職種の看護師との連携	講義	4

12	中間試験	筆記試験　解答　解説		2
13	精神障害者の理解	1. 当事者の語り	講義	2
14 ～ 15	回復（リカバリー）を支援する	1. 回復（リカバリー）の意味 2. 回復（リカバリー）のビジョン 3. 治療の場における回復（リカバリー）の試みと看護の視点 ４．リカバリーを促す環境 ５．さまざまな回復（リカバリー）のためのプログラム	講義 演習	4
16 ～ 22	ケアの人間関係	１．ケアの前提 ２．ケアの原則 ３．ケアの方法 ４．関係をアセスメントする ５．患者－看護師関係における感情体験 ６．関係の視点からみた困難事例	講義 演習	12
23	終了試験	筆記試験　解答　解説		2

テキスト【 電子教科書 】:

1)系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　 1 精神看護学

2)精神看護学の展開　 2 精神看護学　 武井麻子 医学書院

参考書：

1)ナーシング・ポケットマニュアル精神看護学（第 2 版）田中恵美子・浜田由紀編著（医歯薬出版株式会社）

2)オーランド「看護の探求－ダイナミックな人間関係をもとにした方法」

3)ペプロウ「人間関係の看護論」：トラベルビー「人間対人間の看護」

4)看護場面の再構成　宮本 真巳著　日本看護協会出版会　1995 年

5)精神科ナースのアセスメント＆プランニング books　家族ケア　一般社団法人日本精神科看護協会　中央法規出版　2017 年

6)精神看護学　第 3 版　―学生－患者のストーリーで綴る実習展開　田中美恵子医歯薬出版　2024 年

評　価：筆記試験（90%）、成長ノート（10%）

科目名　精神看護学方法論Ⅱ　　1　単位　　３０　時間

教員実務経験有

受講年次：　２学年　後期

担当：専任教員・外来講師

目的

1．精神疾患や精神に障がいをもつ人の疾患や症状を理解し、その治療・療法の過程と健康の回復過程に沿った看護支援の方法を学ぶ。

2．精神に障がいをもつ人の身体的・心理的・社会的側面を多角的にアセスメントするために必要な基礎的知識と課題解決の方法を学ぶ。

目標

1．対象をとらえる視点を理解し、実践につなげることができる。
2．回復〈リカバリー〉を支えるための、共同創造〈コプロダクション〉について理解できる。
3．精神障害者とその家族の地域生活を支える制度と多職種連携について理解できる。
4．医療の場におけるメンタルヘルスと看護について理解できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1〜9	回復（リカバリー）を支える支援の実践	1．統合失調症患者のアセスメント 2．BPS モデルを用いて全体をとらえる 3．オレム・アンダーウッドのセルフケア理論 4．共同意思決定・共同創造（コプロダクション） 5．コプロダクションを取り入れたケアの提案	講義 演習	18
10〜12	退院に向けての支援とその実際	1．長期入院がもたらすもの 2．地域生活への橋渡し 3．多職種連携による地域移行支援 4．地域生活を支えるシステムと社会資源 5．統合失調症患者の事例を用いた支援の実際	講義 演習	6
13〜14	リエゾン精神看護	1．リエゾン精神看護 2．看護における感情労働 3．看護師のメンタルヘルス	講義 演習	4
15	終了試験	筆記試験　解答　解説		2

テキスト【 電子教科書 】:
1)系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　　1 精神看護学
2)精神看護学の展開　　2 精神看護学　　武井麻子 医学書院

参考書：
1)オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開〔第 2 版〕宇佐美しおり
2)鈴木啓子　ヌーヴェルヒロカワ　平成 18 年
3)精神科ナースのアセスメント＆プランニング books　統合失調症の看護ケア
4)一般社団法人日本精神科看護協会　中央法規出版　2018 年
5)精神看護学②精神障がいをもつ人の看護　岩﨑弥生　メヂカルフレンド社　2021 年
6)これならわかる！精神科の看護ケア　木戸芳史　三井督子　ナツメ社　2024 年
7)クライエントとともに創る　コプロダクション型精神看護過程―基礎知識・事例＆計画シートで実践に活かす　木戸芳史　中央法規出版

評　価：筆記試験（60%）・看護過程（30%）・成長ノート（10%）

。

看護の統合と実践

目　的

看護活動の広がりに伴い、医療施設だけでなく、災害現場や国内外等あらゆる場や保健・医療・福祉における多職種連携・協働の看護実践マネジメントの基礎的知識を養う。更に研究法を学ぶことで問題発見、問題分析、問題探求・調査、倫理的思考等の能力を身につける。

目　標

1　地域包括ケアシステムの中で看護を行うために必要な看護マネジメントの基礎知識を得る。

2　施設内や地域連携においてチーム医療が果たす役割を理解し、その人らしく生活していくために必要な看護を考えることができる。

3．医療事故防止に向けて専門職として医療の質保障を如何になすべきか、個人の準備、組織の安全管理を理解する。また、医療・看護現場で起きている事故事例を分析することで「危険」と気付く感性と事故発生時の対処について考えることができる。

4．国際看護の基本的な考え方について理解し、異文化を踏まえた保健医療福祉分野の国際的な看護活動について理解を深める。

5　災害の概念と災害が社会や地域にもたらす影響や生命や生活に影響することを理解し、災害時という特殊な環境下での看護活動について理解することができる。

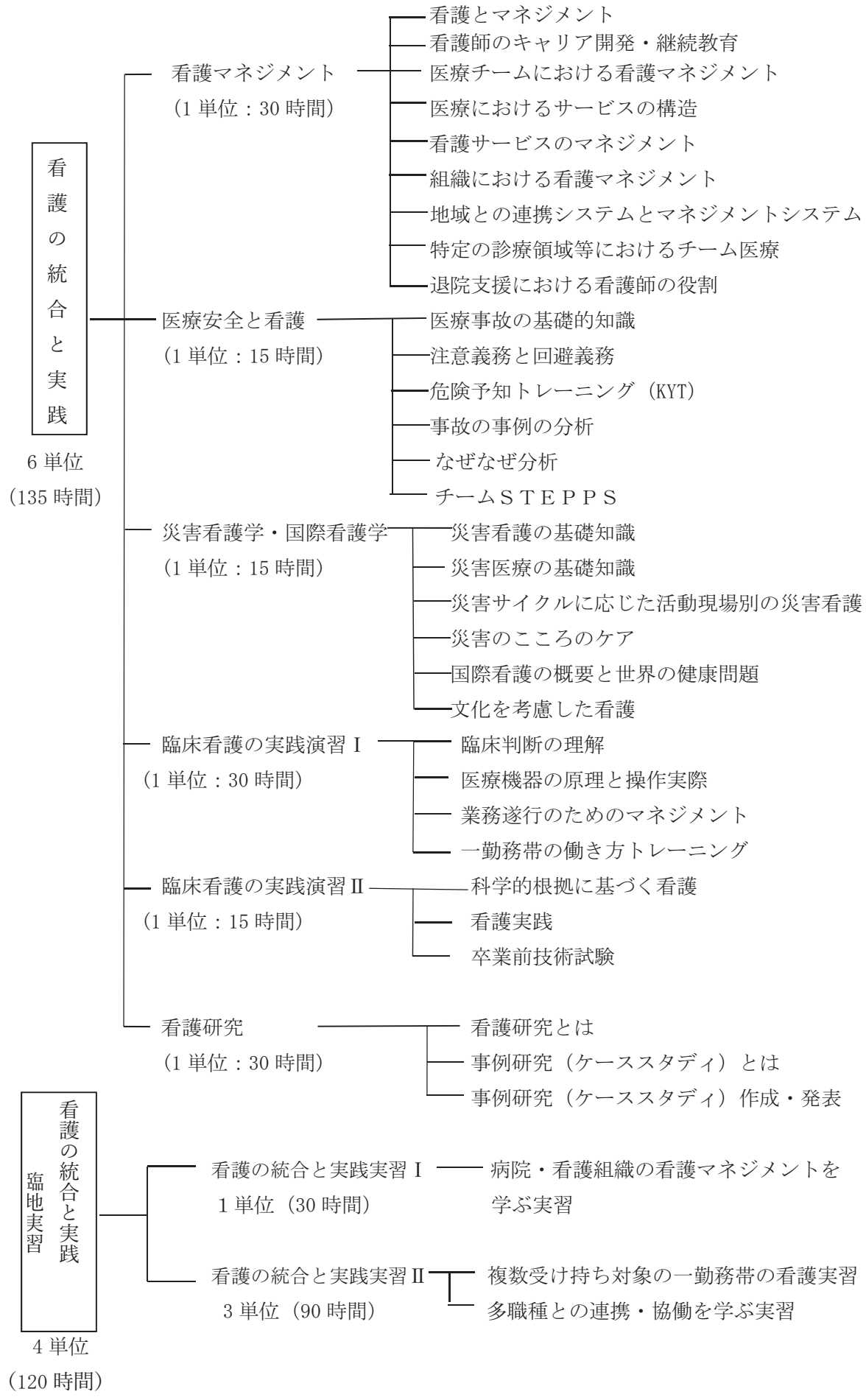
6　臨床に近い場面を設定し、シナリオベースのシミュレーションで臨床判断能力を身に付ける事ができる。

7　複数の患者を受け持つ一勤務帯の実習を通して、多重課題を経験し優先順位の決定や時間管理の必要性を認識することができる。

8　卒業時到達度の技術を総合評価し、自己の技術の課題を明らかにすることができる。

9．看護研究の必要性を理解し、実践した看護を研究的視点でまとめることができる。

科目構成


看護の統合と実践
6 単位
（135 時間）
看護マネジメント
（1 単位：30 時間）
看護とマネジメント
看護師のキャリア開発・継続教育
医療チームにおける看護マネジメント
医療におけるサービスの構造
看護サービスのマネジメント
組織における看護マネジメント
地域との連携システムとマネジメントシステム
特定の診療領域等におけるチーム医療
退院支援における看護師の役割
医療安全と看護
（1 単位：15 時間）
医療事故の基礎的知識
注意義務と回避義務
危険予知トレーニング（KYT）
事故の事例の分析
なぜなぜ分析
チームＳＴＥＰＰＳ
災害看護学・国際看護学
（1 単位：15 時間）
災害看護の基礎知識
災害医療の基礎知識
災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護
災害のこころのケア
国際看護の概要と世界の健康問題
文化を考慮した看護
臨床看護の実践演習Ⅰ
（1 単位：30 時間）
臨床判断の理解
医療機器の原理と操作実際
業務遂行のためのマネジメント
一勤務帯の働き方トレーニング
臨床看護の実践演習Ⅱ
（1 単位：15 時間）
科学的根拠に基づく看護
看護実践
卒業前技術試験
看護研究
（1 単位：30 時間）
看護研究とは
事例研究（ケーススタディ）とは
事例研究（ケーススタディ）作成・発表
看護の統合と実践
臨地実習
4 単位
（120 時間）
看護の統合と実践実習Ⅰ
1 単位（30 時間）
病院・看護組織の看護マネジメントを
学ぶ実習
看護の統合と実践実習Ⅱ
3 単位（90 時間）
複数受け持ち対象の一勤務帯の看護実習
多職種との連携・協働を学ぶ実習

教員の実務経験有

科目名　看護マネジメント　　１　単位　　３０　時間

受講年次：　２学年　**前期**　　担当：専任教員・外来講師

目的

チーム医療における看護の仕組みと看護マネジメントを理解し、対象に必要な医療と生活の視点を持ち、多職種との連携・協働が実践できる基礎的な知識を身につける。
また、チーム医療における協働の意義を理解し、安全で質の高い看護の提供と地域医療に貢献できる看護実践力の基礎を学ぶ。

目標

１．看護管理学を取り巻く要素を説明できる。
２．看護職のキャリアマネジメントについて説明できる。
３．看護マネジメントと看護サービス提供のしくみを説明できる。
４．組織の構造と組織のマネジメントについて説明できる。
５．医療サービスの質の評価の視点を説明できる。
６．地域での連携システムとマネジメントシステムについて説明できる。
７．チーム医療の要素と協働の実際を理解し看護師の役割を説明できる。
８．多職種と連携・協働し、その人らしく生活していくのに必要な支援を立案できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	看護とマネジメント	１．看護管理学とは １）看護管理の定義と看護管理学の概念構成 ２）看護のマネジメントが行われる場 ３）看護におけるマネジメントとは ・看護管理者と看護師のマネジメント	講義	2
2	看護師のキャリア開発・継続教育	１．キャリアについての考え方 ２．生涯学習 ３．ジェネラリストとスペシャリスト 1）専門看護師と認定看護師と特定行為 2）専門資格制度と教育課程	講義	2

回	単元	学習内容	授業形態	時間
3	医療チームにおける看護マネジメント	1．医療チームにおける看護マネジメント 1)看護師のチームワークとコミュニケーション 2)多職種のチームワークとコミュニケーション	講義	2
4	医療におけるサービスの構造	1．医療におけるサービスの構造 1）サービスとは 2）サービスの基本的特性 3）サービスの３つの構造と顧客満足 4）医療サービスの質評価 2．看護を取り巻く諸制度 1）病院等の病床機能 2）重症度、医療・看護必要度 3）診療報酬包括支払い制度（DPC）	講義	2
5 ～ 6	看護サービスのマネジメント	1.　組織としての目的達成のマネジメント 1）理念の形成と浸透 2）看護の組織化 ・組織化と看護部門の組織、その他の組織構造 ・組織の職位と職務規定 2.　看護サービス提供のしくみづくり 1）看護単位、看護サービスの提供方式 3.　人材のマネジメント 1)組織の人材育成と人材フローのマネジメント ・新人現任教育、研修 2）労働環境 ・労働時間　・勤務体制　・雇用形態 ・労働安全衛生　・賃金　・育児介護休暇 ・労使関係 4.　ケアを提供する環境のマネジメント 1）医療施設の施設・設備環境 2）療養環境、作業環境の整備 5.　物品のマネジメント 1）物的資源管理の原則と物品供給システム 2）医薬品、廃棄物の取り扱いと管理 6.　財的資源のマネジメント 1）医療機関の収益とサービスにかかる費用 7.　業務量のマネジメント 8.　情報のマネジメント 1）情報の種類と管理、情報開示への対応 9.　組織におけるマネジメント 1）事業継続計画（BCP）	講義	4

回	単元	学習内容	授業形態	時間
7	組織におけるセーフティーマネージメント	1．組織における安全管理 1）安全管理のしくみ 2）医療事故対策 2．医療安全管理者の役割と実際の活動	講義	2
8	中間試験	筆記試験　解答・解説		2
9	地域との連携システムとマネジメントシステム	1．地域医療・介護需要の特徴 2．地域での多職種連携システムとマネジメントシステム 1）在宅医療・介護連携支援センター 3．地域で働く医療関係者間の多職種連携の実際	講義	2
10 ～ 11	特定の診療領域等におけるチーム医療	1.　栄養サポートチーム ・目的　・役割機能と効果　・構成職種 ・活動の実際 2.　褥瘡対策チーム ・目的　・役割機能と効果　・構成職種 ・活動の実際	講義	4
12	退院支援におけるチームの役割	1．退院支援チーム 1）退院における看護師の役割 2）退院支援と退院調整 3）活動の実際 ・院内での医師およびコメディカルとの多職種連携 ・地域連携部署と入院支援部署との連携 ・退院後に向けた院外の多職種との連携	講義	2
13 ～ 14	退院支援における看護師の役割	1.　退院支援提案書の作成 2.　退院支援提案書の発表	講義	4
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】:

1)系統看護学講座『統合分野　看護の統合と実践[１]看護管理』, 医学書院, 2025. 第 11 版

参考書:

1)【電子教科書】: 上泉和子 : 新体系看護学全書　看護の統合と実践①　看護実践マネジメント／医療安全、メヂカルフレンド社、2025. 第 4 版第 4 刷発行

2)学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門　第２版、日本看護協会出版、2020 年 8 月 10 日第２版第 1 刷発行

評価方法 : 筆記試験（６５点）・ポートフォリオ（２０点）・課題提出（１５点)。

課　　題	
時　期	タ　イ　ト　ル
第１回事前課題	「マネジメント」とは何かを調べる
第４回事前課題	「サービス」とは何を調べる
第８回事後学習	「保健医療福祉関連職種と役割」「多職種で構成されている医療チームの種類と役割」を調べる
第１３回事前課題	「退院支援に向けた対象事例選定」を行い、退院支援提案書作成に向けた考えをまとめてくる

教員の実務経験有

科目名　医療安全と看護　1　単位　15　時間

受講年次：　3学年　**前期**　担当：専任教員

目的

ヒューマンエラーを前提に看護の法的責任と倫理の理解、医療安全を推進するための組織的な取り組みと事故分析の手法を学ぶ。

目標

1．医療安全に関する基礎的知識を説明できる。
2．看護職の法的責任の種類と法的責任の範囲を説明できる。
3．危険予知トレーニング（KYT）を通して、看護の中に潜む危険を予測し説明できる。
4．事例の分析を通して、安全な看護を提供する防止策を説明できる。
5．対象者及び家族が参画した医療安全の方法を説明できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	医療安全の基礎的知識	1.　ヒューマンエラーと防止策 2.　医療事故の定義と分類 3.　医療現場における業務上の危険	講義 演習	2
2	医療事故防止の実際	1．看護職の法的責任 2．注意義務と回避義務 3．チーム STEPPS と SBAR	講義 演習	2
3	危険予知トレーニング（KYT）	1．危険予知トレーニング（KYT）の理論と方法 2．危険予知トレーニング（KYT）の実践	講義 演習	2

回	単元	学習内容	授業形態	時間
4 ～ 7	事例の分析	1．医療事故の事例①の概要 1) 事例の時系列の整理 2) 事例の時系列の再確認と事故の事象の特定 3) なぜなぜ分析 (1) 事例の事象に対してのなぜなぜ分析の活用 (2) 事故の背景要因の抽出 4) ＰmSHELL モデルの活用、対策の立案 2. 医療事故の事例②の概要 1) 事例の時系列の整理 2) 事例の時系列の再確認と事故の事象の特定 3) なぜなぜ分析 (1) 事例の事象に対してのなぜなぜ分析の活用 (2) 事故の背景要因の抽出 4) ＰmSHELL モデルの活用、対策の立案 3. グループ間で分析した結果の共通認識 4. 分析した医療事故の事例の発表準備 5. 医療事故事例の分析結果の発表 6. まとめ	講義 演習	8
8	終了試験	筆記試験		1

テキスト【電子教科書】:

1)新体系看護学全書　看護の統合と実践①　看護実践マネジメント／医療安全、メヂカルフレンド社、2025. 第 4 版第 4 刷発行

参考書　:

1)学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門　第 2 版

2)日本看護協会出版、2020 年 8 月 10 日　第 2 版第 1 刷発行

3)ナーシング・グラフィカ　看護の統合と実践②　医療安全　メディカ出版　2023 年　第 5 版第 1 刷

評価方法：終了試験（50 点）・課題提出（30 点）・コメントシート（14 点）・発表（6 点）
課題提出：危険予知トレーニングシート 3 種類（6 点）・PmSHELL 分析シート 2 種類（24 点）

課　題	
時　期	内　容
第１回事後	事例を読み込み①疾患、②症状、③治療、④看護について調べる
第３回事前	医療安全の KYT について、経緯や活用方法などを調べる
第４回事前	ＰmSHELL モデルについて、経緯や考案者などを調べる

教員の実務経験有

科目名　　災害看護学・国際看護学　1　単位　　１５　時間

受講年次：　2学年　　**後期**　　担当：専任教員・外来講師

目的

予測不能な災害によって引き起こされる状況により、人々の生命や健康、生活が脅かされる対象者への看護の役割および看護活動について理解し、多職種との連携・協働しながら看護実践に活用するための基礎的知識を学ぶ。さらに、国際看護の基本的な考え方を理解し、異文化を考慮した看護活動について学ぶ。

目標

1．災害が与える被災者への影響を理解し、災害看護の役割と倫理的な関わりが説明できる。
2．災害時の医療や対応の整備を理解し、多職種連携を含めた災害医療活動が説明できる。
3．各災害サイクルにおける対象者の健康問題を理解し、看護活動内容が説明できる。
4．被災者および救援者の心理的変化を理解し、こころのケアに必要な知識が説明できる。
5．国際看護についての基本的な考え方や世界における健康問題の現状について表現できる。
6．国際的な視野で文化的・社会的背景を考慮した看護の在り方について述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 2	災害看護と災害医療の基礎知識	1．災害看護の歩み 2．災害看護の基礎知識 1）災害看護の定義と役割 2）災害看護の対象 3）災害看護の特徴と看護活動 4）災害時の倫理 3．災害医療の基礎知識 1）災害の種類と健康被害 2）災害医療の特徴 3）災害医療対応の整備 4）災害対応にかかわる職種間・組織間連携 5）災害看護と法律	講義	4

回	単元	学習内容	授業形態	時間
3 ～ 4	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	1.　急性期・亜急性期 1)　被災病院での活動 2)　避難所・救護所での活動 3)　現場での活動 2.　慢性期 1)　仮設住宅での活動 2)　恒久住宅での活動 3.　静穏期 1)　病院防災 2)　地域防災・地域減災	講義	4
5	災害のこころのケア	1．災害とこころのケア 1）災害がもたらす精神的影響 2）こころのケアとは 3）被災者のこころのケア 4）遺族のこころのケア 5）救援者のストレスとこころのケア	講義	2
6	国際看護の概要と世界の健康問題	1．国際看護の概要と世界の健康問題 1）世界の保健医療の現状と課題 2）持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）へ 3）国際協力のしくみ	講義	2
7	文化を考慮した看護	1．文化を考慮した看護 1）異文化理解 2）国際看護の対象 3）国際看護活動の実際	講義	2
8	終了試験	筆記試験　解答・解説		1

テキスト【電子教科書】:

1)竹下喜久子：系統看護学講座『統合分野　災害看護学・国際看護学』, 医学書院, 2025. 第 5 版

参考書：

1)看護学テキストＮｉＣＥ　災害看護（改訂第 3 版）　南江堂　改訂第３版発行

2)系統看護学講座　専門Ｉ　看護学概論　医学書院 2020

3)ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践 災害看護　メディカ出版 2022.1.20 第 5 版

評価方法：終了筆記試験（90 点)。課題提出（10 点)。

課　　題	
時　期	タ　イ　ト　ル
第１回事後課題	動画を視聴しレポートにまとめる テーマ「私がやってみたい災害に関わる活動とその理由」

教員の実務経験有

科目名　臨床看護の実践演習Ⅰ　１単位　３０　時間

受講年次：　３学年　前期　　担当：専任教員・外来講師

目的

臨床現場を模擬的に再現した環境下で、専門的な知識・技術・態度を育成する。
さらに看護チームにおける看護実践マネジメントを探求する。

目標

１．看護師に必要な看護実践の臨床判断モデルを説明できる。
２．看護業務に多く関わる医療機器のトラブル対応を説明することができる。
３．業務遂行のための看護マネジメントの在り方を説明できる。
４．複数患者の安全・安楽・自立・個別性を考えた一勤務帯のケア計画立案と看護ができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	講義の進め方	1. シナリオベースドシミュレーションの進め方 2. 医療機器の操作演習の進め方 3. 臨床判断モデルの理解	講義	2
2	知識の確認	1. 臨床判断に必要な呼吸器・循環器の基礎知識	講義	2
3 ～ 6	臨床判断モデルの理解	１．呼吸器のシナリオベースドシミュレーション ２．循環器のシナリオベースドシミュレーション	演習	8
7 ～ 8	カード学習	１．観察の優先順位のパフォーマンス １）呼吸器疾患の対象者 ２）循環器疾患の対象者 ２．知識の再確認 １）呼吸器疾患の対象者 ２）循環器疾患の対象者	講義 演習	4

回	単元	学習内容	授業形態	時間
9 ～ 10	医療機器の原理と操作の実際	1．医療機器の原理と操作の実際 1）測定用医療機器の操作の実際 2）治療用医療機器の操作の実際 3）医療事故発生との関連 ・アラームやトラブルへの対応	講義 演習	4
11	業務遂行のためのマネジメント	1．業務遂行のためのマネジメント 1）1日の業務の組み立て 2）多重課題への対処 2．2事例の患者選定と情報把握	講義	2
12	2事例のケア計画	1．情報収集と整理 2．2事例のケア計画立案	講義 演習	2
13 ～ 14	一勤務帯の働き方トレーニング	1．一勤務帯の病棟の働き方 1）1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 2）初回巡回 3）ケアカンファレンス 4）優先順位の決定 5）多重課題 6）夜勤者への申し送り	演習	4
15	終了試験	筆記試験　解答・解説		2

テキスト【電子教科書】:

1)新体系看護学全書　看護の統合と実践①　看護実践マネジメント／医療安全、メヂカルフレンド社、2025. 第4版第4刷発行

参考書：

1)学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門　第2版

2)日本看護協会出版、2020年8月10日　第2版第1刷発行

評価方法：終了筆記試験（50点）・ポートフォリオ（10点）・課題提出（35点）

知識の再確認（5点）

課　　題	
時　期	タ　イ　ト　ル
第1回事後課題	呼吸器・循環器に必要な基礎知識を調べ学習
第9・10回事前課題	医療機器の取り扱い方法、事故事例と防止対策をまとめる
第11回事後課題	2事例の治療、入院経過の把握と調べ学習を行い、受け持つために必要な情報をワークシートにまとめる

教員の実務経験有

科目名　　臨床看護の実践演習Ⅱ　　１単位　　１５　時間

受講年次：　３学年　後期　　担当：専任教員

目的　卒業到達度に達しているか他者評価及び自己評価し、看護技術の課題を明確にした上で看護職に求められる継続教育に繋げる。

目標　１．既習知識を活用して事例を読み解くことができる
２．卒業到達度の技術評価にむけて、計画的に学習を進め準備できる
３．習得した基礎看護技術を用いて、多重課題に対応できる看護技術が実施できる
４．臨床判断の４つのフェーズを活用することができる
５．３年間で身に付けた技術到達度評価を受けて、自己の課題を明確にすることができる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	科学的根拠に基づく看護	１．既習知識を活用した事例の読み解き ２．事例に必要な看護実践内容の明確化 ３．個別性に応じた看護技術の手順書作成	講義	2
2～3	看護実践	１．読み解いた事例に沿った看護実践 ２．卒業到達度に向けた自己の技術確認	演習	4
4～7	卒業前技術試験	１．看護技術の確認 ２．臨床判断の確認	演習	8
8	まとめ	１．臨床判断のまとめと今後への展望	講義	1

テキスト【電子教科書】:

1)新体系看護学全書　看護の統合と実践①　看護実践マネジメント／医療安全、メヂカルフレンド社、2024. 第 4 版第 3 刷発行

参考書：

1)系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践［1］　看護管理　医学書院　2024. 第 11 版

評価方法：卒業前技術試験（50 点)、課題提出（20 点)、コメントシート（15 点)、
ポートフォリオ（15 点）

課　　題	
時　期	タ　イ　ト　ル
第 1 回事前課題	統合実習終了後、領域実習前の技術の課題についての再評価
第 2 回事前課題	事例に沿った看護技術の手順書作成
第 7 回事後課題	技術チェックリストで振り返り、まとめる 臨床判断の思考過程用紙をまとめる

教員の実務経験有

科目名　　看護研究　1　単位　　３０　時間

受講年次：　３学年　　前期　　担当：専任教員　外来講師

目的

1．看護研究の意義や目的について基礎的知識を学ぶ。

2．臨地実習における自己の看護実践を事例研究（ケーススタディ）の構成でまとめ、発表することを通して基礎的知識を学ぶ。

目標

1．看護研究の意義や目的を述べることができる。

2．臨地実習で体験した看護実践を事例研究（ケーススタディ）の構成でまとめることがきる。

3．実践した看護を事例研究（ケーススタディ）として発表することができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. Ⅲ.ケアする仲間と協働する力
DP. Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力
DP. Ⅴ.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 3	看護研究とは	1.看護研究とは 1）看護研究の意義 2）看護研究の目的 2.情報の探索と吟味 1）文献とは 2）文献検索の方法 3）文献の読み方 3.研究における倫理的配慮 1）倫理的配慮の原則 2）依頼書と同意書 4.研究デザインの種類 1）量的研究 2）質的研究	講義	6

回	単元	学習内容	授業形態	時間
4 ～ 6	事例研究（ケーススタディ）の書き方	1.事例研究（ケーススタディ）とは 2.看護研究計画書 1）研究計画書の意義 2）研究計画書の書き方 3）論文のまとめ方 3.論文のまとめ方 1）事例研究（ケーススタディ）のまとめ方	講義	6
7	中間試験	筆記試験　解答・解説	試験	2
8 ～ 11	事例研究（ケーススタディ）の書き方	事例研究（ケーススタディ）　ゼミナール 1）集録・抄録の作成 2）発表資料の作成	演習	8
12 ～ 15	事例研究（ケーススタディ）の発表	1．事例研究・ケーススタディ発表 2．ディスカッション	演習	8

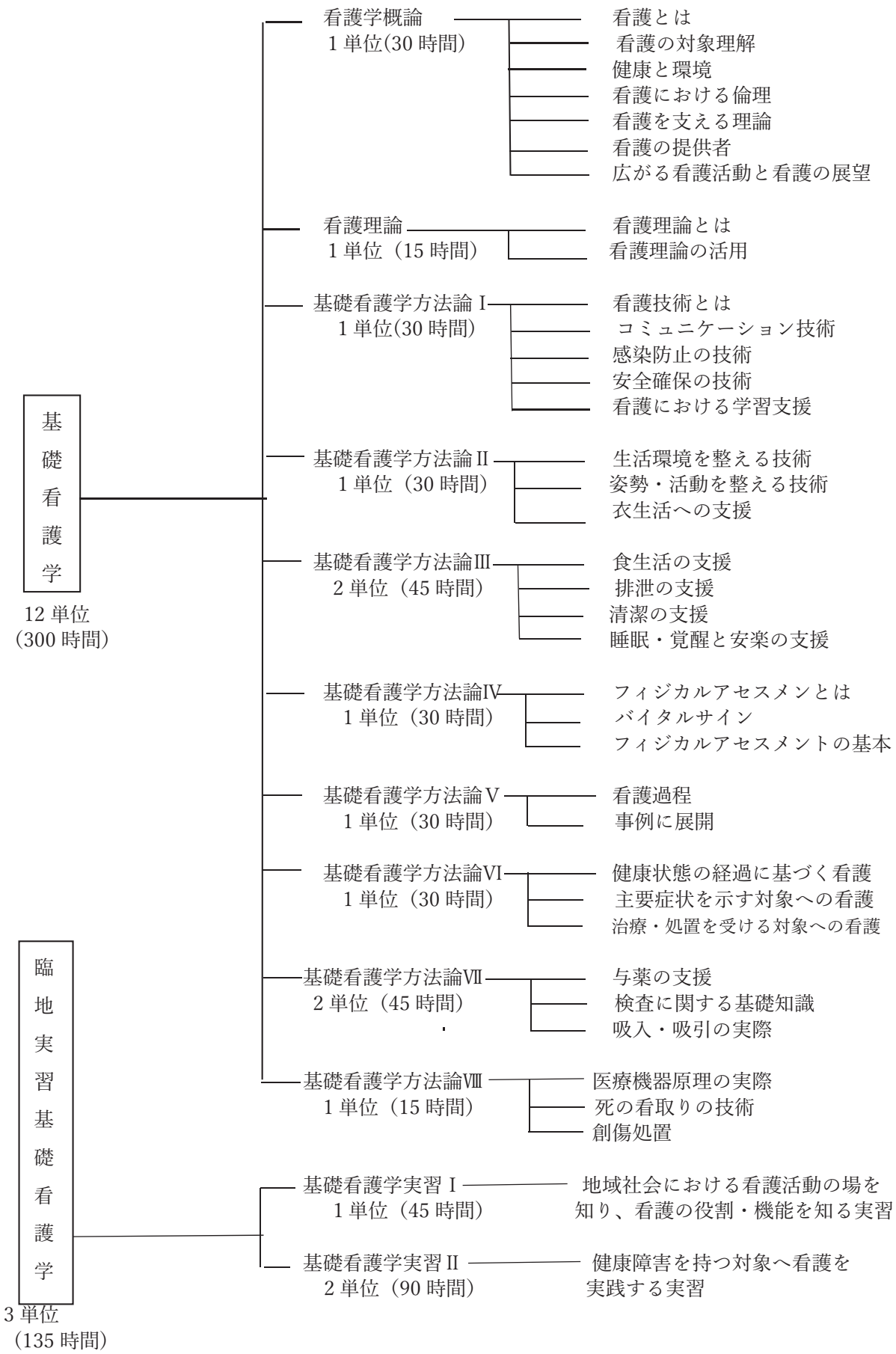
テキスト【電子教科書】: 1)系統看護学講座『別巻：看護研究』, 医学書院, 2025. 第 2 版.

参考書：適宜紹介する

評価方法：中間筆記試験（50 点)。成果物（50 点）：事例研究の抄録・集録・発表。

臨　地　実　習

Ⅰ　科目構成


基礎看護学
12 単位
(300 時間)
看護学概論
1 単位(30 時間)
看護とは
看護の対象理解
健康と環境
看護における倫理
看護を支える理論
看護の提供者
広がる看護活動と看護の展望
看護理論
1 単位（15 時間）
看護理論とは
看護理論の活用
基礎看護学方法論 I
1 単位(30 時間)
看護技術とは
コミュニケーション技術
感染防止の技術
安全確保の技術
看護における学習支援
基礎看護学方法論 II
1 単位（30 時間）
生活環境を整える技術
姿勢・活動を整える技術
衣生活への支援
基礎看護学方法論III
2 単位（45 時間）
食生活の支援
排泄の支援
清潔の支援
睡眠・覚醒と安楽の支援
基礎看護学方法論IV
1 単位（30 時間）
フィジカルアセスメントとは
バイタルサイン
フィジカルアセスメントの基本
基礎看護学方法論 V
1 単位（30 時間）
看護過程
事例に展開
基礎看護学方法論VI
1 単位（30 時間）
健康状態の経過に基づく看護
主要症状を示す対象への看護
治療・処置を受ける対象への看護
基礎看護学方法論VII
2 単位（45 時間）
与薬の支援
検査に関する基礎知識
吸入・吸引の実際
基礎看護学方法論VIII
1 単位（15 時間）
医療機器原理の実際
死の看取りの技術
創傷処置
臨地実習基礎看護学
3 単位
(135 時間)
基礎看護学実習 I
1 単位（45 時間）
地域社会における看護活動の場を
知り、看護の役割・機能を知る実習
基礎看護学実習 II
2 単位（90 時間）
健康障害を持つ対象へ看護を
実践する実習

Ⅱ　基礎看護学実習目的・目標

目的

看護の対象と看護活動を知り、対象の健康課題と日常生活上のニーズを把握し看護を実践するための基礎的能力を養う

目標

1．看護師が活動する場を知り、看護の特徴や役割・機能を述べることができる。
2．看護の対象を身体的・精神的・社会的側面から生活を営む者として捉えることができる。
3．対象者の日常生活上のニーズを捉えることができる。
4．対象者の日常生活上の課題を解決するための看護を原理・原則に基づいて看護師の指導のもと安全・安楽に実践することができる
5．対象者への支援を通して看護師としての基本的な態度を学ぶ
6．看護の魅力を発見し、看護について考えるこができる
7．自己の看護実践を評価し、課題を明確にし、取り組むことができる

Ⅲ　実習体系・実習場所

臨地実習　基礎看護学　3 単位　135 時間
- 基礎看護学実習Ⅰ（1 単位　45 時間）— 地域社会における看護活動の場を知り、看護の役割、機能を知る実習
- 基礎看護学実習Ⅱ（2 単位　90 時間）— 健康障害を持つ対象へ看護を実践する実習

実習場所

1）病院・外来
①社会医療法人友愛会　友愛医療センター
②社会医療法人友愛会　豊見城中央病院
③医療法人沖縄徳洲会　南部徳洲会病院
④沖縄医療生活協同組合　沖縄協同病院
⑤独立行政法人　国立病院機構　沖縄病院
⑥医療法人祥杏会　おもろまちメディカルセンター
⑦医療法人和の会　与那原中央病院
⑧医療法人以和貴会　西崎病院
⑨社会医療法人仁愛会　浦添総合病院
⑩地方独立行政法人　那覇市立病院

2）訪問看護ステーション（18 か所）
3）地域包括支援センター
①豊見城市地域包括支援センター（２か所）
②那覇市地域包括支援センター（9 か所）
③浦添市地域包括支援センター（２か所）

実習計画

1．実習期間　　病院：8 時 00 分～15 時 00 分または 7 時 30 分～14 時 30 分（実習時間 8 時間：休憩 60 分）
地域：8 時 00 分～15 時 00 分（実習時間 8 時間：休憩 60 分）
学内（5 日目）：9 時 00 分～15 時 45 分（実習時間 7 時間：休憩 90 分）
学内（6 日目）：9 時 00 分～15 時 00 分（実習時間 6 時間：休憩 90 分）

2．実習スケジュール

【基礎看護学実習Ⅰ】

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目
場所	病院（病棟）	病院（病棟）	病院（外来） 地域 訪問看護ステーション	病院（外来） 地域 訪問看護ステーション
内容	病棟オリエンテーション シャドウイング カンファレンス	シャドウイング コミュニケーション カンファレンス	オリエンテーション 業務・活動見学 同行訪問	オリエンテーション 業務・活動見学 同行訪問
	5 日目	6 日目		
場所	学内	学内		
内容	各施設での学びをまとめてプレゼンテーションを行う	学内 学びの共有 カードメソッドにてまとめ発表を行う テーマカンファレンス（看護の機能と役割とは） 実習における課題の明確化（評価返し）		

Ⅳ．基礎看護学実習Ⅰ【実習時間 45 時間：１単位　１学年前期】

1．目的

地域社会において生活者を支えている看護活動の場を知り、体験や見学を通して看護の役割・機能を理解する。

2．目標

1．各施設の活動の場と対象者の生活の場を知ることができる
2．各施設における看護活動の実際を知ることができる
3．看護の魅力を発見できる
4．コミュニケーション技術を活用し、対象者と関わることができる。
5．自己の振り返りができ、課題を明確にして主体的に学習に取り組むことができる

【病棟実習内容及び実習方法】

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1	1）オリエンテーションを通して病棟の設備・構造について知ることができる	病棟オリエンテーション 1）病棟の特殊性 2）病棟の構造や設備、病室環境 3）入院対象者の特徴・病棟に多い疾患検査・処置など 4）日課、週間業務 5）病棟の安全対策（院内感染対策、事故防止対策、災害対策など） 6）病棟で働く職種と活動内容 7）病院の理念、看護部の理念、病棟の目標	・身だしなみ、挨拶、丁寧な言葉遣いなど基本的な礼儀を踏まえる （基礎看護技術Ⅰ P34～P41 参照） ・実習先施設について事前に調べておく ・実習内容と照らし合わせながら事残学習をする。 ・オリエンテーションではメモを取りながら聞く ・オリエンテーションの説明を受け、事前学習と照らし合わせたうえで質問し理解を深める ・病棟の安全対策（感染・転倒転落対象者誤認）のマニュアルなどの実際を見ながら学ぶ
	2）対象者の生活を表現できる	1）入院前と入院後の日常生活の変化 2）対象者の１日の過ごし方 実習１日目 テーマ:『対象者の療養環境で気づいたこと』	・病棟の設備・構造等の見学を通して対象者の立場から生活環境を考え、カンファレンスや記録で考えや気づきを表現する ・入院後対象者が、１日の生活をどのように過ごしているのか、入院によってどのように変化したのかを考え、カンファレンスや記録で考えや気づきを表現する ・教員とのカンファレンスでは病棟でのカンファレンスをさらに深める。

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
2	1）看護師と共に行動し看護実践の意味を知ることができる	1）病棟における看護実践(ｼｬﾄﾞｳｲﾝｸﾞ) ・生活の場としての療養環境を整える ・対象者とのかかわり方を見学する ・日常生活支援の見学及び指導者と共に体験 ・バイタルサイン測定や状態観察の見学 ・治療や処置の見学など	・看護師が、対象者をどのように観察し状態を把握しているのか、生活の場としての療養環境をどのように整えているのか、見学や体験を通してケアの必要性を考える。
	2）看護実践についての学びを具体的に表現できる	1）病棟でのテーマカンファレンス 実習１日目 テーマ:『対象者の療養環境で気づいたこと』について 実習２日目 テーマ:『対象者とのコミュニケーションで学んだこと、気づいたこと』	・学生が主体的に運営する。司会は交代で行う ・カンファレンスの進め方は、実習概要 P31～P32 参照のこと ・カンファレンスのテーマに沿った意見や考えを主体的に発言する。 ・コミュニケーション基本技術チャックリストを用いて自己の課題を見つける
3	1）看護師の語りを聴き、看護の魅力について共有することができる	1）看護師より看護の役割や看護体験などを聴き、看護に対する考え方などを深める	
4	1）コミュニケーションを図ることができる	1）対象者とコミュニケーションを図り、対象者の思いに気づく 2）対象者以外（指導者、病棟スタッフ、多職種、担当教員、グループメンバー）とのコミュニケーション	・対象に関心をもつ ・対象者との関りで気になった発言や場面があればメモしておき、テキストで振り返る。また、カンファレンスで指導者、教員、メンバーに共有する

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
5	1）実習での学びを表現することができる	1）実習での学びを記録する 2）自分の学びをまとめてプレゼンテーションを行う	・毎日、実習終了後に学んだことや気づき、考えたこと記録としてまとめる ・実習の学びや気づき、課題と解決策を明確にする ・学内実習にてカードメゾット技法を用いて学びを共有する
	2）自己の成長と今後の課題を述べることができる	1）実習所感の発表 2）実習に対する自分のビジョン・ゴールと成長報告書	・学内実習日に一人ひとり所感を発表する。 ・実習を通して学んだこと、実習のビジョン・ゴールを踏まえて今後の課題を具体的に述べる ・基礎看護学実習Ⅰ評価を用いて評価と今後の課題を明確にする ・学内実習にてカードメソッド技法を用いて学びを共有する

【外来見学実習内容及び実習方法】

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1	1）オリエンテーションを受け外来の設備・構造について知ることができる	外来オリエンテーション 1）外来の構造や設備、配置について 2）外来の機能や特殊性 3）受診から会計までの流れ 4）外来で働く職種と活動内容 5）安全対策について 事故防止対策、災害対策、院内感染対策など	・身だしなみ、挨拶、丁寧な言葉遣いなど基本的な礼儀を踏まえる （基礎看護技術ⅠP34～P41 参照） ・実習先施設の外来の特徴について事前に HP などで調べておく ・実習内容と照らし合わせながら事前学習をする ・オリエンテーションではメモをとりながら聞く ・オリエンテーションの説明を受け、事前学習と照らし合わせたうえで質問し理解を深める ・外来の安全対策（感染・転倒転落・対象者誤認）のマニュアルなどの実際を見ながら学ぶ
2	1）外来における看護師の役割を知ることができる	1）外来看護師の役割について 2）外来看護の看護支援の実際 ・外来の環境調整 待合室、診察室の環境や雰囲気、プライバシーをどのように守っているか ・診察までの看護師の活動	・病棟看護師との違いを考えながら見学する ・対象者の立場から待合室や診察室などの環境を考える
3	1）看護師の語りを聴き、看護の魅力について共有することができる	1）外来看護の役割や看護体験について語りを聴く	・看護師より看護の役割や看護体験などを聴き、看護に対する考え方などを深める
4	1）対象者とコミュニケーションを図る。または見学ができる	1）主に受診の目的 2）家での生活について 3）生活や受診で困っていること	・コミュニケーションをとるまたは見学することの了承を得る ・外来であるため、会話の内容や声の大きさなど周りの方への配慮を考えながら行う ・対象者もしくは、スタッフから情報を聞くことができる

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
5	1）実習での学びを表現することができる	2）外来でのテーマカンファレンス テーマ:『外来実習を通しての学び・気づき』	・学生が主体的に運営する。 ・カンファレンスの進め方は、実習概要 P31～P32 参照のこと ・カンファレンスのテーマに沿った意見や考えを主体的に発言する。
		1）実習での学びを記録する	・実習終了後に学んだことや気づき、考えたこと記録としてまとめる ・実習の目標到達度と課題を明確にする

【訪問看護ステーション内容及び実習方法】

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1	1）オリエンテーションを受け訪問看護ステーションの役割を知ることができる	訪問看護ステーションオリエンテーション 1）訪問看護ステーションの役割 2）設置基準・人員基準（職種） 3）利用者の特徴 4）訪問看護師の一日の流れ 5）訪問時の注意事項　　など	・身だしなみ、挨拶、丁寧な言葉遣いなど基本的な礼儀を踏まえる （クイックノート参照） ・訪問看護ステーションの特徴について事前に調べておく ・実習内容と照らし合わせながら事前学習をする。 ・オリエンテーションではメモをとりながら聞く ・オリエンテーションの説明を受け、事前学習と照らし合わせたうえで質問し理解を深める ・訪問看護の安全対策（感染・転倒転落・対象者誤認）のマニュアルなどの実際を見ながら学ぶ
2	1）訪問看護ステーションにおける看護活動を知る	1）看護師と同行訪問を行う ・対象者の生活の環境 （療養環境、住環境、人的環境） ・訪問看護で行われている支援 ・対象者とのコミュニケーション場面	・訪問時のマナーに気をつける ・質問は、訪問看護時に行わず、移動時やステーションに戻ってから行う
3	1）看護師の語りを聴き、看護の魅力について共有することができる	1）訪問看護の役割や看護体験について語りを聴く 2）訪問看護ステーションでのカンファレンス テーマ：『訪問看護実習を通しての学びや気づき』	・看護師より訪問看護の役割や看護体験などを聴き、訪問看護に対する考え方などを深める ・学生が主体的に運営する ・カンファレンスの進め方は、実習概要 P31～P32 参照のこと ・カンファレンスのテーマに沿った意見や考えを主体的に発言する ・対象者の反応をみながらコミュニケーションをとる
4	1）対象者や家族とのコミュニケーションを図ることができる	1）対象者や家族とのコミュニケーションにて在宅療養について思いを聴く。	

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
5	1）実習での学びを表現することができる	1）実習での学びを記録する	・実習終了後に学んだことや気づき、考えたこと記録としてまとめる ・実習の目標到達度と課題を明確にする

【地域包括支援センター実習内容及び実習方法】

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1	1）オリエンテーションを受け地域包括支援センターの役割を知ることができる	地域包括支援センターオリエンテーション 1）地域包括支援センターの運営・機能・役割、サービス、事業、活動 2）設置基準・人員基準（職種） 3）利用者の特徴 5）実習時の注意事項　　など	・身だしなみ、挨拶、丁寧な言葉遣いなど基本的な礼儀を踏まえる （基礎看護技術ⅠP34～P41 参照） ・地域包括支援センターの特徴について事前に調べておく（地域包括支援センターの目的、役割、包括支援センターの所在地の人口、高齢者人口など） ・実習内容と照らし合わせながら事前学習をする。 ・オリエンテーションではメモをとりながら聞く ・オリエンテーションの説明を受け、事前学習と照らし合わせたうえで質問し理解を深める
2	1）地域包括支援センターの活動を知る	1）事業内容に参加する 2）参加した事業における多職種の役割 3）地域包括支援センターの活動	
3	1）看護師の語りを聴き、看護の魅力について共有することができる	1）地域包括支援センターにおける看護の楽しさや喜び、責任について 2）地域包括支援センターでのカンファレンス テーマ:『地域包括支援センター実習での学び・気づき』	・カンファレンスの時間は、朝に学生が指導者、教員と調整をする。 ・学生が主体的に運営する。（実習概要P31～P32 参照） ・設定されたテーマで話し合う。 ・自分の意見や考えを積極的に発言する
4	1）利用されている対象者とコミュニケーションを図ることができる	1）コミュニケーションをとり、対象者のニーズを知る	・対象者の反応をみながらコミュ三―ションをとる

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
5	1）実習での学びを表現することができる	2）実習での学びを記録する	・実習終了後に学んだことや気づき、考えたこと記録としてまとめる ・実習の目標到達度と課題を明確にする

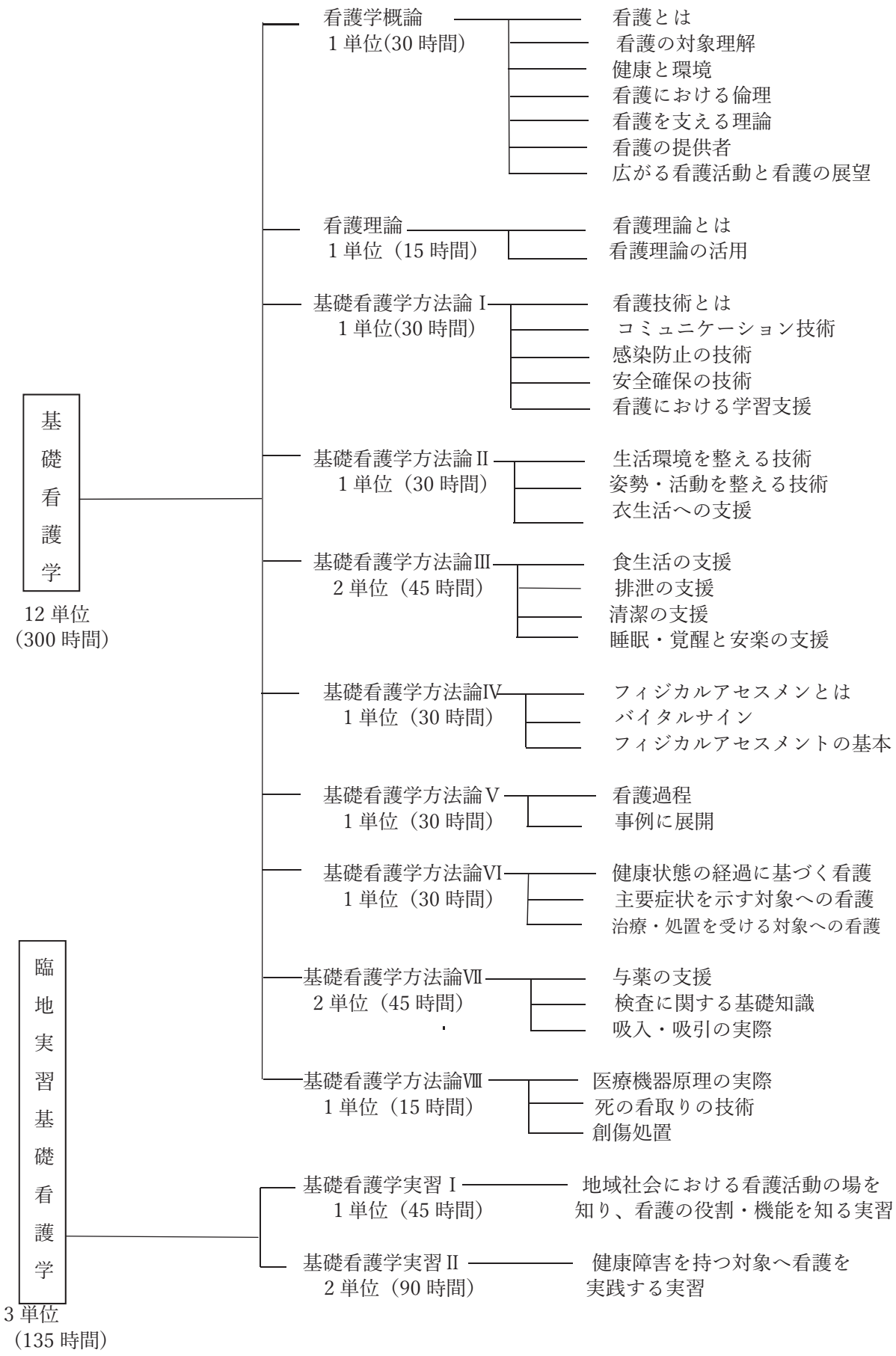
基礎看護学実習Ⅰの評価規準・基準

学習活動	評価の視点	学習活動における具体的な評価基準	評価資料	評価基準（1・6・7）　A:4点　B:2点　C：1点 評価基準（2〜5）　A:7点　B:5点　C：3点		
				A:すばらしい	B:いいね	C:ふぁいと
1.関心を持って実習に臨むことができる	興味・関心 思考・判断	1)実習に対するビジョン･ゴールを明確にして実習に臨んでいる	ゴールシート 学習計画 実習場面	実習の目的・目標を理解し、実習前にビジョン・ゴールを明確にしている	実習前にビジョン・ゴールを明確にしている	実習前にビジョン・ゴールを明確にしていない
2.各施設の特徴について学習できる	興味・関心 思考・判断 技能・表現	2)各施設の役割・機能、活動内容について述べることができる	事前学習 記録物 カンファレンスでの発言 実習場面	各施設の設置基準、役割・機能について述べることができる	各施設の役割・機能について述べることができる	各施設の役割・機能について述べることができない
3.生活の場について知ることができる	興味・関心 思考・判断	3)生活の場または生活環境について看護の視点で述べることができる	事前学習 記録物 カンファレンスでの発言 実習場面	生活の場または生活環境について看護の視点で述べることができる	生活の場または生活環境について述べることができる	生活の場または生活環境について述べることができない
4.看護活動を表現できる	思考・判断 興味・関心	4)各施設における看護の実際を知り､看護の役割が表現できる	記録物 実習場面	学んだ看護の実際を述べながら、看護の役割を表現することができる	看護の役割を表現することができる	看護の役割を表現することができない
5.看護の魅力を発見することができる	興味・関心 思考・判断	5)看護について自分の言葉で表現することができる	記録物 所感 まとめの発表	実習を通して看護の魅力を発見し、自分の目指す看護師像について述べることができる	自分の目指す看護師像について述べることができる	自分の目指す看護師像について述べることができない
6.コミュニケーションを図る	思考・判断 興味・関心 技能・表現	6)コミュニケーションを通じて対象者の思いに気づくことができる	実習場面 カンファレンスでの発言	意図的なコミュニケーション技術をもちいることができ対象者の思いに気づき表現できる	意図的なコミュニケーション技術をもちいることができる	意図的なコミュニケーション技術をもちいることができない
7.学びを振り返りまとめることができる	興味・関心 意欲･態度･ 技能・表現	7)実習の学びを意味づけて表現できる	記録物 まとめの発表 ポートフォリオ	実習の体験から学びを、具体的に事例を挙げて自分の言葉で表現し、根拠を明確にすることができる	実習の学びを表現し、根拠は不十分だが自分なりに説明はできる	実習の学びを表現できない

基礎看護学実習Ⅰの評価規準・基準（step　Up 評価スケール）

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価基準	評価資料	評価基準 1）～ 4）・ 6）A:10 点　B:7 点　C：3 点 評価基準 5）・ 7）　A: 5 点　B:3 点　C: 1 点		
					A:すばらしい	B:いいね	C:ふぁいと
前に踏み出す力（アクション）	主体性	関心・意欲 思考・判断	1）事前・事後に必要な学習をして実習に臨んでいる	事前学習 学習計画	実習の目的・目標を達成するための学習計画と事前・事後学習をした上で実習に臨んでいる	実習の目的・目標を達成するための学習計画を立てているが、学習が不足している	事前の計画がたてられていない
チームで働く力（チームワーク）	規律 責任性	思考・判断 技能・表現	2）守らなければならないルールや約束マナーを理解し責任ある行動がとれる	実習場面 ヒヤリハット リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べることができない。
	傾聴力	興味・関心	3）相手の意見や考えを丁寧に聴くことができる	実習場面 カンファレンスでの発言	傾聴する姿勢をもち、話しを丁寧に聴くことができる	傾聴する姿勢をもち、話しを聴くことができる	傾聴姿勢がもてない
	状況把握力	思考・判断	4）適切な時期に連絡・報告・相談・確認ができる	実習場面	自らの判断で適切な時期に、連絡・報告・相談・確認ができる	他者に促されて適切な時期に、連絡・報告・相談・確認ができる	連絡・報告・相談・確認ができない
	ストレスコントロール力	思考・判断	5）ストレスを成長の機会と前向きに捉え、克服することができる	実習場面	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替え対処し、成長に繋げることができる	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替えることができる	ストレスを対処することができない
倫理	倫理性	思考・判断 興味・関心 意欲・態度 技能・表現	6）実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守る事ができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで（コントロール）、守る事ができる	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない
学習	自ら学び考える力	思考・判断 興味・関心 意欲・態度 技能・表現	7）自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 リフレクション場面	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけることができる	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない

Ⅰ　科目構成


基礎看護学
12 単位
（300 時間）
看護学概論
1 単位(30 時間)
看護とは
看護の対象理解
健康と環境
看護における倫理
看護を支える理論
看護の提供者
広がる看護活動と看護の展望
看護理論
1 単位（15 時間）
看護理論とは
看護理論の活用
基礎看護学方法論 I
1 単位(30 時間)
看護技術とは
コミュニケーション技術
感染防止の技術
安全確保の技術
看護における学習支援
基礎看護学方法論 II
1 単位（30 時間）
生活環境を整える技術
姿勢・活動を整える技術
衣生活への支援
基礎看護学方法論III
2 単位（45 時間）
食生活の支援
排泄の支援
清潔の支援
睡眠・覚醒と安楽の支援
基礎看護学方法論IV
1 単位（30 時間）
フィジカルアセスメントとは
バイタルサイン
フィジカルアセスメントの基本
基礎看護学方法論 V
1 単位（30 時間）
看護過程
事例に展開
基礎看護学方法論VI
1 単位（30 時間）
健康状態の経過に基づく看護
主要症状を示す対象への看護
治療・処置を受ける対象への看護
基礎看護学方法論VII
2 単位（45 時間）
与薬の支援
検査に関する基礎知識
吸入・吸引の実際
基礎看護学方法論VIII
1 単位（15 時間）
医療機器原理の実際
死の看取りの技術
創傷処置
臨地実習基礎看護学
3 単位
（135 時間）
基礎看護学実習 I
1 単位（45 時間）
地域社会における看護活動の場を
知り、看護の役割・機能を知る実習
基礎看護学実習 II
2 単位（90 時間）
健康障害を持つ対象へ看護を
実践する実習

Ⅱ　基礎看護学実習目的・目標

目的

看護の対象と看護活動を知り、対象の健康課題と日常生活上のニーズを把握し看護を実践するための基礎的能力を養う

目標

1．看護師が活動する場を知り、看護の特徴や役割・機能を述べることができる。
2．看護の対象を身体的・精神的・社会的側面から生活を営む者として捉えることができる。
3．対象者の日常生活上のニーズを捉えることができる。
4．対象者の日常生活上の課題を解決するための看護を原理・原則に基づいて看護師の指導のもと安全・安楽に実践することができる
5．対象者への支援を通して看護師としての基本的な態度を学ぶ
6．看護の魅力を発見し、看護について考えるこができる
7．自己の看護実践を評価し、課題を明確にし、取り組むことができる

Ⅲ　実習体系・実習場所

臨地実習　基礎看護学
3 単位　135 時間
- 基礎看護学実習Ⅰ（1 単位　45 時間）：地域社会における看護活動の場を知り、看護の役割、機能を知る実習
- 基礎看護学実習Ⅱ（2 単位　90 時間）：健康障害を持つ対象へ看護を実践する実習

実習場所

1）病院

①社会医療法人友愛会　友愛医療センター
②社会医療法人友愛会　豊見城中央病院
③医療法人沖縄徳洲会　南部徳洲会病院
④沖縄医療生活協同組合　沖縄協同病院
⑤医療法人祥杏会　おもろまちメディカルセンター
⑥医療法人和の会　与那原中央病院
⑦社会医療法人仁愛会　浦添総合病院
⑧医療法人以和貴会　西崎病院

実習計画

1. 実習期間　　病院：8 時 00 分～15 時 00 分または 7 時 30 分～14 時 30 分（実習時間 8 時間：休憩 60 分）
学内：9 時 00 分～15 時 00 分（実習時間 6 時間：休憩 90 分）

2．実習スケジュール

【基礎看護学実習Ⅱ】

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目
場所	病院	病院	病院	学内	病院
内容	病棟オリエンテーション ・受け持ち対象者の決定 ・情報収集 ・カンファレンス	・情報収集、分析 ・対象者のニーズに沿った看護支援の実践 ・カンファレンス	・情報収集、分析 ・対象者のニーズに沿った看護支援の実践 ・カンファレンス	・関連図作成 ・対象者に必要な日常生活支援の技術練習 ・文献検索	・情報収集、分析 ・対象者のニーズに沿った看護支援の実践 ・ケースカンファレンス(関連図、看護計画の発表) ・カンファレンス
	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目	10 日目
場所	病院	病院	学内	病院	病院
内容	情報収集、分析 ・看護計画に沿った看護支援の実践 ・カンファレンス	・情報収集、分析 ・看護計画に沿った看護支援の実践 ・カンファレンス	・中間評価 ・看護計画の見直しと評価 ・新たな看護計画の立案(必要時) ・対象者に必要な日常生活支援の技術練習	・情報収集、分析 ・看護計画に沿った看護支援の実践 ・カンファレンス	・情報収集、分析 ・看護計画に沿った看護支援の実践 ・カンファレンス
	11 日目	12 日目			
場所	病院	学内			
内容	・情報収集 ・看護計画に沿った看護支援の実践 ・最終評価 ・実習所感発表	受け持ち対象者への看護を考えるためのカンファレンス ・実習における課題の明確化（評価返し）			

Ⅳ．基礎看護学実習Ⅱ【実習時間 90 時間：２単位　　２学年前期】

目的

健康障害をもつ対象の日常生活上のニーズを明確にし、課題解決に向けチームで看護を実践することができる

目標

1．対象者を生活者として捉えることができる
2．対象者の日常生活上のニーズを把握し必要な支援を考えることができる
3．対象者へ科学的根拠に基づいた看護実践を安全・安楽に看護師と共に、実施することができる
4．看護チームの一員として連絡・報告・相談・確認しながら看護を実践できる
5．自己の振り返りができ、課題を明確にして主体的に学習に取り組むことができる

【実習内容及び実習方法】

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1-1)	対象者の療養環境を知る	1) 病棟オリエンテーション・見学 ・病棟の構造や設備、病室環境 ・病棟の特徴 ・日課、週間スケジュール ・病棟の安全対策（院内感染、事故防止対策、災害対策など）	・療養環境についての事前学習と照らし合わせながらオリエンテーションを受ける ・病棟オリエンテーションでは、対象者に安全・安楽な支援ができるよう物品配置や取り扱いや廃棄物分別などについて確認する ・生活者である対象者の入院前の環境と療養環境の違いを考える
1-2)	対象者の日常生活の変化に気づく	1) 受持ち対象者の以下について情報収集を行う ① 入院前の生活背景 ② 入院後の環境の変化	・傾聴、共感、寄り添う姿勢で接する。 ・日常生活に、入院・疾患・症状などがどのような影響を及ぼしているかを考える ・受け持ち対象者は、成人期・老年期で慢性期・回復期にある対象者をひとり受けもつ。 ・受け持つことの説明は、指導者、教員と共に行う。 ・対象者に了承を得てからメモを取る。
2-1)	対象者のニーズを考える。	1)対象者のビジョン・ゴールを明確にする ① 対象者のビジョン・ゴールを考える ② ビジョン・ゴールを達成するための計画を立案する	・ゴールシートに対象者のビジョン・ゴールを記載する ・看護チームで対象者のビジョン・ゴールの発表を行い、チーム間で共有する ・対象者の状況により、ビジョン・ゴールは追加・修正を行う
2-2)	現在の状況が対象者の日常生活に及ぼす影響を表現できる	1)対象者を生活者としてとらえるための情報収集と情報の整理 ③ 身体的・精神的・社会的側面 ④ 入院までの経過 ⑤ 現病歴、診断名、治療、処置・疾患・症状、機能障害など ⑥ 入院前後の日常生活状況や ADL の変化	・対象者と意図的なコミュニケーションを図り、情報収集を行う ・指導者や教員の助言のもと、カルテなどから疾患や出現している症状などの情報収集を行う ・疾患、症状、機能障害、治療・処置などによって、対象者の日常生活行動が、どう支障をきたしているのかを考える ・事前、事後学習で情報を整理する
2-3)	対象者の情報を整理し、アセスメントすることができる	1) 対象者の情報を「現状・原因・なりゆき・看護の方向性」で考え整理する 2) 関連図を作成し看護上の課題を明確にする 3) 看護上の課題の優先順位を考える	・V.ヘンダーソンの「基本的看護の構成要素」を用いてアセスメントする ・関連図を作成し看護上の課題を明確にする ・関連図を発表し看護上の課題の優先順位についての考え方をグループメンバーや指導者からの助言を得ながら看護計画の立案に繋げる

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
2-4)	対象者に応じた個別性のある看護計画を立案し追加・修正できる	1) 日々のカンファレンス ① 日々の看護実践に対する対象者の反応から看護計画を評価し必要であれば追加・修正を行う ② 看護計画や看護実践が対象者のビジョン・ゴールにあったものであるか評価する	・カンファレンスで自身の看護実践を振り返り、看護計画の追加・修正を行う ・看護チームでディスカッションし看護計画の検討を行う ・自己の考えと意見や助言を照らし合わせ看護計画を追加・修正する
3-1)	看護支援を看護師と共に安全・安楽に実施できる	1) 受け持ち対象者の特徴に合わせた看護実践 ①バイタルサインの測定 ②フィジカルアセスメント ③日常生活支援 ・環境整備 ・食事支援 ・排泄支援 ・清潔支援 ・活動と休息　など	・技術経験・評価記録にある看護師教育の技術項目と卒業時の到達度を確認する ・看護師(指導者)または教員と共に、対象者の看護上の課題から導いた支援を科学的根拠に基づき安全・安楽に実践する ・対象者に合わせた看護支援を考えまとめる ・実施前には必ず指導者・教員より支援内容の確認を受ける ※単独での行動・判断はしない
4-1)	看護チーム内での連携を図る	1) チームメンバーとしての役割を果たす 2) グループメンバーの対象者への看護実践への協力 3) チーム内での「報告」「連絡」「相談」「確認」 4) 対象者のビジョン・ゴールの立案	・看護チーム間で情報を共有し、協力してよりよい看護を提供する ・連絡、報告、相談、確認の必要性を理解し、常に意識する ・実践した看護場面(対象者と関わった時の反応)を、リフレクティブサイクルを用いて振り返り、看護計画や翌日の支援に活かす
5-1)	より良い看護実践を目指した振り返りができる	1)看護実践後の振り返り 2)ビジョン・ゴールの達成 3)提案書の発表(学内最終日) ① 実践した看護過程の整理 ② 提案書を作成 ③ 発表 4)評価 ① 中間評価 ② 終了時評価	・実践した看護技術は、「看護基本技術を支える態度や行為の構成要素」に沿って振り返り、対象者にあった支援につなげる ・看護実践を提案書にまとめて発表を行う。 ・Step up スケール、基礎看護学実習Ⅱの評価表を用いて自己評価する。 ・中間で達成状況と後半の課題を確認する。 ・実習終了後に教員と評価の確認をする。
5-2)	自己の成長と今後の課題を述べることができる	1)中間評価 ①Step Up の中間評価 ②基礎看護学実習Ⅱの評価 ③自分のビジョン・ゴールの評価 2)最終カンファレンス ・実習所感の発表 ①Step Up の最終評価 ②基礎看護学実習Ⅱの評価 ③自分のビジョン・ゴールの評価 ④対象者のビジョン・ゴールの評価 3)実習に対する自分のビジョン・ゴールと成長報告書	・実習の2週目に中間評価を行い、実習前半の課題を明確にし、後半に向けて達成したい目標を確認する ・病棟実習最終日には一人ひとり所感を発表する ・実習を通して学んだこと、実習のビジョン・ゴールを踏まえて今後の課題を具体的に述べる 基礎看護学実習Ⅱ評価及び Step up スケールを用いて評価と今後の課題を明確にする

基礎看護学実習Ⅱの評価規準・基準

学習活動	評価の視点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準（1）　A:４点　B：２点　C:１点 評価基準（2・5・7）　A:５点　B:３点　C:１点 評価基準（3・4・6）　A:７点　B:５点　C:２点		
				A:すばらしい	B:いいね	C:ふぁいと
1．基礎看護学実習Ⅱのビジョン・ゴールを明確にできる	関心・意欲 思考・判断	実習及び対象者に対するビジョン・ゴールを明確にして実習に臨んでいる	ゴールシート	実習の目的・目標を理解し、ビジョン・ゴールを明確にし、常に状況に応じて追加・修正できている。	実習前にビジョン・ゴールを明確にし、意識しているが､追加･修正ができていない。	実習前にビジョン・ゴールを明確にしているが、意識できていない。
2.「気づき」から対象者へ必要な支援を考える	関心・意欲 思考・判断 技能・表現	対象者の状況や反応から必要と思われる看護を考え表現することができる	記録物 カンファレンスでの発言 実習場面	対象者の反応に興味･関心を示し､対象者に必要と考えられる看護について考え、表現することができる	対象者に興味・関心を示し必要な看護について考えることができるが、反応に気づくことが難しい。	対象者に興味・関心を示すことが難しく、必要な看護について考えることができない
3．日常生活上のニーズについて考えることができる	関心・意欲 思考・判断 技能・表現	対象者の日常生活の変化について述べることができる	記録物 カンファレンスでの発言 実習場面	生理的ニードが充足か未充足かを自ら判断し述べることができる	生理的ニードが充足か未充足かを助言を得ながら判断し述べることができる	生理的ニードが充足か未充足の判断が助言を得ても述べることができない
4．　実習における必要な学習ができる	関心・意欲 思考・判断 技能・表現	対象者への看護実践に必要な学習を考え、調べてまとめることができる	記録物 事前･事後学習 リフレクションでの発言	自ら対象者の状況・状態に合わせた看護実践に必要な学習を考え、調べまとめることができる	助言を得て対象者の状況に合わせた看護実践に必要な学習を、調べまとめることができる	助言を得ても対象者の状況に合わせた看護実践に必要な学習ができない
5．連絡・報告・相談・確認を行いながら看護実践ができる	関心・意欲 技能・表現	適切な時期・相手に連絡･報告･相談・確認ができる	実習場面 リフレクションでの発言 記録物	対象者の反応を含めた連絡･報告･相談・確認が適切な時期に行える	対象者の反応を含めた連絡･報告･相談・確認が行える	促されて対象者の反応を含めた連絡・報告・相談・確認が行える
6．看護チーム内で協力し看護実践ができる	関心・意欲 技能・表現	看護チームのメンバーとしての役割を果たすことができる	実習場面 リフレクションでの発言 技術経験･評価記録	自ら対象者によりよい看護を提供するために、チームメンバーと相談しながら協力し看護実践ができる。	助言を得て対象者によりよい看護を提供するために、チームメンバーと相談しながら協力し看護実践ができる。	助言を得ても受け持ち対象者への看護についてチームメンバーと相談や協力し看護実践ができない。
7．看護実践を振り返りまとめることができる。	関心・意欲 思考・判断 技能・表現	看護場面を振り返り再構成ができる。	実習場面 リフレクション 所感、提案書 技術経験・評価記録 ポートフォリオファイル	自分の看護実践を振り返り、看護について新たな発見や自身の課題が表現できる。	自分の看護実践を振り返り、自らの課題を表現できるが、看護について新たな発見はできない。	自分の看護実践を振り返ることができず、看護についての新たな発見が表現できない

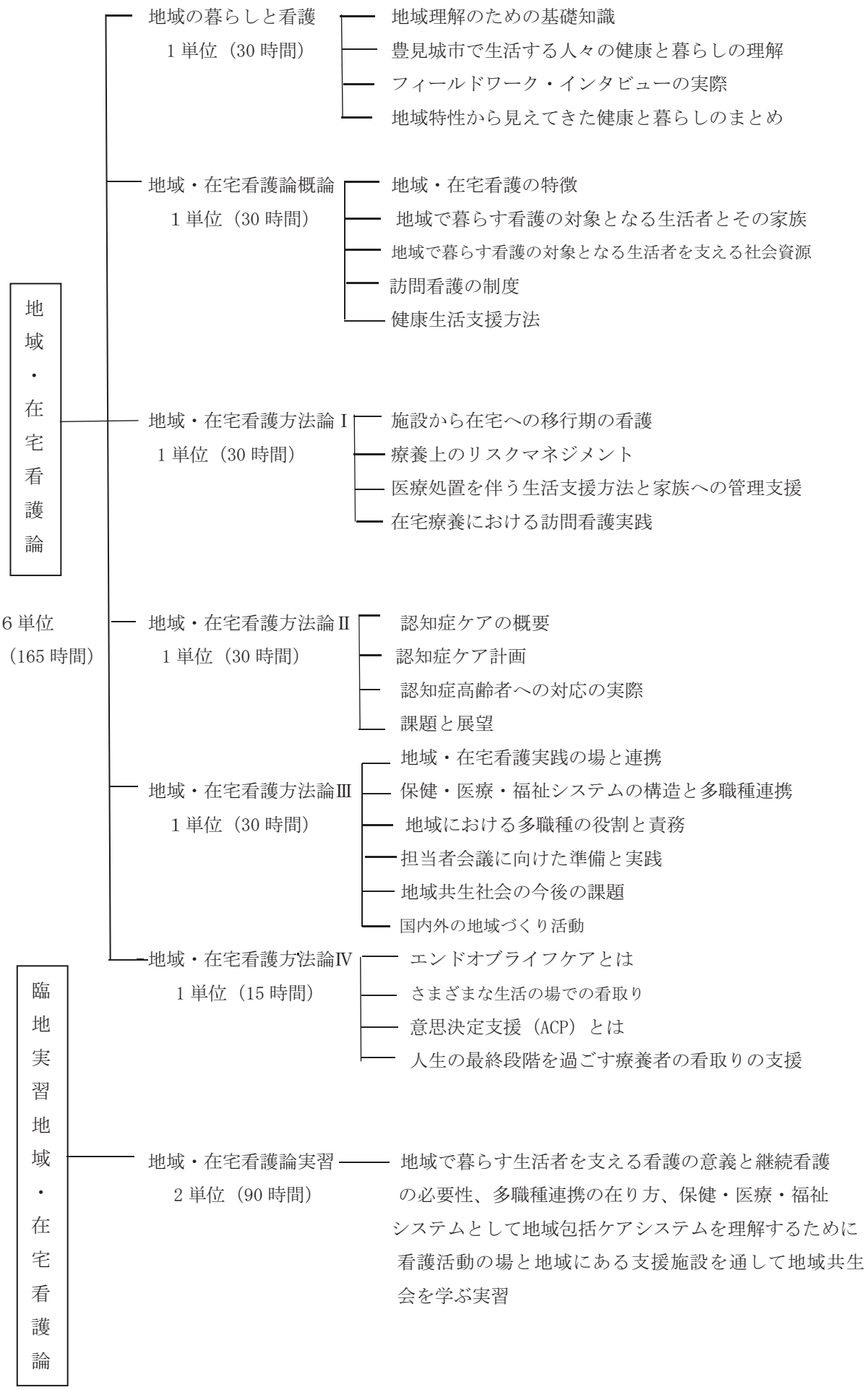
Step up スケール ～看護師として必要な基礎力～　　那覇市医師会　那覇看護専門学校

能力	能力要素	評価の視点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 1）～3） A：5点 B：3点 C：1点 4）～18） A：3点 B：2点 C：1点 A：すばらしい	B:いいね	C:ふぁいと
考え抜く力（シンキング）	課題発見力	思考・判断	1）アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物（対象の情報用紙） リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合せて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
		思考・判断	2）対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物（対象の全体像・解決すべき課題） リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	思考・判断	3）対象の個別性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物（行動計画・看護計画） リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個別性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力（アクション）	働きかけ力	技能・表現	4）対象のセルフケア 能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5） 対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6）対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物（看護計画） 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7）看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の視点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 1）～3）　A：5点　　B：3点　C：1点 4）～18）　A：3点　　B：2点　　C：1点 A：すばらしい	B:いいね	C:ふぁいと
チームで働く力（チーム力）	**発信力**	思・技・関・興	8）他者へ自分の考えや思いを分かりやすく伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを具体的な事例や客観的データを用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9）相手の意見や考えを丁寧に聴くことがきる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相槌をうつなど、自らの表情や聴く姿勢に配慮して内容の確認や質問などを行いながら丁寧に聴くことができる。	目線を合わせて相槌をうち、相手の話しを素直に聴くことができる。	相手に関心を持つことやその人の意見を聴こうとする関わりができない。
	柔軟性	思考・判断	10）他者の意見や助言を理解し、活かすことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入れて理解し、次の行動に活かすことができる。	他者の意見や助言を受け入れ、その意味を理解することができる。	自分のやり方に固執し、意見や助言を受け入れることができない。
	状況把握力	思考・判断	11）周りの状況を判断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物理的環境）を判断し、どのように行動すべきなのかを考えて状況が良くなるように行動することができる。	周囲の状況を判断し、どのように行動すべきか理解しているが、行動に移せない。	周囲の状況を判断することができない。
	規律・責任性	思考・判断・技能・表現	12）守らなければならないルールや約束・マナーを理解し責任ある行動がとれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒヤリハット、アクシデント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べることができない。
	ストレスコントロール力	思考・判断	13）ストレスを成長の機会と前向きに捉え、克服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替え対処し、成長に繋げることができる。	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替えることができる。	ストレスを対処することができない。

能力	能力要素	評価の視点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 1）～3）　A：5点　　B：3点　C：1点 4）～18）　A：3点　　B：2点　　C：1点 A：すばらしい	B:いいね	C:ふぁいと
倫理	倫理性	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14）対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15）対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16）実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守る事ができる （守秘義務遵守）	実習場面 リフレクション場面 記録物 （レポート作成）	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで（コントロール）、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17）対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	自ら学び考える力	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18）自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価 記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

科目構成


地域・在宅看護論
6単位
（165時間）
地域の暮らしと看護
1単位（30時間）
地域理解のための基礎知識
豊見城市で生活する人々の健康と暮らしの理解
フィールドワーク・インタビューの実際
地域特性から見えてきた健康と暮らしのまとめ
地域・在宅看護論概論
1単位（30時間）
地域・在宅看護の特徴
地域で暮らす看護の対象となる生活者とその家族
地域で暮らす看護の対象となる生活者を支える社会資源
訪問看護の制度
健康生活支援方法
地域・在宅看護方法論Ⅰ
1単位（30時間）
施設から在宅への移行期の看護
療養上のリスクマネジメント
医療処置を伴う生活支援方法と家族への管理支援
在宅療養における訪問看護実践
地域・在宅看護方法論Ⅱ
1単位（30時間）
認知症ケアの概要
認知症ケア計画
認知症高齢者への対応の実際
課題と展望
地域・在宅看護方法論Ⅲ
1単位（30時間）
地域・在宅看護実践の場と連携
保健・医療・福祉システムの構造と多職種連携
地域における多職種の役割と責務
担当者会議に向けた準備と実践
地域共生社会の今後の課題
国内外の地域づくり活動
地域・在宅看護方法論Ⅳ
1単位（15時間）
エンドオブライフケアとは
さまざまな生活の場での看取り
意思決定支援（ACP）とは
人生の最終段階を過ごす療養者の看取りの支援
臨地実習地域・在宅看護論
地域・在宅看護論実習
2単位（90時間）
地域で暮らす生活者を支える看護の意義と継続看護の必要性、多職種連携の在り方、保健・医療・福祉システムとして地域包括ケアシステムを理解するために看護活動の場と地域にある支援施設を通して地域共生会を学ぶ実習

Ⅱ　地域・在宅看護論実習目的・目標

目的

地域で暮らす生活者を支える看護の意義と継続看護の必要性、多職種連携の在り方、保健・医療・福祉システムとして地域包括ケアシステムを理解するために、看護活動の場と地域にある支援施設を通して地域共生社会について学ぶ

目標

1．　訪問看護制度や訪問看護ステーションの役割、活動の実際について説明できる
2．　訪問看護に同行し、臨床判断に基づいた看護ケアを通して、気づき・解釈・反応・省察について説明できる
3．地域で暮らす生活者を支える看護の意義と継続看護の必要性を理解できる。
4．退院調整や退院前カンファレンスを通し、切れ目のない在宅療養生活支援の意義とその必要性について説明できる
5．地域で暮らす生活者を支える地域包括ケアシステムを理解し、多職種連携における看護の役割について説明できる
6．地域で安心して生活や療養できるための保健・医療・福祉システムを理解し、生活を維持するための社会資源活用方法について理解できる
7．疾病や障がいをもちながら、地域で暮らす人々を支援する施設役割について理解できる
8．地域で自分らしく自立・自律した暮らしを支える実践を通して、地域共生社会について考えることができる

Ⅲ　実習体系・実習場所

臨地実習地域・在宅看護論　　2 単位　90 時間

実習場所

・訪問看護ステーション
・退院調整部署
・地域包括支援センター
・居宅介護支援事業所
・看護小規模多機能型居宅介護
・自立支援施設
・認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

実習計画

1．実習時間　訪問看護：8 時 30 分～15 時 30 分（実習時間 8 時間：休憩 60 分）
地域実習：8 時 30 分～14 時 45 分（実習時間 7 時間：休憩 60 分）
学内①　：9 時 00 分～12 時 00 分（実習時間 4 時間）
学内②　：9 時 00 分～15 時 45 分（実習時間 7 時間：休憩 90 分）
※地域実習は、退院支援・居宅介護支援事業所・地域包括支援センター・看護小規模多機能型居宅介護・自立支援・グループホーム

2．実習スケジュール

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目
場所	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション
内容	訪問看護ステーションのオリエンテーション	同行訪問 ケアの実践 カンファレンス	同行訪問 ケアの実践 カンファレンス	同行訪問 ケアの実践 カンファレンス	同行訪問 ケアの実践 最終カンファレンス
	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目	10 日目
場所	学内②	退院調整部署/地域包括支援センター/居宅介護支援事業所/看護小規模多機能型居宅介護	退院調整部署/地域包括支援センター/居宅介護支援事業所/看護小規模多機能型居宅介護	学内②	自立支援施設
内容	午前：学びの共有 発表 午後：地域実習にむけての事前学習と実習施設の事前確認（場所、交通手段等）	各施設にて、見学実習やカンファレンス、モニタリングの参加、同行実習	各施設にて、見学実習やカンファレンス、モニタリングの参加、同行実習 最終カンファレンス	午前：学びの共有 発表（支援マップ） 午後：地域実習にむけての事前学習と実習施設の事前確認（場所、交通手段等）	体験実習
	11 日目	１２日目	１３日目		
場所	グループホーム	学内①	学内①		
内容	体験実習	学びの共有 カードメソッド	まとめ 評価返し		

1．【実習内容及び実習方法】

目標	行動目標	実習内容	実習方法及び留意点
1	訪問看護ステーションの概要、一日の流れ、看護の実際がわかる	1）オリエンテーション ステーションの理念、組織図、介護保険・医療保険の利用状況、緊急時（平時）対応体制、感染対策、個人情報の保護、訪問看護指示書、居宅サービス計画書、利用者別訪問看護計画書、利用者別訪問看護記録、指示書の見方 関係機関との連絡方法、社会資源	・実習内容を確認し、必要な事前学習は率先して行い、特に訪問看護制度、介護保険法、医療保険について、必ず復習し理解して臨む ・利用者の個人情報を知る機会が多くなるため、個人情報保護の重要性を再確認し、取り扱いは厳重に気をつける。 ・感染対策は十分に行い、決して怠らないようにする（手指消毒の徹底、マスクの着用、必要時ガウンも使用する）
2	同行訪問し、指導者と共に根拠に基づいた看護実践ができる。	1）訪問看護の実際 (1)当日の訪問看護予定と調整 (2)情報収集の方法とアセスメント（現在の健康状態や前回の訪問看護記録、生活環境等） (3)根拠に基づいた看護支援の実際 ・バイタルサイン測定 ・清潔支援（おむつ交換・陰洗） ・創傷ケア　　など (4)コミュニケーション技術 (5) 介護者や家族支援方法 (6) 他のサービスの活用状況 2）看護場面メモを活用し、根拠に基づいた看護実践ができる。 (1)同行した訪問看護における情報、アセスメント、ケアの判断に至った根拠、ケアの実践、評価、再アセスメント (2)学びを記述し、実習ファイルにつづる	・同行訪問する利用者の疾患については事前に学習を終えておくこと ・同行訪問時の挨拶、自己紹介訪問時のマナーをしっかりと実践する ・看護実践の際は、利用者の情報や状況、安全・安楽の手順について同行する看護師と十分に確認を行い実践する ・フィジカルイグザミネーションを疾患と結び付け、学習しておく ・看護場面を活用し、訪問看護師の考えや看護実践の根拠について、自分の考えを話し、ディスカッションする。 ・同行訪問させていただいた利用者の状況については、看護場面メモの記録をまとめる。
3	地域で生活しながら、療養する人とその家族に対する看護について説明できる	1）地域で生活しながら療養する人とその家族への実際の支援 （1）同行訪問を通し、実際の生活、に対する看護を理解する。 （2）実習を通して対象の全体像の把握（ICF）を基に、課題を抽出し「私の考える　支援計画」を	・実習期間中にサービス担当者会議や退院調整会議などへの参加の機会が得られる場合は参加をお願いし主体的に学ぶ ・1 事例についてＩＣＦ，アセスメント、情報整理のための支援マップについて記録し、「私

		作成し、発表できる。 （3）所感の発表	の考える支援計画」をまとめ、最終カンファレンスで発表する。 ・実習ノートに訪問看護の学び・気づき・自己の課題・成長についてまとめ所感の発表をする
	学内日（実習6日目） 訪問看護実習の学びを共有し、自己の学びを深めることができる	1）訪問看護ステーション施設毎の学びの発表 **発表の運営は学生が主体**とする （時間・準備・時間管理） 2）学びの共有は専用用紙に記述する。 3）地域実習のオリエンテーション （1）実習の目的・目標の把握 （2）施設一覧表を基に、実習における確認・注意事項を理解する （3）施設の場所と駐車場の確認	・訪問看護ステーションの紹介、学びを発表できるように準備し、発表や質疑応答など活発に行えるように参加する。 ・選定した1人の対象者の全体像（ICF）、アセスメントシートと「私の考える支援計画」からの学びについて発表する ・他のグループが発表した内容から自分の学び、気づきを学びの共有用紙に記録する ・地域実習における目的・目標を把握し、実習の目標を達成できるよう事前学習を積極的に行う
4～6	地域実習（実習7・8日目） ①退院支援部署の役割を理解できる。 ・退院前カンファレンスに参加在宅療養を継続するために必要な支援について説明できる。	1）退院支援部署の役割と活動内容 （1）オリエンテーション 2）退院支援部署（入退院支援室等）における各種カンファレンスへ参加し、実際を知る （1）本人や家族の意向の確認方法 （2）関係機関との調整 （マネジメント・継続看護） （3）社会資源の活用方法を理解する 3）学びのまとめ ・支援マップを用いた「私の支援計画」について発表する ・実際の関わりの場面から気づきメモを活用し、指導者の考えを学ぶ 3）所感の発表	・退院支援について事前学習を行い臨むこと ・またその病院の特徴についても事前に調べ臨む ・カンファレンス参加時のマナーを守り、守秘義務について意識した行動をする。 ・2日間を通して、1人の事例の支援マップをまとめ、「私の考える支援計画」を最終カンファレンスで発表する。 ・指導者が実践している支援から気づいたことを、気づきメモを使ってまとめる。 ・実習ノートの所感に学び・気づき・自己の課題・成長についてまとめ発表する

4～6	②地域包括支援センターにおける多職種連携と看護師保健師の役割を説明できる	1）地域包括支援センターの役割と活動内容 (1)オリエンテーション (2)センターの活動内容の実際 (3)関係機関や多職種との連携 (4)社会資源の活用方法 (5)学びのまとめ ・支援マップを用いた「私の支援計画」について発表する ・実際の関わりの場面から気づきメモを活用し、指導者の考えを学ぶ 2）所感の発表	・地域包括ケアシステムや地域包括支援センターについて再度学習し、理解した上で実習に臨むこと ・相談場面に参加させてもらう際はマナーを守り、守秘義務について意識した行動をとる。 ・指導者が実践している支援から気づいたことを、気づきメモを使ってまとめる。 ・2日間を通して、1人の事例の支援マップをまとめ、「私の考える支援計画」を最終カンファレンスで発表する。 ・実習ノートの所感に学び・気づき・自己の課題・成長についてまとめ所感を発表する
4～6	③居宅介護支援事業所の役割と多職種間での支援の実際、社会資源の活用について説明できる	1）居宅介護支援事業所の役割と活動内容 (1)オリエンテーション (2)事業所の活動内容の実際 (3)多職種連携について (4)サービス担当者会議への参加 (5)モニタリングへの同行 (6)支援マップを用いた社会資源の活用方法 (7)学びのまとめ ・支援マップを用いた「私の支援計画」について発表する ・実際の関わりの場面から気づきメモを活用し、指導者の考えを学ぶ 2）所感の発表	・居宅介護支援事業所について事前学習を行い臨む ・介護支援専門員（ケアマネージャー）について復習して実習に臨む ・介護支援専門員と共にサービス担当者会議や、モニタリングに参加させてもらう際はマナーを守り、守秘義務について意識した行動をする。 ・指導者が実践している支援から気づいたことを、気づきメモを使ってまとめる。 ・2日間を通して、1人の事例の支援マップをまとめ、「私の考える支援計画」を最終カンファレンスで発表する。 ・実習ノートの所感に学び・気づき・自己の課題・成長についてまとめ所感を発表する

4～6	④看護小規模多機能型居宅介護の施設役割を理解する ・看護師の活動（通い・泊り・訪問）を通して、多職種間の連携について理解する ・社会資源の活用について説明できる	1）看護小規模多機能型居宅介護の役割と活動内容 (1)オリエンテーション (2)施設の活動内容の実際 (3)関係機関や多職種との連携 (4)社会資源の活用方法 2）看護師の役割と活動の実際 （1）通いの利用者との関わり （2）泊りの利用者の支援 （3）訪問の利用者の支援 3)学びのまとめ ・支援マップを用いた「私の支援計画」について発表する ・実際の関わりの場面や看護場面から気づきメモを活用し、指導者の考えを学ぶ 2）所感の発表	・看護小規模多機能型居宅介護について事前学習を行い臨む ・介護支援専門員（ケアマネージャー）、看護師の役割と多職種との連携について復習して実習に臨む ・職員と共にサービス担当者会議や、モニタリングに参加させてもらう際はマナーを守り、守秘義務について意識した行動をする。 ・指導者が実践している支援から気づいたことを、気づきメモを使ってまとめる。 ・2 日間を通して、1 人の事例の支援マップをまとめ、「私の考える支援計画」を最終カンファレンスで発表する。 ・実習ノートの所感に学び・気づき・自己の課題・成長についてまとめ所感を発表する
	学内（実習 9 日目） 退院部署、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、看護小規模多機能型居宅介護での学びを確認し、共有することができる	1）学びの共有の用紙を基に、地域実習施設の役割や多職種連携について自らの学びを深める。 2）「私の支援計画」を発表する ※発表について ・退院調整部署、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、看護小規模多機能型居宅介護実習の学びの共有が出来るようにする ・説明の時間 1 人 5 分 質疑応答の時間 15 分行う 3）自立支援・グループホーム実習のオリエンテーション （1）実習の目的・目標の把握 （2）施設一覧表を基に、実習における確認・注意事項を理解する （3）施設の場所と駐車場の確認	・地域実習施設の紹介、学びを発表できるように準備し、互いの学びを共有、新たな知識の習得を行う。 ・選定した 1 人の対象者の地域支援マップを基に「私の考える支援計画」からの学びについて発表する ・「私の考える支援計画」は参考資料として準備する ・他の施設学生は、しっかり説明内容を聞き取り、質問し、活発なディスカッションする。 ・個々で学びの共有の用紙へ記録をする。

7	（実習 10 日目） 自立支援施設での体験を通し、自立生活支援について説明できる	1）施設オリエンテーション 2）施設の活動内容の実際と参加 3）疾病や障がいを持ちながら、住み慣れた地域で自分らしい生活を送っている人への支援 4）施設利用者や支援スタッフとのコミュニケーション 5）働くことや自分らしさの考察 6）学びのまとめ	・施設の活動内容を十分に理解し、積極的に利用者と関わるようにする ・体験する際には、マナーを守り守秘義務を意識した行動がとれる ・施設利用者と積極的にコミュニケーションをとり、地域で自分らしく暮らす人々の自立生活について考え、それを支援する施設の役割について考える ・実習で体験したことを記録用紙に記述し指導者に提出する。
7	（実習 11 日目） グループホームにおけるコミュニケーションとその人の生活を支える支援方法について説明できる	1）施設オリエンテーション 2）利用者との時間の共有 3）認知症高齢者に寄り添うコミュニケーションの実践 4）生活を楽しむための工夫やスタッフの支援方法についてインタビューする。 5）認知症高齢者が自分らしく自立・自律する支援について考えたことをまとめる。	・認知症やグループホームについて再学習し実習に臨む ・相手を敬い尊重した態度で接する ・笑顔で接することを心がける体験する際には、マナーを守り守秘義務を意識した行動がとれる ・施設利用者と積極的にコミュニケーションをとり、地域で自分らしく暮らす人々の自立生活について考え、それを支援する施設役割について考える ・実習で体験したことを記録用紙に記述し、指導者に提出する。

7	学内（実習 12 日目） 自立支援施設、グループホームでの実習の学びを共有することができる	1）グループに分かれ、自立支援施設・グループホームでの実習の学びを「カードメソッド」で話し合う。 テーマ：「地域で自分らしく生きることを支えるとは」 2）カードメソッドで話し合った内容を発表する。 3）学びの共有用紙に学びを記録する。	グループメンバーとカードメソッドを通し、学びを共有する ・カードメソッドで自立支援施設・グループホームでの実習の学びを４～５人のグループに分かれて行う。 グループメンバーは、教員が調整する ・カードメソッドで導いた内容を模造紙に記述する ・視覚教材を視聴し、地域共生社会のイメージする
8	学内（実習 13 日目） 地域・在宅看護論実習の学びから、地域で生活する人々の支援を考える知の成果物を作成し、実習における自己の成長を可視化することができる 評価返しを行い、自己の課題を明確にすることが出来る。	1．実習での学びを「知の成果物」として、図や説明文などでまとめることができる 2．自己の評価を行い、課題の明確化	・12 日間の実習を通して、ゴールシートの達成について、各施設での経験学びを通しての自己の課題と成長について技術経験録の所感にまとめる ・所感を基に教員から配布された用紙「知の成果物」を図や絵、イラスト、写真、説明文で作成する ・「知の成果物」の提出は、ファイルと一緒に提出する。 ・評価返しは、訪問看護ステーションの担当教員から受け、「知の成果物」の説明を行い、今後の課題を見出し、次の実習につなげる ・実習ファイルは、評価返し終了後内容を整理し、**実習終了日 12：30 までに提出する。** **＜共通事項として＞** ・個人情報の取り扱いについても法令を遵守する ・看護学生としての実習マナーを守り、利用者やスタッフに積極的に関わり、尊重した態度で接する。

記録物と提出物の綴り方

実習初日	2日目～4日目	5日目 （訪問看護最終日）	6日目	7日目
・実習ノート ・看護場面メモ ・ゴールシート ・成長報告書 2/3 成長エントリー	・実習ノート ・看護場面メモ ・支援マップ ・ＩＣＦ ・アセスメント シート ・成長報告書 2/3 成長エントリー	・実習ノート ・看護場面メモ ・支援マップ ・ＩＣＦ ・アセスメント シート ・成長報告書 2/3 成長エントリー ・実習ノート所感 （A４用紙各自で準備 ＰＣ可）	・実習ノート ・学びの共有 用紙	実習ノート ・気づきメモ ・支援マップ ・成長報告書 2/3 成長エントリー
8日目 （地域実習最終日）	9日目	１０日目・11日目	12日目	13日目
実習ノート ・気づきメモ ・支援マップ ・成長報告書 2/3 ・実習ノート所感 （A４用紙各自で準備　ＰＣ可）	・学びの共有用紙	・自立支援・グループホームでの実習記録用紙 ・成長報告書 2/3 成長エントリー	・学びの共有用紙	・知の成果物用紙 （当日配布） ・技術経験録の所感用紙 ・評価表 ・成長報告書 1/3,2/3, ・step up スケール
ファイルの綴り方 １．ゴールシート　２．実習ノート（　成長報告書、成長報告書を含む） ３．看護場面メモ（訪問看護実習）４.支援マップ（訪問看護実習）５．ＩＣＦシート ６．アセスメントシート　７．気づきメモ（地域実習）８．支援マップ（地域実習） ９.自立支援・グループホームでの実習記録用紙　10．学びの共有用紙 11．知の成果物 12．評価表（実習要綱）　13．事前学習、事後学習の資料等				

＜オリエンテーション時に配布する用紙＞

・ゴールシート　・看護場面メモ　・気づきメモ　・支援マップ　・ＩＣＦシート　・　アセスメントシート　・実習ノート

＜記録用紙綴りにある用紙＞

・地域・在宅看護論　自立支援・グループホームでの実習記録用紙

＜学内日に配布する用紙＞

・学びの共有用紙　　・模造紙　　・知の成果物の用紙

＜教員への手渡し提出（最終日）＞

・step up スケール・技術経験録

地域・在宅看護論実習評価表

那覇市医師会　那覇看護専門学校

学習活動における具体的な評価規準	評価の観点	評価資料	評価基準　A:4点　B:3点　C:1点			自己評価	指導者評価	教員評価
			A(4)　すばらしい	B(3)　いいね	C(1)ふぁいと			
①在宅看護に関する法令や訪問看護制度について理解できる	知識・理解	自己学習 カンファレンス 日々の記録	在宅看護に関わる法令や訪問看護制度について十分に記述し、学習した内容を述べることができる	訪問看護にかかわる法令や訪問看護制度について学習しているが、内容が十分とはいえない。	在宅看護の関わる法令や訪問看護制度について自己学習は出来ているが、述べることが出来ない。			
②同行訪問時の看護実践を通して、気づき、アセスメントしたことを記述できる	関心・意欲・態度・技能・思考・判断	訪問場面、カンファレンス 日々の記録	看護場面メモを用いて気づき、アセスメントしたことを記述できる。	看護場面メモを用いて、気づきについて記述することはできるが、アセスメントが十分とはいえない	看護場面メモを用いて気づきについては記述することができるが、アセスメントができない			
③同行訪問時の看護実践を通して、看護師の判断と自己の判断の違いについて記述できる	知識・関心・意欲	自己学習、カンファレンス、日々の記録	看護場面メモを用いて看護師の判断をインタビューし、自己の判断の違いについて記述できる	看護場面メモを用いて看護師の判断をインタビューすることはできるが、自己の判断との違いについての記述が十分とはいえない	看護場面メモを用いて看護師の判断と自己の判断との違いについての記述が十分とはいえない			
④訪問看護を通して、地域包括システム及び継続看護の意義について理解し、社会資源の活用方法を述べることができる	知識・関心・意欲	自己学習 カンファレンス 日々の記録	地域包括システムや継続看護の意義を自己学習し、支援マップを用いた社会資源の活用方法を記述できる	地域包括システムや継続看護の意義を自己学習はしたが、支援マップへの社会資源の活用内容が十分ではない	地域包括システムや継続看護の意義の学習はしたが、支援マップを用いた社会資源の活用ができていない			
⑤退院調整部署・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・看護小規模多機能型居宅介護における多職種連携を理解し、看護の役割について述べることができる	知識・意欲・関心	自己学習 カンファレンス 日々の記録	地域における多職種連携の必要性を理解し、看護の役割について述べることができる	地域における多職種連携の必要性を理解はしているが、看護の役割の説明が十分ではない	地域における多職種連携の必要性の理解や看護の役割の説明が十分とはいえない			
⑥地域で生活する人々を支える施設の役割や活動内容を理解し、社会資源の活用方法について提案できる	知識・思考・表現	自己学習 カンファレンス 日々の記録	地域で生活する人々を支える施設の役割や活動内容を理解し、社会資源の活用方法について提案できる	地域で生活する人々を支える施設の役割や活動内容を理解し、社会資源の活用方法についての提案が不十分である	地域で生活する人々を支える施設の役割や活動内容を理解しているが、社会資源の活用方法について提案でき ない			
⑦地域で障害を持ちながら生活する人の自立について考え、その自立を支える支援方法について理解できる	知識・思考・表現	自己学習 カンファレンス 日々の記録	障がいや疾病を持ちながら生活する人の自立や支援方法について考えをまとめ、述べることができる	障がいや疾病を持ちながら生活する人の自立や支援方法について 考えている	障がいや疾病を持ちながら生活する人の自立や支援方法について 考えていない			
⑧グループホームに入所する利用者とのコミュニケーションやレクリエーションを通して、その人らしい生活について考えることができる	知識・思考・表現	自己学習 日々の記録、カンファレンス、プレゼンテーション	グループホームに入所する利用者とのコミュニケーションやレクリエーションを通して、その人らしい生活について考えることができる	グループホームに入所する利用者とのコミュニケーションやレクリエーションを通して、その人らしい生活について考えることが不十分である。	グループホームに入所する利用者とのコミュニケーションやレクリエーションを一緒に行うことができず、その人らしい生活について考えることが不十分である。			
⑨訪問看護、地域での実習を通しての学びを共有し、更に自己の学びにつなげることができる	知識・思考・表現	自己学習 日々の記録、カンファレンス、プレゼンテーション	訪問看護、地域での実習を通しての学びを共有し、更に自己の学びにつなげることができる	訪問看護、地域での実習を通しての学びを共有することはできるが、更に自己の学びについての記述が不十分である	訪問看護、地域での実習を通しての学びを共有することはできるが、更に自己の学びの記述ができない			
⑩地域・在宅看護論実習においての学びを可視化することができる。	知識・思考・表現	知の成果物 カンファレンス　プレゼンテーション	地域・在宅看護論実習においての学びを可視化することができる	地域・在宅看護論実習においての学びを可視化することが不十分である	地域・在宅看護論実習においての学びについてそれぞれについて記述はできるが、全体の繋がりができない			

Ｓｔｅｐ　ｕｐ　スケール ～看護師として必要な基礎力～

那覇市医師会　那覇看護専門学校

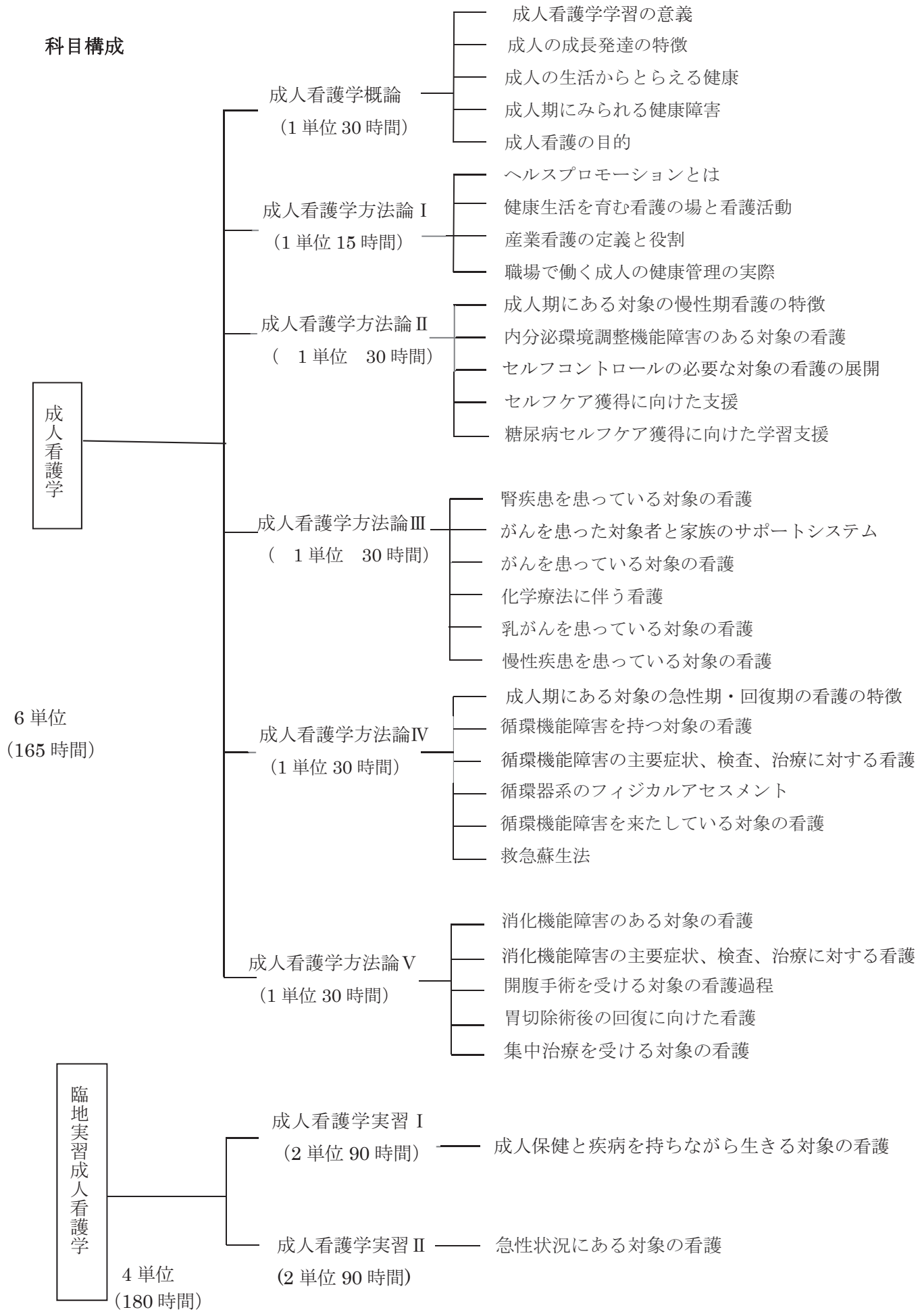
年　組　学籍番号　氏名

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 1）～3）　A：5点　B：3点　C：1点 4）～18）　A：3点　B：2点　C：1点 A すばらしい ＼(^o^)／	B いいね (*^_^*)	C ふぁいと(^^♪♪
考え抜く力(シンキング)	課題発見力	思考・判断	1）アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 （対象の情報用紙） リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合せて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
		思考・判断	2）対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 （対象の全体像・解決すべき課題） リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	思考・判断	3）対象の個別性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 （行動計画・看護計画） リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個別性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力(アクション)	働きかけ力	技能・表現	4）対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5）　対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するめに、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6）対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物（看護計画） 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7）看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
チームで働く力（チームワーク）	**発信力**	思考・判断 技能・表現	8）他者へ自分の考えや思いを分かりやすく伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを具体的な事例や客観的データを用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9）相手の意見や考えを丁寧に聴くことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して内容の確認や質問などを行いながら丁寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちをうち、相手の話しを素直に聴くことができる。	相手に関心を持つことやその人の意見を聴こうとする関わりができない。
	柔軟性	思考・判断	10）他者の意見や助言を理解し、活かすことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入れて理解し、次の行動に活かすことができる。	他者の意見や助言を受け入れ、その意味を理解することができる。	自分のやり方に固執し、意見や助言を受け入れることができない。
	状況把握力	思考・判断	11）周りの状況を判断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物理的環境）を判断し、どのように行動すべきなのかを考えて状況が良くなるように行動することができる。	周囲の状況を判断し、どのように行動すべきか理解しているが、行動に移せない。	周囲の状況を判断することができない。
	規律・責任性	思考・判断・技能・表現	12）守らなければならないルールや約束・マナーを理解し責任ある行動がとれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒヤリハット、アクシデント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べることができない。
	ストレスコントロールカ	思考・判断	13）ストレスを成長の機会と前向きに捉え、克服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替え対処し、成長に繋げることができる。	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替えることができる。	ストレスを対処することができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと (^^♪♪
倫理	**倫理性**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14）対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15）対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16）実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守る事ができる（守秘義務遵守）	実習場面 リフレクション場面 記録物 （レポート作成）	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで（コントロール）、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17）対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	**自ら学び考える力**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18）自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

科目構成


成人看護学
6 単位
（165 時間）
成人看護学概論
（1 単位 30 時間）
成人看護学学習の意義
成人の成長発達の特徴
成人の生活からとらえる健康
成人期にみられる健康障害
成人看護の目的
成人看護学方法論Ⅰ
（1 単位 15 時間）
ヘルスプロモーションとは
健康生活を育む看護の場と看護活動
産業看護の定義と役割
職場で働く成人の健康管理の実際
成人看護学方法論Ⅱ
（ 1 単位 30 時間）
成人期にある対象の慢性期看護の特徴
内分泌環境調整機能障害のある対象の看護
セルフコントロールの必要な対象の看護の展開
セルフケア獲得に向けた支援
糖尿病セルフケア獲得に向けた学習支援
成人看護学方法論Ⅲ
（ 1 単位 30 時間）
腎疾患を患っている対象の看護
がんを患った対象者と家族のサポートシステム
がんを患っている対象の看護
化学療法に伴う看護
乳がんを患っている対象の看護
慢性疾患を患っている対象の看護
成人看護学方法論Ⅳ
（1 単位 30 時間）
成人期にある対象の急性期・回復期の看護の特徴
循環機能障害を持つ対象の看護
循環機能障害の主要症状、検査、治療に対する看護
循環器系のフィジカルアセスメント
循環機能障害を来たしている対象の看護
救急蘇生法
成人看護学方法論Ⅴ
（1 単位 30 時間）
消化機能障害のある対象の看護
消化機能障害の主要症状、検査、治療に対する看護
開腹手術を受ける対象の看護過程
胃切除術後の回復に向けた看護
集中治療を受ける対象の看護
臨地実習成人看護学
4 単位
（180 時間）
成人看護学実習Ⅰ
（2 単位 90 時間）
成人保健と疾病を持ちながら生きる対象の看護
成人看護学実習Ⅱ
(2 単位 90 時間)
急性状況にある対象の看護

Ⅱ　成人看護学実習の目的・目標

目的：　あらゆる健康状態にある対象の特徴を理解し、基礎的知識、技術、態度を習得し看護を展開できる

目標：１　あらゆる健康状態にある対象の発達段階と発達課題、健康段階、機能障害を理解し、生活者としてとらえることができる。

２　あらゆる健康状態にある対象の価値観を尊重し、コミュニケーションが図れ、家族を含め良い人間関係を築くことができる。

３　あらゆる健康状態にある対象の健康段階に応じた基礎的な看護の展開方法を習得する。

４　あらゆる健康状態にある対象の個別に応じた支援技術を安全安楽に実施できる。

５　あらゆる健康状態にある対象のヘルスプロモーションを支援する活動の場と看護の役割を理解できる。

６　保健医療福祉チームの一員として連携、協働を通して看護の役割および継続看護の必要性について理解できる。

７　あらゆる健康状態にある対象の意思決定を支援する態度を身につける。

８　看護実践を振り返り評価し、自己の課題達成に向けて主体的な学習行動がとれる。

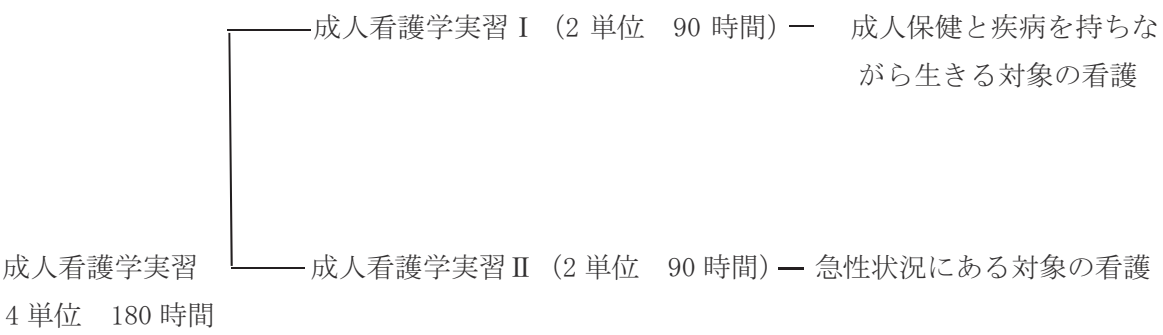
Ⅲ　成人看護学実習Ⅰと成人看護学実習Ⅱのねらい

	成人看護学実習Ⅰ（慢性期）	成人看護学実習Ⅱ（急性期）
知識	・退院を見据えた支援の必要性を理解する（必要時教育支援あり）	・退院を見据えた支援を考え実践する（教育支援あり）
技術	・フィジカルアセスメントを、助言を得ながら実践する ・個別性を考え日常生活支援（清潔、排泄、移乗移送、食事など）を、助言を得ながら実践する	・フィジカルアセスメントを習得する ・個別性を考え日常生活支援（清潔、排泄、移乗移送、食事など）を習得する
態度	・実習場面においた社会人としてのマナー（身だしなみ、言葉使い、時間管理など）を習得する	・実習場面においた社会人としてのマナー（身だしなみ、言葉使い、時間管理など）を習得する。さらに学生同士で意識し声掛けをできる

キーワード：健康観、セルフマネジメント、教育支援

Ⅳ　実習体系・実習場所

《実習体系》



《実習場所》

1　病棟

友愛医療センター　　沖縄協同病院　　豊見城中央病院　　浦添総合病院
南部徳洲会病院　　おもろまちメディカルセンター

2　透析室及び透析クリニック

友愛医療センター　　沖縄協同病院　　豊見城中央病院　　南部徳洲会病院
おもろまちメディカルセンター　　牧港中央病院　　大浜第一病院　　中部徳洲会病院
与那原中央病院　　西崎病院　とよみ生協病院　　那覇市立病院　ハートライフ病院
首里城下町クリニック　　みやら内科クリニック　　さくだ内科クリニック
うえず内科クリニック　　豊崎メディカルクリニック　　吉クリニック
みやざと内科クリニック

3　健診センター

とよみ生協病院健診センター　　浦添総合病院健診センター
那覇市医師会生活習慣病検診センター　　おもろまちメディカルセンター健康管理センター
与那原中央病院健康管理室　　南部徳洲会病院総合健診センター
大浜第一病院総合健康管理センター　　西崎病院健康管理センター
ハートライフ病院予防医学センター　　中部徳洲会健診センター
豊見城中央病院付属健康管理センター　中部地区医師会検診センター
沖縄県健康づくり財団

成人看護学実習Ⅰ

目的　健康生活の保持増進及び治療継続を支援する看護の役割について理解することができる。

目標　1　発達段階と発達課題をふまえ、ヘルスプロモーションを視座に生活者としてとらえることができる。
2　慢性疾患(健康障害)(機能障害)を有した対象の基礎的な看護の展開方法を習得する。
3　対象の健康課題がわかり、セルフケア行動をとれる基礎的な看護支援を理解できる。
4　家庭・地域社会における対象の健康行動を支援する活動の場と看護の役割を理解できる。
5　対象の健康観を尊重し意思決定を支援する方法が理解できる。
6　家庭・地域社会における対象の健康行動を支援する保健医療福祉チームの役割が理解できる。
7　看護実践を振り返り、自己の課題がわかり、主体的に学習する姿勢が持てる。

1　実習計画

1）実習期間　　後期　90 時間／クール

2）対象学年　　2 学年

3）実習施設　　1　病棟

友愛医療センター　　沖縄協同病院　　豊見城中央病院
南部徳洲会病院　　おもろまちメディカルセンター

2　透析室及びクリニック

友愛医療センター　　沖縄協同病院　　豊見城中央病院
南部徳洲会病院　　西崎病院　とよみ生協病院　中部徳洲会病院
牧港中央病院　　大浜第一病院　那覇市立病院　ハートライフ病院
与那原中央病院　　おもろまちメディカルセンター
首里城下町クリニック　　みやら内科クリニック
さくだ内科クリニック　　うえず内科クリニック
豊崎メディカルクリニック　　吉クリニック
みやざと内科クリニック

3　健診センター

とよみ生協病院健診センター　　浦添総合病院健診センター
那覇市医師会生活習慣病検診センター　中部徳洲会健診センター
南部徳洲会病院総合健診センター　　西崎病院健康管理センター
ハートライフ病院予防医学センター　大浜第一病院総合健康管理センー
与那原中央病院健康管理室　豊見城中央病院付属健康管理センター
おもろまちメディカルセンター健康管理センター
中部地区医師会検診センター　沖縄県健康づくり財団

4）実習時間

臨地①（病棟）：8 時 00 分～15 時 00 分（実習時間 8 時間：休憩 60 分）

臨地②（透析・健診）：8 時 00 分～12 時 30 分（実習時間 6 時間）

学内：9 時 00 分～12 時 00 分（実習時間 4 時間）

※施設によって実習時間の変動があります

2． 実習スケジュール

	1日目（8h）	2日目（8h）	3日目（8h）	4日目（4h）	5日目（8h）
場所	病棟	病棟	病棟	学内	病棟
内容	病棟オリエンテーション 対象者選定 情報収集 カンファレンス 情報の分析 関連図作成	対象者への支援 情報収集 カンファレンス 情報の分析 関連図作成	対象者への支援 情報収集 カンファレンス 情報の分析 関連図作成	関連図作成 看護計画作成	対象者への支援 情報収集 **ケースカンファレンス**
	6日目（8h）	7日目（8h）	8日目（8h）	9日目（8h）	10日目（6h）
場所	病棟	病棟	病棟	病棟	透析
内容	看護計画実践・評価 カンファレンス **中間評価** SOAP 記入	看護計画実践・評価 カンファレンス SOAP 記入	看護計画実践・評価 カンファレンス SOAP 記入	看護計画実践・評価 **終了カンファレンス** SOAP 記入	オリエンテーション 対象者との関わり カンファレンス
	11日目（6h）	12日目（6h）	13日目学内（4h）		
場所	透析	健診センター	学内		
内容	情報収集 コミュニケーション・支援 カンファレンス	オリエンテーション 見学実習 カンファレンス	実習のまとめと 学びの共有 終了時評価		

3　病棟実習

1）実習内容および実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1	1）対象の発達段階・発達課題がわかり、慢性疾患を有することによる対象の生活の変化が述べられる。	1）対象の発達段階の特徴と発達課題 ・身体的特徴 ・精神・社会的特徴 2）慢性疾患を有することによる対象の生活変化 ①生命の維持（健康状態）の変化 ②その人らしい生活（日常生活）の変化 ③暮らしをたてる（家族関係、職業的・経済的背景）変化	・対象の特徴と発達課題を復習し、対象と関連させて考える。 ・対象の疾患、症状、検査、治療と看護について学習し、実習1日目の対象者の選定に繋げる。 ・生活者として生活の 3 つの側面からとらえる。 ・事前学習や授業で使ったポートフォリオ持参する。
	2）対象に関心を向け、理解しようと傾聴することができる。	1）対象の考えを認め支持し、共感、受容できる	
2	1）対象の状態をアセスメントすることができる	1）情報収集と分析 （1）情報収集 主訴（自覚症状）：対象者が最もつらいと感じる症状や気になる症状 現病歴：症状出現から現在に至るまでの経緯全体を把握する。症状の変化やそれへの対処、受療（検査・治療）の有無、受療過程（内容と期間）とその効果について時系列にとる。 入院時の症状および検査データ、その後の症状の変化 治療方針・治療内容：安静療法、食事療法、薬物療法、酸素療法、手術療法、リハビリテーション　など 疾病認識：最初に変調を自覚したときからそれについてどのよ	・限られた情報の中でも意味づけし、看護課題やニーズをみつけ実習を行う。実習計画をたて実践し評価に結びつける。 ・基本情報用紙、ヘンダーソンのアセスメント枠組みを活用する。 ・問診の技術を活用したコミュニケーションや対象の支援、多職種との連携・協働、電子カルテなどを通して三側面と生活の視点から情報を収集する。 ・実習 2～3 日目は、優先順位の高い未充足の項目を分析し毎日提出する **・ヘンダーソンのアセスメント枠組みを活用して 14 項目**

		うに考え対処してきたのか（受療に対する対象の思いなど） 健康認識（健康への考え方） 既往歴（過去の健康歴）：年齢と疾患名、継続的な通院、入院や手術など 生活背景（家族・地域・社会的役割を含む）：年齢、性別、配偶者の有無や家族構成、職業、社会保険の種類など 生活状況：基本的な日常生活活動と１日の過ごし方 （２）ヘンダーソンのアセスメント枠組みを用いた情報の分類 （３）各アセスメント項目の情報が持つ意味を考える （４）全体像の把握 ・アセスメントした項目ごとの関連性を確認し、全体像を把握する。	**から未充足となる項目を分析**し関連図作成に繋げる。 ・対象の心理・社会面の反応を理解するのは難しい。様々な理論を活用する。 ・対象理解に有用な理論 セルフケア理論、自己効力理論、ラザルスらによるストレスコーピング、変容ステージ（トランスセオレティカルモデル）、など ・日々の実習の中で、関連図の作成及び看護上の課題の明確化、看護計画の立案を行う。必要時助言を受け、追加修正する。
	２）アセスメントに基づき看護上の課題を明確化することができる。	１）現在起こっている、または予測される看護上の課題を明らかにする ２）対象者の状態に応じて優先順位を決定しケアの方向性を考える	・実習５日目のケースカンファレンスで、関連図と看護計画を用いて発表し対象の看護上の課題を明確にする。
	３）看護上の課題ごとの看護計画が立案できる。	１）対象の主体的なセルフケア・セルフマネジメントを促進する支援を立案する。	・日々の行動目標・行動計画は成人看護学実習ノートの記載ガイド参照
	４）看護計画に基づく実施ができる。	１）看護計画を実施に移す。 （１）日々の行動目標、行動計画を立案する。 （２）日々、対象の状態を把握して行う。 （３）対象の反応や変化に応じ支援	

		方法の変更や調整をする。 （4）実施後の評価 （5）記録 ・日々、経過記録（SOAP 方式）を記載する。	・実習 7～9 日目は毎朝提出する。
	5）看護介入の結果を評価することができる。	1）看護計画の評価 （1）目標の達成度 （2）目標の妥当性 （3）支援内容の妥当性 2）評価後は看護計画の追加・修正を行う	・看護計画立案時に評価日の設定を行う。対象者の容態が変化した場合などは、そのつど評価し、計画の追加修正を行う。
3	1）対象のセルフケア・セルフマネジメントできるための支援の必要性がわかる。	1）意思決定を支える援助 ・情報提供 ・インフォームドコンセント ・感情表出を促す心理的援助 2）病気とともに生きることを支える援助 ・過去や現在の健康への思いやセルフケア・セルフマネジメントの経過への気づき 3）セルフマネジメントを促す援助 （1）セルフケア・セルフマネジメントにおける自己のもてる力への気づき （2）慢性疾患の急性増悪予防のための教育的支援の視点 ・セルフモニタリング ・症状マネジメント ・急性増悪に対する予防行動や生活上の対処行動 4）社会生活の拡大を促す支援 ・セルフケア・セルフマネジメントに活用できるサポート（支援者や社会資源）	・情報提供する際は、事前に指導者に確認する。 ・初めて実施する支援技術は見学または指導者と共に実施するという段階を踏む。 ※教育支援が必要な場合は、教育支援計画書を作成する。

		5）対象の看護についてのディスカッション （1）疑問点や困難と感じていることなど	・学生間でディスカッションし、実習指導者や教員の助言を受ける。 ①日々の指導者とのカンファレンス時 ②ケースカンファレンス時 ③終了カンファレンス時 ・メンバーと指導者とのカンファレンスで得た学びを、翌日の行動目標と連動し、看護実践につなげる
	2）対象者に行われている治療・処置、検査に伴う看護の方法が説明できる	1）安静療法、食事療法、薬物療法、酸素療法、手術療法、リハビリテーション　など 2）治療・処置、検査などの見学	・対象者に行われている治療・処置、検査について目的、方法と対象者に及ぼす影響について学習し、理解する。
4	1）慢性期にある対象者の療養環境について述べることができる。	1）病棟の機能、特殊性 （1）入院対象者の特徴 （2）看護体制 2）日課・週間予定について 3）構造および配置について（病室の配置、処置室、準備室、リネン室、配膳室、トイレ、非常口、その他） 4）器具・物品の置き場所（清潔の物品、排泄の物品等） 5）カルテ、電子カルテ、記録物の取り扱い方法（留意点） 6）安全対策について 事故防止対策、災害対策、院内感染予防対策	・病棟のオリエンテーションを主体的に受ける。 ・病棟内を案内してもらう。 ・翌日から実践する看護支援をイメージしながら、オリエンテーションに参加し積極的に質問する。 例）シーツ交換日・入浴日・おむつ交換時の物品の場所など
	2）慢性期にある対象への看護の役割を述べることができる。	1）実習での経験を振り返り、エビデンスを確認し、慢性期の看護の意味づけができる。	・日々のリフレクションを成人看護学実習ノートにまとめる ・最終日に実習のまとめを行う。（カードメソッド技法を用いて発表・共有）

5	1）意思決定を支援する方法を述べることができる。 2）慢性疾患を患った対象のニーズを傾聴することができる。	1）対象の生活歴や役割、希望などをふまえた情報提供とインフォームドコンセント 1）対象が過ごされてきた環境や経験などにより価値観や人生観を理解し、対象の生き方に関心をもち傾聴する。	**事前課題** ＊慢性の経過をたどる対象のニーズと、意思決定支援のあり方
6	1）対象に関わる多職種との連携、協働について説明できる。	1）保健医療チームメンバー （1）医師 （2）看護師、認定看護師 （3）理学療法士（PT） 作業療法士（OT） 言語聴覚士（ST） （4）栄養士 （5）医療ソーシャルワーカー(MSW) （6）薬剤師 （7）放射線技師 2）保健医療の関連機関 （1）退院支援相談室 （2）地域包括支援センター （3）各種専門外来 （4）健診センター 3）血液浄化センター	・セルフケア・セルフマネジメントが継続可能なようにどのような職種が関わっているかを知る。
7	1）実習を通して自己の課題を明確化することができる。	1）実習終了後、自己の課題と学びをまとめる。 2）実習目標の到達度を実習の中間と終了時に評価する。 3）自己の課題達成にむけて主体的に学習に取り組む	・終了カンファレンスで発表する所感の中に記述する。 ・成人看護学実習Ⅰ評価及びStep Upスケールを用いて、中間評価及び終了時評価を記入する。 ・実習指導者および担当教員から中間評価と終了時評価を受ける。 ・中間評価：実習6日目 ・終了時評価：実習最終日

4　透析室実習

1）実習内容および実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法及び留意点
1	1）対象者の発達段階・発達課題がわかり、継続治療が必要な対象者の生活の変化が述べられる。	1）対象の発達段階の特徴と発達課題 ・身体的特徴 ・精神・社会的特徴 2）継続治療が必要な対象の生活変化 ①生命の維持（健康状態）の変化 ②その人らしい生活（日常生活）の変化 ③暮らしをたてる（家族関係、職業的・経済的背景）の変化	・対象の特徴と発達課題を復習し、対象と関連させて考える。 ・対象の疾患、症状、検査、治療と看護について学習し、対象と関連させて考える。 ・生活者として生活の3つの側面からとらえる。 ・事前学習や授業で使ったポートフォリオ持参する。 **事前課題** ＊腎臓の形態と機能について ＊腎不全について ・一般的な症状と発生機序含む ＊病期分類 ＊血液透析の前・中・後の看護について（ドライウエイト、除水量など） ＊透析の原理 ＊バスキュラーアクセスについて ＊シャント管理 ＊慢性腎不全の食事管理 ＊透析を受ける対象が利用できる社会資源について ＊フットケアの必要性
2	1）対象者の状態をアセスメントすることができる	1）情報収集と分析 （1）情報収集の視点 主訴（自覚症状）：対象者が最もつらいと感じる症状や気になる症状 現病歴：症状出現から現在に至るまでの経緯全体を把握する。症状の変化やそれへの対処、受療（検査・治	・実習ワークシート①（透析）を活用し限られた情報の中でも意味づけして、看護課題やニーズをみつけ実習を行う。 ・問診の技術を活用したコミュニケーションや対象の支援、多職種との連携・協働、電子カルテなどを通して三側面と生活の視点から情報を収集する。

		療）の有無、受療過程（内容と期間）とその効果について時系列にとる。 治療方針・治療内容：安静療法、食事療法、薬物療法、酸素療法、手術療法、リハビリテーション　など 疾病認識：最初に変調を自覚したときからそれについてどのように考え対処してきたのか（受療に対する対象の思いなど） 健康認識（健康への考え方） 既往歴（過去の健康歴）：年齢と疾患名、継続的な通院、入院や手術など 生活背景（家族・地域・社会的役割を含む）：年齢、性別、配偶者の有無や家族構成、職業、社会保険の種類など 生活状況：基本的な日常生活活動と１日の過ごし方 （２）実習ワークシート①（透析）を用いた情報の整理 （３）実習ワークシート①（透析）の各ステップの情報が持つ意味を考える （４）全体像の把握 ・実習ワークシート①（透析）でアセスメントした各ステップの関連性を確認し、全体像を把握する。	・対象の疾患（現病歴、既往歴、合併症など）、症状、検査、治療と看護について学習し、対象と関連させて考える。 ・対象の心理・社会面の反応を理解するのは難しい。様々な理論を活用する。 ・対象理解に有用な理論 セルフケア理論、自己効力理論、ラザルスらによるストレスコーピング、変容ステージ（トランスセオレティカルモデル）、フィンクの危機モデル　など ＊慢性の経過をたどる対象のニーズと、意思決定支援のあり方

3	1）対象者のセルフケア・セルフマネジメントできるための支援が述べられる。	1）意思決定を支える援助 ・情報提供 ・インフォームドコンセント ・感情表出を促す心理的援助 2）病気とともに生きることを支える援助 ・過去や現在の健康への思いやセルフケア・セルフマネジメントの経過への気づき 3）社会生活の拡大を促す支援 ・セルフケア・セルフマネジメントに活用できるサポート（支援者や社会資源）	
4	1）透析を受けている対象者の療養環境について述べることができる。	1）透析室の機能、特殊性 ・透析治療を受ける対象者の特徴 ・看護体制 2）日課・週間予定について 3）構造および配置について 4）透析の原理と機器について 5）透析開始から終了までの流れ 6）安全対策について 事故防止対策、災害対策、院内感染予防対策 7）社会資源について	・透析室のオリエンテーションを主体的に受ける。 ・オリエンテーション用紙（所定の記録用紙）に振り返りを記載する
4	2）透析を受けている対象者への看護の役割を述べることができる。	1）透析室における看護の役割 (1)透析中の看護 ①身体面への支援 ・バイタルサイン、コミュニケーション、観察、日常生活の支援 ②心理･社会面への支援 ③機器トラブルへの対応 ④事故防止 ⑤感染症対策	・長期間透析を受けている対象の身体的、精神的、社会的特徴と支援について学ぶ。 ・透析室看護師が行っている看護支援の実際を学ぶ。 ・実習ワークシート①（透析）に振り返りを記載する

		⑥災害時対策 (2)自己管理に向けた指導 ①シャント管理 ②食事療法 ③水分管理 ④薬物管理	
6	1）看護チームおよび多職種との連携､協働の必要性を述べることができる。	1）透析室と他部署・他施設との連携 2）対象が利用できる社会資源	・連携の実際を見学する。 ・連携のあり方について説明を受ける

5　健診センター

1）実習内容及び実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法及び留意点
4	1）ヘルスプロモーション活動の場として健診センターの役割を述べることができる。	1）オリエンテーション ①健診センターの設備、構造 ②事業内容 特定健康診査・特定保健指導の取り組み等 ③保健医療福祉チームの連携､協働（どのような職種が働いているのか） ④健康づくり活動の内容 ⑤健診センター利用者の特徴	・健診センターにおける対象者のヘルスプロモーションを支援する活動の場を意識して取り組む 事前課題 ＊健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護（成人看護学概論 P240～P255） ＊成人看護学方法論Ⅰの講義資料を復習する
6	1）健診センターにおける多職種との連携・協働について述べることができる。	1）健診センター活動を見学 ①活動の場面 ②多職種の活動の場および連携・協働の実際	・活動の場面で説明を受け活動目的を理解する。
4	2）ヘルスプロモーション活動の場として健診センターにおける看護の役割を述べることができる。	1）活動場面の見学 ①活動場面についての説明 ・特定健康診査 ・特定保健指導 ・検査時の看護 ・受付から終了までの支援 ②活動場面の見学 2）実習での経験を振り返り､エビデンスを確認し、ヘルスプロモーション活動における看護の意味づけができる。 3）成人期の健康課題と健診センター見学実習の内容や所感をまとめる。	・検査を安心かつ正確に受けられるような支援について、説明を受ける。 ・活動の場面で説明を受け活動目的を理解する。 ・実習終了後､指導者とのカンファレンスで学びの振り返りを行う。 ※記録用紙（2）に記載する

実習の流れと主な記録物

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
場所	病棟	病棟	病棟	学内①	病棟
内容	オリエンテーション 情報収集 カンファレンス 関連図作成	対象者への支援 情報収集 カンファレンス 関連図作成	対象者への支援 情報収集 カンファレンス 関連図作成	関連図作成 看護計画作成	対象者への支援 情報収集 ケースカンファレンス
主な記録物	記録用紙(3)基本情報 記録用紙(4)情報整理と分析 記録用紙(5) 関連図・看護上の課題リスト 記録用紙(6)-1 看護計画 成人看護学実習Ⅰノート ※教育支援計画書・パンフレットなど				
	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
場所	病棟	病棟	病棟	病棟	透析
内容	看護計画実践・評価 カンファレンス 中間評価	看護計画実践・評価 カンファレンス	看護計画実践・評価 カンファレンス	看護計画実践・評価 終了カンファレンス	対象者との関わりカンファレンス
主な記録物	記録用紙(3)基本情報 記録用紙(4)情報整理と分析 記録用紙(5) 関連図・看護上の課題リスト 記録用紙(6)-1 看護計画 記録用紙(6)-2 看護計画（実践・評価） 成人看護学実習Ⅰノート ※教育支援計画書・パンフレットなど 成人看護学実習Ⅰ評価表、step up スケール				記録用紙(1)透析実習記録 実習Ⅰワークシート①
	11日目	12日目	13日目		
場所	透析	健診センター	学内②		
内容	対象者との関わりカンファレンス	オリエンテーション 見学実習 カンファレンス	実習のまとめと学びの共有 終了時評価		
主な記録物	記録用紙(1)透析実習記録 実習ワークシート① 実習ワークシート②	記録用紙(2)	成人看護学実習Ⅰノート 実習ワークシート②		

提出する記録と綴り方

1）ポートフォリオの綴り方（上から順に）

(1) ゴールシート

(2) 自己評価

①成人看護学実習Ⅰ評価表

(3) 教育支援計画書及びリーフレット・パンフレットなど（必要時）

(4) 実習で使用した資料、事前学習

(5) 成人看護学実習ノート

(6) 守秘義務誓約書

※ Step up スケール及び技術経験・評価記録は記載して評価返し時に持参

2）看護過程記録物ファイル（黄色）の綴り方

①記録用紙(3)　基本情報

②記録用紙(4)　情報整理と分析

③記録用紙(5)　関連図・看護上の課題リスト

④記録用紙(6)－1　看護計画

⑤記録用紙(6)－2　看護計画（実践・評価）

⑥透析実習

a）記録用紙(1)　透析実習記録

b）成人看護学実習Ⅰ　実習ワークシート①・②

⑦健診センター実習

a）記録用紙(2)

⑧7 プロセスレコード（必要時）

⑨ヒヤリハット（必要時）

3）提出日時

実習終了日：　15：00

成人看護学実習□　評価表

学習活動	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：５点　B：３点　C：１点		
				A	B	C
対象と関わる中で、対象者の健康への願いに寄り添う。	「関心・意欲・態度」	1）慢性疾患によって入院生活を送る対象者の生活の変化がわかる 【実践場所】 病棟	・基本情報記録 ・実習場面での対象者との関わり ・日々のカンファレンスでの発言 ・リフレクション ・実習ノート	慢性疾患によって入院生活を送る対象者の生活の変化がわかり、健康段階と発達課題の両方の視点で述べることができる。	慢性疾患によって入院生活を送る対象者の生活の変化がわかり、健康段階または発達課題のどちらひとつの視点で述べることができる。	慢性疾患によって入院生活を送る対象者の生活の変化はわかるが、健康段階または発達課題の視点では述べられていない。
	「思考・判断・態度」	2)対象の健康観や意思決定を尊重した支援と看護と関連付けて考えることができる 【実践場所】 病棟、透析	・実習場面での対象者や家族との関わり ・日々のカンファレンスでの発言（テーマ設定） ・リフレクション ・ヘンダーソン 14 項目 ・関連図 ・看護計画 ・実習ワークシート①（透析） ・実習ノート	対象の健康観とあらゆる場面の意思決定に関心を寄せ、看護と関連付けて考えることができ、具体的な支援まで述べることができる。	対象の健康観とあらゆる場面の意思決定に関心を寄せ、看護と関連付けて考えることができるが、具体的な支援までは述べることができていない。	対象の健康観とあらゆる場面の意思決定に関心を寄せているが、看護と関連付けて述べることができない。
	「思考・判断・技術」	3)健康障害を有する対象者のフィジカルアセスメントができる 【実践場所】 病棟、透析	・実習場面での対象者や家族との関わり ・日々のカンファレンスでの発言（テーマ設定） ・リフレクション ・ヘンダーソン 14 項目 ・実習ノート ・実習ワークシート①（透析）	既往歴と現病歴を関連させ、対象者の個別性にあわせたフィジカルアセスメントを助言をもとに実践できる	対象者の個別性にあわせたフィジカルアセスメントを助言をもとに実践できる	対象者の個別性にあわせたフィジカルアセスメントを助言を得ても実践できない

	「思考・判断」	4)慢性疾患によって入院生活を送る対象者の疾患・症状・検査・治療・看護を関連づけることができる 【実践場所】 病棟	・情報分析(ヘンダーソン) ・関連図 ・看護計画 ・日々の行動目標、行動計画 ・日々のカンファレンスでの発言 ・リフレクション ・実習ノート	慢性疾患によって入院生活を送る対象者の疾患・症状・検査・治療・看護を関連づけて、入院前・中・後がどのように変化しているのか述べることができる。	慢性疾患によって入院生活を送る対象者の疾患・症状・検査・治療・看護のうちの 3 つ以上を関連づけて、入院前・中・後がどのように変化しているのか述べることができる。	慢性疾患によって入院生活を送る対象者の疾患・症状・検査・治療・看護を関連付けることができない。
対象の健康に向けた思いや今までの経過を聴き、支援ができる。	「技能・表現」	5)慢性疾患によって入院生活を送る対象者の個別性に合わせた看護支援が理解できる 【実践場所】 病棟 透析	・対象者や関連職種との関わり ・情報分析(ヘンダーソン) ・看護計画 ・教育支援計画書 ・教育支援（必要時) ・日々の行動目標、行動計画 ・日々のカンファレンスでの発言 ・リフレクション ・実習ノート	①保健医療福祉チームと連携し退院後を見据えた看護支援と必要な社会資源を述べることができる ②個別性に合わせたセルフマネジメントの支援ができる	①保健医療福祉チームと連携し退院後を見据えた看護支援を述べることができる ②セルフマネジメントの支援ができる	①退院後を見据えた看護支援に気づくことができない。 ②セルフマネジメント支援を考えることはできるが実践はできない
	「思考・判断」	6)透析療法を受けながら地域で生活を送る対象者のセルフケア行動と支援方法が理解できる 【実践場所】 透析	・対象者との関わり ・日々の行動目標、行動計画（記録用紙 1) ・実習ワークシート①（透析) ・指導場面 ・日々のカンファレンスでの発言 ・リフレクション ・事前事後学習	透析実習ワークシートを用いて、透析療法を受けている対象者のセルフケア行動と支援方法を述べることができる。	透析実習ワークシートを用いて、透析療法を受けている対象者のセルフケア行動を述べることができる。	透析実習ワークシートを用いても、透析療法を受けている対象者のセルフケア行動が述べられない。

成人期にある対象の健康管理について考える	「思考・判断」	7）健診センターの看護の役割がわかる。 【実践場所】 健診	・日々の行動目標、行動計画（記録用紙 1） ・実習ワークシート②（透析・健診センター） ・事前事後学習	地域で生活している対象者のヘルスプロモーションと健診センターにおける看護の役割に加え、多職種、他施設との連携の必要性を述べることができる。	地域で生活している対象者のヘルスプロモーションと健診センターにおける看護の役割を述べることができる。	地域で生活している対象者のヘルスプロモーションまたは健診センターにおける看護の役割のいずれかを述べることができる。
実習での経験を振り返り看護の役割を考える	「知識・理解」	8）実習（病棟・透析・健診センター）での学びを共有し、地域で生活する対象者を支える保健医療福祉チームと関連機関の連携・協働を意味付けできる。 【実践場所】 学内まとめ	・実習ワークシート②（透析・健診センター） ・リフレクション ・カンファレンスでの発言 ・カードメソッド ・実習ノート	実習（病棟・透析・健診センター）での学びを共有し、地域で生活する対象者を支える保健医療福祉チームと看護の役割を述べることができる。	実習（病棟・透析・健診センター）での学びを共有し、地域で生活する対象者を支える看護の役割を述べることができる。	実習（病棟・透析・健診センター）での学びを共有し、地域で生活する対象者を支える看護の役割を述べることができない。

用語の定義

・あらゆる場面：健康段階・発達段階を踏まえた治療の選択、

・意思決定：本人の健康観、本人や家族がどう過ごしてきたか・どんな風に過ごしていきたいのか

Ｓｔｅｐ　ｕｐ　スケール ～看護師として必要な基礎力～

那覇市医師会　那覇看護専門学校

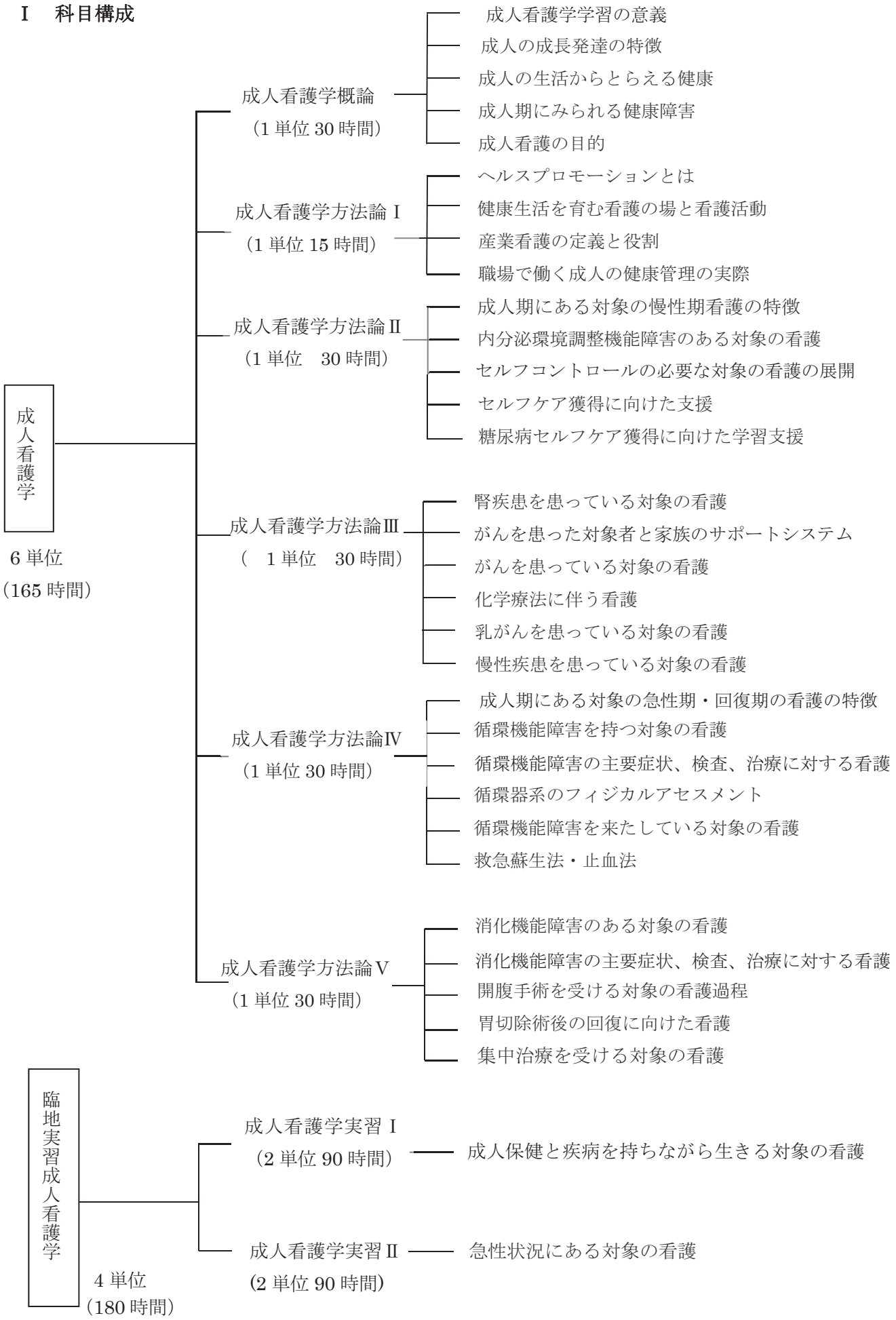
＿＿年＿＿組　学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 1）～3）　A：5点　B：3点　C：1点 4）～18）　A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね (*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
考え抜く力(シンキング)		思考・判断	1）アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物（対象の情報用紙）リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合せて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
	課題発見力	思考・判断	2）対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物（対象の全体像・解決すべき課題）リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	思考・判断	3）対象の個別性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物（行動計画・看護計画）リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個別性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力(アクション)		技能・表現	4）対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
	働きかけ力	技能・表現	5）　対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6）対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物（看護計画）実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7）看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
チームで働く力（チームワーク）	**発信力**	思考・判断 技能・表現	8）他者へ自分の考えや思いを分かりやすく伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを具体的な事例や客観的データを用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9）相手の意見や考えを丁寧に聴くことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して内容の確認や質問などを行いながら丁寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちをうち、相手の話しを素直に聴くことができる。	相手に関心を持つことやその人の意見を聴こうとする関わりができない。
	柔軟性	思考・判断	10）他者の意見や助言を理解し、活かすことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入れて理解し、次の行動に活かすことができる。	他者の意見や助言を受け入れ、その意味を理解することができる。	自分のやり方に固執し、意見や助言を受け入れることができない。
	状況把握力	思考・判断	11）周りの状況を判断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物理的環境）を判断し、どのように行動すべきなのかを考えて状況が良くなるように行動することができる。	周囲の状況を判断し、どのように行動すべきか理解しているが、行動に移せない。	周囲の状況を判断することができない。
	規律・責任性	思考・判断・技能・表現	12）守らなければならないルールや約束・マナーを理解し責任ある行動がとれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒヤリハット、アクシデント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べることができない。
	ストレスコントロールカ	思考・判断	13）ストレスを成長の機会と前向きに捉え、克服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替え対処し、成長に繋げることができる。	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替えることができる。	ストレスを対処することができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと (^^♪♪
倫理	**倫理性**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14）対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15）対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16）実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守る事ができる（守秘義務遵守）	実習場面 リフレクション場面 記録物 （レポート作成）	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで（コントロール）、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17）対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	**自ら学び考える力**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18）自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

Ⅰ　科目構成


成人看護学
6 単位
（165 時間）
成人看護学概論
（1 単位 30 時間）
成人看護の目的
成人の生活からとらえる健康
成人の成長発達の特徴
成人看護学学習の意義
成人期にみられる健康障害
成人看護学方法論Ⅰ
（1 単位 15 時間）
ヘルスプロモーションとは
健康生活を育む看護の場と看護活動
産業看護の定義と役割
職場で働く成人の健康管理の実際
成人看護学方法論Ⅱ
（1 単位　30 時間）
成人期にある対象の慢性期看護の特徴
内分泌環境調整機能障害のある対象の看護
セルフコントロールの必要な対象の看護の展開
セルフケア獲得に向けた支援
糖尿病セルフケア獲得に向けた学習支援
成人看護学方法論Ⅲ
（　1 単位　30 時間）
腎疾患を患っている対象の看護
がんを患った対象者と家族のサポートシステム
がんを患っている対象の看護
化学療法に伴う看護
乳がんを患っている対象の看護
慢性疾患を患っている対象の看護
成人看護学方法論Ⅳ
（1 単位 30 時間）
成人期にある対象の急性期・回復期の看護の特徴
循環機能障害を持つ対象の看護
循環機能障害の主要症状、検査、治療に対する看護
循環器系のフィジカルアセスメント
循環機能障害を来たしている対象の看護
救急蘇生法・止血法
成人看護学方法論Ⅴ
（1 単位 30 時間）
消化機能障害のある対象の看護
消化機能障害の主要症状、検査、治療に対する看護
開腹手術を受ける対象の看護過程
胃切除術後の回復に向けた看護
集中治療を受ける対象の看護
臨地実習成人看護学
4 単位
（180 時間）
成人看護学実習Ⅰ
（2 単位 90 時間）
成人保健と疾病を持ちながら生きる対象の看護
成人看護学実習Ⅱ
(2 単位 90 時間)
急性状況にある対象の看護

Ⅱ　成人看護学実習の目的・目標

目的：　あらゆる健康状態にある対象の特徴を理解し、基礎的知識、技術、態度を習得し看護を展開できる

目標：１　あらゆる健康状態にある対象の発達段階と発達課題、健康段階、機能障害を理解し、生活者としてとらえることができる。
２　あらゆる健康状態にある対象の価値観を尊重し、コミュニケーションが図れ、家族を含め良い人間関係を築くことができる。
３　あらゆる健康状態にある対象の健康段階に応じた基礎的な看護の展開方法を習得する。
４　あらゆる健康状態にある対象の個別に応じた支援技術を安全安楽に実施できる。
５　あらゆる健康状態にある対象のヘルスプロモーションを支援する活動の場と看護の役割を理解できる。
６　保健医療福祉チームの一員として連携、協働を通して看護の役割および継続看護の必要性について理解できる。
７　あらゆる健康状態にある対象の意思決定を支援する態度を身につける。
８　看護実践を振り返り評価し、自己の課題達成に向けて主体的な学習行動がとれる。

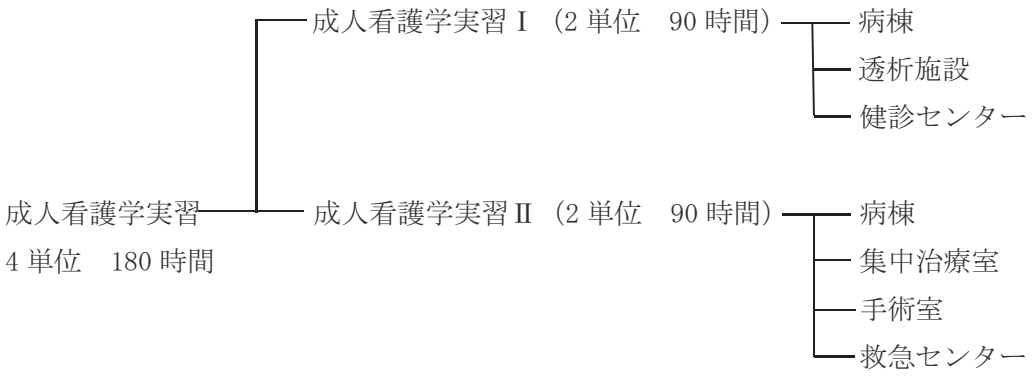
Ⅲ　成人看護学実習Ⅰと成人看護学実習Ⅱのねらい

	成人看護学実習Ⅰ（慢性期）	成人看護学実習Ⅱ（急性期）
知識	・退院を見据えた支援の必要性を理解する（教育支援あり）	・退院を見据えた支援を考え実践する（教育支援あり）
技術	・フィジカルアセスメントを助言を得ながら実践する ・個別性を考え日常生活支援（清潔、排泄、移乗移送、食事など）を、助言を得ながら実践する	・フィジカルアセスメントを習得する ・個別性を考え日常生活支援（清潔、排泄、移乗移送、食事など）を習得する
態度	・実習場面においた社会人としてのマナー（身だしなみ、言葉使い、時間管理など）を習得する	・実習場面においた社会人としてのマナー（身だしなみ、言葉使い、時間管理など）を習得する。さらに学生同士で意識し声掛けをできる

キーワード：健康観、セルフマネジメント、教育支援

Ⅳ　実習体系・実習場所

《実習体系》



《実習場所》

1　病棟、集中治療室、手術室、救急センター

友愛医療センター　　沖縄協同病院　　豊見城中央病院　　浦添総合病院
南部徳洲会病院　　大浜第一病院　　那覇市立病院

2　透析室及び透析クリニック

友愛医療センター　　沖縄協同病院　　豊見城中央病院　　南部徳洲会病院
おもろまちメディカルセンター　　牧港中央病院　　大浜第一病院　　中部徳洲会病院
西崎病院　とよみ生協病院　　那覇市立病院　ハートライフ病院
首里城下町クリニック　　みやら内科クリニック　　さくだ内科クリニック
うえず内科クリニック　　豊崎メディカルクリニック　　吉クリニック
みやざと内科クリニック

3　健診センター

とよみ生協病院健診センター　　浦添総合病院健診センター
那覇市医師会生活習慣病検診センター　　おもろまちメディカルセンター健康管理センター
南部徳洲会病院総合健診センター
大浜第一病院総合健康管理センター　　西崎病院健康管理センター
ハートライフ病院予防医学センター　　中部徳洲会健診センター
豊見城中央病院付属健康管理センター　中部地区医師会検診センター
沖縄県健康づくり財団

成人看護学実習Ⅱ

目的：　成人各期の対象の特徴を理解し、急性期から回復期、健康障害に応じた看護を展開できる基礎的な知識、技術、態度を習得する。

目標：1　対象の発達段階・発達課題をふまえ、急性期から回復期にある対象を生活者としてとらえることができる。
2　急性期から回復期にある対象の看護上の課題を明らかにし、課題解決に向けた看護を展開できる。
3　急性期から回復期にある対象がセルフケアの再獲得ができるように支援技術を安全安楽に指導者のもとで実施できる。
4　急性期から回復期の治療によって異なる療養の場と看護の役割を理解できる。
5　保健医療福祉チームの一員として継続看護の必要性が理解できる。

1　実習計画

1）実習期間　　通年　　90 時間／クール

2）実習時間　　8：00　～　15：00　　臨地（病棟）
8：00　～　12：30　　臨地（ＩＣＵ・ＯＲ・ＥＲ）
9：00　～　15：45　　学内

3）対象学年　　3 学年

4）実習施設　　南部徳洲会病院　　浦添総合病院
友愛医療センター　大浜第一病院　　那覇市立病院

２． 実習スケジュール

実習時間

学内：9 時 00 分～15 時 45 分（実習時間 7 時間：休憩 90 分）

臨地（病棟）：8 時 00 分～15 時 00 分（実習時間 8 時間：休憩 60 分）

臨地（ICU・OR・ER）：8 時 00 分～12 時 30 分（実習時間 6 時間）

8×8ｈ＝64ｈ（病棟）　2×6ｈ＝12ｈ（ICU・OR・ER）　2×7ｈ＝14ｈ（学内）

	１日目（8ｈ）	２日目（8ｈ）	３日目（8ｈ）	４日目（7ｈ）	５日目（8ｈ）
場所	病棟実習	病棟実習	病棟実習	学内実習	病棟実習
内容	オリエンテーション 対象者の選定 情報収集 カンファレンス	対象者への支援 情報収集 カンファレンス	対象者への支援 情報収集 カンファレンス	関連図・看護計画作成	対象者への支援 情報収集 ケースカンファレンス
	６日目（8ｈ）	７日目（8ｈ）	８日目（8ｈ）	９日目（8ｈ）	１０日目（6ｈ）
場所	病棟実習	病棟実習	病棟実習	病棟実習	ICU・OR・ER
内容	対象者への支援 情報収集 カンファレンス 中間評価	対象者への支援 情報収集 カンファレンス 中間評価	対象者への支援 情報収集 カンファレンス 看護サマリー発表	対象者への支援 情報収集 カンファレンス 終了カンファレンス	オリエンテーション 見学実習 カンファレンス
	11 日目（6ｈ）	12 日目（7ｈ）			
場所	ICU・OR・ER	学内実習			
内容	オリエンテーション 見学実習 カンファレンス	実習のまとめと学びの共有 終了時評価			

3　病棟実習

1）実習内容及び実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1	1）対象の発達段階・健康段階がわかり、急性状態から回復過程にある対象の生活の変化を述べることができる。	1）対象の発達段階の特徴と発達課題 ・身体的特徴 ・精神・社会的特徴 2）急性状態から回復過程にある対象の生活変化 ①生命の維持（健康状態）の変化 ②その人らしい生活（日常生活）の変化 ③暮らしをたてる（家族関係、職業的・経済的背景）の変化	・成人期の特徴と発達課題を復習し、対象者と関連させて考える。 ・対象の疾患、症状、検査、治療と看護について学習し、実習1日目の対象者の選定に繋げる。 ・生活者として生活の3つの側面からとらえる。
2	1)対象の状態をアセスメントすることができる。	1）情報収集と分析 （1）情報収集 主訴（自覚症状）：対象者が最もつらいと感じる症状や気になる症状 現病歴：症状出現から現在に至るまでの経緯全体を把握する。症状の変化やそれへの対処、受療（検査・治療）の有無、受療過程（内容と期間）とその効果について時系列にとる 入院時の症状および検査データ、その後の症状の変化 治療方針・治療内容：安静療法、食事療法、薬物療法、酸素療法、手術療法、リハビリテーションなど 疾病認識：最初に変調を自覚したときからそれについてどのように考え対処してきたのか（受療に対する対象の思いなど） 健康認識（健康への考え方）	・限られた情報の中で意味づけをして、看護課題やニーズをみつけ看護計画を立案し実践評価に結びつける。 ・基本情報用紙、ヘンダーソンのアセスメント枠組みを活用する。 ・コミュニケーション技術を活用した問診や対象の支援、多職種との連携・協働、電子カルテなどを通して三側面から情報を収集する。 ・実習2～3日目は、優先順位の高い未充足のみの項目を分析し毎日提出する

		既往歴（過去の健康歴）：年齢と疾患名、継続的な通院、入院や手術など 生活背景（家族・地域・社会的役割を含む）：年齢、性別、配偶者の有無や家族構成、職業、社会保険の種類など 生活状況：基本的な日常生活活動と１日の過ごし方 （２）アセスメント枠組みを用いた情報の分類 （３）各アセスメント枠組みの情報が持つ意味を考える （４）全体像の把握 ・アセスメントした項目ごとの関連性を確認し、全体像を把握する。	・対象の疾患、症状、検査、治療と看護について学習し、対象と関連させて考える。 ・対象の心理・社会面の反応を理解するのは難しい。様々な理論を活用する。 ・対象理解に有用な理論 セルフケア理論、自己効力理論、ラザルスらによるストレスコーピング、コーンの危機障害受容モデル等
2	2）アセスメントに基づき看護上の課題を明確化することができる。	1）現在起こっている、または予測される看護上の課題を明らかにする 2）対象者の状態に応じて優先順位を決定しケアの方向性を考える	・日々の実習の中で、関連図の作成及び看護上の課題の明確化、看護計画の立案を行う。必要時助言を受け、追加修正する。 ・実習５日目のケースカンファレンスで関連図と看護計画を用いて発表し対象の看護を明確にする。
2	3）看護上の課題ごとの看護計画が立案できる。	1）対象者のセルフケア再獲得にむけた支援を立案する。	・看護上の課題は全て看護計画を立案する
2	4）看護計画に基づく実施ができる。	1）看護計画を実施に移す。 ①日々の行動目標、行動計画を立案する。 ②日々の対象の状態を把握して行う。	・日々の実習計画は成人看護学実習ノートの記載ガイド参照

		③対象の反応や変化に応じ支援方法の変更や調整をする。 ④実施後の評価 ⑤記録 ・日々、経過記録（SOAP 方式）を記載する。	
2	5）看護介入の結果を評価することができる。	1）看護計画の評価 (1) 目標の達成度 (2) 目標の妥当性 (3) 支援内容の妥当性 2）評価後は看護計画の追加・修正を行う	・看護計画立案時に評価日の設定を行う。対象者の容態が変化した場合などは、そのつど評価し、計画の追加修正を行う。 ・看護計画の追加修正は、赤文字で記入する
3	1）対象者がセルフケア再獲得できるための支援ができる	1）対象者の合併症や二次障害をおこさずに回復できるための支援 ①正確なモニタリングとフィジカルアセスメントによる状態の判断 ②症状コントロール（症状緩和） ③セルフケア能力の維持・向上を考えた早期リハビリテーション ④合併症や二次障害に対する予防行動や生活上の新たなる変化とその対処行動への教育支援 ⑤不安、自尊心低下など心理的反応への支援 ⑥看看連携の看護サマリー ⑦多職種との連携	・教育支援を行う場合は、事前に教育支援計画書を作成し、指導内容・方法が適切か指導者に提示し、助言を得る。 ・教育支援は指導者の同席のもと実施する。
		2）対象の看護についてのディスカッション ・疑問点や困難と感じていることなど	・学生間でディスカッションし、実習指導者や教員の助言を受ける。 ①日々の指導者とのカンファレンス時 ②ケースカンファレンス時 ③終了カンファレンス時

3	2)対象者に行われている治療・処置、検査に伴う看護の方法が説明できる。	1)手術療法、安静療法、食事療法、薬物療法、酸素療法、リハビリテーション　など 2）治療・処置、検査などの見学	・対象者に行われている治療・処置、検査について目的、方法と対象に及ぼす影響について学習し、理解する。
4	1）急性期から回復期にある対象者の療養環境について述べることができる。	1）病棟の特殊性 ・入院対象者の特徴、 ・看護体制 2）日課・週間予定について 3)構造および配置について(病室の配置、処置室、準備室、リネン室、配膳室、トイレ、非常口、その他) 4)器具・物品の置き場所(清潔の物品、排泄の物品等) 5）カルテ、電子カルテ、記録物の取り扱い方法（留意点） 6）安全対策について 事故防止対策、災害対策、院内感染予防対策 7）急変時の対応 (1)CPR の説明 (2)救急カートの説明 8）関連部署の見学 ・救急外来、ICU・HCU・観察室　など	・病棟のオリエンテーションを主体的に受ける。 ・病棟内を案内してもらう。
4	2)急性期から回復期にある対象への看護の役割を述べることができる。	1)実習での経験を振り返り、エビデンスを確認し、急性期から回復期の看護の意味づけができる。	・日々の指導者とのカンファレンスで学びの振り返りを行う。 ・日々のリフレクションを成人看護学実習ノートにまとめる ・実習１２日目の学内実習で急性期から回復期の看護のまとめをおこなう。 ・まとめはカードメソット技法を用いてグループワークを行なう。

5	1）対象者に関わる多職種との連携、協働に参加できる。	1）保健医療チームメンバー (1)医師 (2) 看護師 認定看護師、 (3)理学療法士（PT） 作業療法士（OT） 言語聴覚士（ST） (4)栄養士 (5)医療ソーシャルワーカー（MSW） (6)薬剤師 (7)臨床心理士 (8)家族 (9)ケースワーカー (10)ケアマネージャー (11)地域包括支援センター　等 2）多職種カンファレンスへの参加 ・対象者のケースカンファレンスへの参加	・リハビリ見学し、対象者のケアに繋げる ・栄養指導の見学対象者のケアに繋げる ・服薬指導の見学対象者のケアに繋げる ・リハビリカンファレンス ・退院支援カンファレンス等ど
	2)対象者に必要な社会資源活用方法が述べられる。	1）医療相談室 各種制度の案内、サポートの説明　など 2）医療保険 高額医療費制度、高額医療費の貸与制度 訪問看護　など 3）介護保険法 施設サービス、在宅サービス、訪問介護サービス 4）身体障碍者手帳　など	・対象者が利用できる社会資源について学習する。 ・対象が利用できる社会資源について、医療ソーシャルワーカーなどから説明を受ける。
	3)対象者の受け持ち期間中の看護サマリーをまとめる継続看護の必要性がわかる。	1）サマリーの記録用紙を用いて、看護計画の評価を行い、継続看護を目標とした情報の伝達を行う。	・対象者にとって必要なケアが継続されるように記載する。 ・病棟最終日の前日に看護サマリーを用いての発表を行う。 ・発表の前日に教員へ提出する（教員がコピーする）

	4)チームメンバーと協働できる	1）対象によりよい看護を提供するめに、チームメンバーと協力する。	・タイムスケジュールを活用してグループメンバーで協力する。

4　集中治療室（ICU・HCU）見学実習

目標：集中治療室の機能・特殊性を理解し、安全な療養環境と継続看護の必要性を述べることができる。

1）実習内容及び実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
5	1）集中治療を受ける対象者の療養環境について述べることができる。	1）ICU・HCU の機能、特殊性 ・集中治療を受ける対象者の特徴 ・看護体制 2）日課・週間予定 3）設備・構造 4）安全対策について 事故防止対策、災害対策、感染予防対策	・成人看護学方法論Ⅳ・Ⅴの授業内を復習する（血液ガス検査の学習も含む） ・臨床看護総論・急性期看護Ⅰのテキスト参照 ・集中治療を受ける対象者への看護について学習し、質問や疑問を３つ以上考えたうえで臨む。
	2）集中治療を受ける対象の看護の役割を述べることができる。	1）集中治療を受ける対象への援助の実際 （1）生命の危機に対する援助 ・観察とモニタリング ・治療・処置、検査の援助 （2）日常生活行動への援助 （3）対象者の不安・苦痛への援助 ・コミュニケーションへの援助 ・環境への配慮 （4）家族への援助 2)実習での経験を振り返り、ICU・HCU における看護の意味づけができる。	・ICU・HCU のオリエンテーションを主体的に受ける。 ・ICU・HCU 看護師が行っている看護支援の実際を担当看護師に同行し、日常生活支援を実践する。
6	1）集中治療室における看護職と多職種との連携・協働について述べることができる。	1）多職種の活動及び連携・協働の実際 ・専門職の関わり ・多職種連携・協働における看護職の役割	・実習終了後、指導者とのカンファレンスで学びの振り返りを行う。 ・実習１２日目の急性期から回復期の看護の意味づけにつなげ

	2）集中治療室における継続看護の必要性を述べることができる。	1）集中治療室における継続看護の実際 ・入退室時の看看連携	る。 ・実際の見学を通して、学ぶ。 ・看護サマリーなどをみせてもらい説明を受ける。 ・集中治療室での入退室があれば見学をする。

5　手術室見学実習

目標：手術室の機能・特殊性を理解し、安全な療養環境と継続看護の必要性を述べることができる。

1）実習内容及び実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
5	1）手術療法を受ける対象者の療養環境について述べることができる。	1）手術室の機能、特殊性 ・手術療法を受ける対象者の特徴 ・看護体制 2）日課・週間予定 3）設備・構造 4）安全対策について 事故防止対策、災害対策、院内感染予防対策	・成人看護学方法論Ⅳ・Ⅴの授業内を復習する ・臨床看護総論・急性期看護Ⅰのテキスト参照 ・手術療法を受ける対象者への看護について学習し、質問や疑問を３つ以上考えたうえで臨む。 ・手術室のオリエンテーションを主体的に受ける。
	2）手術療法を受ける対象の看護の役割を述べることができる。	1）手術室における看護の実際 （1）手術にかかわる看護師の役割 ・直接介助看護師 ・間接介助看護師 （2）麻酔導入前後の看護 ・安全管理（患者確認、ガーゼ遺存の防止　など） ・精神的援助 ・麻酔に対する援助 ・手術体位に対する援助 2）実習での経験を振り返り、手術室における看護の意味づけができる。	・手術がない場合などは、外科的手洗いやガウンテクニックなどの体験、手術がない時の看護師の業務について説明を受ける。 ・指導者とのカンファレンスで学びの振り返りを行う。 ・実習１２日目の急性期から回復期の看護の意味づけにつなげる。

6	1）手術室における看護職と多職種との連携・協働について述べることができる。 2）手術室における継続看護の必要性を述べることができる。	1）多職種の活動及び連携・協働の実際 ・専門職の関わり ・多職種連携・協働における看護職の役割 1）手術室における継続看護の実際 ・入退室時の申し送り	・実際の見学を通して学ぶ。 ・手術チェックリストなどをみせてもらい説明を受ける。 ・手術室での入退室があれば見学をする。

6　救急外来(ER)実習**（救急外来の機能・特殊性の理解）**

目標：救急外来の機能・特殊性を理解し、安全な療養環境と継続看護の必要性を述べることができる。

1）実習内容及び実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
5	1) 救急外来の療養環境（受付～トリアージ～診察室～処置室～観察ベッド～救急ベイ）の構造と動線を説明できる。	1) 救急外来の機能、特殊性搬送経路（徒歩・自家用・救急隊）と受け入れの流れ ①時間依存性疾患（心血管・脳血管・敗血症・外傷 等）の優先順位 ②設備・構造（トリアージブース、処置室、観察ベッド、検査動線、レントゲン/CT、リソース配置）	【事前学習】 ・救急外来における初期評価（ABCDE/一次評価） ・血液ガス検査等の検査を学習する ・成人看護学方法論Ⅳの救急看護の授業資料を復習すると良い。 ・オリエンテーションを主体的に受け、事前に考えた質問事項を確認。
	2) 救急外来の看護体制（当直体制、リーダー/トリアージナース/処置担当等）を説明できる。	2) 日課・週間予定（ピーク時間帯、当直交代	・ピーク時間帯の動線、職員配置を観察。
	3) 安全対策（事故防止、災害時動線、感染予防〔標準予防策・飛沫/接触/空気〕）を列挙できる。	3) 安全対策（事故防止、災害/多重傷病者〔MCI〕対策、感染予防）	・感染対策：PPE 着脱手順、ゾーニング（Clean/Dirty）を遵守。

			・処置室・観察ベッドでの器材配置安全確認（酸素、吸引、除細動器、吸引路）。
	1)救急外来における初期評価（ABCDE/一次評価）とモニタリングの意義を説明できる。 2)治療・処置・検査の援助（採血、血液ガス、12 誘導心電図、末梢/静脈路確保、画像検査搬送介助）の看護支援を列挙できる 3)日常生活行動の援助（清潔・排泄・体位・保温）を説明できる。 4)対象者の不安・苦痛への援助（疼痛評価、コミュニケーション、環境配慮）を説明できる。 5) 家族への援助（情報提供、待機支援、プライバシー配慮）を説明できる。	1)生命危機への援助： ・観察とモニタリング（SpO_2、心電図、血圧、呼吸数、意識レベル） 2)処置・検査の援助（採血・血液ガス、心電図、点滴、画像検査搬送） 3)日常生活支援（体位変換、保温、口腔/皮膚ケア） 4)不安・苦痛への援助（疼痛スケール、環境調整） 5)家族支援（面談の同席、説明補助、安心の声掛け）	・担当看護師に同行し、許可範囲で安全に実施（インフォームドコンセントと施設の学生業務範囲を順守）。 ・事例ごとに ABCDE の枠組みで振り返り、メモを取る。 ・痛み評価は数値化（NRS）、鎮痛プロセスの流れを確認。 ・対象のプライバシー ・個人情報保護の徹底
6	1）救急隊、医師、看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師、ソーシャルワーカーとの連携場面を説明できる。 2）多職種連携・協働における看護職の役割（情報収集・共有、優先度判断、患者・家族支援）を説明できる。	・多職種の活動（救急隊からのホットラインを通じて情報受領～受け入れ～治療～転帰決定）。 ・時間依存性疾患のチーム対応（ST 上昇型心筋梗塞、脳卒中：特に脳梗塞、**敗血症、多発外傷など**）	・連携場面を時系列で観察 ・救急隊引継ぎの聴取要点（バイタル、現場状況、既往、内服、処置）を学ぶ。

7　実習の流れと主な記録物

【病　棟】

	実習１日目	実習２日目	実習３日目	実習４日目	実習５日目
主な実習内容	オリエンテーション 受け持ち対象者の決定 アセスメントに必要な情報収集 バイタルサインの測定	対象者への支援 アセスメントに必要な情報収集と整理・分析 受け持ち対象者を中心に検査、治療・処置などの見学 受け持ち対象者を中心に多職種カンファレンスへの参加		《学内実習》 看護上の課題の明確化 看護計画の立案 教育支援計画書の作成	ケースカンファレンス
主な記録物	記録用紙(3)基本情報 記録用紙(4)情報整理と分析 記録用紙(5)関連図・看護上の課題 記録用紙(6)-1 看護計画			教育支援計画書・パンフレットなど 技術経験・評価記録 成人看護学実習ノート	

	実習６日目	実習７日目	実習８日目	実習９日目
主な実習内容	看護計画に基づく実施→評価→修正 受け持ち対象者へ教育支援 受け持ち対象者を中心に治療・処置、検査などの見学 受け持ち対象者を中心に多職種カンファレンスへの参加 中間評価(実習６～７日目) 看護サマリー（実習８日目） 終了カンファレンス（実習９日目）			
主な記録物	記録用紙(3)基本情報 記録用紙(4)情報整理と分析 記録用紙(5)関連図・看護上の課題 記録用紙(6)-1 看護計画 記録用紙(6)-2 看護計画（実践・評価） 看護サマリー 成人看護学実習ノート		教育支援計画書・パンフレットなど 技術経験・評価記録 成人看護学実習Ⅱ評価表 step up スケール	

【　ICU/HCU、OR、ER　】　実習１０～１１日目

	1日
実習内容	オリエンテーション 看護の実際の見学
主な記録物	記録用紙（2）

3週目	実習１２日目
主な実習内容	《学内実習》 実習のまとめと発表 ・カードメソッド 記録の整理 実習ファイル提出
主な記録物	記録用紙(3)基本情報　学生所感 記録用紙(4)情報整理と分析　記録用紙(5)関連図・看護上の課題 技術経験・評価記録 記録用紙(6)-1 看護計画　成人看護学実習Ⅱ評価表 記録用紙(6)-2 看護計画（実践・評価）　step up スケール 成人看護学実習ノート

8　提出する記録と綴り方

1）実習ファイル（ポートフォリオ　A4）の綴り方（上から順に）

(1)ゴールシート

(2)自己評価

①成人看護学実習Ⅱ評価表

(3)ＩＣＵ／ＨＣＵ、ＯＲ、ＥＲ実習

①記録用紙（2）

(4)教育支援計画書及びリーフレット（必要時）

(5)実習で使用した資料

(6)成人看護学実習ノート

(7)守秘義務誓約書

※ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ用紙等その他の資料は(8)守秘義務誓約書の後に綴る。

※ Step up スケール及び技術経験・評価記録は記載して評価返し時に持参。

2）個人記録　看護過程の展開　（学校から支給された黄色のファイル）

①記録用紙(3)　基本情報

②記録用紙(4)　情報整理と分析

③記録用紙(5)　関連図・看護上の課題リスト

④記録用紙(6)－1　看護計画

⑤記録用紙(6)－2　看護計画（実践・評価）

⑥看護サマリー

⑦プロセスレコード（必要時）

⑧ヒヤリハット（必要時）

3）提出日時

実習終了日：　15：45

成人看護学実習Ⅱ　評価表

学習活動	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：５点　B：３点　C：１点		
				A	B	C
対象の健康回復へのニーズ寄り添う。	関心・意欲・態度	①対象者の不安に関心を寄せ、寄り添おうとしている。 【実践場所】 病棟	・対象との関り ・基本情報記録 ・カンファレンスでの発言 ・リフレクション	対象者の不安に関心を寄せ、理解しようと受容的態度で聴いている。	対象者の不安に関心を寄せ、受容的態度で聴いている。	対象者に寄り添い、対象の不安に関心を寄せていない。
	関心・意欲・態度	②対象がどのように意思決定をしたかわかろうとしている。 【実践場所】 病棟	・対象との関り ・基本情報記録 ・情報分析 ・関連図 ・看護サマリー ・カンファレンスでの発言 ・リフレクション	対象者が選択した理由・選択に至るまでの思考過程を「誰と」「どのように考え」「何を重視して」決定したかまで述べることができる。	指導者や教員の助言を得て、対象者が選択した理由・選択に至るまでの思考過程を「誰と」「どのように考え」「何を重視して」決定したかまで述べることができる。	指導者や教員の助言を得て、対象者が選択した理由・選択に至るまでの思考過程を抽象的な表現で述べることができる。
	関心・意欲・態度	③対象者に必要な社会資源活用方法がわかる。 【実践場所】 病棟	・基本情報 ・情報分析 ・関連図 ・看護計画 ・看護サマリー ・リフレクション ・カンファレンスでの発言	必要な社会資源の名称と目的を挙げ、利用手続き・利用タイミング・関わる多職種まで述べられる。	社会資源の名称または目的のどちらかは説明できるが、活用方法の説明までは述べられない。	必要な社会資源を挙げることが述べられない。

	思考・判断	④急性状態から回復過程にある対象者の生活と健康状態の関連を分析し、ニーズがわかる。 【実践場所】 病棟	・情報分析 ・関連図 ・看護計画 ・日々の行動目標、行動計画 ・カンファレンスでの発言 ・リフレクション	急性状態から回復過程にある対象者の生活と健康状況の関連を既習の知識を活用し（疾患・症状・検査・治療を関連づけて）、入院前・入院中・退院後の時間軸の中で分析し、ニーズを明らかにしている。	急性状態から回復過程にある対象者の生活と健康状況の関連を既習の知識を活用し（疾患・症状・検査・治療を関連づけて）、入院前・入院中・退院後の時間軸いずれか２つ以上の中で分析でき、ニーズを明らかにしている。	急性状態から回復過程にある対象者の生活と健康状況の関連を既習の知識を活用し（疾患・症状・検査・治療を関連づけて）ているが、時間軸の中で分析できておらず、ニーズも明らかにしていない。
健康回復への支援を行う。	技能・表現	⑤セルフケア再獲得できるための支援をしている 【実践場所】 病棟	・対象との関り ・看護計画 ・日々の行動目標、行動計画 ・教育支援計画書 ・パンフレット/リーフレット ・指導場面 ・カンファレンスでの発言 ・リフレクション	セルフケア獲得に必要な項目（セルフモニタリング・症状マネジメント等）を計画し、対象者を生活者として捉え、個別性を重視しながら教育支援を実施している。	セルフケア獲得に必要な項目（セルフモニタリング・症状マネジメント等）を計画し、教育支援を実施している。	セルフケア獲得に必要な項目（セルフモニタリング・症状マネジメント等）を計画しているが教育支援の実施までは至っていない。

健康回復への支援を行う。	思考・判断	⑥看護サマリーをまとめることができる。 【実践場所】 病棟	看護サマリー	受け持ち対象者にとって必要なケアが継続される内容が記載されている。 ・入院に至るまでの経過と受け持ち期間中の経過の要約を行っている ・受け持ち期間中の看護上の課題と実践・評価を行っている ・今後新たに出現すると予測される課題をまとめている。 上記すべてを満たしている。	受け持ち対象者にとって必要なケアが継続される内容が記載されている。 ・入院に至るまでの経過と受け持ち期間中の経過の要約を行っている ・受け持ち期間中の看護上の課題と実践・評価を行っている ・今後新たに出現すると予測される課題をまとめている。 上記 2 つを満たしている。	受け持ち対象者にとって必要なケアが継続される内容が記載されている。 ・入院に至るまでの経過と受け持ち期間中の経過の要約を行っている ・受け持ち期間中の看護上の課題と実践・評価を行っている ・今後新たに出現すると予測される課題をまとめている。 上記 1 つを満たしている。
特殊部署の看護活動を表現できる。	知識・理解	各部署の機能・特殊性を理解し安全な療養環境と継続看護の必要性を述べることができる。 【実践場所】 手術室 集中治療室 救急外来	・カンファレンスでの発言 ・リフレクション ・記録用紙 (2) ※ICU・OR・ER	以下の内容をすべてふまえ、各部署の看護の役割を記述している。 ・学んだ看護の実際(機能・特殊性)を述べる ・多職種連携、継続看護の実際	以下の内容を一つ以上ふまえ、各部署の看護の役割を記述している。 ・学んだ看護の実際(機能・特殊性)を述べる ・多職種連携、継続看護の実際	各部署の看護の役割を感想で記述している。

実習での経験を振り返り看護の役割を考える。	知識・理解	⑦実習での経験を振り返り、エビデンスを確認し、急性期から回復期にある対象の看護の意味づけができる。		実習での経験を振り返り看護の役割を考える。	知識・理解	⑦実習での経験を振り返り、エビデンスを確認し、急性期から回復期にある対象の看護の意味づけができる。

Ｓｔｅｐ　ｕｐ　スケール ～看護師として必要な基礎力～

那覇市医師会　那覇看護専門学校

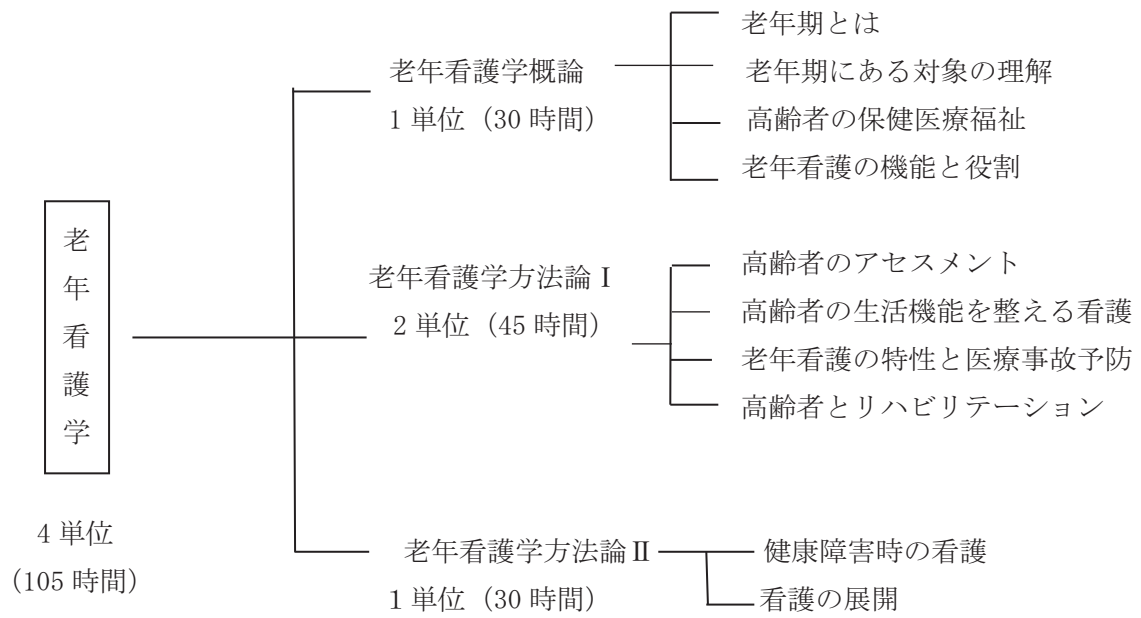
＿＿年＿＿組　学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

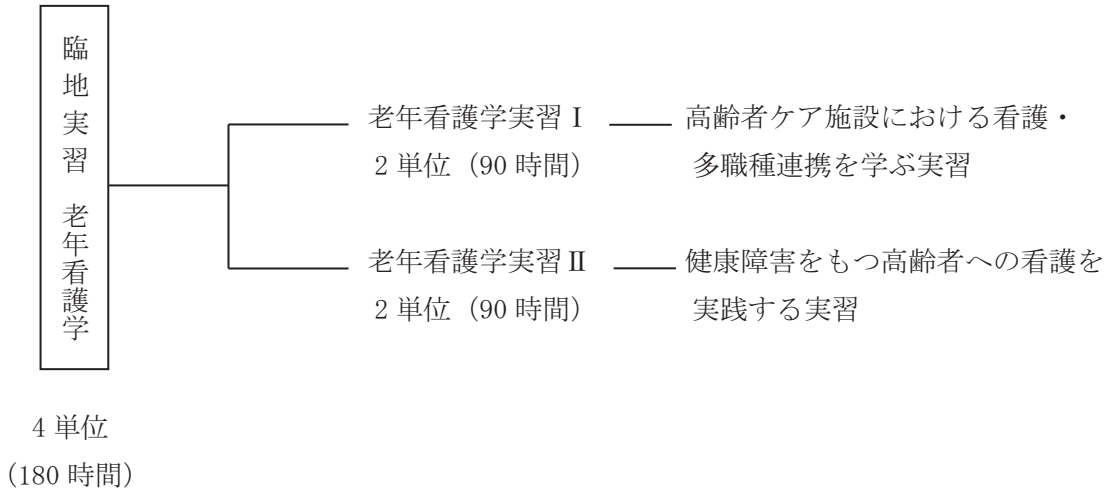
能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 1）～3）　A：5点　B：3点　C：1点 4）～18）　A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね (*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
考え抜く力(シンキング)		思考・判断	1）アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 （対象の情報用紙） リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合せて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
	課題発見力	思考・判断	2）対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 （対象の全体像・解決すべき課題） リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	思考・判断	3）対象の個別性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 （行動計画・看護計画） リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個別性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力(アクション)		技能・表現	4）対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
	働きかけ力	技能・表現	5）　対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するめに、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6）対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物（看護計画） 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7）看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
チームで働く力（チームワーク）	**発信力**	思考・判断 技能・表現	8）他者へ自分の考えや思いを分かりやすく伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを具体的な事例や客観的データを用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9）相手の意見や考えを丁寧に聴くことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して内容の確認や質問などを行いながら丁寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちをうち、相手の話しを素直に聴くことができる。	相手に関心を持つことやその人の意見を聴こうとする関わりができない。
	柔軟性	思考・判断	10）他者の意見や助言を理解し、活かすことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入れて理解し、次の行動に活かすことができる。	他者の意見や助言を受け入れ、その意味を理解することができる。	自分のやり方に固執し、意見や助言を受け入れることができない。
	状況把握力	思考・判断	11）周りの状況を判断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物理的環境）を判断し、どのように行動すべきなのかを考えて状況が良くなるように行動することができる。	周囲の状況を判断し、どのように行動すべきか理解しているが、行動に移せない。	周囲の状況を判断することができない。
	規律・責任性	思考・判断・技能・表現	12）守らなければならないルールや約束・マナーを理解し責任ある行動がとれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒヤリハット、アクシデント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べることができない。
	ストレスコントロール力	思考・判断	13）ストレスを成長の機会と前向きに捉え、克服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替え対処し、成長に繋げることができる。	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替えることができる。	ストレスを対処することができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと (^^♪♪
倫理	**倫理性**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14）対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15）対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16）実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守る事ができる（守秘義務遵守）	実習場面 リフレクション場面 記録物 （レポート作成）	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで（コントロール）、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17）対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	**自ら学び考える力**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18）自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価 記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

Ⅰ　科目構成


老年看護学
4 単位
（105 時間）
老年看護学概論
1 単位（30 時間）
老年期とは
老年期にある対象の理解
高齢者の保健医療福祉
老年看護の機能と役割
老年看護学方法論Ⅰ
2 単位（45 時間）
高齢者のアセスメント
高齢者の生活機能を整える看護
老年看護の特性と医療事故予防
高齢者とリハビリテーション
老年看護学方法論Ⅱ
1 単位（30 時間）
健康障害時の看護
看護の展開


臨地実習　老年看護学
4 単位
（180 時間）
老年看護学実習Ⅰ
2 単位（90 時間）
高齢者ケア施設における看護・多職種連携を学ぶ実習
老年看護学実習Ⅱ
2 単位（90 時間）
健康障害をもつ高齢者への看護を実践する実習

Ⅱ　老年看護学実習の目的･目標

目的　老年期にある対象を統合的に理解し、人権を尊重しながら、対象に応じた看護を展開できる基礎的能力を養う。

目標

1．老年期にある対象を、身体的､精神的、社会的側面から統合された生活者として捉えることができる。
2．対象を尊重した共感的行動がとれ、人間関係を築くことができる。
3．対象の健康課題や生活課題について、科学的根拠に基づいた看護の展開方法を理解できる。
4．対象のＱＯＬ向上・個別性を考慮した支援技術を、看護師の指導のもと安全・安楽に実施できる。
5．老年期にある対象の、療養の場や生活の場における看護の役割を理解できる。
6．保健医療福祉の各専門職の連携を知り、チームの一員としての看護師の役割を理解できる。
7．倫理に基づき、対象の人権を尊重した態度を身につける。
8．自己の看護実践を評価し、課題を明確にし取り組むことができる。

Ⅲ　実習体系・実習場所

実習体系

臨地実習　老年看護学
4 単位　　180 時間

- 老年看護学実習Ⅰ（2 単位　90 時間）　高齢者ケア施設における看護・多職種連携を学ぶ実習
- 老年看護学実習Ⅱ（2 単位　90 時間）　健康障害をもつ高齢者への看護を実践する実習

実習場所

老人福祉センター
- 那覇市末吉老人福祉センター
- 那覇市壷川老人福祉センター
- 那覇市小禄老人福祉センター
- 那覇市識名老人福祉センター
- 那覇市金城老人憩の家
- 日赤安謝福祉複合施設　老人憩の家
- 糸満市社会福祉センター
- 宜野湾市赤道老人福祉センター
- 宜野湾市伊利原老人福祉センター

介護老人保健施設　・社会医療法人　友愛会　介護老人保健施設「友愛園」
・沖縄医療生活協同組合　介護老人保健施設「かりゆしの里」
・医療法人　愛和会　介護老人保健施設「池田苑」
・医療法人　おもと会　介護老人保健施設「はまゆう」
・医療法人　おもと会　介護老人保健施設「ぎのわんおもと園」
・社会福祉法人まつみ福祉会　介護老人保健施設「桜山荘」
・医療法人　誠和会　介護老人保健施設「シルバーピアしきな」
・一般社団法人南部地区医師会　介護老人保健施設「東風の里」
・医療法人　福寿会　介護老人保健施設「西原敬愛園」

Ⅳ　老年看護学実習Ⅰ

目的　老年期にある対象の特徴を理解し、高齢者ケア施設における看護を学ぶ。

目標
1.老年期にある対象の身体的､精神的､社会的側面を理解し､生活者として捉えることができる。
2．高齢者の特徴をふまえてコミュニケーションを図り、尊重した態度がとれる。
3．老人福祉センターと介護老人保健施設の機能と役割について理解できる。
4．施設利用者の日常生活に視点をあて看護師の指導のもと看護の展開ができる。
5．施設で生活している高齢者に対して対象に応じ、看護師の指導のもと日常生活の支援が実施できる。
6．利用者を支える多職種の役割を理解し、連携・協働について学ぶ。
7．高齢者の人権、価値観を尊重した態度がとれる。
8．自己の高齢者観を再考すると共に、実習を振り返り課題を明確にできる。

老人福祉センター実習

目的　老人福祉センターの機能と役割を知るとともに、地域で生活し施設を利用している高齢者との交流を通して対象理解を深める。

目標　1．老人福祉センターの機能と役割について理解できる。
2．地域で暮らす高齢者を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。
3．高齢者の生涯学習や生きがいについて考えることができる。
4．高齢者への関心を持ち、個人として尊重した態度がとれる。
5．自己の高齢者観を再考することができる。

介護老人保健施設実習

目的　1．介護老人保健施設の機能と役割を理解し、施設における看護の役割について学ぶ。
　　2．施設で生活している高齢者の生活機能に焦点をあて、看護師の指導のもと看護の展開ができる。

目標　1．介護老人保健施設の機能と役割について理解できる。
　　2．介護老人保健施設における看護の役割について理解できる。
　　3．対象を総合的にアセスメントし対象の課題（ニード）を把握できる。
　　4．対象のもてる力を生かした日常生活支援を看護師の指導のもと実施できる。
　　5．利用者の生活を支える多職種の役割を理解し、連携・協働について理解できる。
　　6．高齢者の人格、信条、価値観を尊重した態度がとれる。

Ⅴ　実習内容および方法

1）実習計画

実習時間　介護老人保健施設：8：00～15：00（実習時間 8 時間：休憩 60 分）
　　7：30～14：30
　　老人福祉センター：9：00～14：30（実習時間 6 時間：休憩 60 分）
　　学内：9：00～15：45（実習時間 7 時間：休憩 80 分）

2）実習スケジュール

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目
場所	老人福祉センター	老人福祉センター	介護老人保健施設	介護老人保健施設	介護老人保健施設
内容	オリエンテーション 高齢者との交流	高齢者との交流	施設 オリエンテーション 情報収集 カンファレンス	通所実習 看護業務実習 情報収集 カンファレンス	通所実習 看護業務実習 情報収集 カンファレンス
	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目	10 日目
場所	介護老人保健施設	学内	介護老人保健施設	介護老人保健施設	介護老人保健施設
内容	情報収集 ケアの実践 カンファレンス	情報の整理 関連図作成	ケアの実践 ケース カンファレンス	ケアの実践 カンファレンス	ケアの実践 アクティビティケア カンファレンス
	11 日目	12 日目			
場所	介護老人保健施設	学内	学内		
内容	ケアの実践 終了 カンファレンス	実習のまとめ 提案書作成・発表 実習記録物提出	評価返し		

※サービス担当者会議、アクティビティケアは、日程調整を行う。

3）老人福祉センター実習　実習内容および実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法･留意点
1-1)	老人福祉センターの法的根拠がわかり、施設の機能と役割について説明できる。	（1）施設の概要、事業内容 （2）施設の特徴 （3）利用者の概要	①事前に施設の法的根拠を学習し実習に臨む。 ②施設のオリエンテーションを受け、理解を深める。
2-1)	加齢に伴う身体的、精神的、社会的変化を説明できる。	（1）加齢に伴う身体的変化 （2）加齢に伴う精神的変化 （3）加齢に伴う社会的変化 （4）発達課題 （5）老年期における個人差	①事前に加齢に伴う３側面の変化や発達課題を復習し実習に臨む。 ②利用者と共にセンターの教室や講座に参加し、積極的に多くの利用者と接する。
2-2)	老年期の発達課題を説明できる。		
3-1)	高齢者の生涯学習の意義や学習能力の可能性が説明できる。	(1)活動に参加し以下について学ぶ。 ・交流の様子（家族、友人、知人） ・生活の楽しみを知る （趣味、おしゃれ、活動） ・利用者の自己表現、自己実現	①講座への参加や利用者との交流を通して「生涯学習」、「高齢者の生きがい」等について考える。 ②講座の参加や利用者との交流を通して、学んだことを記述し整理する。
3-2)	高齢者の生きがいやＱＯＬについて考えることができる。	（2）生涯学習や生きがい （3）高齢者の学習の可能性 （4）高齢者のＱＯＬ	
4-1)	高齢者への関心を持ち、個人として尊重した態度がとれる。	（1） 利用者の趣味、関心事への配慮 （2） 人生の先輩に対する言動 （3） 高齢者の生きてきた個人史への尊重	①高齢者の人格、信条、価値観を尊重し、言葉づかい、態度に配慮する。 ②看護師になる者として、倫理綱領に基づき行動する。
5-1)	自己の高齢者観を再考することができる。	（1） 高齢者像 （2） 高齢者の潜在能力や可能性	①既習の老年期の特徴や、高齢者疑似体験を通して抱いた「高齢者」のイメージを見つめなおし、自己の高齢者観をまとめる。

5）介護老人保健施設実習　実習内容および実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法及び留意点
1-1)	介護老人保健施設の機能と役割について述べることができる。	1）施設の概要、サービス内容 2）施設の特徴 3）利用者の概要 （年代､介護度､障害の程度など） 4）施設見学	①介護保険制度の創設と理念、仕組み等について学習して臨む。（介護保険制度の施設サービスについて学習を深める。施設の関係法規・機能人員基準を理解する。） ②介護老人保健施設の理念と５つの役割について学習して臨む。 ③通所リハビリテーション（デイケア）の機能と役割について学習する ④施設のオリエンテーションを受け、理解を深める。
1-2)	施設の中で暮らす高齢者の生活の場について理解することができる。	1）医療施設との違い 2）環境調整の工夫点、留意点 3）生活の場としての居室	①施設見学を通して、医療施設とは異なる生活空間づくりについて理解を深める。
2-1)	施設における看護の役割について述べることができる。	1）看護の理念（方針） 2）施設における看護業務・役割 3）多職種との連絡調整の必要性及び方法 4）家族への支援、連携	①介護老人保健施設で求められている看護師の役割について学習し臨む。 ②入所者の健康管理、高齢者の意思の尊重、多職種との連携・協働・安全に配慮した環境づくりを意識する（リスクマネジメント） ③入所及び通所の看護師と共に行動する。または、説明を受ける。 ④利用者の健康管理の方法や、医療的処置の見学を行い施設における看護師の役割について学ぶ。
3-1)	受持ち対象者の情報を整理し、アセスメントすることができる。	1）受け持ち対象者の状態把握 ①入所の目的　②生活史 ③健康状態　④障害の程度（介護度・自立度など） ⑤もてる力　⑥日常生活状況（現在の ADL の把握） ※６つの生活行動を参考に把握する。	①入所では、受け持ち対象者を決め看護を展開する。 ②看護の展開に必要な情報を生活機能の観点から収集し整理する。 ③施設サービス計画書（ケアプラン）を確認する。

目標	行動目標	実習内容	実習方法及び留意点
3-2)	対象の課題（ニーズ）を明確にすることができる。	1）アセスメントをもとに対象のビジョン・ゴールを考える。	①ケースカンファレンスで、対象の課題（ニーズ）を明確にする。
4-1)	受け持ち対象者のもてる力を活かした支援を計画できる。	1）受け持ち対象者の日常生活支援計画の立案 ・食事、摂取行動への支援 ・排泄の支援・脱水予防 ・活動と休息への支援 （移動・移乗） ・身じたくの支援 ・コミュニケーション ・アクティビティケア　など	①日常生活の支援に焦点をあて、もてる力を活かした計画を立案する。 ②RUMBA や５Ｗ１H を用いて計画を立案する。
4-2)	受け持ち対象者の日常生活支援を、安全・安楽に実施できる。	1）安全・安楽、自立を踏まえた支援を実施する。 2）実施の際は、事故防止や対象者のもてる力を活用する。 3）アクティビティケアの企画・運営	①安全･安楽に注意し日常生活の支援を指導者と共に実施する。 ②配膳･下膳･誘導などの全体ケアは、指導者の指導のもと実施する。 ③アクティビティケアの必要性について学習し『アクティビティケア計画書』を作成する。 ④グループで施設利用者の状況に合わせた計画を立案し、アクティビティケアを企画・運営する。
4-3)	実施した支援を評価することができる。	1）日々のリフレクションで、自分の看護を振り返る。 2）看護支援の実施を評価する。	①リフレクティブサイクルに沿って看護場面を再考察し、看護の意味づけを行う。 ②日々の実践を看護記録で評価する。 ③日々のカンファレンスでの意見や助言を参考に翌日に繋げる。 ④実習最終日には、看護計画の最終評価を行う。
5-1)	利用者の生活を支える職種とその役割について述べることができる。	1）高齢者の生活場面を支えている職種の種類と役割	①職種の役割、チームとしての連携について事前学習を行い、オリエンテーションや実際を通して学びを深める。

目標	行動目標	実習内容	実習方法及び留意点
5-2)	入所や通所の実際の場面を通して、チームの連携を学ぶことができる。	1）多職種の連携・調整方法を学ぶ。	①通所リハビリテーションに参加して、チームの連携の実際について学ぶ。 ②通所リハビリテーションの送迎を通して、家族への関わりについて学ぶ。 ③サービス担当者会議について事前に学習し、見学または説明を通し、連携の実際を学ぶ。
6-1)	高齢者の人生観、価値観を尊重した態度がとれる。	1）高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーション 2）対象者の趣味、関心事への配慮 3）人生の先輩に対する言動 4）高齢者の個人史への尊重	①高齢者の人格、信条、価値観を尊重し、言葉づかい、態度に配慮する。 ②看護師になる者として、倫理綱領に基づき行動する。

	学習活動	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準　A:4点 B:2点 C:1点 3)・7)A:5点 B:2点 C:1点 8)・9) A:3点 B:2点 C:1点		
					A	B	C
介護老人保健施設	1. オリエンテーションや施設見学を受ける	思考・判断	1)介護老人保健施設の機能・役割について述べることができる	・ポートフォリオ ・カンファレンスやオリエンテーション場面 ・事前学習や実習記録	介護老人保健施設について、介護保険制度の仕組みや歴史的背景を踏まえて、施設の役割・機能、サービス内容を述べることができる。	介護老人保健施設の役割・機能、サービス内容を述べることができる。	介護老人保健施設のサービス内容を述べることができる。
	2. 受け持ち対象者に必要な支援を考える	思考・判断・技能・表現・関心	2)対象者の特徴を捉え、コミュニケーションをとることができる。	・実習場面 ・実習記録 ・カンファレンス場面	対象者に対して個別的なコミュニケーションの方法で、反応を確認しながら積極的に会話している。	対象者の特徴をふまえ、コミュニケーションをとることができる。	対象者とコミュニケーションをとることができる。
		思考・判断	3)対象のもてる力を活かした看護計画を考えることができる	・看護計画 ・カンファレンス場面 ・ポートフォリオ	対象者のもてる力(三側面における残存機能)を具体的に看護計画に取り入れている。	対象者のもてる力(残存機能)を看護計画に取り入れている。	看護計画は立案できている。
		思考・判断・技能・表現・関心	4)高齢者にあったアクティビティケアの企画・運営ができる	・企画書 ・実習場面 ・カンファレンス場面 ・ポートフォリオ	アクティビティケアの必要性が理解でき、グループメンバーと協力しながら集団にあった企画・運営ができる。	アクティビティケアの企画・運営をグループメンバーと協力しながらできる。	アクティビティケアの企画・運営に参加することができる。
	3. 介護老人保健施設における看護師の役割や多職種との連携について考える	思考・判断	5)介護老人保健施設における看護師の役割について述べることができる	・ポートフォリオ ・カンファレンスやオリエンテーション場面 ・実習記録	見学を通して施設における看護師の役割と病院との役割の違いを具体的に述べることができる。	施設における看護師の役割と病院との役割の違いを述べることができる。	施設における看護師の役割を述べることができる。
		思考・判断	6)対象者の生活を支える多職種の役割や連携について述べることができる	・ポートフォリオ ・カンファレンスやオリエンテーション場面 ・実習記録	対象者に関わっている多職種の役割、連携・協働の必要性と方法について述べることができる。	対象者に関わっている多職種の役割について述べることができる。	対象者に関わっている多職種について述べることができる。
	4. 高齢者へ関心を示し、個人として尊重した態度がとれる	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	7)高齢者へ関心を示し、尊重した態度で接することができる	・実習場面 ・実習記録 ・カンファレンス場面	思いやりのある言葉遣いや丁寧な言葉、敬語を用い、相手に不快感を与えない態度で接している。	丁寧な言葉や敬語を用いているが、腕組みや大柄な態度がみられる。	馴れ馴れしい言葉遣いや態度で接している。
老人福祉センター	1. オリエンテーションや施設見学を受ける	思考・判断	8)老人福祉センターの役割や機能を法的根拠も踏まえて述べることができる	・ポートフォリオ ・事前学習 ・実習場面 ・実習記録	老人福祉センターの役割や機能を法的根拠も踏まえて述べることができる。	老人福祉センターの役割や機能を述べることができる。	老人福祉センターの役割や機能を述べることができない。
	2. 利用者との交流を通して高齢者の特徴を考える	思考・判断	9)高齢者の生涯学習や生きがいについて述べることができる	・実習場面 ・ポートフォリオ ・実習記録	高齢者との関りを通して、生涯学習や生きがいについて自分の考えも含め述べることができる。	高齢者の生涯学習や生きがいについて述べることができる。	高齢者の生涯学習や生きがいについて述べることができない。
	3. 自己の高齢者観をまとめる	思考・判断・関心・意欲・態度	10)高齢者観を具体的にまとめる	・実習後レポート課題	実習を通して、これまでの高齢者観を再考し述べることができる。	実習を通しての高齢者観を述べることができる。	実習を通しての看護観を述べることができる。

Ｓｔｅｐ　ｕｐ　スケール ～看護師として必要な基礎力～

那覇市医師会　那覇看護専門学校

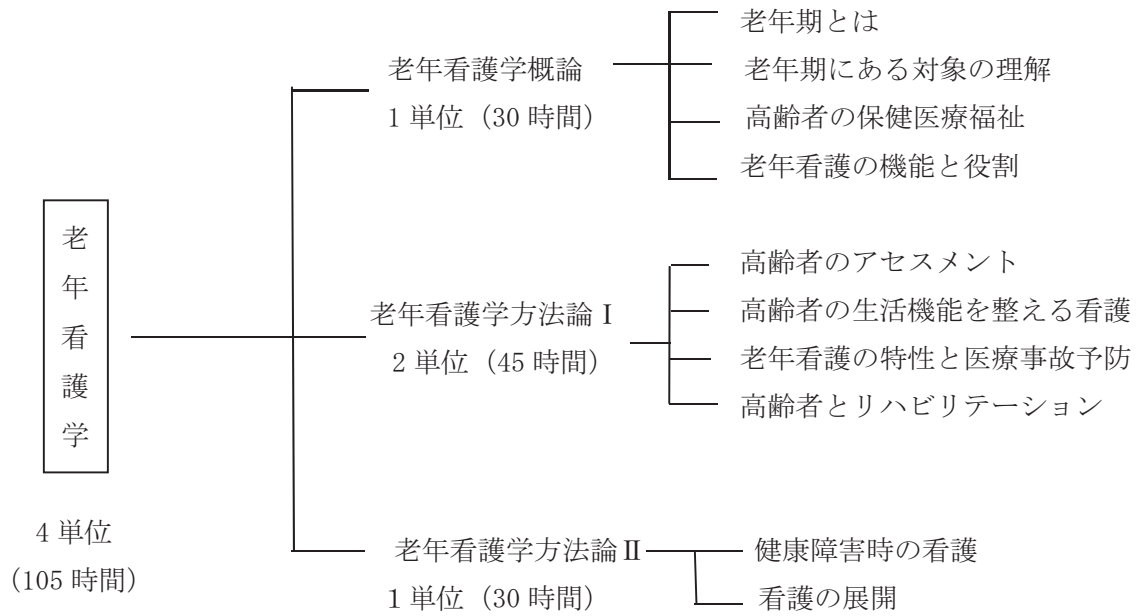
年　組　学籍番号　氏名

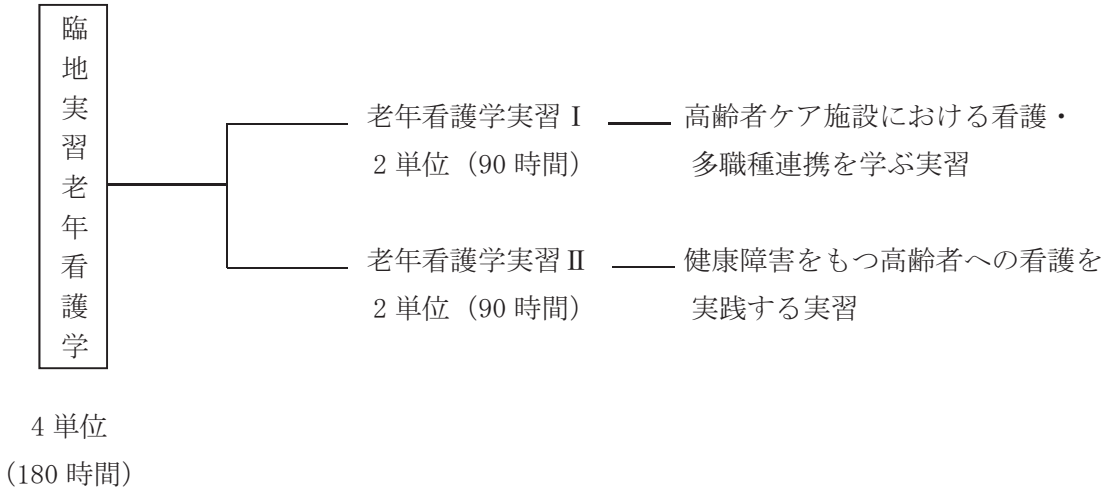
能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 1）～3）　A：5点　B：3点　C：1点 4）～18）　A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね (*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
考え抜く力(シンキング)		思考・判断	1）アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 （対象の情報用紙） リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合せて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
	課題発見力	思考・判断	2）対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 （対象の全体像・解決すべき課題） リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	思考・判断	3）対象の個別性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 （行動計画・看護計画） リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個別性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力(アクション)		技能・表現	4）対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
	働きかけ力	技能・表現	5）　対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するめに、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6）対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物（看護計画） 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7）看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
チームで働く力(チームワーク)	**発信力**	思考・判断 技能・表現	8）他者へ自分の考えや思いを分かりやすく伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを具体的な事例や客観的データを用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9）相手の意見や考えを丁寧に聴くことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して内容の確認や質問などを行いながら丁寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちをうち、相手の話しを素直に聴くことができる。	相手に関心を持つことやその人の意見を聴こうとする関わりができない。
	柔軟性	思考・判断	10）他者の意見や助言を理解し、活かすことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入れて理解し、次の行動に活かすことができる。	他者の意見や助言を受け入れ、その意味を理解することができる。	自分のやり方に固執し、意見や助言を受け入れることができない。
	状況把握力	思考・判断	11）周りの状況を判断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物理的環境）を判断し、どのように行動すべきなのかを考えて状況が良くなるように行動することができる。	周囲の状況を判断し、どのように行動すべきか理解しているが、行動に移せない。	周囲の状況を判断することができない。
	規律・責任性	思考・判断・技能・表現	12）守らなければならないルールや約束・マナーを理解し責任ある行動がとれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒヤリハット、アクシデント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べることができない。
	ストレスコントロールカ	思考・判断	13）ストレスを成長の機会と前向きに捉え、克服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替え対処し、成長に繋げることができる。	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替えることができる。	ストレスを対処することができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと (^^♪♪
倫理	**倫理性**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14）対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15）対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16）実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守る事ができる（守秘義務遵守）	実習場面 リフレクション場面 記録物 （レポート作成）	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで（コントロール）、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17）対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	**自ら学び考える力**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18）自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価 記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

Ⅰ　科目構成


老年看護学
4 単位
（105 時間）
老年看護学概論
1 単位（30 時間）
老年期とは
老年期にある対象の理解
高齢者の保健医療福祉
老年看護の機能と役割
老年看護学方法論Ⅰ
2 単位（45 時間）
高齢者のアセスメント
高齢者の生活機能を整える看護
老年看護の特性と医療事故予防
高齢者とリハビリテーション
老年看護学方法論Ⅱ
1 単位（30 時間）
健康障害時の看護
看護の展開


臨地実習老年看護学
4 単位
（180 時間）
老年看護学実習Ⅰ
2 単位（90 時間）
高齢者ケア施設における看護・
多職種連携を学ぶ実習
老年看護学実習Ⅱ
2 単位（90 時間）
健康障害をもつ高齢者への看護を
実践する実習

Ⅱ　老年看護学実習の目的･目標

目的

老年期にある対象を統合的に理解し、人権を尊重しながら、対象に応じた看護を展開できる基礎的能力を養う。

目標

１．老年期にある対象を、身体的､精神的、社会的側面から統合された生活者として捉えることができる。
２．対象を尊重した共感的行動がとれ、人間関係を築くことができる。
３．対象の健康課題や生活課題について科学的根拠に基づいた基礎的看護の展開方法を理解できる。
４．対象のＱＯＬ向上・個別性を考慮した支援技術を、看護師の指導のもと安全・安楽に実施できる。
５．老年期にある対象の、療養の場や生活の場における看護の役割を理解できる。
６．保健医療福祉の各専門職の連携を知り、チームの一員としての看護師の役割を理解できる。
７．倫理に基づき、対象の人権を尊重した態度を身につける。
８．自己の看護実践を評価し、課題を明確にし取り組むことができる。

Ⅲ　老年看護学実習Ⅱの目的･目標

目的

健康障害のある高齢者を支援するための基本的な知識・技術・態度を習得する。

目標

１．健康障害のある高齢者の身体的、精神的、社会的側面を理解し、統合された高齢者像を捉えることができる。
２．高齢者の特徴をふまえてコミュニケーションを図り、家族を含め人間関係を築くことができる。
３．対象の健康上の課題達成に向けて、科学的根拠に基づいた看護の展開方法を理解できる。
４．対象の健康段階、機能障害に応じた支援技術を、看護師の指導のもと安全・安楽に実施できる。
５．療養生活（治療）の場における看護の役割や継続看護について理解できる。
６．保健医療福祉チームにおける看護の役割を認識し、自覚をもって行動できる。
７．倫理に基づき、高齢者の人権、価値観を尊重した態度がとれる。
８．自己の看護実践を評価し、課題を明確にし取り組むことができる。

Ⅳ実習内容及び実習方法

1．進め方

1）実習時間　　病　棟：8：00～15：00（実習時間 8 時間：休憩 60 分）
　　学　内：9：00～15：00（実習時間 6 時間：休憩 90 分）

2）実習方法

（1）配置された病棟において原則として 1 名の対象者を受け持ち実習する。
　　（但し、対象者が途中で退院した場合は複数受け持つ場合もある。）

（2）受け持ち対象者とのコミュニケーションを深め、人間関係を発展させるよう努力する。

（3）受け持ち対象者を把握し、看護の展開を指導者と共に行う。

（4）病棟実習終了後、毎日カンファレンスを行い、学んだ知識と実践の統合をはかる。
　　また、実習の場面での疑問や課題について話し合いを行う。

3）スケジュール

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目
場所	病院	病院	病院	学内	病院
内容	オリエンテーション 対象者決定 情報収集 カンファレンス	情報収集 ケアの実践 カンファレンス	情報収集 ケアの実践 カンファレンス	情報の整理 関連図作成 技術練習	ケアの実践 ケース カンファレンス
	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目	10 日目
場所	病院	病院	学内	病院	病院
内容	ケアの実践 カンファレンス	ケアの実践 カンファレンス	看護展開まとめ （中間評価・修正） プレゼン資料準備	ケアの実践 カンファレンス	ケアの実践 カンファレンス
	11 日目	12 日目			
場所	病院	学内			
内容	ケアの実践 カンファレンス	プレゼンテーション			

4）実習内容および実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-1)	健康障害のある高齢者の全体像を把握するために、必要な情報収集ができる。	1）健康障害のある対象の全体像を把握するための情報収集・情報整理 ・年齢、性別 ・疾患名 ・入院時の情報 （現病歴・既往歴・症状・治療など） (1) 身体的側面 運動機能・認知機能・言語機能・感覚・知覚機能など身体的変化や障害など (2) 精神的側面 ・入院や疾患に対する思いや不安、ストレスなど ・現れている精神的反応 ・価値観、物事への取り組み、信条、自己概念 ・現れている精神的反応 (3) 社会的側面 ・生活史 ・社会的役割、生き様 (4) 6つの生活行動 ・入院前～現在の日常生活状況 (5) もてる力 ※生活環境 ・家庭的環境、住居環境 ・経済的環境 ・入院後の物理的環境への適応 ・入院後の人的環境への適応	①気づきをもとに必要な情報や看護を考える。 ②看護の展開に必要な情報を生活行動モデルの3側面及び6つの生活行動の観点から収集し整理する。 ③疾患の病態生理、検査、診断、治療、看護についてテキストや参考書を活用し学習する。 ④健康障害や治療・処置が及ぼす影響や日常生活における制限を把握する。 ⑤症状が出現しても対象者が自覚しない場合があるので、注意して観察する。 ⑥年齢や性に応じた発達課題達成状況、家族内の役割、キーパーソンの存在、家族間の人間関係やサポートシステムを把握する。 ⑦社会的役割の変化、家族関係の変化を観察する。 ⑧個人情報保護法に基づき情報収集を行う。

目標	行動目標	実習内容	実習方法
2-1)	高齢者の特徴を踏まえてコミュニケーションを図ることができる。	1）老年期の特徴を踏まえたコミュニケーション ・加齢に伴う聴力・視覚への配慮 ・認知の変化への配慮 ・個別性・生活背景・価値観 ・傾聴・共感・受容的態度 ・対象者の反応を捉える	①受け持ちの対象者に挨拶をし、指導者と共に受け持つことの説明と同意を交わす。 ②受け持ち対象者とコミュニケーションを図りながら情報を収集していく。
2-2)	受け持ち対象者および家族との信頼関係を築くことができる。	2)対象と周囲の人々との意図的なコミュニケーションを図る。 ・受け持ち対象者の家族 ・病室の同室者	①家族の面会時への配慮を行い、コミュニケーションを取りながら情報を収集していく。 ②受け持ち対象の同室者への配慮を行う。
3-1)	受け持ち対象の情報を整理し、アセスメントすることができる。	1）対象のビジョン・ゴールを考える。 2）分析した情報の統合及び関連図 ・課題の原因や理由、要因の関連性	①テキストや文献を活用して情報の持つ意味を考えてアセスメントする。
3-2)	受け持ち対象の看護上の課題を明確にできる。	3）看護上の課題を明確にする。 ※対象の健康段階に応じた看護上の課題の表現（目標志向型・問題解決型） 4）看護上の課題の優先順位の決定	①受け持ち対象の加齢変化と健康障害の情報から考えられる課題を抽出し看護の方向性を考える。 ②関連図及び看護上の課題リストを発表し、検討及び指導を受け修正する。
3-3)	受け持ち対象に応じた個別の看護計画を立案できる。	5）対象に応じた目標設定・達成可能な目標の表現 6）目標達成に有効な具体策 ・生活史、生活環境、価値観、人生観を考慮した計画 ・意思表現・意思決定を支える計画 ・その人らしさやもてる力・資源を活かした計画	①解決可能な目標を設定し対象に応じた具体的実践的な看護計画を立案する。 ②目標は、対象の状況・状態を考慮しながら対象のもてる力を含めて設定する。

目標	行動目標	実習内容	実習方法
		・生理的な機能低下の遅延と疾病予防のための実践可能な計画 ・廃用症候群を予防するための計画	
3-4)	受け持ち対象に実施した看護の評価、計画の修正ができる。	7）立案した計画に基づく実施 ・実施した看護の評価から翌日の目標、行動計画の立案 8）必要に応じて計画を修正 ・実施した看護を対象の反応などから評価、追加・修正を行う。	①立案した計画を発表し、検討及び指導を受け修正する。 ②看護上の課題ごとにＳＯＡＰで記載し、追加修正があれば、その時点で計画を修正する。
4-1)	受け持ち対象の健康段階に応じた支援を学ぶことができる。	1）急性期の支援の視点 ・救命、生命の維持、管理 ・症状に伴う苦痛の軽減 ・不安の軽減 ・合併症の予防 ・日常生活の支援 ・治療、処置、検査時の支援 ・対象者、家族に対する配慮 ・急変時の対応 2）回復期の支援の視点 ・症状の悪化予防 ・日常生活行動自立への支援 ・合併症、二次的障害の予防 ・家族に対する配慮 3）慢性期の支援の視点 ・症状の軽減と合併症予防 ・治療、処置、検査時の支援 ・自己管理のための指導 ・療養に伴う対象者、家族の理解 ・社会資源の活用	①手術療法を受ける対象者を受け持った場合は、術前、術後の対象のニーズに即した看護を展開。 ②受け持ち対象者の手術見学を行う場合は、指導者に許可を得て、事前学習を行い臨む。 ③リハビリテーション関連職（PT・OT・ST）と情報を共有し支援に活かす。事故予防に注意する。（転倒・転落） ④対象へ指導を行う場合は、指導者及び教員に指導を受け、監視下で実施する。 ⑤指導案は、看護計画の教育計画（ＥＰ）から作成。

目標	行動目標	実習内容	実習方法
		4）終末期の支援の視点 ・苦痛の緩和 ・快適な生活のための支援 ・精神的苦痛の軽減 ・自分の人生を語る時間の確保 ・家族の悲嘆への支援（疲労の予防）	⑥対象の QOL を考慮する。 ⑦尊厳を重んじる対応と謙虚な態度で接する。 ⑧家族がゆっくりと高齢者と会話する時間が持てるよう配慮する。
		5）看護・医療事故予防に基づいた行動	⑨ヒヤリ・ハットやアクシデントが生じた場合は、速やかにフローチャートに基づき、指導者及び教員へ報告し報告書を作成する。
5-1）	病棟における看護の役割や継続看護について理解できる。	1）病棟における看護の役割 ・看護方針および看護体制 ・日課・週間・月間の予定 2）継続看護 ・看護サマリーの活用 ・社会資源の活用 ・退院調整や退院指導の見学	①病棟オリエンテーションを受け、治療の場としての病棟の特徴及び看護の役割を理解する。 ②受け持ち対象への看護を通して、病棟における看護の役割を理解する。 ③看護サマリーを参考に継続看護について学ぶ。 ④機会があれば退院調整の実際を見学する。
6-1）	医療チームの一員として関わることができる。	1）対象を支える保健医療福祉チーム ・関連部署との連携・調整 ・多職種との連携・調整	①チームの一員として、受け持ち対象の情報の提供、ケアの協働を行う。
7-1）	高齢者の人権、価値観を尊重した行動がとれる。	1）高齢者の権利擁護 ・高齢者のための国連原則 自立の原則 参加の原則 ケアの原則 自己実現の原則 尊厳の原則	①高齢者に対し、人生の先輩として尊重し、言語・礼節に配慮した態度や行動をとる。 ②看護専門職者を志す者として倫理綱領に基づいて行動する。

目標	行動目標	実習内容	実習方法
8-1)	自己の看護実践を振り返り、課題達成に向けて取り組むことができる。	1) 看護実践の振り返り ・日々の実践の振り返り ・短期目標の到達度評価 ・実習を通しての学び 2) 課題達成に向けての自己学習 ・教科書・文献の活用 3) 受け持ち対象者の主疾患の病態・検査・症状・治療、看護などをふまえ、実際の看護実践についてエビデンスを確認しプレゼンする。	①日々の看護実践の評価を踏まえ、翌日の計画立案を行い目標達成に向け取り組む。 （午後のカンファレンスで検討、指導を受ける）

学習活動	学習活動における具体的な評価則準	評価の観点	評価資料	**評価基準** **A：5点　B：3点　C：1点**		
				A	B	C
対象の全体像を（健康段階やニーズを捉え）アセスメントできる	1．高齢者の特徴を捉えコミュニケーションをとることができる。	意欲・関心・態度・技能	実習場面 カンファレンス 実習記録物	対象者の特徴（感覚機能や認知機能・性格特性）を踏まえ、反応を確認しながらコミュニケーションを図ることができる。	対象者の特徴（感覚機能や認知機能・性格特性）を踏まえたコミュニケーションを図ることができる。	対象者の特徴を踏まえたコミュニケーションを図っているが十分ではない。
	2．対象者のニーズに応じた支援を考えることができる。	思考・判断・表現		疾患と６つの生活行動のアセスメントでは、全体像をふまえ、対象者の望む（望むであろう）生活や価値観、今後を見据えた内容が取り入れられている。	疾患と６つの生活行動のアセスメントでは、全体像をふまえ、対象者の望む（望むであろう）生活や価値観が取り入れられている。	疾患と６つの生活行動のアセスメントでは、全体像をふまえた内容が取り入れられている。
解決可能な目標が設定でき、対象に応じた具体的な計画の立案・実践ができる	3．高齢者の特徴やもてる力を活かした支援計画を立案することができる。	思考・判断・表現		対象者のもてる力や高齢者の加齢に伴う機能低下、老年症候群の予防の視点から計画を立案、状態に応じた追加・修正をすることができる。	対象者のもてる力や高齢者の加齢に伴う機能低下、老年症候群の予防の視点から計画を立案することができる。	対象者のもてる力が十分に活かされず、一般的な計画を立案している。
	4．高齢者の特徴やもてる力を活かした支援計画を実践することができる	思考・判断・技能・表現		対象者のもてる力を日常生活支援に取り入れ、反応を見ながら支援に活かす（引き出す）ことができる。	対象者のもてる力を日常生活支援に取り入れている。	対象者のもてる力を日常生活支援に取り入れることが不十分である。
	5．看護上の課題に対する目標を設定し、目標達成に向けて主体的に取り組むことができる	思考・判断・表現		自己の実践を俯瞰し、エビデンスに基づいて分析（看護の意味づけや自己洞察）を行い、次の支援に活かすことができる。	自己の実践を俯瞰しながら分析（看護の意味づけや自己洞察）を行い、次の支援に活かすことができる。	自己の実践を俯瞰しながら分析（看護の意味づけや自己洞察）が十分ではない。
対象との関りをとおし、学習者としての態度や老年看護の意義（役割）について考えることができる。	6．高齢者へ関心を示し、尊重した態度がとれる。	関心・態度・技能		思いやりのある言葉遣いや、丁寧な言葉、敬語を用い、対象者へ関心を示している態度で接している。	丁寧な言葉、敬語を用いているが不十分である。	なれなれしい言葉遣いをしていたり、対象を敬う態度がとれない例） ・腕組をしている ・見下ろして喋っている ・子ども扱いしている
	7．対象との関りやリフレクションから必要な学習に取り組むことができる。	思考・判断・表現		対象者のニーズや状況に合った行動目標・行動計画が考えられており、日々の事前学習や記録との関連が明確に反映されている。	対象者のニーズや状況に合った行動目標・行動計画は考えられているが、日々の事前学習や記録との関連が弱い。	対象者のニーズや状況に合った行動目標・行動計画が考えられておらず、日々の事前学習や記録との関連もない。
	8．対象への看護実践を通して、老年看護の意義（役割）について考えることができる。	思考・関心・表現	記録物	対象への看護実践を通して、老年看護に必要な観察、予防・予測の看護、対象者へ関わる人々を含めた看護について述べることができる。	老年看護に必要な観察、予防・予測の看護、対象者へ関わる人々を含めた看護について述べることができる。	老年看護に必要な観察、予防・予測の看護、対象者へ関わる人々を含めた看護について述べることができない。

Ｓｔｅｐ　ｕｐ　スケール ～看護師として必要な基礎力～

那覇市医師会　那覇看護専門学校

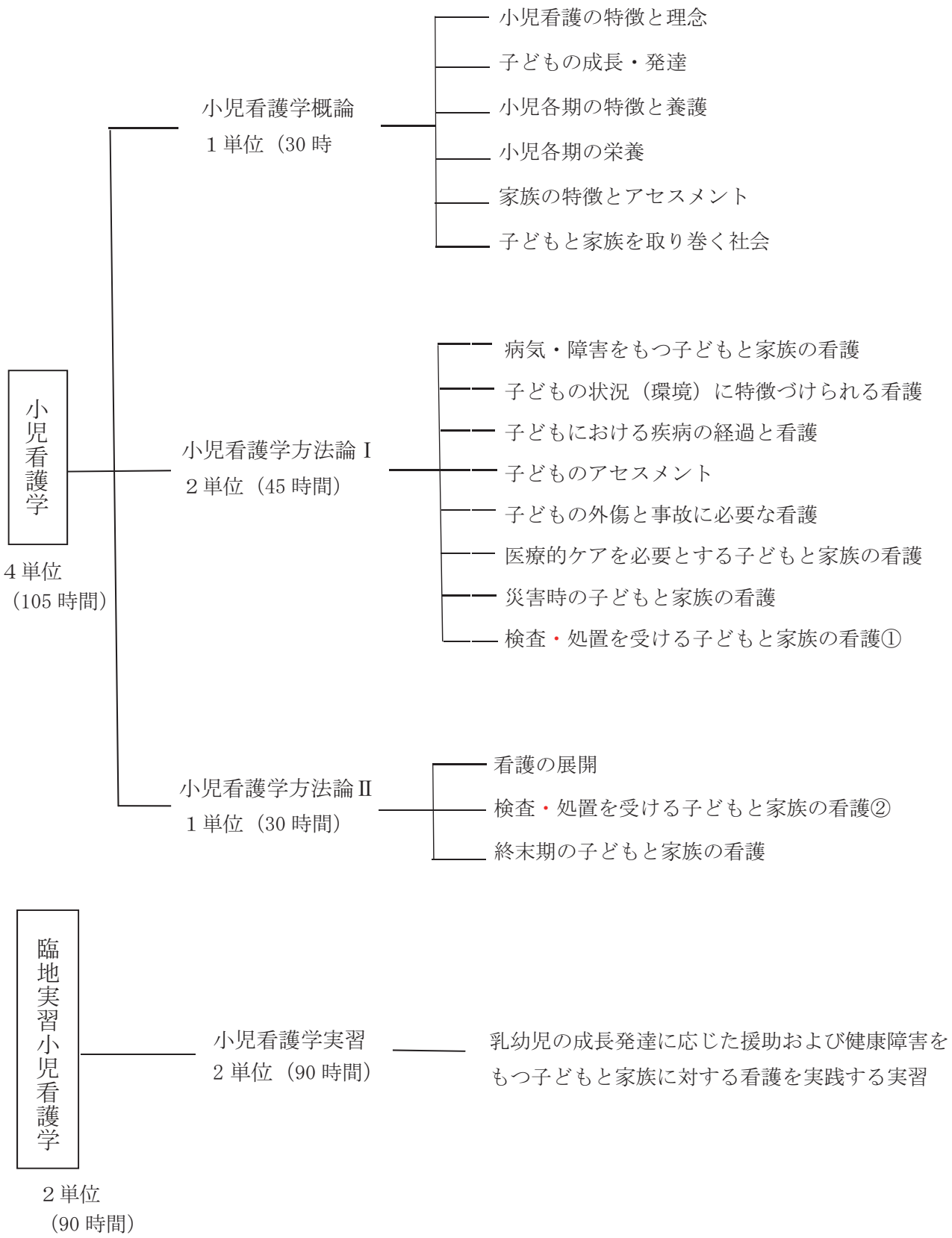
年　組　学籍番号　氏名

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 1）～3）　A：5点　B：3点　C：1点 4）～18）　A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね (*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
考え抜く力(シンキング)		思考・判断	1）アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物（対象の情報用紙）リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合せて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
	課題発見力	思考・判断	2）対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物（対象の全体像・解決すべき課題）リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	思考・判断	3）対象の個別性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物（行動計画・看護計画）リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個別性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力(アクション)		技能・表現	4）対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
	働きかけ力	技能・表現	5）　対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するめに、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6）対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物（看護計画）実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7）看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
チームで働く力（チームワーク）	**発信力**	思考・判断 技能・表現	8）他者へ自分の考えや思いを分かりやすく伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを具体的な事例や客観的データを用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9）相手の意見や考えを丁寧に聴くことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して内容の確認や質問などを行いながら丁寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちをうち、相手の話しを素直に聴くことができる。	相手に関心を持つことやその人の意見を聴こうとする関わりができない。
	柔軟性	思考・判断	10）他者の意見や助言を理解し、活かすことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入れて理解し、次の行動に活かすことができる。	他者の意見や助言を受け入れ、その意味を理解することができる。	自分のやり方に固執し、意見や助言を受け入れることができない。
	状況把握力	思考・判断	11）周りの状況を判断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物理的環境）を判断し、どのように行動すべきなのかを考えて状況が良くなるように行動することができる。	周囲の状況を判断し、どのように行動すべきか理解しているが、行動に移せない。	周囲の状況を判断することができない。
	規律・責任性	思考・判断・技能・表現	12）守らなければならないルールや約束・マナーを理解し責任ある行動がとれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒヤリハット、アクシデント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べることができない。
	ストレスコントロール力	思考・判断	13）ストレスを成長の機会と前向きに捉え、克服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替え対処し、成長に繋げることができる。	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替えることができる。	ストレスを対処することができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと (^^♪♪
倫理	**倫理性**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14）対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15）対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16）実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守る事ができる（守秘義務遵守）	実習場面 リフレクション場面 記録物 （レポート作成）	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで（コントロール）、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17）対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	**自ら学び考える力**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18）自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

Ⅰ．科目構成


小児看護学
4単位
（105時間）
小児看護学概論
1単位（30時
小児看護の特徴と理念
子どもの成長・発達
小児各期の特徴と養護
小児各期の栄養
家族の特徴とアセスメント
子どもと家族を取り巻く社会
小児看護学方法論Ⅰ
2単位（45時間）
病気・障害をもつ子どもと家族の看護
子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護
子どもにおける疾病の経過と看護
子どものアセスメント
子どもの外傷と事故に必要な看護
医療的ケアを必要とする子どもと家族の看護
災害時の子どもと家族の看護
検査・処置を受ける子どもと家族の看護①
小児看護学方法論Ⅱ
1単位（30時間）
看護の展開
検査・処置を受ける子どもと家族の看護②
終末期の子どもと家族の看護
臨地実習小児看護学
2単位
（90時間）
小児看護学実習
2単位（90時間）
乳幼児の成長発達に応じた援助および健康障害をもつ子どもと家族に対する看護を実践する実習

Ⅱ　小児看護実習

目的

小児の成長発達を理解し、健全な育成を目指しあらゆる健康段階にいる小児と家族に対して適切な看護を実践できる基礎的知能力を養う。

目標

1. 健康な乳幼児の成長発達の特徴を捉え、健康段階に応じた日常生活の支援の必要性を理解できる。
2. 病気・入院・治療が対象の小児とその家族に影響を及ぼす影響を理解できる。
3. 対象の小児とその家族の看護問題を明確にし、解決に向け個別的な看護過程の展開ができる。
4. 対象の小児の特徴を生かし、安全、安楽な援助が実施できる。
5. 小児看護の役割と保健医療福祉チームの連携を理解することができる。
6. 自己の子ども観を再考することができる。

Ⅲ　実習体系・実習場所

1.実習体系

小児看護学実習 2 単位（90 時間）	オリエンテーション	小児看護実習の目的・目標・内容 実習上の注意事項
	保育園（所）、こども園	健康な乳幼児を対象とした日常生活の支援について学ぶ実習
	医療型障害児入所施設 放課後デイサービス	障がいをもつ子どもへの支援および多職種連携を学ぶ実習
	病院	健康障害をもつ子どもと家族への看護を実践する実習

2. 実習場所

1）児童福祉施設
- 那覇市こども園５施設
- 豊見城市 座安保育所
- 那覇垣花福祉会 鏡原保育園
- 那覇垣花福祉会 すがやま保育園
- 郵住協福祉会 あじゃ保育園
- ポプラ福祉会 しゅりの泉こども園
- KBC 愛育会 めぐみの森保育園
- 雅福祉会 みやび認定こども園
- 幸福祉会 あゆみ保育園
- まつみ福祉会 もみじ保育園
- わかば友の会 わかば認定こども園
- 社会福祉法人 みぎわ福祉会 みぎわ保育園

2）医療型障害児入所施設　・沖縄南部療育医療センター

3）児童発達支援・放課後デイサービス　・社会福祉法人　まつみ福祉会　さくらキッズ

4)病院

・日本赤十字社　沖縄赤十字病院
・沖縄医療生活協同組合　沖縄協同病院
・社会医療法人友愛会　友愛医療センター
・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
・地方独立行政法人　那覇市立病院

Ⅳ　実習内容および方法

1．実習計画

1）実習時間　実習前オリエンテーション（4 時間）

保育所実習：9 時 00 分～16 時 00 分（実習時間 8 時間：休憩 60 分）
医療型障害児入所施設実習：7 時 30 分～12 時 00 分（実習時間 6 時間）
放課後デイサービス実習：13 時 00 分～17 時 30 分（実習時間 6 時間）
病棟実習：8 時 00 分～15 時 00 分（実習時間 8 時間：休憩 60 分）
外来実習：8 時 00 分～12 時 30 分（実習時間 6 時間）
NICU 実習：8 時 00 分～12 時 30 分（実習時間 6 時間）
学内実習：9 時 00 分～14 時 30 分（実習時間 6 時間：休憩 60 分）

2）実習スケジュール

	オリエンテーション	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目
場所	学内	保育所	保育所	保育所	医療型障害児入所施設 放課後デイサービス
内容	実習内容説明 実習上の注意事項	オリエンテーション 子どもとの関わり カンファレンス	こどもとの関わり カンファレンス	こどもとの関わり 所感発表	施設見学 子どもとの関わりカンファレンス
	5 日目	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目
場所	学内	病棟	病棟	病棟	病棟
内容	テーマデスカッション 成長・発達知識確認 オリエンテーション	オリエンテーション 対象者選定 コミュニケーション カンファレンス	看護実践 カンファレンス	看護実践 ケースカンファレンス	看護実践 所感発表
	10 日目	11 日目	12 日目		
場所	学内	外来 or NICU	学内		
内容	外来・NICU 実習の 学び共有	見学実習 カンファレンス	学びの共有 評価返し		

V　保育所実習

目的

健康な乳幼児の成長発達を捉え、発達段階に応じた日常生活の支援の必要を理解できる。

目標

1. 健康な乳幼児の成長発達と日常生活行動の確立過程を理解する。
2. 発達段階に応じたコミュニケーションができる。
3. 乳幼児の食事・排泄・睡眠・清潔・衣服着脱の支援の実際がわかる。
4. 健康な乳幼児を守るために必要な環境について理解する。
5. 見学、体験したことを振り返り学びを共有できる。

実習内容及び方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
1.	1) 乳幼児の成長発達の特徴を述べることができる。	(1) 形態的成長：正常値・標準値、カウプ指数 (2) 精神運動機能の発達：運動、認知、社会性 (3) 成長発達の評価 (4) 基本的生活習慣および日常生活行動	・年齢の異なるクラスで実習を行う。 ・年（月）齢や個別性における成長発達の違いを理解する。 ・年齢が異なる子どもの発育評価を行う。
2.	2) 乳幼児に関心をもち発達段階に応じたコミュニケーションができる。	(1) コミュニケーション ①発達段階の違い ②保育士の関わりと反応 ③子ども同士の関わりと反応	・保育士の子どもに対する目線、身振り、言葉使いなど観察する。 ・年（月）齢による、言語能力に違いを理解する。 ・子ども同士で解決する関わりを意識する。
3.	3) 食事・排泄・睡眠・清潔・衣服着脱の支援の実際がわかる。	(1) 日常生活行動の観察と支援 ①食事 ・食事時の環境 ・食事介助 （授乳・離乳食・幼児食・おやつ） ・食事の観察 （栄養素、食事形態）	・子ども同士のやり取りで、困った時には保育士へ報告する。 ・指定された保育園で、選定されたクラスの日課を確認し行動する。 ・子どもとの関わりで判断に困った時は担当保育士に相談してから行動に移す

目標	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
		②排泄 ・おむつ交換 ・排泄習慣形成への援助 ・排泄の観察 ③睡眠 ・睡眠環境の整え方 ・睡眠状態の観察 ④清潔・衣服の着脱 ・適切な衣服の選択 ・衣服の着脱の介助 ・全身の観察 ⑤活動 ・遊びの種類 ・玩具の選択	・受け持ちクラスの園児の日常生活行動を観察したこと、子どもへの関わりを記録する。 ・園児が自由に遊んでいる時は、子ども同士の関係性や遊び方を観察する。また、状況に応じて一緒に遊んだり見守ったりする。 ・年（月）齢の違いによる成長発達を促す関わりを理解する ・子どもに多い事故を既習し安全を考えた行動をする。
	4）乳幼児を守るために必要な環境を述べることができる。	(1)クラスの安全管理 ①各クラスの構造 ②安全教育・事故防止対策 (2) 児の健康管理 ・乳幼児期に多い感染症 ・感染予防対策 ・家族との連携	・園児の安全に十分注意し、事故、異常があった場合は、直ちに保育士もしくは園へ報告し、指示を得る。 ・子どもの感染症を再学習し、感染から守るための取り組みや看護職としての役割を考える。
	5)自己の気づき・学びを述べることができる。	(1)カンファレンス ①テーマカンファレンス 1日目：成長発達の違いと成長発達を促す関わりとは 2日目：子どもにとって安全な環境とは ②所感発表 テーマ 「健康な乳幼児との関わりを通して学べたこと」	・学生が主体となりカンファレンスを行う。 ・年（月）齢による成長発達の違いを理解し、個別性に応じた子どもへ関わりを共有し翌日の実習に活かす。 ・3日間の学びをまとめ理解を深める。

Ⅵ　医療型障害児入所施設実習

目的

障がいをもつ小児の療養環境を理解し、成長発達に応じた看護を学ぶ。

目標

1. 心身や発達に障がいをもつ児を理解し、健康管理、日常生活への支援を考える。
2. 施設における多職種連携および看護の役割とついて理解する。
3. 実習での気づきを共有し学びを深める。

実習内容及び方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1.	1) 心身や発達の障がい応じた日常生活支援の実際を知る。	(1) 成長発達、個別性に応じた日常生活支援 ①食事の援助 ・食事形態、介助方法 ②排泄の援助 ・排泄方法 ③清潔・衣服の援助 ・口腔ケア ⑤活動の支援 ・レクレーション、学習 ・送迎 (2) 個別性に応じた医療的ケア ・呼吸管理（吸引、吸入） ・栄養管理 経鼻、胃管、胃瘻、静脈静脈栄養	・児の反応を観察し児の安全を意識し関わる。 ・児の様子観察や児と関わる際には挨拶する。 ・疑問があれば積極的に質問する。質問する時には状況に応じて行う。 ・送迎時は、安全に留意し担当者とともに行動する。
	2) 多職種連携の実際を知り、看護の役割を考える。	(1) 多職種連携 ①子どもと家族に関わる職種 ②家族支援 (2) 看護の役割 ・多職種との連携 情報共有、マネージメント ・家族支援 家族との連携	・それぞれの専門職の役割を理解する。 ・親子を中心とした支援となるような関係性のあり方を考える。
	3) 実習での気づき・学びを共有する。	(1) 所感発表 「実習での気づき・学び」	・学生が主体となり運営する ・互いの学びを共有し理解を深める。

Ⅶ　放課後デイサービス実習

目的

障がいをもちながら地域で生活する子どもとその家族の支援のあり方を学ぶ

目標

1. 心身や発達に障がいをもつこどもを理解し日常生活への支援について理解する
2. 地域における専門職の役割および多職種連携について理解する。
3. 実習での気づき・学びを共有し理解を深める。

実習内容及び方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1	1)児の発達段階や特性を知る。	(1) 個別性に応じた日常生活支援 ①食事への援助 ・食事環境、食事形態、介助方法 ②排泄への援助 ・排泄方法、排泄支援 ③清潔・衣服への支援 ・着脱の着脱、全身の観察 ④活動への支援 ・遊び、学習、送迎 (2) 個別性に応じた医療的ケア見学 ・呼吸管理（吸引、吸入） ・栄養管理 ・導尿、人工肛門、インシュリン注射	・日常生活行動、子どもの反応を観察し、安全安楽を考えた支援について考える。 ・直接支援する時には、対象者の同意を得て指導者の管理下のもとに実践する。
2	2)多職種連携の実際を知り、看護の役割を考える。	(1)多職種連携 ①子どもと家族に関わる職種 ②家族支援 (2)看護の役割 ・多職種との連携 情報共有、マネージメント ・家族支援 家族との連携	・連携・協働する各職種の役割を理解する。 ・家族との関わりについて考える
3	3)自己の考えを述べることができる。	(1)所感発表 テーマ 「実習での気づき・学び」	・学生が主体となり運営する。 ・互いの学びを共有し理解を深める

Ⅷ　小児（科）病棟実習

目的

小児の成長発達についての理解を深め、健康段階や入院が小児と家族に及ぼす影響を理解し、対象の個別性に合わせた看護を実践する。

目標

1. 受け持ち児の成長発達と健康段階を理解する。
2. 入院が小児や家族に及ぼす身体的・精神的・社会的影響を考え、看護展開する。
3. 受け持ち児と家族に必要な看護を安全・安楽に実践し、評価できる。
4. 看護学生としての看護倫理を基本とした姿勢をもち行動する。
5. 看護実践を基に小児観、看護観を深める。

実習内容及び方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1	1)小児各期の特徴をふまえ、対象者の発達段階、健康段階を述べることができる。	(1)受け持ち児の成長発達と評価 ①形態的成長・運動機能 ②知的・社会的発達 ③正常値、標準値との比較 ④身体評価 (2)入院前の様子 ①生育歴・生活リズム ②健康管理（予防接種、アレルギーの有無） ③家庭環境（主な養育者、家族構成） (3)健康段階 ①病歴（既往歴、現病歴） ②児の示す症状 ③日常生活行動への影響	・児と家族との関わりや病棟の看護の様子、カルテなどか情報収取する。 ・児の示す症状と病態と照らし合わせ今の児の状態を把握する。 ・入院前の様子については家族とのコミュニケーションを通し情報を得る。
2	1)受け持ち対象児の成長発達および健康段階からアセスメントできる。	(1) 4 つの視点アセスメント（成長発達・疾病・環境・日常生活） ①成長・発達 ・成長発達に及ぼす影響 ・発達を促す関わり（遊び、学習支援） ・家族構成、家族役割 ②健康認識・健康障害・医学的治療 ・疾病の病態生理 ・治療方針・治療内容 ③環境 ・入院前と入院後の変化 ④日常生活状況 ・入院前、入院後の日常生活 ・食事、排泄、清潔、睡眠、衣生活などの自立状況	・指定フォームを使いアセスメントをまとめる。 ・疾患によって引き起こされる症状のメカニズムや解剖生理学的な特徴を踏まえアセスメントする。 ・実際の情報をもとに身体的影響、成長発達への影響、生活への影響等から今後予測される課題を考える。 ・両親に限らず、入院に伴うきょうだいへの影響も考える。

	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
	2)受け持ち児および家族の看護上の課題を抽出できる。	(1)入院、退院後に対する看護上の課題の抽出 ①発達段階の視点 ②健康障害の視点 ③環境変化の視点 ④日常生活の視点	・疾患による症状、症状に伴う日常生活に及ぼす課題を考える。
	3)受け持ち児および家族の課題解決に向けた看護計画が立案できる。	(1)看護計画の立案 ①個別性、具体性のある内容 ②安全性を考慮した内容 ③家族、きょうだいへの支援 ④到達目標の設定 ・児もしくは家族に向けた目標	・児だけでは解決ができない課題については、家族に向けた目標を設定する。 ・実践可能で到達できる目標を設定する。
3.	1) 受け持ち児と家族に必要な看護を安全・安楽に実践し、評価できる。	(1)児と家族とのコミュニケーション ①発達段階に応じたコミュニケーション ②共感、受容した態度 (2)バイタルサイン測定 ①児及び家族への説明と同意 ②発達段階に応じた物品の選択 ③成長発達に合わせた順序性 ④フィジカルアセスメント ・胸部、腹部の聴診、触診 (3)環境を整える ①ベッドの種類とリネン ②温度、湿度、照明他 ③児にとって安全な環境 (4)食事の援助 ①食事摂取方法の観察、介助 ②食種、食事形態 ③食事摂取状況・食事量の観察 (5)排泄の援助 ①排泄方法、自立度 ②排泄の有無、程度	・信頼関係構築となるコミュニケーションについて考える。 ・児の状態や生活リズムを確認し、関わるタイミングを考える。 ・安全・安楽の視点で看護ケアを評価し、追加修正を行いながら看護実を行う。 ・児の状態や発達段階によるベッド違いを考える。 ・児の体格や認知能力から予測される事故を予測し、こどもを守る環境について考える。 ・食物アレルギー、遅食の有無を確認し配膳を行う。 ・症状、状態により獲得した日常生活行動にどのような影響をもたらすか考える。

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
		(6)睡眠の援助 ①睡眠の有無、程度 ②睡眠環境の調整 (7)清潔と衣生活の援助 ①児に適した清潔方法 ②適切な衣服の選択 (8)活動の援助 ①発達段階、状態に応じた移動方法 ②健康段階に応じた安静度 (9)児に適した遊び（学習）の援助 ①健康段階に応じた援助 ②玩具（道具）の選択、場所 (10)身体計測 ①発達段階に合わせた方法の選択 ②安全を考えた実践	・根拠を持ち安全に看護実践する。 ・ケアを実践する際には、観察項目、留意点を明らかにし安全に配慮する。 ・ケアを行う際には、指導者もしくは教員と共に行う。 ・児の症状や状態を常に観察しながら遊び（活動）を行う。
4.	1）子どもの権利を守り、子どもを尊重した行動ができる。	(1)説明と同意 (2)苦痛を最小限した支援 (3)プライバシーの保護 (4)抑制と拘束 (5)家族からの分離禁止	・日本小児看護学会の「小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針」を活用し、日常的な臨床場面での倫理的課題に気づき、子どもの権利を考える。 ・子どもの権利から家族が付き添う意義を考える。 ・子どもの最善の利益を考えケアを実践する。
5.	1)看護実践を振り返り、小児観を深めることができる。	(1)カンファレンス ①子どもにとって安全な環境とは (2)所感発表	・学生が中心となりカンファレンスを行う。 ・発達段階の特徴、健康段階から子どもを守るための環境（ハード面、ソフト面）を考える。 ・主体的に実習に取り組み、ビジョンゴールを振り返り自己の成長と課題を明らかにする。

Ⅸ　小児（科）外来実習

目的

小児（科）外来における役割・機能を理解し、受診する児と家族への看護を学ぶ。

目標

1. 小児（科）外来を受診する児と家族の特徴を理解する。
2. 小児（科）外来における看護技術を理解する。

実習内容及び方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
1	1)外来を受診する小児と家族への看護を知る。	(1)外来を受診する児と家族への看護 ①トリアージ ②問診 ③乳児健診、定期健診 ④予防接種	・実習する施設の小児（科）外来の特徴、役割を理解する。 ・問診から診察検査、処置の一連の流れを理解し、看護師の役割について考える。
2	1)外来で処置を受ける児と看護について知る。	(1)説明と同意 ・インフォームドアセント ・プレパレーション ・ディストラクション (2)安全・安楽への支援 ・転倒転落対策 ・感染対策 (3)処置時の児と家族の看護 ①バイタルサイン測定 ②点滴・注射・採血への援助 ③検査時の援助 ・検体採取、MRI、CT	・児の状態や状況に応じたコミュニケーションを行う。 ・発達段階に応じた関わりの違いを理解する。 ・症状や治療による児の気持ちを理解し児の最善の利益を尊重した関りについて考える。
	2)自己の学びを述べることができる。	(1)所感発表 「外来（科）実習を通しての気づき・学び」	・学生が主体的にカンファレンスを行い、学びを共有し理解を深める ・疑問があれば積極的に質問し、理解を深める。

X　NICU 実習

目的

NICU・GCU の構造と機能を理解し、NICU・GCU 看護の役割について学ぶ。

目標

1. NICU・GCU の特徴を理解する。
2. NICU・GCU に入室している児とその家族に必要な看護について理解できる。

実習内容及び方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
1	1)入室する児の特徴と必要な看護を述べることができる。	(1)児の特徴の理解 ①在胎週数 ②出生時体重、児の全身状態 ③疾患	・低出生体重児の定義を再学習する。 ・低出生体重児の生理的機能的特徴を再学習し理解を深める。
2	1) 児と家族に必要な看護を知る。	(1)集中管理の理解 ①全身管理（モニタリング、保育器） ②呼吸器管理 人工呼吸器、酸素ネーザル ③ディベロップメンタルケア ・ポジショニング ・音、採光など	・閉鎖型・開放型保育器の特徴の違いを理解する。
		(2)愛着形成・絆 ①母乳栄養 ②沐浴、授乳、抱っこ ③面会、交換日記、	・先天性奇形をもつ親の心的変化を学習し、家族の支援を考える ・愛着形成を促進する関りについて考える。
		(3)多職種・連携 ①退院支援 ②周産期ネットワーク	
	2)自己の学びを述べることができる。	(1)所感発表 テーマ 「NICU・GCU 実習での学び・気づき」	・学生が主体的にカンファレンスを行う。 ・学びを共有しNICU看護の理解を深める。

NICU 見学実習項目

１．施設の構造・機能的特徴
①室温　②湿度　③採光　④騒音　⑤緊急対応　⑥感染対策　⑦安全対策
２．低出生体重児の特徴と生命管理
①週数　②体重　③体温　④保育器　⑤人工呼吸器　⑥循環管理
３．　ディベロップメンタルケア
①ポジショニング　②タッチケア　③母乳栄養　④音・光環境
４．児および家族への看護
①児との面会　②オムツ交換　③清拭・沐浴　④栄養管理　⑤体位変換 ⑥メッセージノート　⑥育児指導
５．多職種・連携
①退院支援　②地域連携　③周産期ネットワーク

XI　小児看護学実習評価

学籍番号　　氏名

学習活動	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：5点　B：3点　C：1点		
				A	B	C
保育所実習						
子どもの成長発達の理解	関心意欲態度	1)乳幼児期の成長発達の特徴を捉え年（月）齢の違いが理解できる。	事前課題 実習場面 実習記録	乳幼児期の成長発達の特徴について主体的に学習し、年（月）齢の違いまで理解することができた。	乳幼児期の成長発達の特徴ならびに年（月）齢の違いを理解することができた。	乳幼児の成長発達もしくは年（月）齢の違いが理解できた。
子どもとのコミュニケーション	関心意欲思考	2)児の年齢、個別性に応じたコミュニケーションができる。	事前学習 実習場面 実習記録	児の年齢や個別性に合わせ積極的にコミュニケーションができた。	児の年齢に応じたコミュニケーションができた。	児とコミュニケーションをすることができた。
子どもの日常生活確立に向けた支援	関心意欲思考判断	3)乳幼児期の成長発達の特徴を理解し、生活習慣確立に向けた援助ができる。	事前学習 実習場面 実習記録	乳幼児期の成長発達の特徴を理解し、主体的に生活習慣確立に向けた支援ができた。	乳幼児期の成長発達の特徴を理解し、生活習慣確立に向けた支援ができた。	生活習慣確立に向けた支援ができた。
障害児施設（入所・通所）実習						
障がいのある子どもの看護	関心意欲思考	4)施設の特徴を理解し、障がいのある子どもへの看護が理解できる。	事前学習 実習記録 実習場面 カンファレンス	施設の特徴を理解し、子どもの成長発達に応じた個別的な支援を積極的に質問し理解することができた。	施設の特徴を理解し、子どもの成長発達に応じた支援が理解できた。	施設の特徴もしくは子どもの成長発達に応じた支援が理解できた。
病棟実習						
発達段階と健康段階に応じた児と家族への看護	関心知識思考	5)子どもの安全を守る環境が提供する必要性が理解できる。	事前学習 実習記録 実習場面 カンファレンス	小児（科）病棟と成人病棟との違いから子どもに必要な環境を述べ子どもの安全を守る支援ができた。	小児（科）病棟と成人病棟との違いから子どもに必要な環境について述べることができた。	小児（科）病棟と成人病棟との違いを述べることができた。
	知識思考判断	6)児の健康段階、発達段階を捉え必要な支援が実践できる。	事前学習 記録物 実習場面 カンファレンス リフレクション	児の健康段階、発達段階を捉え優先順位を考えて個別的な支援ができた。	児の健康段階、発達段階を捉え必要な個別的な支援ができた。	児の健康段階、発達段階を捉え必要な支援ができた。
	知識思考判断	7)子どもの最善の利益を尊重した関りができる	事前学習 記録物 実習場面 カンファレンス リフレクション	日常的な臨床場面での倫理的課題に気づき、子どもの権利を意識した関りができた。	子どもの権利を意識した関わりができた。	子どもと関わることができた。
外来・NICU 実習						
専門分野との連携	知識関心理解	8)健康状態に応じた、小児看護の専門性を理解できる。	事前学習 記録物 実習場面 カンファレンス リフレクション	子どもの健康状態に応じた看護と多職種連携について述べることができた。	子どもの健康状態に応じた看護もしくは多職種連携について述べることができた。	子どもの健康状態に応じた看護について述べることができた。

Step up スケール ～看護師として必要な基礎力～

那覇市医師会　那覇看護専門学校

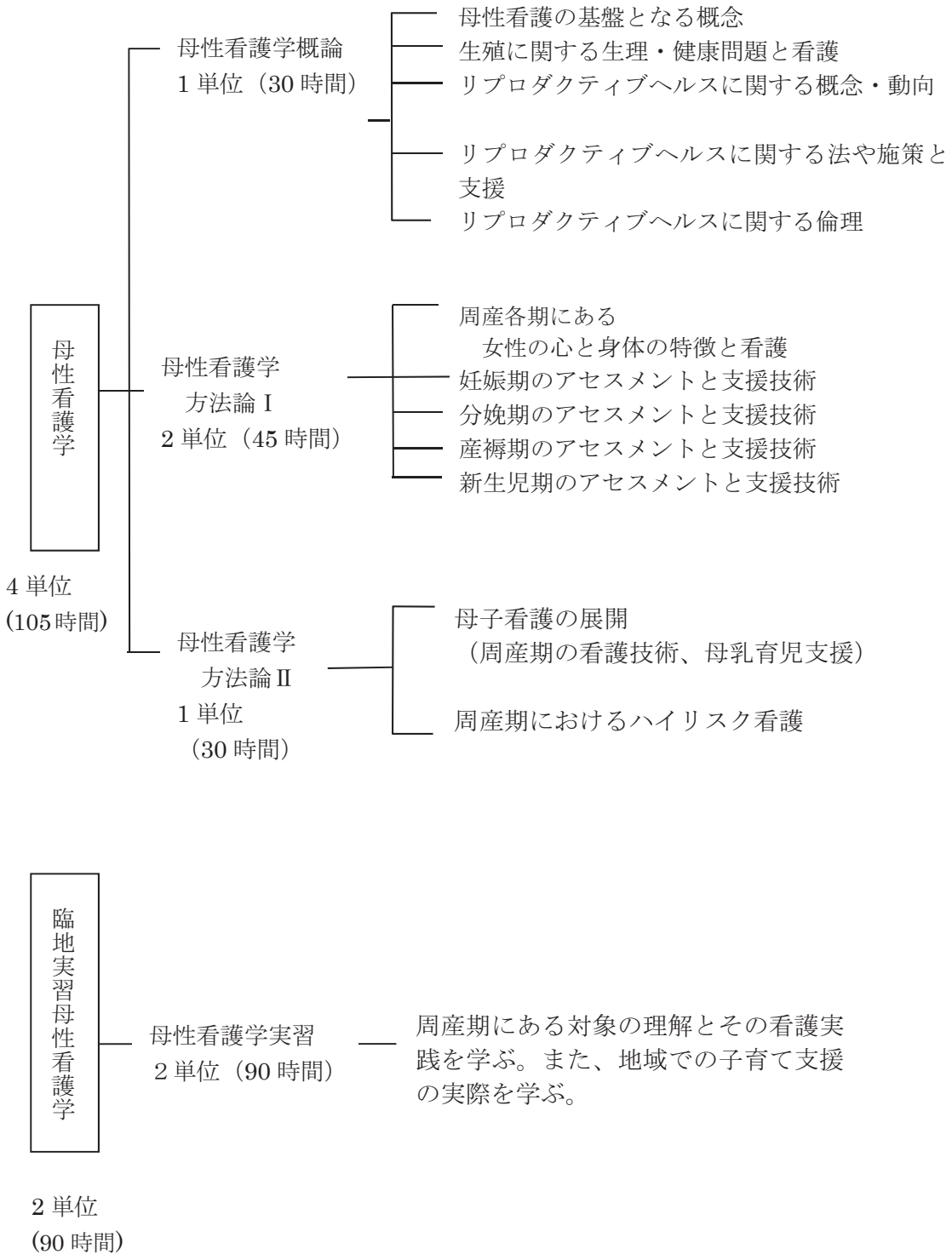
年　組　学籍番号　氏名

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 1）～3）　A：5点　B：3点　C：1点 4）～18）　A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね (*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
考え抜く力(シンキング)		思考・判断	1）アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 （対象の情報用紙） リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合せて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
	課題発見力	思考・判断	2）対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 （対象の全体像・解決すべき課題） リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	思考・判断	3）対象の個別性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 （行動計画・看護計画） リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個別性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力(アクション)	**働きかけ力**	技能・表現	4）対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5）　対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するめに、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6）対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物（看護計画） 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7）看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
チームで働く力（チームワーク）	**発信力**	思考・判断 技能・表現	8）他者へ自分の考えや思いを分かりやすく伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを具体的な事例や客観的データを用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9）相手の意見や考えを丁寧に聴くことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して内容の確認や質問などを行いながら丁寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちをうち、相手の話しを素直に聴くことができる。	相手に関心を持つことやその人の意見を聴こうとする関わりができない。
	柔軟性	思考・判断	10）他者の意見や助言を理解し、活かすことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入れて理解し、次の行動に活かすことができる。	他者の意見や助言を受け入れ、その意味を理解することができる。	自分のやり方に固執し、意見や助言を受け入れることができない。
	状況把握力	思考・判断	11）周りの状況を判断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物理的環境）を判断し、どのように行動すべきなのかを考えて状況が良くなるように行動することができる。	周囲の状況を判断し、どのように行動すべきか理解しているが、行動に移せない。	周囲の状況を判断することができない。
	規律・責任性	思考・判断・技能・表現	12）守らなければならないルールや約束・マナーを理解し責任ある行動がとれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒヤリハット、アクシデント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べることができない。
	ストレスコントロールカ	思考・判断	13）ストレスを成長の機会と前向きに捉え、克服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替え対処し、成長に繋げることができる。	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替えることができる。	ストレスを対処することができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと (^^♪♪
倫理	**倫理性**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14）対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15）対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16）実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守る事ができる（守秘義務遵守）	実習場面 リフレクション場面 記録物 （レポート作成）	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで（コントロール）、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17）対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	**自ら学び考える力**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18）自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

Ⅰ　科目構成


母性看護学
4 単位
(105時間)
母性看護学概論
1 単位（30 時間）
母性看護の基盤となる概念
生殖に関する生理・健康問題と看護
リプロダクティブヘルスに関する概念・動向
リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援
リプロダクティブヘルスに関する倫理
母性看護学
方法論Ⅰ
2 単位（45 時間）
周産各期にある
女性の心と身体の特徴と看護
妊娠期のアセスメントと支援技術
分娩期のアセスメントと支援技術
産褥期のアセスメントと支援技術
新生児期のアセスメントと支援技術
母性看護学
方法論Ⅱ
1 単位
（30 時間）
母子看護の展開
（周産期の看護技術、母乳育児支援）
周産期におけるハイリスク看護
臨地実習母性看護学
2 単位
(90 時間)
母性看護学実習
2 単位（90 時間）
周産期にある対象の理解とその看護実践を学ぶ。また、地域での子育て支援の実際を学ぶ。

Ⅱ　母性看護学実習の目的・目標

目的

母子保健医療活動から、周産期における対象の健康課題を理解し、支援できる基礎的能力を培う。また、地域における母子の特徴を理解し、健康生活支援の実際から、母子保健医療チームの一員としての役割を学ぶ。

目標

1　妊婦・産婦・褥婦および新生児の変化を総合的に捉え、看護師の指導のもと基本的支援の実践ができる。
2　妊娠・分娩・産褥期における母子関係及び、家族の役割獲得の支援について理解を深める。
3　生命誕生への畏敬の念、自己の母性・父性意識を発展させ、看護職としての自己の成長につなげる。
4　妊産褥婦および新生児の安全・事故予防に配慮し看護師の指導のもと技術の実践ができる。
5　保健医療福祉チームの支援体制を理解し、チームの一員としての役割を理解することができる。

Ⅲ　実習体系・実習場所

実習体系

臨地実習　母性看護学 ― 2 単位　90 時間 ― 母性看護学実習 2 単位（90 時間） ―― 周産期にある対象の理解とその看護実践を学ぶ。また、地域での子育て支援の実際を学ぶ。

実習場所

病院実習
- 友愛医療センター
- 沖縄赤十字病院
- 糸数病院
- 南部徳州会病院
- うえむら病院

地域実習
- 子育て支援センター（9 施設）
- 母子未来センター

実習計画

1．実習計画

病院：8 時 00 分～15 時 00 分（実習時間 8 時間：休憩 60 分）
学内：9 時 00 分～15 時 45 分（実習時間 7 時間：休憩 90 分）
母子未来センター：9 時 00 分～12 時 45 分（実習時間 5 時間）
子育て支援センター：9 時 00～16 時 00 分（実習時間 8 時間：休憩 60 分）
※施設の状況、実習内容により、実習開始時間が異なることもある。

2．実習スケジュール

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目
場所	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
内容	オリエンテーション	シャドウィング 情報収集 ケアの実際 カンファレンス 看護展開	情報収集 ケアの実際 カンファレンス 看護展開	情報収集 ケアの実際 カンファレンス 看護展開	情報収集 ケアの実際 カンファレンス 看護展開
	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目	10 日目
場所	外来	学内実習	子育て支援センター	子育て支援センター	母子未来センター
内容	外来看護の実際 保健指導見学 カンファレンス	妊娠期看護の実際 分娩期看護の実際	子育て支援の実際	子育て支援の実際	地域の母子保健活動の実際
	11 日目	12 日目			
場所	学内実習	学内			
内容	シミュレーション学習	グループディスカッション 終了カンファレンス			

※施設の状況により、外来・子育て支援センターの曜日については、変更あり。

２．実習行動目標及び実習内容

１）産婦人科病院実習

①妊娠期

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1―1 4－1 5－1	外来オリエンテーションを受け、妊婦の看護に必要な支援方法を知ることができる。	１）産科外来オリエンテーションを受ける。 施設・構造・業務の流れ・外来診察の特殊性と援助時の留意点など	・実習前講義において、産科外来の概要を理解する。他施設との連携を知る。
1-2   1-3   1-4   1-5   1-6   1－7

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1－8	妊婦の生活上の留意点を述べることができる。	（1）日常生活行動について：食事、排泄、清潔、服装、履物、運動、労働、体位、姿勢、睡眠、休息、性生活、嗜好品、学習	・妊婦の日常生活に問題はないか、得られた情報から考える。
1－9 1－10	妊婦に応じた保健指導の必要性と指導方法について理解できる。 母子健康手帳意義・使用方法が理解できる。	（2）妊娠各期の妊婦の保健指導見学 ①妊婦健康診査の必要性と妊娠の届け出、母子手帳の交付および活用法の説明（公費による妊婦健診、妊娠証明書） ②生活指導 ③不快症状（マイナートラブル） ④分娩に向けて物品の準備・心の準備 育児経験の有無、育児用品の準備、出産後のソーシャルサポート、勤労、経済 ⑤集団指導（両親学級・安産学級・母乳学級）を見学・参加する（目的・指導内容の理解）	・見学前にあいさつと自己紹介を行い承諾を得てから見学する。 ・指導者と対象者との関わり場面を通してコミュニケション方法について学ぶ。 ・妊婦健康診査について事前に学習して臨む。 ・妊娠中のマイナートラブルや異常について事前に学習して臨む。
1－11	正常から逸脱した妊娠が母児に及ぼす影響が理解できる。	（3）異常妊婦への保健指導を見学 ①妊娠悪阻、妊娠性高血圧症、多胎妊娠、妊娠性糖尿病、骨盤位妊娠、妊婦貧血、妊娠中の出血、切迫流早産 ②医師やスタッフの対応から，妊婦への心理的援助を捉える。	・機会があれば、切迫流早産や胎盤位置異常，妊娠性高血圧症、多胎妊娠などの妊婦の看護を事前に学習して臨む。
1－12 5－1	産褥１ヶ月の母体の変化を知り、妊娠から産褥期までの継続看護の必要性が理解できる。	(1) 産後１カ月健診や母乳外来等の見学	・退院後の母子への支援について事前に学習して臨む。 ・入院中の経過や、退院後の経過を情報収集し、どのような支援が提供されているか意識して臨む。 【事前学習】 ・妊婦健診の目的及び妊婦健診の基本検査項目及び週数に応じた検査項目

②分娩期の看護実習目標および実習内容

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-13 1-14	産婦･及び胎児の分娩経過を理解し，観察と支援方法が理解できる。 産婦の分娩の前兆と分娩の３要素、分娩の転機について述べることができる。	（１） 分娩開始の徴候について学ぶ：胎児子宮底の下降感、胎動減少、頻尿、子宮頸部の熟化頸管の分泌物増加、前駆陣痛、産徴 （２）分娩の３要素（娩出力、娩出物、産道） （３）第１期・第２期の産婦の観察と援助 ①入院時の問診，前処置（半剃毛，浣腸）の見学 ②陣痛の測定，児心音聴取，羊水の観察 ③分娩機転と胎児の娩出様式，産婦の怒責，体位･短息呼吸の時期，一般状態や産婦の心理的変化，胎盤娩出後の子宮の状態，精神的慰安，産痛の緩和，水分補給など ④産婦に対して呼吸指導，補助動作など	・正常分娩経過について事前学習のノート、資料は整理し、必要に応じ提出する。 ・可能であれば分娩第１期から受け持ち，産婦の看護を学ぶ。 ・分娩参加は、学生の立つ位置を考え、産婦の羞恥心に配慮する。 ・分娩の進行状態や把握に関しては、モニターやパルトグラムから情報を得て、わからない点は積極的に質問し理解を深める。
3-1	分娩見学を通して分娩の喜びを共有･共感･支援できる。	（４）分娩第３期の産婦観察と援助をする。 ①胎盤剥離徴候，胎盤娩出時刻の確認と娩出後の子宮収縮，一般状態，胎盤の観察と計測 ②子宮収縮，輪状マッサージ，冷罨法 ③産婦へねぎらいの言葉かけ	・産婦や夫、家族への分娩進行状態の説明場面を見学し、対象及び対象者と関わり方を学ぶ。
3-2	分娩参加を通して母性・父性について、また生命の尊さについて考えることができる。	（５）分娩第 4 期の産婦観察と援助をする。 ①子宮収縮，出血，裂傷の有無と部位，外陰部，肛門部の状態，後陣痛，産婦の一般状態 ②冷罨法，全身清拭，導尿，帰室時のオリエンテーション，疲労回復のための援助の方法 ③分娩に関する諸記録	・分娩に参加させていただいた感謝の表現と，産婦へのねぎらいを忘れない。また，産婦に自信を持たせることが，母親役割への動機づけとなる

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-15 2-1	分娩経過に応じて産婦の基本的ニードの充足への支援方法を知ることができる。 母子関係の形成への支援ができる。	（6）分娩経過は順調か判断の根拠がわかる （7）産婦及び家族の言動，表情，態度から分娩経過中の心理的状態を推察できる。 （8）母子関係，親子関係がよりよく発展するための援助について知る。 ①分娩直後の早期母子接触 ②褥室移動前の母子接触 ③父親および家族と児の接触 （9）夫・家族への配慮	・分娩経過に応じた産婦の行動範囲について学習する。 （就床時間、体位と姿勢、食事、清潔、排泄、衣服、睡眠と休息、補助動作、リラックス法） ・母子早期接触の場面の見学，指導者の援助場面から学ぶ。 【事前学習】 ・CTG（胎児心拍陣痛図）の判読 ・胎盤検査 【事後課題】 ・分娩参加後の感想の提出（原則として翌日、A4 レポート用紙 800 以上 1000 字以内・表紙付き２枚以内） ＊分娩に参加していない学生は、受け持ち褥婦とのコミュニケーションや・見学を行なえた学生からの学びを共有し、分娩期の支援についての考察をレポートにまとめる。（インタビューではない）

③褥婦の看護実習目標および実習内容

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-16	褥婦の情報収集ができる。	1）褥婦とのコミュニケーション及び病棟申し送りやカルテなどから情報収集をする。	妊婦期（胎児）・分娩期及び産褥早期・新生児の情報を踏まえ情報収集を行う。 初回の訪室は、指導者又は教員と行い、アセスメントにつなげる。
1-17	褥婦の情報からアセスメントすることができる。	2）授乳場面や指導者の関わりを見学し、観察点や支援を考える。	
	褥婦が正常な経過をたどれるように個別に応じた看護計画の立案ができる。	3）予め、立案したスタンダードプランを、受け持ち褥婦にあったプランに修正・追加し実施する。	〈受け持ち選定〉 ・褥婦を４～５日間受け持つ。（可能であれば分娩期から受け持つ）
		4）正常な産褥経過の理解と経日的観察 ①退行性変化：子宮の変化、後陣痛の有無、悪露の変化、外陰部および縫合部の変化、痔、腹壁の変化、早期離床の意義、授乳と子宮復古との関連 ②進行性変化：乳頭・乳房の変化、乳汁分泌の機序、授乳間隔、乳管開通・乳房マッサージ法、搾乳法 ③全身の変化：疲労度、睡眠、栄養、活動 ④心理状態：心理変化を捉える（エジンバラ産後うつ病調査表・マタニティーブルースコア）、母子関係	・支援および実施については、バイタル以外の観察・支援技術は指導者・教員と共に実施する。 ・ケースカンファレンスを通して学習を深める （実習２日目） ・看護計画は、日々の経過を確認しながら、再アセスメントが必要か判断し、必要時、計画の修正を図る。 ・看護上の課題は、ウエルネス型又はリスク型を中心に考える。 ・ルービンの適応過程（受容期・保持期・開放期）と照らし合わせて考える。 ・褥婦の反応や状態変化を経日的に捉える。 ・母子関係については、ボウルビーの愛着（アタッチメント）、クラウスとケネルの絆形成から考える。
1-18 2-2	母児関係成立に向けて母親役割適応への支援ができる。	5）褥婦への援助を見学および実施 ①母乳育児支援：乳汁分泌促進の援助　早期授乳，乳頭，乳房マッサージ、授乳姿勢、乳頭の含ませ方 ②早期離床、悪露交換、温座浴、腹帯、産褥体操 ③　日常生活への援助：睡眠、食事、排泄、活動、清潔 ④　褥婦の育児技術の観察と支援 ・授乳，抱き方，衣類の着脱，清潔、環境調整 ⑤母児相互作用：みつめる、触れる、話しかけ、表情やしぐさの観察、母児の接触などの場面での支援	

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
		⑥退院後のサポート（夫や家族の支援），育児環境（上の子の世話，住居環境など） ６）保健指導の見学及び一部実施をする。 ①個別・集団指導の見学 調乳指導，初回授乳指導，産褥体操，退院指導，家族計画指導，育児指導	・母児関係成立に向けての支援を見学し、看護としての役割を考える。 ・指導者の場面の見学及び指導者・教員と共に行う。
1-19	褥婦への保健指導を見学・実施することができる。	（６）保健指導の実施 対象者に合った方法（パンフレット・リーフレット・説明など）で、適切な時期に保健指導を計画・実施する。 ＜項目＞ 温座浴、乳頭・乳輪マッサージ、乳房マッサージ、授乳、搾乳、温座浴、社会資源、新生児の生理、沐浴、育児技術、家族計画、退院後の生活など	・褥婦のセルフケア能力の獲得に応じた支援を考える。（家族のサポート力の把握） ・褥婦の状況に応じた適切な時期に実施できるようにする。 ・学内で作成したパンフレットを参照し、個別に応じた内容に修正・実施する。（一部コピーし、保管） 【事前学習】 ・褥婦と家族の心理社会的変化について調べる。 ・帝王切開術を受けた褥婦の看護について調べる。 【事後課題】 母性実習を終えて、自己の母性、父性意識がどう変化したかについて体験から得られたことをまとめる。（実習終了後のファイル提出時。Ａ４レポート用紙、表紙付き２枚以内）

④新生児の看護実習目標および実習内容

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-20	新生児室の特殊性を理解し，生活環境を整えることができる。	（1）新生児のオリエンテーションを受け，生活環境としての新生児室の特殊性を理解する。 ①新生児室の構造設備，管理 ②入室時の心得,留意点 （2）生活環境を整える ①室温，湿度，採光，騒音，塵埃等 ②新生児のベッド作成 （3）新生児の看護の原則・根拠 ①保温，②感染予防，③呼吸の確立，④愛護，⑤異常の早期発見　⑥安全・感染予防	・オリエンテーションを受け、翌日からの実習計画につなげられるようにする。 ・褥婦と共に受け持ち新生児を選定する。(1日目) ・一処置一手洗いの励行 ・新生児室の日課にそって計画した内容を見学あるいは実施する。(２日目～)
1-21	新生児の生理的特徴を理解し，観察ができる。	（4）新生児の生理的特徴を理解し，観察する。 姿勢，体温，心拍，呼吸，生理的体重減少，生理的黄疸，排尿，哺乳，溢乳，原始反射など （5）全身状態の観察を行う。 バイタルサイン測定，身体計測，哺乳量測定、黄疸の計測など	・新生児を養護し尊重されるべき人として援助する ・援助技術については、担当者または教員の指導の下で行う。 ・安全･安楽に留意して行う。
1-22	新生児の胎外生活への適応過程を促す支援方法が理解できる。	（6）新生児の胎外生活への適応過を観察する。 ①肺呼吸の確立， ②循環の変化（胎児循環から新生児循環へ変化） ③体温調節（熱喪失など） ④新生児の感染防御力など	・援助の際は語りかけ，児の反応に関心を向け，タッチングを心がける。 ・熱喪失が、どういう状況でみられるか考える。
1-23 4－1	新生児への日常生活支援ができる。	（7）新生児への日常生活の援助 ①寝かせ方，抱き方 ②清潔保持：おむつ交換，沐浴，臍処置，衣服着脱 ③栄養：初回授乳，排気のさせ方，生後日数にあった哺乳 哺乳量の算出 ④保育環境の調節：室温，湿度 ⑤安全の確保：窒息防止，転落防止，取り違え防止，感染予防	・児の日常生活支援の際や、褥婦への児の受け渡し時は、児の安全確認（ネームバンドとコット名札の確認）を行う。

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
		（８）光線療法時の看護。 （９）新生児マススクリーニング検査、採血の場面、ビタミンK_2投与、聴覚スクリーニング検査等を見学する。	・光線療法時の看護を見学･実施の機会があれば行う。
1-24	出生直後の新生児への援助が理解できる。	(10)出生直後の新生児の援助を見学する。 気道確保，臍帯の結紮・切断，アプガースコア,新生児識別表の装着、沐浴，点眼，早期母児接触，父親、家族との対面の援助など	・新生児の観察表，新生児の入室時の観察については､出生直後の観察をする機会があれば活用する。 【事前学習】 ・新生児のフィジカルアセスメン ・新生児の検査 ・出生直後の観察項目 ・新生児の生理的特徴（体重減少、生理的黄疸等）

2）地域実習

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1-1	地域の子育て支援に関わる施設と活動の実際を知ることができる。	1．オリエンテーション ・子育て支援センターの概要及び役割、機能 ・母子未来センターの概要及び理念、役割、機能、活動内容 ・それぞれの施設の概要、理念、役割、機能、活動内容 2．施設の活動の実際を見学及び関わりを通して学ぶ。 ＜子育て支援センター実習＞ 施設スタッフと母子との関わり方 ＜母子未来センター実習＞ ・妊婦健診、分娩の実際 ・産後ケア事業の実際 ・指導場面（関わり場面）の見学 ・離島における母子保健活動	各施設の概要及び役割機能を事前学習し臨む。 ・実習当日の活動内容を聞き、本日の行事に積極的に参加する。
2-1	施設を利用している対象への思いを知ることができる。	3．施設を利用する対象の特殊性について知る。 ・地域で生活する対象者の思いをコミュニケーションを通して理解し、退院後の母子への支援を考える。 ・施設利用に至った経緯や対象のおかれた環境を理解する。	利用者と積極的にコミュニケーションを図る。 ・利用者の生活環境および育児環境について聞く。 ・質問攻めにならないようにする。 ・コミュニケーションがうまくいかないときは指導者やスタッフから助言を得る。
2-2	母子やその家族の健康な生活と看護の役割を考えることができる。	4．母子への関わり方や支援方法について見学または実施する。 ・スタッフと母子との関わり方を見学し、実践する。 ・見学したことを深め、リフレクションする。	・目的意識をもって見学する。 【事前課題】 ・地域における子育て支援施策、もとになる法律や子育て支援計画について調べる。

４．母性看護学実習の進め方

１）事前・事後学習

・事前学習は教科書や講義内容を基本にし、看護展開に応じた学習が確認できるよう準備する。

・Step up スケール及び母性看護学実習評価表の内容を熟読し、必要な学習（知識・技術・態度）を進める。

・Web サイトは以下のサイトを参照する

・日本健康教育学会 http://nkkg.eiyo.ac.jp/portfolio/pg367.html

・週刊医学界新聞 http://www.igaku-shoin.co.jp/paperTop.do

・日本産婦人科学会 http://www.jsog.or.jp/

・厚生労働省 www.mhlw.go.jp/index.html

・沖縄県庁 https://www.pref.okinawa.jp/

・日本周産期・新生児医学会 https://www.jspnm.com/aboutgakkai/gaiyo.aspx

・日本母乳哺育学会 http://square.umin.ac.jp/bonyuu/

２）実習時間

病棟実習　　8:00～15:00（7:30～14:30）※施設の状況に応じて変更あり

地域実習　　9:00～16:00（※施設の状況に応じて変更あり）

３）オリエンテーション

①事前オリエンテーション（学内）において、実習施設の概要、産科病棟の特殊性および、実習実施時の留意点について説明を受ける。

②病棟・外来の実習初日オリエンテーションは、各施設の計画に準じる。

③地域実習初日のオリエンテーションは、各施設の計画に準じる。

４）実習時の留意点

①母性看護の特殊性を理解し、羞恥心の配慮や秘密の保持について遵守し支援する。

②プライバシーに深くかかわる実習であることから、実施内容を明確にし、指導者・教員と共に相談しながら進める。

③新生児の事故防止に留意し、日常生活支援の際は、指導者・教員と共に行う。

５）実習方法

［病棟］

・母子を受け持つ。男子学生の場合や状況に応じ、ペアで受け持ちを実施。

・分娩参加の機会があれば実習期間内に参加する。また、受け持ち対象者で見学できない場合は、産褥期の受け持ち対象者の看護展開状況を考慮し、ペアが重ならないよう調整する。

・受け持ち選定に際しては，指導者が対象者との事前調整を行い、受け入れを考慮する。

・対象者が受け持ちを拒否、または対象者の心身への負担が大きいと、指導者・教員が判断した場合は、速やかに別の対象者を選定する。

・産褥期にある対象者を受け持てない場合は、指導者・教員と相談し入院している妊産婦を受け持ち、その看護を学ぶ。

［外来］

・見学・体験したい内容を行動目標の中で明確に表現し、指導者・教員に調整しながら進める。

・受け持ち選定は、妊婦健診を受ける妊娠初期・中期・後期の対象者を選定し、妊婦健診の一連の流れをシャドーウィングを通して学ぶ。

・機会があれば、婦人科健診及び病棟との連携なども見学する。

［地域実習］
・地域で子育てをする母子の生活状況を確認し、必要な母子保健施策を理解することができる。

［カンファレンス］
・ケースカンファレンス（全体像の発表）は、褥婦受け持ち２日目に設定する。
・日々のカンファレンスは約 30 分程度とし、個人の体験内容を共有し翌日の行動計画に活かせる。
・最終カンファレンスは、実習目標及び個人目標の到達できたか、母性の特徴をどのように理解したかについて自己を振り返りこれからの看護に活かせる視点を深める。

［学内実習］
シミュレーション学習：褥婦に対する看護についてシミュレーション学習を行い、看護についてエビデンスを確認する再学習日とする。

ビデオ学習：母性看護技術の再学習や知識の整理を行う。

学びの発表：実習最終日は、病棟実習で受け持った対象に関連した看護について、学生間で学びの共有を図る。

６）記録物・提出物
（１）母性看護実習ノートの記録内容
１． 母性看護学方法論Ⅱの学内実習（沐浴等）についてのリフレクション
２． 学内実習オリエンテーション
３． 病棟実習の行動計画、経過記録（SOAP)、リフレクション
４． 外来実習の行動計画、リフレクション、アセスメント
５． 事前、事後学習
※ノート・ファイルともにインデックスを付け、わかりやすく表示する
（２）ファイルの綴じ方
＜ポートフォリオにつづる＞
１．ビジョンゴール
２．自己評価表
３．レポート　下記の３つのテーマ全て
・自己の母性、父性意識の変化
・分娩参加を通しての所感
・地域実習を通して考えた子育て中の母子への支援
４．アセスメント・全体像・看護計画・指導計画書
５．地域実習の記録用紙
１）地域実習の行動計画は、日付の新しいのが先頭になるように綴る。
※技術経験録＋Step　up スケールはファイルには綴らずに、同じ BOX 内へ提出。
※技術経験・評価記録の、「受け持ち対象一覧表」は母児それぞれで記載し、看護展開がわかるように記載
（３）ファイルの提出　：原則、実習終了後

母性看護学実習　評価表

那覇市医師会　那覇看護専門学校

年　組　学籍番号　氏名

学習活動	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：5点　B：3点　C：1点		
				A	B	C
地域母子支援	思考・判断 技能・表現 関心・意欲・態度	1）地域の女性および母子の生活に関心を持ち、健康生活への支援を実施できる。	記録物 実習場面 リフレクション場面・記録	地域の女性および母子の生活上の課題を明確にし、健康生活支援のための知識の提供の必要性を理解できる。	地域の女性および母子の生活上の課題を明確にし、健康生活支援のための知識の提供の必要性を理解しようとしている。	地域の女性および母子の生活上の課題を明確にすることができない。
妊娠期の支援	思考・判断	2）妊娠各期の経過に応じた変化を理解できる。	記録物 実習場面 リフレクション場面・記録	妊婦・胎児の経過について理解し、述べることができる。	妊婦・胎児の経過について理解し、述べようとしている。	妊婦・胎児の経過について述べることができない。
	思考・判断 技能・表現	3）妊婦の特性を理解し、各期に応じた保健指導が理解できる。	実習場面 記録物 リフレクション場面・記録	妊婦・胎児の特性を理解し、妊娠各期の保健指導の必要性を述べることができる。	妊婦・胎児の特性を理解し、妊娠各期の保健指導の必要性を述べようとしている。	妊婦・胎児の特性を理解し、妊娠各期の保健指導の必要性を述べることができない。
分娩期の支援	思考・判断 技能・表現	4）分娩各期の生理に応じた、安全分娩への支援を理解できる。	記録物 実習場面 リフレクション場面・記録	分娩各期の生理に応じて、苦痛緩和、環境（人的・物的）調整をする必要性を理解し、その支援を述べることができる。	分娩各期の生理に応じて、苦痛緩和、環境（人的・物的）調整をする必要性を理解し、その支援を述べようとしている。	分娩各期の生理に応じて、苦痛緩和、環境（人的・物的）調整をする必要性を述べることができない。
褥婦の支援	思考・判断 技能・表現	5）褥婦の心身の変化に応じた、セルフケア確立への支援の実施ができる。	記録物 実習場面 リフレクション場面・記録	褥婦の経日的な心身の変化を理解し、セルフケア確立の視点で、支援ができる。	褥婦の経日的な心身の変化を理解し、セルフケア確立の視点で、支援をしようとしている。	褥婦の心身の変化に応じた支援ができない。
		6）褥婦の思いに寄り添い、関わることができる。	実習場面 記録物	褥婦の子育てに対する思いを受容・傾聴し、関係づくりができる。	褥婦の思いを受容・傾聴し、関係づくりをしようとしている。	褥婦の思いを受容・傾聴できない。
新生児の支援	関心・意欲・態度	7）新生児を養護し尊重されるべき人として理解し、関わることができる。	記録物 実習場面 リフレクション場面・記録	新生児に、優しい口調で声かけ、抱く、あやすことをしている。	新生児に、優しい口調で声かけ、抱く、あやすことをしようとしている。	新生児に、優しい口調で声かけ、抱く、あやすことができない。
	思考・判断 技能・表現	8）新生児のフィジカルアセスメントを行い、日常生活支援が実施できる。	記録物 実習場面 リフレクション場面・記録	新生児のフィジカルアセスメントをし、それに応じた日常生活支援を安全・安楽にできる。	新生児のフィジカルアセスメントの必要性を理解し、それに応じた日常生活支援を安全・安楽にしようとしている。	新生児のフィジカルアセスメントができず、それに応じた日常生活支援ができない。

Ｓｔｅｐ　ｕｐ　スケール ～看護師として必要な基礎力～

那覇市医師会　那覇看護専門学校

年　組　学籍番号　氏名

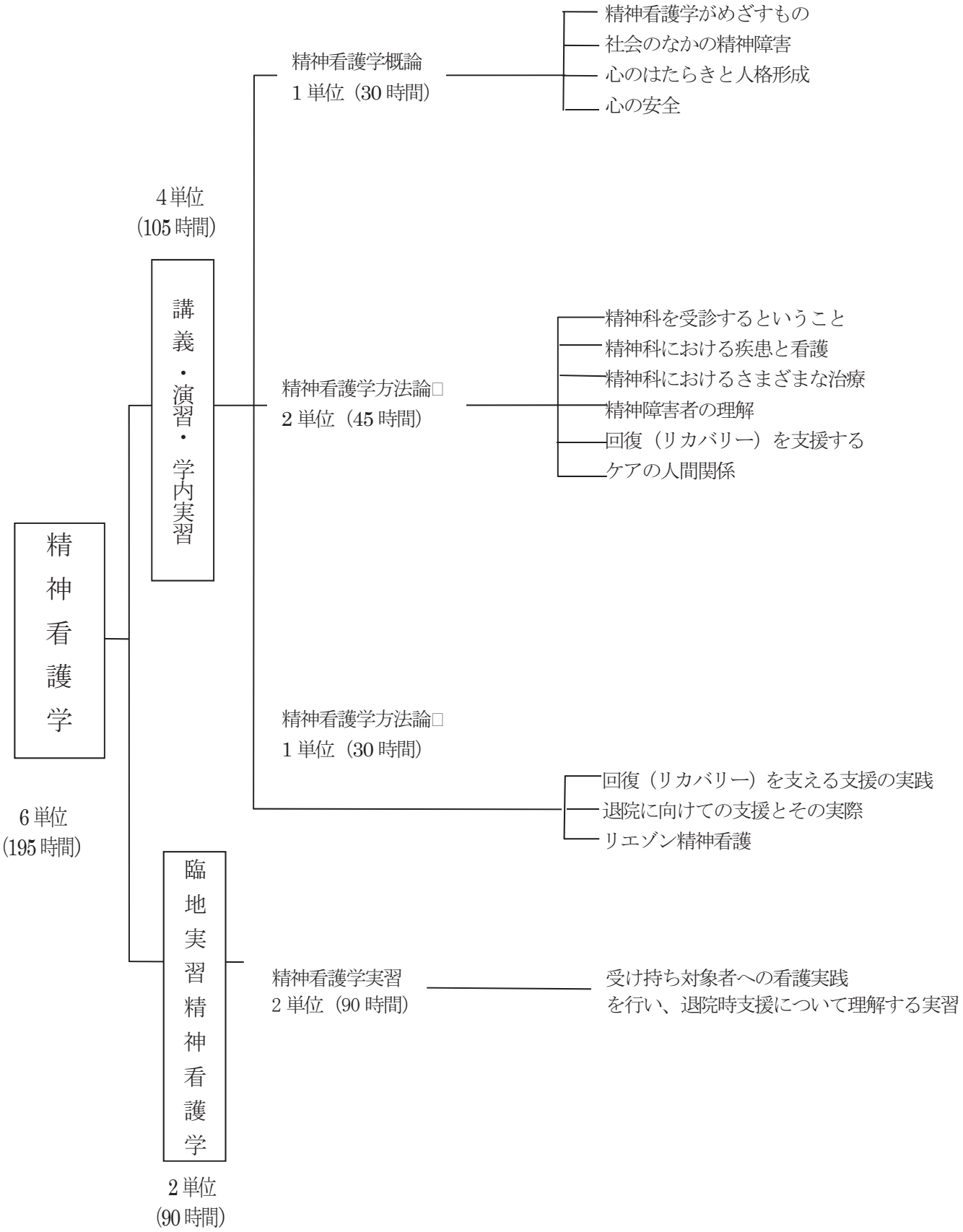
能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 1）～3）　A：5点　B：3点　C：1点 4）～18）　A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね (*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
考え抜く力（シンキング）	課題発見力	思考・判断	1）アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 （対象の情報用紙） リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合せて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
		思考・判断	2）対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 （対象の全体像・解決すべき課題） リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	思考・判断	3）対象の個別性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 （行動計画・看護計画） リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個別性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力（アクション）	働きかけ力	技能・表現	4）対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5）　対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するめに、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6）対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物（看護計画） 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7）看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
チームで働く力（チームワーク）	**発信力**	思考・判断 技能・表現	8）他者へ自分の考えや思いを分かりやすく伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを具体的な事例や客観的データを用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9）相手の意見や考えを丁寧に聴くことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して内容の確認や質問などを行いながら丁寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちをうち、相手の話しを素直に聴くことができる。	相手に関心を持つことやその人の意見を聴こうとする関わりができない。
	柔軟性	思考・判断	10）他者の意見や助言を理解し、活かすことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入れて理解し、次の行動に活かすことができる。	他者の意見や助言を受け入れ、その意味を理解することができる。	自分のやり方に固執し、意見や助言を受け入れることができない。
	状況把握力	思考・判断	11）周りの状況を判断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物理的環境）を判断し、どのように行動すべきなのかを考えて状況が良くなるように行動することができる。	周囲の状況を判断し、どのように行動すべきか理解しているが、行動に移せない。	周囲の状況を判断することができない。
	規律・責任性	思考・判断・技能・表現	12）守らなければならないルールや約束・マナーを理解し責任ある行動がとれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒヤリハット、アクシデント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べることができない。
	ストレスコントロール力	思考・判断	13）ストレスを成長の機会と前向きに捉え、克服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替え対処し、成長に繋げることができる。	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替えることができる。	ストレスを対処することができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと (^^♪♪
倫理	**倫理性**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14）対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15）対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16）実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守る事ができる（守秘義務遵守）	実習場面 リフレクション場面 記録物 （レポート作成）	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで（コントロール）、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17）対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	**自ら学び考える力**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18）自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価 記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

Ⅰ　科目構成及び臨地実習の位置づけ

科目構成



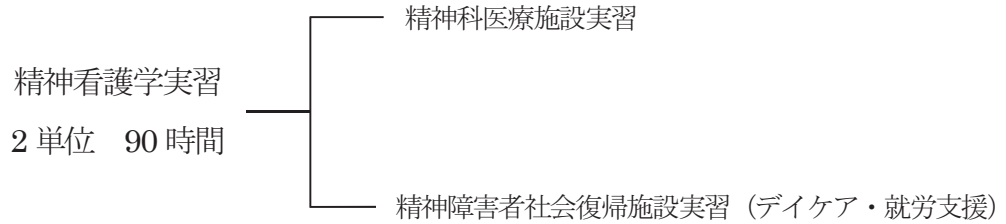
Ⅱ　目 的

精神医療の特性である環境に着目し法律、人権、倫理の側面を関連させ看護の意味を考える。また、対象者をBPSの視点で全体としてとらえ関係構築に努め、リカバリーの視点に基づいた意思決定支援を通して伴走者的な姿勢で地域包括的ケアを見据えた精神看護を学ぶ。

目 標

1．精神科医療における環境の特性を法律・治療・看護に関連させて考えることできる。
2．対象者とかかわりを再構成することで、関係構築の手掛かりを自己の中に見出し実践することができる。
3．対象者をBPSのモデルから全体的にアセスメントできる。
4．対象者のストレングスに着目しリカバリーの視点を踏まえた看護の関わりを考え、実践できる。
5．対象者の意思決定支援の過程を理解し、対象者とともにケアを考えること＝共同創造ができる。
6．対象者、家族の地域生活を支える地域包括ケアシステムについて理解できる。
7．対象者に関心を持ち理解し続ける姿勢を持つことができる。

Ⅲ　実習体系・実習施設



実習場所

社会医療法人へいあん	平安病院
	就労支援わくわく
	自立訓練事業所経塚苑
	平安デイケア
医療法人天仁会	天久台病院
	指定障害福祉サービス事業所　天樹苑
	天久台デイケア　アルファ
社会医療法人　葦の会	オリブ山病院
	デイケアがじゅまる
	就労施設わきみず

実習計画

1．実習時間　　病院：8時00分～15時00分：7時30分～14時30分（実習時間8時間：休憩60分）
学内：9時00分～15時00分（実習時間6時間：昼食休憩12:00～13:30分）
地域：8時30分～12時15分（実習時間5時間）

2．実習スケジュール

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
場所	病院	病院	病院	病院	学内
内容	オリエンテーション 患者選定 情報取集 カンファレンス 「精神看護学実習に臨む姿勢」	情報収集 コミュニケーション ケア見学、同行 カンファレンス	情報収集 コミュニケーション ケア実践、同行 プロセスレコード検討会 ビジョン・ゴール記入 カンファレンス	ケアの実践 （プロセスレコード検討会を活かした関わり） カンファレンス	ケア根拠の文献検索 カンファレンス （4日間の関わり体験を語り、気づきを深める） 全体像の作成 **アセスメント相談期間** 教員と中間評価
	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
場所	地域	地域	病院	病院	学内
内容	デイケア体験見学 就労支援体験見学 「全体像」提出 **アセスメント相談期間** 教員と中間評価	デイケア体験見学 就労支援体験見学 **アセスメント相談期間** 教員と中間評価	ケアの実践 受持ち対象者のケース検討会 **アセスメント中間提出** カンファレンス	ケアの実践 対象者と共に考える提案の内容を提出 カンファレンス	受持ち対象者の地域包括的ケア作成・発表
	11日目	12日目	13日目		
場所	病院	病院	学内		
内容	ケアの実践 カンファレンス	病棟交換実習 病棟最終日 「学びの発表」 カンファレンス	評価返し ファイル提出		

実習週	主な内容
1週目	・対象を選定し、情報収集に努める。 ・コミュニケーションを通して対象理解に努め、互いの関係を構築していく時期。
2週目 3週目	・対象者の全体像を把握し、状態や状況に沿ったかかわりを進めていく時期。 ・セルフケアに関してカンファレンスを活用し安心、安全の関わりを考え自己決定支援を実践しようとする時期。 ・受け持ち対象者の退院をイメージ、必要な地域移行の流れや多職種連携および継続看護を理解する時期。

Ⅳ　精神看護学実習

【実習内容及び実習方法】

	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-1)	精神医療における治療的環境の意義や看護の特性について説明できる。	病院のオリエンテーション 1）病院の理念・役割と機能 2）病院全体の構造 3）各病棟の概要 4）各部署との連携 病棟のオリエンテーション 1）看護体制・病棟活動・日課 2）病棟の構造・配置・役割 3）物品の配置場所 4）閉鎖・開放・健康の段階との関連	【事前学習】 **精神看護における法律の意味** 「権利擁護に関する法律と制度」 「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」＝精神保健福祉法 ・入院形態や精神科病院における処遇 ・退院請求と処遇改善を求める権利 ・精神医療審査会 教科書・授業レジュメ・資料も活用する。また、オリエンテーションと事前学習を照らし合わせて理解を深める。
1-2)	精神科における権利擁護に関する法律と制度の重要性について説明できる。	精神科医療の環境の特性と看護 1）人権への保護の方法と体制 2）行動制限、代理行為 3）安全面 施錠　危険物の管理と種類 保護（隔離）室 事故防止対策（離院、自傷他害） 4）信書（電話・書簡）の自由 5）プライバシーの保護	・治療環境、人的環境について調べる。 ・精神科における安全の意味と治療環境の繋がりを調べる。 【カンファレンスの活用】 ・対象者との関わりから一般の病院と精神科病棟の環境の違いに視点を向け精神科病院における治療的な意味を考え、理解を深める。
1-3)	精神科における環境と回復について説明できる。②P:223	1）病棟の安全保障観 2）安全基地としての病棟 3）共感的な環境としてのスタッフ－患者関係 4）治療的雰囲気の重要性	・初日に精神科病院や各病棟のオリエンテーションを受け、精神科病院の特殊性や入院・治療に行われている「制限」などの視点でカンファレンスを行い対象者に必要な倫理・尊厳・人権を踏まえて実習に臨む姿勢を考える。
1-4)	精神科における障害者基本法に基づいた倫理的思考、態度の重要性について説明できる。②P:198・315	1）精神科を受診するということ ・入院のかたち さまざまな入院形態・自己決定権 2）治療と安全のバランス 3）リスクマネジメントと行動制限 ・隔離・拘束 ・トラウマインフォームドケア ・行動制限最小化委員会	カンファレンステーマ **『精神看護学実習に臨む姿勢』** ・日々の関わりで「制限」に関心をよせ対象者にどのような意味があるのか考える場を持つ＝カンファレンスの活用

2-1）	回復支援としての関係性を構築することの意味を理解できる。	1）ケアの前提 ・感情を通して自分、相手を知る 2）ケアの原則 ・人としての尊厳を尊重する 3）ケアの方法 ・コミュニケーション技術 (1)傾聴　受容　共感　間　沈黙	・入院に至る経緯や社会・心理的側面から対象をアセスメント、背景を理解。 ・第一印象を大切に関わる。 ・受け持ち患者と関わり相互作用意識して関わる。
2-2）	再構成を通して自己洞察・自己理解を深めることができる。	1）プロセスレコード検討会 ・自己の感情、異和感の対時化 言動の分析、防衛機制の活用 ・自己一致	・日々のかかわりの中でも感情と言動、行動を意識する。 ・かかわりから生じた疑問はカンファレンスを活用することで対象理解、自己理解できるように努める。 ・日々の記録＝プロセスレコードの活用
2-3）	対象者の状況や言動の意味を考え関係構築につながるコミュニケーションを実施できる。	1)対象者の言動の背景にある思いを考察（アセスメント）する。 (1)関わりながらの観察＝「参加観察」 (2)発達段階・成育歴・生育環境からの意味づけ (3)ナラティブアプローチ 2)意図的なコミュニケーション (1)沈黙・自己開示・自己一致 (2)「ケアの前提」「ケアの原則」「ケアの方法」活用 3)ロールプレイ 場面の再現・関わりの再構築	【実習３日目】 プロセスレコード検討会の実施 ・プロセスレコード検討会を通して、指導や助言などのサポートを受ける。 ・対象者との関わりの中で感じた素直な感情を開示する。 ・対象者の思いや考えが安心、安全の中で語れるように自己の感情に向き合いコミュニケーション技術を活用する。 【実習４日目：学内】 ・ロールプレイを通して、場面の再現ディスカッションから、関わりを吟味
			〈治療〉
3-1）	対象者の精神状態を把握し、経過を述べることができる。	1）入院の目的 2）病態　症状　回復段階　検査　治療　看護の経過と現在の状態 3）現在の精神・薬物・作業療法の効果 4）家族の意向や関係性	・処方されている薬について作用・副作用。 ・日常生活における影響を考える。 ・精神科における薬物療法以外の療法ｍ－ECT、作業療法、SST、CBT、IMR、心理教育、ピアサポートなどの治療やリハビリの目的や治療効果について
3-2）	対象者の健康状態を必要な情報をもとにアセスメントできる	1）対象者を全体としてとらえる **Bio（生物）・psycho（心理）social（社会）の３側面の関連** 2）生活行動パターン 3）価値観（こだわりや習慣）	・対象者の疾患、又は生育歴、環境が発達や予後に与えた影響をとらえる。 ・BPS の視点で分析する。 ・ケース検討会の活用
3-3）	自己決定としてセルフケアを行うことの意味が理解できる。	4）セルフケア能力（オレム・アンダーウッド７つのセルフケア能力） ・セルフケアと自己決定の関連 ・生理的欲求を満たすことが症状コントロールにつながる	※授業資料の活用 ※多職種の活用などから情報を得る

		5）「参加観察」からの情報収集	
4-1)	全体像を把握し、対象者の思いを引きだすことができる。	6）対象者の語り 7）できる力に着目：リカバリーの視点 8)意図的なコミュニケーション	・関わりや語りの中から、リカバリーの視点でとらえる。
4-2)	対象者のストレングスを活かした関わりができる。	1）精神における回復の意味 ・回復のかたちはひとり一人違う ・臨床リカバリーと パーソナルリカバリー ・リカバリーの中心はエンパワメント 2）リカバリーを促進する コミュニケーション ・対象者の想いを尊重する ・対象者のストレングスを見出す ・対象者の意志決定を支える ・対象者の語りに傾聴・共感	・関わりで見えてきたリカバリーの側面や支援者が感じた感情も対象者に伝える事でエンパワメントにつながる ・「全体像」も活用する。 ・カンファレンスの活用 ・多職種、グループメンバーの協同
5-1)	対象者がセルフケアを自己決定できる支援を考え、働きかけることができる。 **（一緒に考えることができる）**	1）対象者と共に考える支援の内容 (1)日々の関わりから得た ・思いや希望を引きだす ・日常生活の中の小さな選択 ・対象者の個別性を活かす関わり (2) ストレングス・ レジリエンスの活用 (3)セルフケアの自己決定支援 ・ケアの原則：対象者を尊重する ・伴走者としての役割	・対象者が安心できる環境、コミュニケーション技術 ・対象者の想いや声を大切にする ・対象者が達成を得られやすい内容はエンパワメントを引きだし、自己決定につながる。 ・多職種、グループメンバーの協同
6-1）	対象者の健康回復や地域移行における多職種の役割・機能と看護との連携について説明できる。	1）多職種それぞれの役割と機能 ・医師（精神保健指定医）・看護師 ・薬剤師・栄養士 ・精神保健福祉士・作業療法士 ・介護福祉士　　・心理士 ・退院後生活環境相談員 2）多職種と看護の連携の必要性と看護の役割 ・地域移行支援・定着支援の連携 （外来・訪問看護・デイケア ・地域活動支援センター） 3）主治医の治療方針や予後、方向性 4）対象者の作業療法の目的	・受け持ち対象者に関して 精神保健福祉士と調整し入院前・退院の方向性や退院に向けてのカンファレンスの参加・家族の情報や地域と連携などの情報、現状を得る。 事前学習： 精神障害者の社会復帰を支える制度 「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」(精神保健福祉法)

6-2)	対象者・当事者とかかわりを通し自律と社会生活支援を支える社会資源と地域包括ケアシステムについて理解する。	1） 地域生活に関連する主な制度や機関 ・市区町村の障害福祉課 ・保健所 ・精神保健福祉センター ・精神障害者保健福祉手帳　など 2）「障害者総合支援法」精神障害者の自立と地域生活を支えるための社会資源 ・福祉サービスの分類とサービス ・自立支援医療の制度 ・相談支援　　など 3）各サービスやサービス施設の見学 ・就労移行・継続支援事業所 ・精神科デイケア 4）社会復帰施設を利用している対象者の活動状況と生活状況 5）地域移行・地域定着における<u>対象者および家族</u>に対する様々な連携 ⑴関連機関との連携 ・医療機関との連携 ・地域支援機関との連携 ・継続看護の方法 ⑵行政・事業所間の連携 ・保健所・市町村・相談支援事業所 ・障害福祉サービス事業所 ・地域活動支援センター ⑶関連機関との連携について ・治療的側面を支える医療機関との連携の方法 ・社会で自立していく為の地域支援機関との連携の方法 ⑶医療機関から地域へと移行していく為の継続看護の必要性	・「障害者総合支援法」における指定障害者福祉サービス事業所 ・社会復帰施設に関すること（制度などを含む） **「地域実習」見学・利用者との交流体験** ・精神科デイケア ・就労移行・継続支援事業所 オリエンテーション ・施設の概要 ・施設における目的 ・利用者の人数や年齢、男女比率、地域 ・利用者人数や職員数や職種の役割 作業・活動スケジュールや内容 ・利用者への関り・働きかけ・調整 ・利用者と交流を通して 利用者の思いや考え、夢や希望 これまでの入院・治療などの生活体験などを状況に応じ、会話・関りのなかでとらえる。 **【実習 10 日：学内】** ・受け持ち対象者の地域移行を想定した地域包括的ケアシステムの作成・発表 病棟実習・地域実習を通し ・受け持ち対象者の退院を見据えたイメージ、必要と考えるサービス ・日々の関わりを繋いで考える力 ・一人で悩まず、他者に相談をしながら自己の思考や視点を広げていく
7-1)	対象者を理解し続ける姿勢を持つことができる	1） 日々、実習に臨む姿勢 ・倫理的思考・態度 ・自己の行動や言動を振り返る プロセスレコード・リフレクション ・カンファレンスの活用 ・柔軟な思考や意見を受け入れる ・学習や経験を関連する視点	・多職種との相談・連携 ・カンファレンス ・実習記録

学習活動	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A:5 点　B:3 点　C:1 点		
				A	B	C
対象者とのかかわりを通して、倫理的姿勢を考えることができる。	関心・意欲・態度	**1）対象者を自己の価値基準で判断しない姿勢を持つことができる。**	・リフレクションノート ・場面観察 ・カンファレンス ・プロセスレコード ・全体像 ・ケース検討会 ・所感	対象者を自己の価値基準で判断しないよう意識していることを、具体的に表現している。	対象者を自己の価値基準で判断していることに気づくことができる。	対象者を自己の価値基準で判断していることに気づく姿勢が不足している。
	関心・意欲・態度	**2）障害にとらわれず、対象者のストレングスに関心を寄せる。**	・リフレクションノート ・場面観察 ・カンファレンス ・プロセスレコード ・全体像 ・ケース検討会 ・所感	対象者の障害にとらわれることなく、ストレングスを見出し、それを活かそうとしている。	対象者の障害だけでなく、ストレングスも見出そうとしている。	対象者の障害にばかり目を向け、ストレングスを見出そうとする不足している。
対象を３側面でとらえることができる。	思考・判断	**3）BPS の視点からアセスメントしている。**	・リフレクションノート ・場面観察 ・全体像 ・カンファレンス ・ケース検討会	BPS の３側面の視点からアセスメントしている。	BPS の３側面の視点からアセスメントしようとしているが、不足している。	BPS のうちいずれか１つの視点なく、２つの側面のみからアセスメントしている。
対象者とのコミュニケーションについて振り返り、相互作用について理解を深める。	思考・判断	**4）自己の感情が、対象者との相互作用に影響を与えることを理解できる。**	・リフレクションノート ・プロセスレコード ・プロセスレコード検討会 ・場面観察 ・カンファレンス ・所感	自己の感情が、対象者との相互作用にどのように影響しているのか、理解して行動に活かそうとしている。	自己の感情が、対象者との相互作用に影響を与えていることに気づいているが、理解が不十分である。	自己の感情が、対象者との相互作用に影響を与えていることに気づく姿勢が不足している。
	技能・表現	**5）対象者の状況に合わせて、安心・安全を意図したコミュニケーションができる。**	・場面観察 ・コミュニケーション ・リフレクションノート ・プロセスレコード	対象者の状況に合わせ、安心・安全を意図したコミュニケーションをしている。	対象者の状況に合わせ、安心・安全を意図したコミュニケーションをしようとしているが一部不足している。	対象者の状況に合わせたコミュニケーションをしようとしているが一部不足している。
対象者のリカバリーについて考え、支援につなげる。	知識・理解・技能・表現	**6）対象者の状況に合わせて、自己決定できるように支援することができる。**	・場面観察 ・コミュニケーション ・リフレクションノート ・全体像 ・提案書 ・ケース検討会 ・カンファレンス	対象者の状況に合わせ、対象者自身の自己決定を引き出すように支援しようとしている。	対象者の状況に合わせ、対象者の自己決定を尊重しながら支援しようとしている。	対象者の状に合わせてセルフケアの支援をしているが、自己決定の視点が不十分である。
	知識・理解・技能・表現	**7）対象者の思いや希望を大切にしながら、制度の活用を含めた支援計画ができる。**	・リフレクションノート ・カンファレンス ・事前学習 ・提案書 ・ケース検討会	対象者の思いや希望に近づけるような、制度の活用を含めた支援計画を作成できる。	対象者の現在の状況に合わせた制度の活用を含めた支援計画を作成できる。	対象者の状況に合わせた制度の活用を考えようとしているが、一部不足している。
精神科病棟の見学、カンファレンスを通して環境の意味を考える。	知識・理解	**8）精神科における法に基づいた環境の特徴とその意味について理解できる。**	・リフレクションノート ・事前学習 ・初日カンファレンス ・所感	精神科における環境の特徴と法律との関係、さらにその意味についても理解を深め表現できる。	精神科における環境の特徴について気づき、法律との関係についても理解できている。	精神科における環境の特徴について気づいているが、法律との関係についての理解が不十分である。

R6年　改訂

Ｓｔｅｐ　ｕｐ　スケール ～看護師として必要な基礎力～

那覇市医師会　那覇看護専門学校

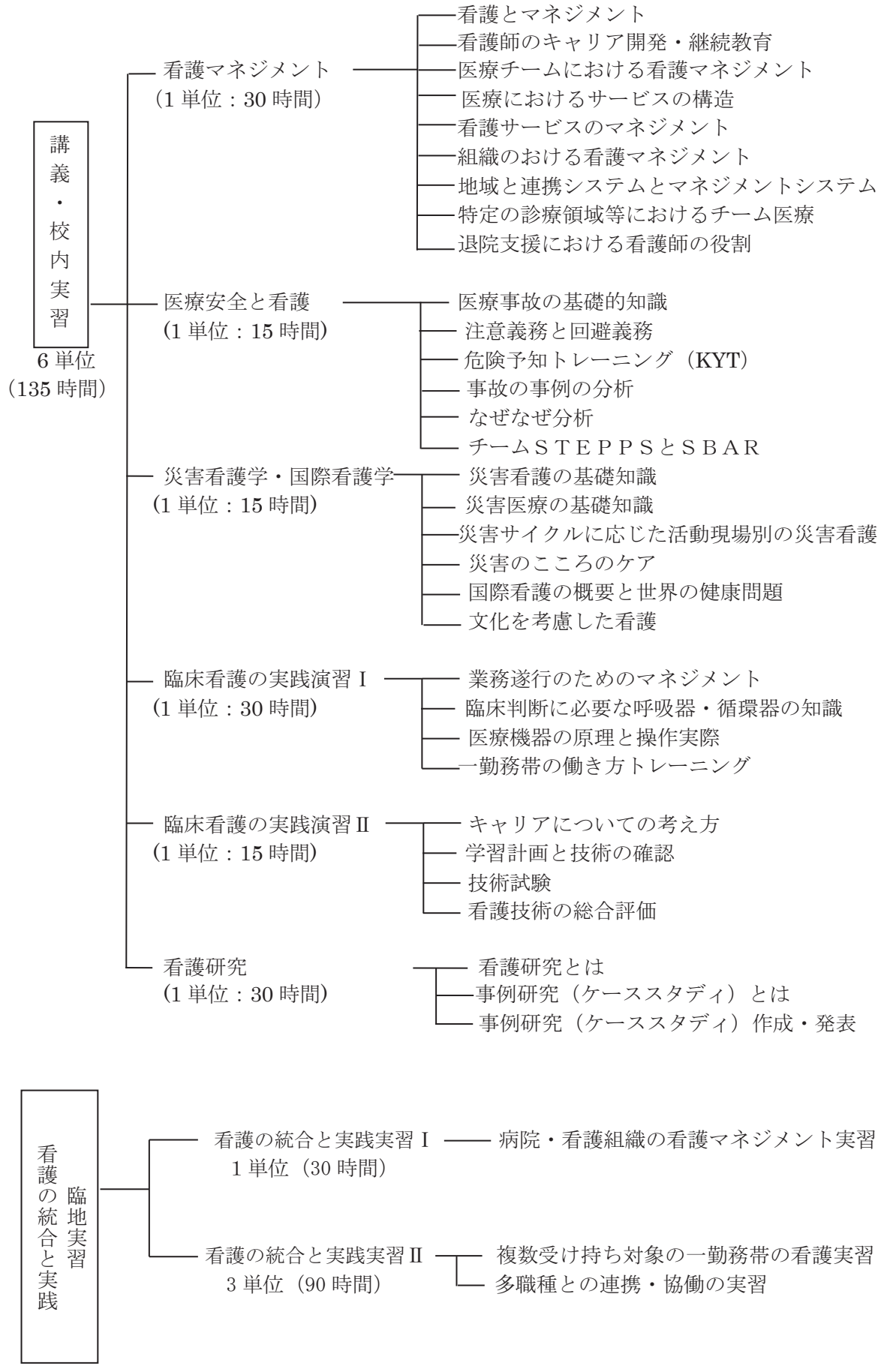
年　組　学籍番号　氏名

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 1）～3）　A：5点　B：3点　C：1点 4）～18）　A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね (*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
考え抜く力(シンキング)		思考・判断	1）アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 （対象の情報用紙） リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合せて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
	課題発見力	思考・判断	2）対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 （対象の全体像・解決すべき課題） リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	思考・判断	3）対象の個別性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 （行動計画・看護計画） リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個別性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力(アクション)		技能・表現	4）対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
	働きかけ力	技能・表現	5）　対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するめに、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6）対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物（看護計画） 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7）看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
チームで働く力（チームワーク）	**発信力**	思考・判断 技能・表現	8）他者へ自分の考えや思いを分かりやすく伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを具体的な事例や客観的データを用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9）相手の意見や考えを丁寧に聴くことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して内容の確認や質問などを行いながら丁寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちをうち、相手の話しを素直に聴くことができる。	相手に関心を持つことやその人の意見を聴こうとする関わりができない。
	柔軟性	思考・判断	10）他者の意見や助言を理解し、活かすことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入れて理解し、次の行動に活かすことができる。	他者の意見や助言を受け入れ、その意味を理解することができる。	自分のやり方に固執し、意見や助言を受け入れることができない。
	状況把握力	思考・判断	11）周りの状況を判断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物理的環境）を判断し、どのように行動すべきなのかを考えて状況が良くなるように行動することができる。	周囲の状況を判断し、どのように行動すべきか理解しているが、行動に移せない。	周囲の状況を判断することができない。
	規律・責任性	思考・判断・技能・表現	12）守らなければならないルールや約束・マナーを理解し責任ある行動がとれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒヤリハット、アクシデント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べることができない。
	ストレスコントロールカ	思考・判断	13）ストレスを成長の機会と前向きに捉え、克服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替え対処し、成長に繋げることができる。	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替えることができる。	ストレスを対処することができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと (^^♪♪
倫理	**倫理性**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14）対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15）対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16）実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守る事ができる（守秘義務遵守）	実習場面 リフレクション場面 記録物 （レポート作成）	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで（コントロール）、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17）対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	**自ら学び考える力**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18）自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価 記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

科目構成


講義・校内実習
6単位
（135時間）
看護マネジメント
（1単位：30時間）
看護とマネジメント
看護師のキャリア開発・継続教育
医療チームにおける看護マネジメント
医療におけるサービスの構造
看護サービスのマネジメント
組織のおける看護マネジメント
地域と連携システムとマネジメントシステム
特定の診療領域等におけるチーム医療
退院支援における看護師の役割
医療安全と看護
（1単位：15時間）
医療事故の基礎的知識
注意義務と回避義務
危険予知トレーニング（KYT）
事故の事例の分析
なぜなぜ分析
チームＳＴＥＰＰＳとＳＢＡＲ
災害看護学・国際看護学
（1単位：15時間）
災害看護の基礎知識
災害医療の基礎知識
災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護
災害のこころのケア
国際看護の概要と世界の健康問題
文化を考慮した看護
臨床看護の実践演習Ⅰ
（1単位：30時間）
業務遂行のためのマネジメント
臨床判断に必要な呼吸器・循環器の知識
医療機器の原理と操作実際
一勤務帯の働き方トレーニング
臨床看護の実践演習Ⅱ
（1単位：15時間）
キャリアについての考え方
学習計画と技術の確認
技術試験
看護技術の総合評価
看護研究
（1単位：30時間）
看護研究とは
事例研究（ケーススタディ）とは
事例研究（ケーススタディ）作成・発表
臨地実習
看護の統合と実践
看護の統合と実践実習Ⅰ
1単位（30時間）
病院・看護組織の看護マネジメント実習
看護の統合と実践実習Ⅱ
3単位（90時間）
複数受け持ち対象の一勤務帯の看護実習
多職種との連携・協働の実習

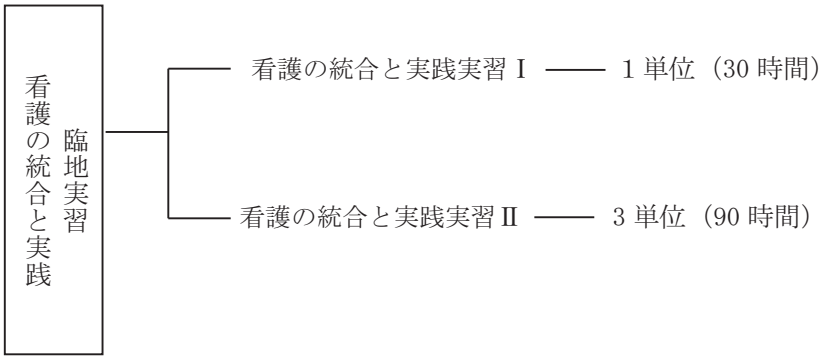
Ⅱ　看護の統合と実践実習Ⅰ　　目的・目標

目的：病院組織や看護組織の理念や概要を理解し、マネジメントの要素を踏まえて、管理の視点を学ぶ。さらに、病棟組織における看護管理者の役割を学ぶ。

目標：

1. 病院組織の理念や概要を理解し、医療・看護サービスの提供に向けたマネジメントの視点をもつことができる。
2. 看護組織を理解し、看護職がより良い看護サービスの提供に向けた看護マネジメントに必要な視点をもつことができる。
3. 病棟組織を理解し、病棟チームがより良い看護サービスの提供に向けた看護マネジメントに必要な視点をもつことができる。

Ⅲ　実習体系・実習場所



実習場所

沖縄協同病院
友愛医療センター
豊見城中央病院
浦添総合病院
南部徳洲会病院
おもろまちメディカルセンター

実習計画

1．実習時間　　学内：9時00分～15時00分　（実習時間6時間：休憩90分）
　　病院：8時00分～15時00分　（実習時間8時間：休憩60分）

2．実習スケジュール

看護の統合と実践実習Ⅰ（1単位 30時間 ）

	1日目	2日目	3日目	4日目
場所	学内	病院	病院	病院
内容	・オリエンテーション ・看護マネジメントの文献検索	・病院の概要	・看護組織のマネジメント	・病棟マネジメント ・看護体験の語り

Ⅳ　実習内容及び実習方法

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1	1）病院のマネジメントに必要な視点をもつことができる。	1．施設の概要 1）病院の理念、組織の構成 2）医療圏における医療体制 3）標榜している診療科 4）紹介率・逆紹介率 5）救急車受入数 6）手術件数 7）認定されている評価 8）病院機能群（ＤＰＣ特定病院群、ＤＰＣ標準病院群など） 9）病床数と内訳（急性期病床、地域包括ケア病床、回復期リハビリ病床など） 10）委員会の種類 11）職員研修制度 2．各部署の役割機能 薬剤部、栄養部、検査部、放射線、医事課、臨床工学部，リハビリなど 3．多職種連携 1）地域連携 2）退院支援 3）専門チーム 4．病院の安全管理 1）医療安全管理者 （1）役割 （2）報告制度 2）危機管理 （1）災害 （2）感染 5．病院の設備・構造の見学	・実習施設の類型を想起しながら説明を受ける。 ・施設の所在する地域の人口および高齢化率を調べて臨む。 ・地域包括ケアシステムについて調べて臨む。 ・各部署の視点から看護師に求められる役割を理解する ・チームの一員であることを認識し、多職種との連携・協働を考える。 ・ディスカッションの進め方 1）全員でディスカッションを進める。 2）設定されたテーマで進める。 3）当日の実習内容により、設定テーマを選定する。 4）これまでに体験した実習内容も含め意見が述べられるようにする。
2	1）看護組織のマネジメントに必要な視点をもつことができる。	1．看護組織の役割 1）看護部の理念と組織構成 2）看護単位の運営管理 3）看護職員の人員配置 4）ワークライフバランス 5）キャリア開発ラダーの活用 6）人材育成への取り組み ①新人看護師研修 ②中堅看護師研修 ③管理者研修 ④専門看護師の育成と活動支援 ⑤認定看護師の育成と活動支援	・病院理念と目標、看護組織の理念と目標の関連性や一貫性について考える。 ・ワークライフバランスを考慮した働き方 ・看護部の活動と病棟管理との連携と役割を考える。 ・卒業後をイメージし看護職のキャリア発展支援、卒後教育について情報を得る。

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
		7）特定行為研修制度の活用 8）病院経営への参画 9）医療安全管理者との連携 10）病院看護評価（患者満足度）	
3	1）病棟管理者及び病棟リーダーの役割を知り、病棟のマネジメントに必要な視点をもつことができる。	1．病棟の概要 1）病床数および診療科構成 2）重症度、医療・看護必要度の割合 3）クリティカルパスの運用 4）看護師の配置数と経験年数 5）看護提供方式	
		2．病棟管理者の役割 1）看護部と現場との連携 2）病棟組織と構成メンバー 3）ベッドコントロール 4）病棟組織における労務管理 5）看護業務遂行の為の業務管理・物的資源管理・医薬品管理 6）ストレスマネジメント	・看護師長に同行実習する。（ベッドコントロール会議への参加など） ・麻薬、劇薬、毒薬の保管管理方法の説明を受ける ・安全な看護実践のための連携・協働と関連させる ・離職予防に向けた取り組み
		3．病棟リーダーの役割 1）指示受け 2）チームの遂行状況の把握 3）チーム間調整	・リーダー業務に同行実習する。（指示受け業務など）
	2）病棟に潜むリスクに気づくことができる	1．看護組織内の報告・連絡 （1）看護部全体の管理に必要な報告 （2）医療事故発生や発生時対応に対する報告 （3）職員に関する報告	・看護師として経験する困難をどのように乗り越えていくかの示唆を得て、看護師に必要なマネジメントを再考する。
	3）看護体験の語りを聞き、看護師の心構えをもつことができる	1．看護体験の語り テーマ 『1年目の看護師のリアリティーショック時の対応』 『看護師の心が揺さぶられた看護体験』	

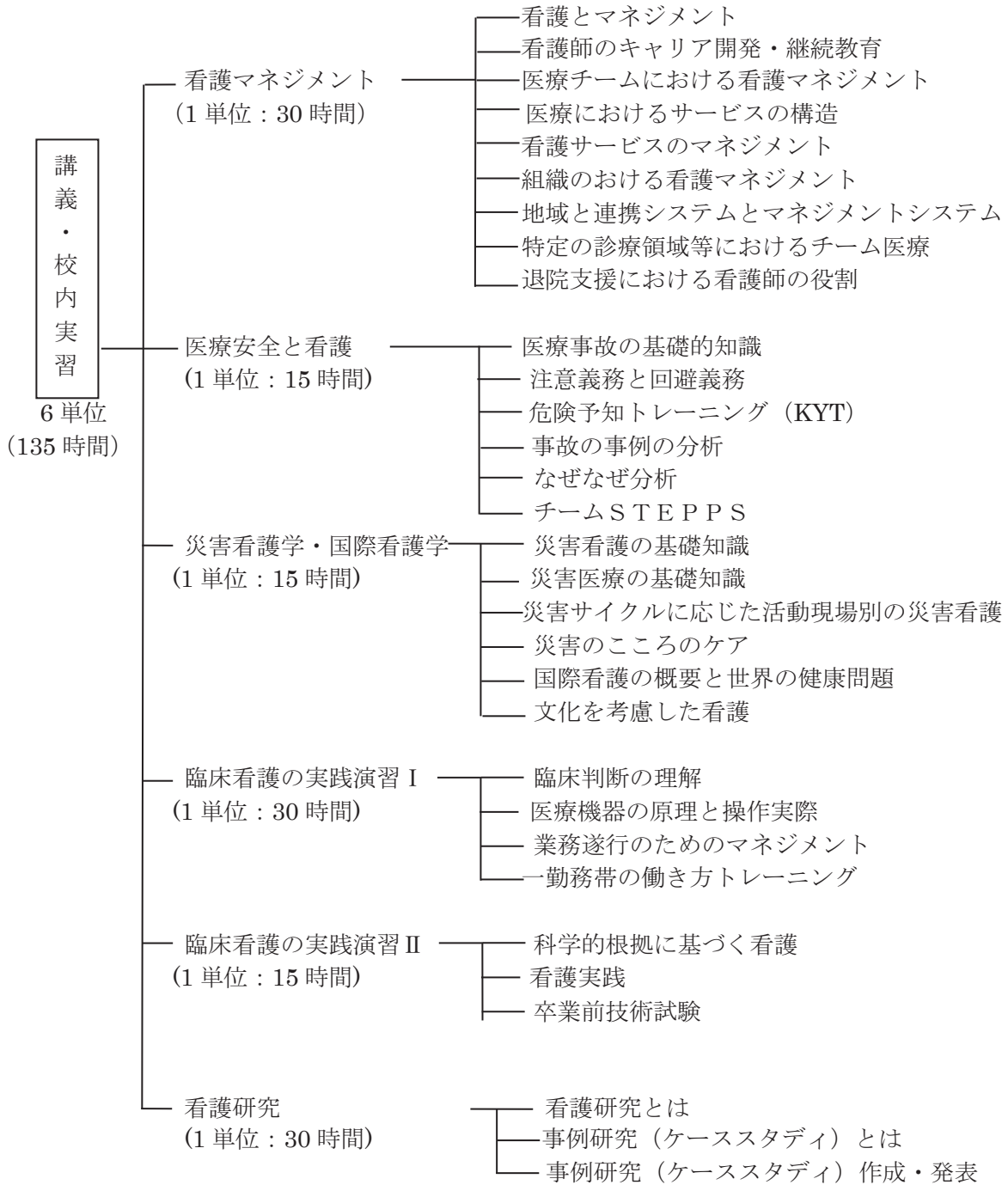
統合看護の統合と実践実習Ⅰ　実習評価

那覇市医師会　那覇看護専門学校

年　組　学籍番号　氏名

	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準　!）～5）　A：11点　B：8点　C：5点 6）～8）　A：15点　B：10点　C：5点		
				Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね (*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
主体性	関心、意欲態度	1）看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。
発信力	思考、判断 技能、表現	2）他者へ自分の考えや思いを分かりやすく伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを具体的な事例や客観的データを用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができない。
傾聴力	興味、関心	3）相手の意見や考えを丁寧に聴くことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して内容の確認や質問などを行いながら丁寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちをうち、相手の話しを素直に聴くことができる。	相手に関心を持つことやその人の意見を聴こうとする関わりができない。
柔軟性	思考、判断	4）他者の意見や助言を理解し、活かすことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入れて理解し、次の行動に活かすことができる。	他者の意見や助言を受け入れ、その意味を理解することができる。	自分のやり方に固執し、意見や助言を受け入れることができない。
規律・責任性	思考、判断 技能、表現	5）守らなければならないルールや約束・マナーを理解し責任ある行動がとれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒヤリハット、アクシデント報告 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べることができない。
看護マネジメント	関心、意欲、態度 思考、判断	6）病院・看護・病棟組織の３側面について、看護マネジメントの実際を知ることができる。	実習ノート 事前事後学習資料	管理実習を通して、病院・看護・病棟組織の３側面について、看護マネジメントの実際を記述することができる。	管理実習を通して、病院・看護・病棟組織のうち2側面について、看護マネジメントの実際を記述することができる。	管理実習を通して、病院・看護・病棟組織のうち1側面について、看護マネジメントの実際を記述することができる。
ディスカッション	関心、意欲、態度 思考、判断	7）多角的な視点から看護マネジメントを考えることができる。	集団ディスカッション 実習ノート 事前事後学習資料	自己の意見と他者の意見から多角的な視点で考えを統合し、病院の特徴を踏まえて看護マネジメントのあり方を記述することができる。	自己の意見または他者の意見から、病院の特徴を踏まえて看護マネジメントのあり方を記述することができる。	病院の特徴を踏まえられてないが、自己の意見または他者の意見から、看護マネジメントのあり方を記述することができる。
実習のまとめ	興味、関心 思考、判断	8）管理実習で学んだ内容を踏まえ、組織における一看護師としての在り方を表現することができる。	最終所感	管理実習における学びとこれまでの体験を踏まえて、組織の一員として求められる姿に近づけるための自己の課題と対策を記述することができる。	管理実習における学びを踏まえて、組織の一員として求められる姿に近づけるための自己の課題又は対策を記述することができる。	自己の考えは含まれていないが、管理実習における学びを記述することができる。

科目構成


講義・校内実習
6単位
（135時間）
看護マネジメント
（1単位：30時間）
看護とマネジメント
看護師のキャリア開発・継続教育
医療チームにおける看護マネジメント
医療におけるサービスの構造
看護サービスのマネジメント
組織のおける看護マネジメント
地域と連携システムとマネジメントシステム
特定の診療領域等におけるチーム医療
退院支援における看護師の役割
医療安全と看護
（1単位：15時間）
医療事故の基礎的知識
注意義務と回避義務
危険予知トレーニング（KYT）
事故の事例の分析
なぜなぜ分析
チームＳＴＥＰＰＳ
災害看護学・国際看護学
（1単位：15時間）
災害看護の基礎知識
災害医療の基礎知識
災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護
災害のこころのケア
国際看護の概要と世界の健康問題
文化を考慮した看護
臨床看護の実践演習Ⅰ
（1単位：30時間）
臨床判断の理解
医療機器の原理と操作実際
業務遂行のためのマネジメント
一勤務帯の働き方トレーニング
臨床看護の実践演習Ⅱ
（1単位：15時間）
科学的根拠に基づく看護
看護実践
卒業前技術試験
看護研究
（1単位：30時間）
看護研究とは
事例研究（ケーススタディ）とは
事例研究（ケーススタディ）作成・発表
臨地実習
看護の統合と実践
看護の統合と実践実習Ⅰ
1単位（30時間）
病院・看護組織の看護マネジメント実習
看護の統合と実践実習Ⅱ
3単位（90時間）
複数受け持ち対象の一勤務帯の看護実習
多職種との連携・協働の実習

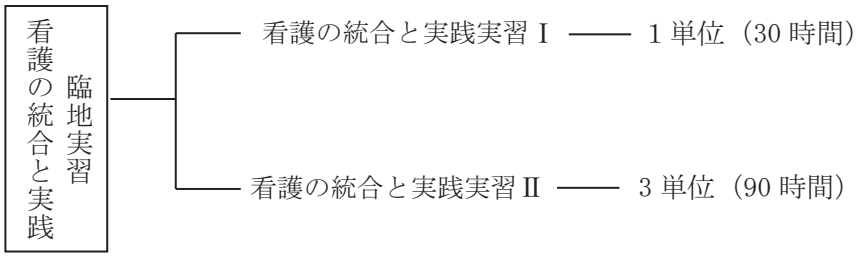
Ⅱ　看護の統合と実践実習Ⅱ　　目的・目標

目的：病棟組織の一員として、複数の対象者を受け持ち、実務に即した看護実践を行う。さらに地域でその人らしく生きるために保健・医療・福祉を視野にいれた多職種連携の看護実践に必要な基礎を学ぶ。

目標：

1．複数受け持ち対象の一勤務帯における日常生活援助を多重課題と優先順位に考慮してチームと協力しながら実施することができる。
2．多職種連携において各専門職種の専門性を理解し、チーム医療の一員として看護実践に繋げることができる。
3．保健・医療・福祉を視野に入れて地域でその人らしく生活していくための支援を述べることができる。

Ⅲ　実習体系・実習場所



実習場所

沖縄協同病院
友愛医療センター
豊見城中央病院
浦添総合病院
南部徳洲会病院
おもろまちメディカルセンター

実習計画

1．実習時間　　学内①：9 時 00 分～12 時 10 分　（実習時間 4 時間：休憩 10 分）
　　学内②：9 時 00 分～15 時 00 分　（実習時間 6 時間：休憩 90 分）
　　病院　：8 時 00 分～15 時 00 分　（実習時間 8 時間：休憩 60 分）

2．実習スケジュール

看護の統合と実践実習Ⅱ（3 単位 90 時間 ）

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目
場所	学内①	病院	病院	病院	病院
内容	・オリエンテーション ・複数受け持ち、多職種連携のための文献検索	・患者選定 ・情報収集 ・ケアの実践 ・チーム医療へ参加（NST・褥瘡対策等）	・ケアの実践 ・チーム医療へ参加（NST・褥瘡対策等）	・ケアの実践 ・チーム医療へ参加（NST・褥瘡対策等）	・ケアの実践 ・チーム医療へ参加（NST・褥瘡対策等）
	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目	10 日目
場所	病院	病院	病院	病院	病院
内容	・ケアの実践 ・チーム医療へ参加（NST・褥瘡対策等）	・ケアの実践 ・チーム医療へ参加（NST・褥瘡対策等） ・関連図の発表 ・中間評価	・ケアの実践 ・チーム医療へ参加（NST・褥瘡対策等） ・次勤務への伝達	・ケアの実践 ・チーム医療へ参加（NST・褥瘡対策等） ・次勤務への伝達	・ケアの実践 ・チーム医療へ参加（NST・褥瘡対策等） ・次勤務への伝達
	11 日目	12 日目			
場所	病院	学内②			
内容	・ケアの実践 ・退院提案書の発表 ・所感の発表	・テーマカンファレンス ・個別カンファレンス			

Ⅳ　実習内容及び実習方法

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1	1)一勤務帯のケア計画を立案することができる	1．情報収集 1）記録物（電子カルテ）からの情報収集 2）本人からの情報収集 3）疾患に対する治療、症状、検査データ、ADL 自立度の情報整理とアセスメント 4）経過表から日々の状態の情報整理とアセスメント 5）病態とケア内容が日々の実践とのつながりを持たせた関連図の作成と発表 2．ケア計画の立案 3．タイムスケジュールの立案 4．立案したケア計画のスケジュールの共有 5．全体申し送りへの参加 6．ケアカンファレンスへ参加	・受け持ちの説明と同意を得る ・対象を二人受け持つ。 ・基礎情報用紙を活用する。 ・病状、治療、検査理解に努め、必要な看護ケアにつなげる。 ・関連図は受け持ち対象者 2 名分作成し、発表は 1 名とする。 ・退院支援提案書に必要な情報収集をしておく。 ・病棟の週間業務も参考にしながら、個別性を踏まえたケア計画を立案する。 ・日々、受け持ち対象者とグループ全体のタイムスケジュールを計画し、追加情報があれば計画を再調整する。 ・学生スケジュール表を活用しメンバー全員のケアを共有する。
	2)看護実践を指導者・教員の監視下で、一勤務帯の看護実践ができる	1．複数受け持ちの対象の看護実践 1）ケアの実践 2）業務遂行の確認 3）リーダーへの報告・相談 2．チームで動く業務への参加 1）病棟スタッフ間のチーム 2）学生間のチーム 3．次勤者への伝達	・前回のケアを振り返り課題や解決策、ケアの優先順位や時間配分を考えて実施する。 ・対象の状況に合わせ、個別的なケアを実施する。 ・チーム STEPPS を意識する。 ・チームの業務へ主体的に参加し学生間でも協力・連携する。 ・各自が次勤者への伝達を 2 回実施する。 ・受け持ち対象の状態（起こり得るリスクも含む）、ケアの実施と評価、家族や医師からの情報、他部門から得られた情報、などのアドバイスを受けて実施する。
	3) チームで連携して対象者への看護実践するための思考を整えることができる	病棟カンファレンス	・既修得済みの実習を踏まえて、チームメンバーで協力して、対象者へ質の高い看護を提供するための検討をカンファレンスで行う

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1	4) カードメゾットを活用して学びの共有をすることができる	カードメソッド作成（テーマ） 『複数受け持ちにおける看護実践を通して自己の学びと課題』	・テーマを意識してキーワードを抽出し、付箋紙を仕上げる。
2	1) 病棟の退院支援の活動を説明でき、対象者への退院支援に必要な看護実践ができる	1．退院カンファレンス 1）参加職種 2）カンファレンスの進め方 3）病棟看護師と各職種の役割 4）対象者と家族との関り方 5）職種間の連携方法 6）カンファレンスでの決定内容とその取り組み	・受け持ち対象者の退院カンファレンスへ参加し、情報共有する。 ・受け持ち以外でも可能な限り、退院カンファレンスに１回は参加する。
	2) 病院内のチーム医療の活動内容を理解し、対象者への看護実践に繋げることができる	専門チーム 1）役割 2）メンバー構成 3）連携する職種 4）病棟との連携に必要な情報共有内容と方法 5）活動の実際 ・委員会（NST・褥瘡対策など） ・専門看護師・認定看護師・退院支援スタッフのラウンド ・入院前の生活の把握方法 ・各種カンファレンスへの参加（退院カンファレンス、多職種カンファレンスなど）	・専門チームの活動は、病棟実習時に病棟ラウンドへ参加する。 ・入院した時点から退院に向けた支援を捉える。 ・退院支援介入までの流れを知る。 ・退院に向けて院内外多職種との連携を把握する。 ・チーム医療の目標の方向性を把握し、対象者のケア計画に反映させる。
3	1）受け持ち対象の全体像を捉え課題を明確にし、退院支援の提案ができる	退院支援提案書の作成と発表	・退院支援提案書は 1 名分を作成し、発表は１名分とする。 ・病院内の資源（各専門職種の役割）を意識して、退院支援を検討する。

＜臨地実習提出物の綴り方＞

※Step Up スケールと技術経験録は評価返しの際に持参するため、実習提出物に含めない

①実習ノート（インデックスをつける）

②茶ファイル（インデックスをつける）

・実習評価表
・記録用紙（3）基本情報
・患者ワークシート
・関連図
・退院支援提案書

③ポートフォリオ（インデックスをつける）

・事前事後学習

④メモ帳

※看護の統合と実践実習Ⅰの所感（コピーを提出）
　⇒看護の統合と実践実習Ⅱオリエンテーション日に提出

統合看護の統合と実践実習Ⅱ　実習評価

那覇市医師会　那覇看護専門学校

年　組　学籍番号　氏名

	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 1）～5）　A：6点　B：4点　C：2点 6）～7）　A：5点　B：4点　C：3点		
				Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね (*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
ケア計画の立案	興味、関心 思考、判断	1）複数受け持ち対象者に必要なケアを優先順位と実施可能な時間配分を踏まえたケア計画立案ができる。	実習ノート 実習場面 患者ワークシート 病棟カンファレンス 関連図	対象者の状況に応じて優先順位を考えて、対象者に必要なケアを組み立てることができる。	対象者に必要なケアを組み立てることができる。	病棟業務にそって標準的なケアで組み立てることができる。
ケアの実践	興味、関心 思考、判断 表現、態度	2）一勤務帯で複数受け持ち対象者に必要なケア内容を実施することができる。	実習ノート 実習場面 ケアカンファレンス 病棟カンファレンス	受け持ち対象者２名について事前に立案されたケア内容が、安全安楽に配慮して全て実践することができる。	受け持ち対象者 1 名について事前に立案されたケア内容が、安全安楽に配慮して全て実践することができる。	複数受け持ち対象者 2 名ともに事前に立案されたケア計画の一部で未実践項目がある。
看護チームの連携・協働	興味、関心 思考、判断 表現、態度	3）コミュニケーションを図り、メンバー間で互いに協力して看護実践ができる。	実習ノート 実習場面 ケアカンファレンス 病棟カンファレンス タイムスケジュール表	コミュニケーションを図り、対象者の必要な看護ケアの留意点を共有しながら、メンバーからの協力を得ることができる。	コミュニケーションを図り、対象者に必要な看護ケア実践ができるよう、メンバーからの協力を得ることができる。	他者に促されることで看護実践の協力を得ることができる。
多重課題	興味、関心 思考、判断 表現、態度	4）タイムリーに多重課題への対処に向けた態度で接することができる	実習ノート 実習場面 ケアカンファレンス 病棟カンファレンス	その場において対処に向けた、報告・連絡・相談・確認ができる。	その場において対処に向けた、報告・連絡・相談ができる。	その場で対処する行動は見られないが、振り返りの中で対処に向けた思考を表現することができる。
多職種連携・協働	興味、関心 思考、判断	5）チーム医療における多職種連携について看護職の専門性を表現できる。	実習ノート 実習場面	チーム医療における多職種の一員として、多職種の専門性と対象者への介入の理由を把握し、看護実践に繋げることができる。	チーム医療における多職種の一員として、看護実践には至っていないが、各専門職種の専門性と対象者への介入の理由については把握できている。	チーム医療における多職種の一員として、対象者への介入の理由については把握していないが、各専門職種の専門性は理解できている。
退院支援提案書	興味、関心 思考、判断	6）対象者が地域でその人らしく生活していくために、多角的な視点で課題解決に必要な支援を考えることができる	退院支援提案書	退院困難な要因（医学・社会・環境的要因）から優先度を踏まえて、課題解決に向けた医療チームの役割機能を記述することができる。	退院困難な要因（医学・社会・環境的要因）から、課題解決に向けた医療チームの役割機能を記述することができる。	退院困難な要因の理由は明確にはなっていないが、課題解決に向けた医療チームの関わりを記述することができる。
カードメソッド	興味、関心 思考、判断	7）実務に即した看護実践を通して、自己の学びと今後の課題を考えることができる。	実習ノート	複数受け持ちにおける看護実践を通して、自己の学びと課題について考えることができる。	複数受け持ちにおける看護実践を通して、自己の学びまたは自己の課題のどちらかを考えることができる。	複数受け持ちにおける看護実践を通して、自己の学びと課題について考えることが困難である。

Ｓｔｅｐ　ｕｐ　スケール ～看護師として必要な基礎力～

那覇市医師会　那覇看護専門学校

年　組　学籍番号　氏名

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 1）～3）　A：5点　B：3点　C：1点 4）～18）　A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね (*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
考え抜く力(シンキング)	課題発見力	思考・判断	1）アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物（対象の情報用紙）リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合せて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
		思考・判断	2）対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物（対象の全体像・解決すべき課題）リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	思考・判断	3）対象の個別性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物（行動計画・看護計画）リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個別性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力(アクション)	働きかけ力	技能・表現	4）対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5）　対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するめに、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6）対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物（看護計画）実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7）看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと(^^♪♪
チームで働く力(チームワーク)	**発信力**	思考・判断 技能・表現	8）他者へ自分の考えや思いを分かりやすく伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを具体的な事例や客観的データを用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9）相手の意見や考えを丁寧に聴くことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して内容の確認や質問などを行いながら丁寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちをうち、相手の話しを素直に聴くことができる。	相手に関心を持つことやその人の意見を聴こうとする関わりができない。
	柔軟性	思考・判断	10）他者の意見や助言を理解し、活かすことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入れて理解し、次の行動に活かすことができる。	他者の意見や助言を受け入れ、その意味を理解することができる。	自分のやり方に固執し、意見や助言を受け入れることができない。
	状況把握力	思考・判断	11）周りの状況を判断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物理的環境）を判断し、どのように行動すべきなのかを考えて状況が良くなるように行動することができる。	周囲の状況を判断し、どのように行動すべきか理解しているが、行動に移せない。	周囲の状況を判断することができない。
	規律・責任性	思考・判断・技能・表現	12）守らなければならないルールや約束・マナーを理解し責任ある行動がとれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒヤリハット、アクシデント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べることができない。
	ストレスコントロール力	思考・判断	13）ストレスを成長の機会と前向きに捉え、克服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替え対処し、成長に繋げることができる。	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替えることができる。	ストレスを対処することができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点　B：2点　C：1点		
					Aすばらしい ＼(^o^)／	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと (^^♪♪
倫理	**倫理性**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14）対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15）対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16）実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守る事ができる（守秘義務遵守）	実習場面 リフレクション場面 記録物 （レポート作成）	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで（コントロール）、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17）対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	**自ら学び考える力**	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18）自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価 記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。